

令和5年度（第25回） 那覇市民意識調査報告書



那覇市第一牧志公設市場

2024 年（令和6年）3月
未来を拓く、なは☆ひとづくり、まちづくり、ゆめづくり



はじめに

はいさい！ ぐすーよー ちゅーうがなびら。

本市では、市民の皆様の日常生活に関する意識と市政運営に対する評価を把握し、今後の市政運営に反映させるため、2年に1回市民意識調査を実施しております。



今回の調査においても、多くの市民の皆様のご理解とご協力により、有意義な調査結果をとりまとめることができました。心より感謝を申し上げます。

さて、本調査結果は、第5次那覇市総合計画等の本市の重要な計画の検証に活用されるものであり、本市のまちづくりの将来像「なはで暮らし、働き、育てよう！笑顔広がる元気なまち NAHA～みんなでつなごう市民力～」を実現するためには欠かせないものとなっております。

本市が進む方向を的確に見定め、誰一人取り残すことなく、市民の皆様の笑顔あふれる楽しい暮らしを実現するため、本調査結果を活用しながら、今後もより良いまちづくりの実現に一層力を尽くしてまいります。

結びに、本調査にご協力いただいた市民の皆様には、重ねて御礼申し上げます。巻頭のあいさつといたします。

いっぺー にふえーで一びる。

2024(令和6)年3月
那覇市長 知念 寛

目 次

I. 調査の設計と実施概要	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査項目.....	1
(1) 基本項目	1
(2) 日常生活等に関する意識について	1
(3) 市の政策に対する満足度・重要度調査	2
3. 調査設計.....	3
4. 調査票の送付状況.....	3
5. 回収状況.....	4
(1) 回収実数と回収率	4
(2) 集計方法	4
6. 報告書の読み方.....	5
7. 調査票.....	5
II. 調査結果の概要	21
1. 日常生活等に関する意識調査結果の概要・要約	21
(1) 住み心地について	21
(2) 自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について	21
(3) 協働によるまちづくりについて	22
(4) 市政への市民参加について	22
(5) 議会への市民参加について	23
(6) 平和行政・男女共同参画について	23
(7) 誰もが移動しやすいまちについて	24
(8) 緑のまちについて	24
(9) 中心市街地活性化について	24
(10) 子育て支援について	25
(11) 福祉について	26
(12) 健康について	26
(13) 文化・芸術について	26
(14) 観光意識について	27
(15) 生涯学習について	27
(16) 青少年の育成について	27
(17) 消防行政について	28
(18) 防災対策について	28
(19) 環境について	28
(20) 行政手続きのデジタル化について	29
(21) その他	29
2. 第5次総合計画の各政策に対する満足度・重要度調査の概要・要約	30
III. 基本調査結果.....	33

IV. 日常生活等に関する意識調査結果 37

(1) 住み心地について	38
(2) 自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について	49
(3) 協働によるまちづくりについて	58
(4) 市政への市民参加について	66
(5) 議会への市民参加について	76
(6) 平和行政・男女共同参画について	82
(7) 誰もが移動しやすいまちについて	89
(8) 緑のまちについて	101
(9) 中心市街地活性化について	103
(10) 子育て支援について	111
(11) 福祉について	125
(12) 健康について	131
(13) 文化・芸術について	135
(14) 観光意識について	142
(15) 生涯学習について	145
(16) 青少年の育成について	148
(17) 消防行政について	151
(18) 防災対策について	153
(19) 環境について	158
(20) 行政手続きのデジタル化について	163
(21) その他	169

V. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果 177

1. 満足度・重要度調査の結果	177
2. 各政策に対する満足度・重要度の加点評価	177
(1) 回答者数について	177
(2) 満足度・重要度調査の加点方法と平均評価点	178
(3) 満足度調査結果の分析	179
(4) 重要度調査結果の分析	180
(5) 満足度・重要度のクロス集計からみた政策に対する市民意識	181
3. 各政策に対する満足度・重要度評価の状況	183

I . 調査の設計と実施概要

I. 調査の設計と実施概要

1. 調査の目的

この調査は隔年で日常生活に関する市民意識を把握するとともに、市が取り組んでいる政策に対する市民満足度と重要度についても把握・分析し、今後のまちづくりに反映させるための参考資料とするものである。

また、「第5次那覇市総合計画」の進捗管理のため、施策ごとに設定された指標についても、本市民意識調査で行うと決定しているものについて、調査を実施した。

なお、「第5次那覇市総合計画」に基づく調査を実施するにあたり、平成30年度調査より複数回答の質問については、従来とは異なり、「回答者数」を母数とすることで回答に対する市民意識をより正確に把握することとした。

2. 調査項目

調査項目は、クロス集計による分析のための基本項目も含め、以下の3項目で構成した。

なお、設問の詳細と内容については、各部局へ照会を実施して、内容を確定させた。

(質問総数は、分岐質問9問を含め、合計67問)

(1) 基本項目

- 1) 性別
- 2) 年代
- 3) 居住地区
- 4) 那覇市における居住年数
- 5) 住居形態

(2) 日常生活等に関する意識について

- 1) 住み心地について
- 2) 自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について
- 3) 協働によるまちづくりについて
- 4) 市政への市民参加について
- 5) 議会への市民参加について
- 6) 平和行政・男女共同参画について
- 7) 誰もが移動しやすいまちについて
- 8) 緑のまちについて
- 9) 中心市街地活性化について
- 10) 子育て支援について
- 11) 福祉について
- 12) 健康について
- 13) 文化・芸術について
- 14) 観光意識について
- 15) 生涯学習について
- 16) 青少年育成について
- 17) 消防行政について
- 18) 防災対策について
- 19) 環境について
- 20) 行政手続きのデジタル化について
- 21) その他

(3) 市の政策に対する満足度・重要度調査

- 1) 小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり
- 2) 地域の力が重なる安全安心のまちづくり
- 3) 交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり
- 4) 人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり
- 5) 地域で暮らし地域で支えるまちづくり
- 6) すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり
- 7) 身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり
- 8) 衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり
- 9) 子育てが楽しくなるまちづくり
- 10) 自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり
- 11) 生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり
- 12) 郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり
- 13) ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり
- 14) 様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり
- 15) 産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり
- 16) 中心市街地を活かしたまちづくり
- 17) 省エネを実践し、資源が循環するまちづくり
- 18) 自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり
- 19) 暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり
- 20) 災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり
- 21) 那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり
- 22) 市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり
- 23) 効率的で効果的な行財政運営を行う

3. 調査設計

- (1) 調査対象 那覇市に居住する満 18 歳以上の男女 5,000 人
- (2) 調査地域 那覇市全域
- (3) 抽出方法 年齢等間隔抽出法（住民基本台帳による等間隔抽出）による
- (4) 調査方法 調査票の配布：郵送
調査票の回収：郵送または Web アンケートによる
- (5) 調査期間 2023 年 10 月 20 日～11 月 15 日（27 日間）

4. 調査票の送付状況

住民基本台帳より年齢等間隔抽出法にて抽出を行った 5,000 人に調査票を送付して回答を依頼した。送付者の性別、年代別、居住地区別の内訳は、概ね本市の人口構成に比例させて、以下のとおりとなった

		送付実数	送付比率
合 計		5,000 人	100.0%
性別	男 性	2,382 人	47.6%
	女 性	2,618 人	52.4%
年代別	10 代	60 人	1.2%
	20 代	619 人	12.4%
	30 代	724 人	14.5%
	40 代	831 人	16.6%
	50 代	811 人	16.2%
	60 代	740 人	14.8%
	70 代以上	1,215 人	24.3%
居住地区別	本 庁	1,706 人	34.1%
	真 和 志	1,669 人	33.4%
	小 禄	848 人	17.0%
	首 里	777 人	15.5%

5. 回収状況

(1) 回収実数と回収率

調査票の配布は郵送で行い、回収は郵送またはインターネットにて行った。総数で 1,356 人の回収があった。有効回収実数、回収率、そして性別、年代別、居住地区別の回収実数、回収率は、以下のとおりとなった。

(2) 集計方法

単純集計・クロス集計 ※ () 内はインターネットでの回答者数・割合

		回収実数	／ 送付実数	回収率
合 計		1,356 人	／ 5,000 人	27.1%
方 回 答 法	郵 送	1,030 人	／ -	20.6%
	インターネット	326 人	／ -	6.5%
性 別	男 性	579 人 (167 人)	2,382 人	24.3% (7.0%)
	女 性	762 人 (158 人)	／ 2,618 人	29.1% (6.0%)
	その他	8 人 (1 人)	／ -	-
	性別無回答	7 人	／ -	-
年 代 別	10 代	9 人 (6 人)	／ 60 人	15.0% (10.0%)
	20 代	82 人 (52 人)	／ 619 人	13.2% (8.4%)
	30 代	150 人 (61 人)	／ 724 人	20.7% (8.4%)
	40 代	214 人 (87 人)	／ 831 人	25.8% (10.5%)
	50 代	249 人 (84 人)	／ 811 人	30.7% (10.4%)
	60 代	243 人 (21 人)	／ 740 人	32.8% (2.8%)
	70 代以上	402 人 (15 人)	／ 1,215 人	33.1% (1.2%)
	年代無回答	7 人	／ -	-
居 住 地 区 別	本 庁	437 人 (106 人)	／ 1,706 人	25.6% (6.2%)
	真 和 志	431 人 (88 人)	／ 1,669 人	25.8% (5.3%)
	小 禄	208 人 (63 人)	／ 848 人	24.5% (7.4%)
	首 里	272 人 (69 人)	／ 777 人	35.0% (8.9%)
	居住地区無回答	8 人	／ -	-

6. 報告書の読み方

- (1) 結果は百分率で表示した。少数点第2位を四捨五入したため、合計が100%と一致しない場合がある。
- (2) 回答者を限定する質問では、限定質問該当者数を分母として用いた。
- (3) 経年変化に係る分析は、過去の調査等のデータを用いている。
- (4) 回答比率の小さいものは、グラフ表示などで読み取りづらい場合があり、数値表示を省略している場合がある。
- (5) 「わからない」及び「無回答」の解析は、特に必要がない限り行わない。
- (6) 指標調査は、「第5次那覇市総合計画」に掲げられた「目標値」の達成状況を中心に分析を行った。
- (7) 各質問の単純集計グラフの種類においては、特に意図がある場合を除き、単一回答の場合は円グラフによるパーセント表示を採用し、複数回答の場合は横棒グラフによるパーセント表示（回答者数を母数とする割合）を採用した。
- (8) 複数回答の場合は、母数を回答総数ではなく、回答者数としているため、パーセント表示の合計が100%を超えている。
- (9) 円グラフ等の表示においては、特に意図がある場合を除き、選択肢のトップから順に濃い色から薄い色へ変化するように表示の統一を行った。
- (10) 不適切な回答（選択肢にすべて○をつける、相反する選択肢に○をつける等）については、原則として無回答として処理しているが、回答者の意思の表明が読み取れるもの（訂正、取り消し等）は、できる限り反映させて処理した。

7. 調査票

次項に当該調査に使用した調査票を掲載する。

基本項目

質問1. あなたの性別を、次の中から 1 つお選びください。

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

質問2. あなたの年代を、次の中から 1 つお選びください。

- | | | | |
|--------|--------|----------|--------|
| 1. 10代 | 2. 20代 | 3. 30代 | 4. 40代 |
| 5. 50代 | 6. 60代 | 7. 70代以上 | |

質問3. あなたがお住まいの地区を、次の中から 1 つお選びください。

- | | | | |
|---------|----------|---------|---------|
| 1. 本庁地区 | 2. 真和志地区 | 3. 小禄地区 | 4. 首里地区 |
|---------|----------|---------|---------|

※お住いの地区は、封筒の宛名にも記載しています。ご確認ください。

質問4. あなたは那覇市にお住まいになって何年になりますか。次の中から 1 つお選びください。

- | | | |
|----------|-----------|----------|
| 1. 1年未満 | 2. 1～2年 | 3. 3～5年 |
| 4. 6～10年 | 5. 11～20年 | 6. 21年以上 |

質問5. あなたのお住まいの住居形態を、次の中から 1 つお選びください。

- | | | |
|------------------|-------------|-------------------|
| 1. 一戸建て(持ち家・借家) | 2. 分譲マンション | 3. 賃貸(アパート・マンション) |
| 4. 公営住宅(市営・県営など) | 5. 社宅・公官舎・寮 | |
| 6. その他() | | |

【日常生活等に関する意識について】

(1) 住み心地について

質問6. 那覇市の住み心地について、あなたはどのように思いますか。次の中から 1 つお選びください。

- | | | |
|------------|-------------|-----------|
| 1. 非常に住みよい | 2. まあ住みよい | 3. 普通だと思う |
| 4. 少し住みづらい | 5. 非常に住みづらい | |

質問7. あなたは、那覇市に「自分のまち」として愛着を感じますか。次の中から 1 つお選びください。

- | | | |
|-----------|------------|--------------|
| 1. 愛着を感じる | 2. 愛着を感じない | 3. どちらともいえない |
|-----------|------------|--------------|

質問7-1. 質問7で「1」を選択した方に伺います。愛着を感じる理由を2つまでお選びください。

- | | |
|-----------------------------------|------------------------|
| 1. 公共交通の便がよいから | 2. 通勤・通学・買い物など生活に便利だから |
| 3. 子育て環境がよいから（保育施設や教育施設の充実など） | |
| 4. 地域の文化芸術や伝統芸能が豊かだから | |
| 5. 地域のコミュニティ活動（校区まちづくり協議会等）が活発だから | |
| 6. レジャー施設・公園などが充実しているから | 7. 景色・景観がよいから |
| 8. 公共施設（公民館・図書館・支所等）が充実しているから | |
| 9. 自然環境が豊かだから | 10. その他（ ） |

質問8. 那覇市外へ1年以内に転出する予定はありますか。次の中から1つお選びください。

- | | | |
|----------|--------|------------------------|
| 1. 予定がある | 2. 検討中 | 3. 予定はない（⇒質問9へお進みください） |
|----------|--------|------------------------|

質問8で「1」または「2」を選択した方は、以下の3つの質問にお答えください。

質問8-1. 転出予定（検討）先を次の中から1つお選びください。

- | | | | |
|-------------------------------|--------|---------|--------|
| 1. 豊見城市 | 2. 浦添市 | 3. 南風原町 | 4. 糸満市 |
| 5. その他県内他市町村（ ）※市町村名をお書きください。 | | | |
| 6. 県外 | 7. 国外 | 8. 未定 | |

質問8-2. 転出を予定（検討）している理由を次の中から1つお選びください。

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. ご自身の就職・転職・転勤 | 2. ご自身の進学・卒業 |
| 3. ご自身の結婚・出産 | 4. ご家族・ご親族の就職・転職・転勤 |
| 5. ご家族・ご親族の就学 | 6. ご家族・ご親族の都合（介護など） |
| 7. 那覇市外の住宅を借りる | 8. 那覇市外で住宅を建てる |
| 9. その他（ ） | |

質問8-3. 転出予定（検討）先を選んだ理由について次のうちから3つまでお選びください。

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 交通渋滞が少ないから | 2. 二世帯住宅を建てるため |
| 3. （ご自身が）施設に入所するため | 4. 職場・学校・家族の入所施設に近いから |
| 5. 子育て支援者（親族）の近くに住むため | 6. 子育てに関する費用援助が充実しているから |
| 7. 市町村から転入者への費用援助があるから | 8. 住宅に係る費用（家賃・土地）が安いから |
| 9. 税金が安いから | 10. 友人・知人が住んでいるから |
| 11. その他（ ） | |

(2)自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について

質問9. あなたのご家庭は、自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT(C)Aの活動に参加していますか。次の中から1つお選びください。

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1. 参加している | 2. 参加していない（今後参加したい） |
| 3. 参加していない（今後も参加しない） | 4. わからない（⇒質問10へお進みください） |

質問9-1. 質問9で「1」を選択した方に伺います。活動への参加はどのような内容ですか次の中から1つお選びください。

- | | |
|-----------------------------------|--------------------|
| 1. 役員又は組織運営 | 2. 定例会等に月1回以上の出席参加 |
| 3. 立哨当番や美化作業等の機会があるときにのみ参加 | |
| 4. 祭りやイベント等又は講座等への来場 | |
| 5. 直接的参加ではないが、広報や自身の専門性を活かしての協力参加 | |
| 6. その他 () | |

質問9-2. 質問9で「2」又は「3」を選択した方に伺います。活動に参加していない理由を、次の中から1つお選びください。

- | | |
|----------------|----------------------|
| 1. 参加の仕方がわからない | 2. 自治会などの地域コミュニティがない |
| 3. 勧誘がない | 4. 時間的にゆとりがない |
| 5. 永住する気がない | 6. わずらわしい |
| 7. 関心がない | 8. メリットを感じられない |
| 9. その他 () | |

質問10. あなたがお住まいの地域で、特に大きいと思われる課題について2つまでお選びください。

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 地域の美化・清掃 | 2. 自治会、PT(C)A、その他団体などの連携 |
| 3. 防犯に関する取組 | 4. 防災に関する取組 |
| 5. 青少年健全育成に関する取組 | 6. 一人暮らしのお年寄りへの支援 |
| 7. 子育てに対する支援 | 8. 交通安全 |
| 9. 住民同士の交流 | 10. その他 () |

(3)協働によるまちづくりについて

質問11. あなたは現在、ボランティア活動を行っていますか。次の中から1つお選びください。

- | | |
|----------|---------------------------|
| 1. 行っている | 2. 行っていない (⇒質問12へお進みください) |
|----------|---------------------------|

質問11-1. 質問11で「1」を選択した方に伺います。あなたが現在行っているボランティア活動の分野について、次の中から主なもの2つまでお選びください。

- | |
|---|
| 1. 子どもの健全育成(例 子ども食堂、読み聞かせ、育児サポートなど) |
| 2. 高齢者・母子・障がいのある方等に関する福祉活動(例 高齢者の家庭・施設訪問、母子家庭への食料支援、傾聴活動など) |
| 3. 保健・医療(例 献血活動、食の改善サポート) |
| 4. 環境(例 公園清掃活動、ビーチクリーン活動、ゴミ減量活動) |
| 5. 教育・文化・スポーツ(例 部活動サポート、スポーツイベントの開催) |
| 6. 国際交流(例 留学生サポート、通訳) |
| 7. 地域社会(例 交流イベント、交通安全活動) |
| 8. その他 () |

質問 12. 行政機関がボランティア活動を支援する場合、どのようなことをしたらよいと思いますか。次の中から2つまでお選びください。

1. 市民への情報発信（ホームページの充実やボランティア団体の活動の紹介等）
2. 技術や知識などの研修会、講習会の開催
3. 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助
4. ポイント制を導入したポイントに応じて特典を設けられる制度
5. ボランティアを求める側とボランティアをしたい側との仲介（マッチング・コーディネート）
6. その他（_____）

質問 13. 那覇市では、協働によるまちづくりを実践している団体の代表者や、団体が推薦する方々を「協働大使」として委嘱しております。「協働大使」にどのような役割を期待しますか。次の中から1つお選びください。

1. 協働大使としての活動の継続
2. 那覇市及び市民活動団体との連携強化
3. 協働大使の周知と広報活動の強化
4. 協働大使について知らないのわからない

(4) 市政への市民参加について

質問 14. 市政への関心について、次の中から1つお選びください。

1. 非常に関心がある
2. まあ関心がある
3. あまり関心がない
4. まったく関心がない
5. どちらともいえない

質問 15. 市民の市政参加を促すために、市がすべきだと思うことを次の中から2つまでお選びください。

1. 参加の機会を増やす
2. わかりやすい広報活動
3. 楽しく参加できる工夫
4. 参加の呼びかけを増やす
5. インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる
6. 自治会などが行う地域活動の活性化
7. 市民活動団体への支援
8. その他（_____）

質問 16. 令和4年度に行われた選挙で自宅から投票所までの距離についてどのように感じているか、次の中から1つお選びください。

1. 適当
2. 近い
3. 遠い
4. 期日前投票を利用しているので特に何も感じていない
5. その他（_____）

質問 17. 選挙広報についてどのような手段が情報を得るのに有効だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

1. テレビ
2. ラジオ
3. 新聞
4. YouTube（ユーチューブ）
5. TikTok（ティックトック）
6. TVer（ティーバー）
7. ライン
8. フェイスブック
9. X（旧 Twitter）
10. Instagram（インスタグラム）
11. その他 SNS
12. その他（_____）

質問 18. あなたは普段那覇市の情報（施策やイベント等）をどの媒体から取得していますか。
次の中から2つまでお選びください。

- | | | |
|---------------|----------------|--------|
| 1. 広報紙などは市民の友 | 2. 那覇市公式ホームページ | 3. ライン |
| 4. フェイスブック | 5. 新聞 | 6. テレビ |
| 7. その他（ ） | | |

(5)議会への市民参加について

質問 19. あなたは議会に何を求めますか。次の中から2つまでお選びください。

- | | | |
|------------------|-------------------|------------|
| 1. 行政の監視機能 | 2. 政策や条例の提案 | 3. 議会情報の公開 |
| 4. 地域問題や市民相談への対応 | 5. 議会報告会や意見交換会の開催 | |
| 6. 議員定数や報酬などの見直し | | |
| 7. その他（ ） | | |

質問 20. 議会報告会で取り上げてほしいテーマを、次の中から3つまでお選びください。

- | | | |
|---------------------|---------------|------------------|
| 1. 子育て支援・教育問題 | 2. 健康長寿対策 | 3. 医療や福祉問題 |
| 4. 環境問題 | 5. お住まいの地域の課題 | 6. 産業・観光振興、経済活性化 |
| 7. 雇用・失業問題 | 8. 中心市街地の活性化 | 9. 交通政策・都市計画 |
| 10. 防災・防犯など安全なまちづくり | 11. 協働のまちづくり | 12. 文化・芸能・スポーツ振興 |
| 13. その他（ ） | | |

(6)平和行政・男女共同参画について

質問 21. 平和行政について、重点的に取り組むべきだと思うものを3つまでお選びください。

- | | |
|--------------------------------------|--------------------|
| 1. 米軍の事件・事故に対する取り組み | 2. 那覇港湾施設（那覇軍港）の返還 |
| 3. 平和・核廃絶を求める運動への支援 | 4. 那覇市戦没者追悼式の実施 |
| 5. 長崎などの平和発信都市の児童生徒との交流事業 | |
| 6. 市内小中学校との連携による平和学習の推進 | 7. 那覇市の戦争資料の整理・展示 |
| 8. 沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実 | |
| 9. その他（ ） | |

質問 22. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、あなたはどのように思いますか。
次の中から1つお選びください。

- | | | |
|---------------|---------------|----------|
| 1. 賛成 | 2. どちらかといえば賛成 | 3. わからない |
| 4. どちらかといえば反対 | 5. 反対 | |

質問 23. 「性の多様性」に関する問題を人権問題ととらえ、「性の多様性を尊重する都市・なは」を宣言しました。LGBTQ^(※) カップルの申請に基づく、那覇市パートナーシップ・ファミリーシップ登録制度など、「性の多様性」に関する取り組みについて、あなたはどのように思いますか。次の中から1つお選びください。

※LGBTQ：レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー（こころとからだの性別が一致しない方）やそれに当てはまらない人も含めた全ての性的少数者を表す言葉

- | | | | |
|-------|---------------|---------------|-------|
| 1. 賛成 | 2. どちらかといえば賛成 | 3. どちらかといえば反対 | 4. 反対 |
|-------|---------------|---------------|-------|

(7)誰もが移動しやすいまちについて

質問 24. 子どもからお年寄りまで、誰でも快適に移動できるまちづくりのために、重要だと思うものを次の中から3つまでお選びください。

- | | |
|---------------------|------------------------------|
| 1. 自転車を利用しやすくする | 2. オートバイを利用しやすくする |
| 3. タクシーを利用しやすくする | 4. バスを利用しやすくする |
| 5. モノレールを利用しやすくする | 6. LRT（次世代型路面電車）を導入する |
| 7. 乗合タクシー（※）等を導入する | 8. 歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する |
| 9. 緑陰やベンチ等休憩施設を整備する | 10. 駐車場・駐輪場を整備する |
| 11. その他（ ） | |

※乗合タクシー：利用者からの予約を受けて、定められた運行区域内で一般のタクシーを乗合で利用する新しいタイプの公共交通です。【例】真和志地域乗合タクシー

質問 25. あなたが現在、平日に最も多く利用する交通手段を次の中から1つお選びください。

- | | | | |
|------------|----------|-----------------|----------------|
| 1. モノレール | 2. 路線バス | 3. ふくちゃん号（※） | 4. 真和志地域乗合タクシー |
| 5. タクシー | 6. 自転車 | 7. シェアサイクル | 8. オートバイ |
| 9. 徒歩 | 10. 送迎バス | 11. 自家用車（自分で運転） | 12. 自家用車（同乗） |
| 13. その他（ ） | | | |

※ふくちゃん号：那覇市内を運航している、60 歳以上の高齢者又は障がいのある方が無料で利用できる福祉バス。

質問 25-1. 上記質問で回答いただいた交通手段は、コロナ禍前（2019 年以前）から変化がありましたか。次の中から1つお選びください。

- | | |
|-----------|-----------------------------|
| 1. 変化があった | 2. 変化はなかった（⇒質問 26 へお進みください） |
|-----------|-----------------------------|

質問 25-2. 質問 25-1 で「1」を選択した方に伺います。コロナ禍前（2019 年以前）の平日に最も多く利用していた交通手段を次の中から1つお選びください。

- | | | | |
|------------|----------|-----------------|----------------|
| 1. モノレール | 2. 路線バス | 3. ふくちゃん号 | 4. 真和志地域乗合タクシー |
| 5. タクシー | 6. 自転車 | 7. シェアサイクル | 8. オートバイ |
| 9. 徒歩 | 10. 送迎バス | 11. 自家用車（自分で運転） | 12. 自家用車（同乗） |
| 13. その他（ ） | | | |

質問 26. バス、モノレール、タクシーの各公共交通について満足していますか。次の中から1つお選びください。

- | | | | | |
|--------------|-----------|-------|-------|----------|
| 1. 非常に満足している | 2. 満足している | 3. 普通 | 4. 不満 | 5. 非常に不満 |
|--------------|-----------|-------|-------|----------|

質問 26-1. 質問 26 で「4」又は「5」を選択した方に伺います。不満に感じていることを次の中から3つまでお選びください。

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1. バスが時間通りに来ない | 2. バスの便数が少ない |
| 3. バスの路線がわかりづらい | 4. バス停の間隔が長い（遠い） |
| 5. モノレールとバス、タクシーの乗り継ぎが不便 | 6. タクシー乗り場が少ない |
| 7. 駅の案内表示、音声案内がわかりにくい | 8. モノレール車内が混雑している |
| 9. その他（ ） | |

(8)緑のまちについて

質問 27. あなたは、住んでいる地域の花や緑（公園の緑や街路樹、公共や民間の緑化）に満足していますか。次の中から1つお選びください。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

(9)中心市街地活性化について

質問 28. あなたが、次の中心市街地商店街へ行く回数を、それぞれ1つお選びください。

国際通り	1. ほぼ毎日	2. 週3～4回	3. 週1～2回
	4. 月1～2回	5. 年1～2回	6. 全く行かない
マチグワァー（※）	1. ほぼ毎日	2. 週3～4回	3. 週1～2回
	4. 月1～2回	5. 年1～2回	6. 全く行かない
※マチグワァー：「市場」を意味する方言。ここでは、昔ながらの市場・商店街。 [例] 第一牧志公設市場、平和通り商店街、沖映通り商店街、栄町市場商店街など。			

質問 29. 国際通りやマチグワァー等、中心市街地商店街を魅力あるものにするにはどのような方策が必要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。
（実施主体は行政・民間を問いません）

1. 花や緑を増やす
2. 日かげ等の環境整備（暑さ対策）
3. 定期的にイベント等を開く
4. トランジットモール（※）などを充実させる
5. 気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす
6. 歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的開催する
7. 再開発により市街地を再生する
8. 市街地周辺部に駐車場を整備する
9. 駐輪場（バイク・自転車）を整備する
10. 託児施設や子供を自由に遊ばせることができる場所を整備する
11. 個店の魅力を向上させる（人材育成・情報発信力強化等）
12. 映画館等アミューズメント施設を誘致する
13. 利用客へ共通サービス（駐車場割引券、ポイントカード等）を実施する
14. その他（_____）

※歩行者と公共交通（バス等）を優先させて、まちの賑わいを創出する歩行空間のこと。

(10)子育て支援について

質問 30. 小学校就学前までの子育て支援策について、優先的に取り組んでほしい施策を、次の中から3つまでお選びください。

1. 認定こども園や認可保育所の受入児童数の拡大
2. 認定こども園での受入年齢などの拡充
3. 子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充
4. 病中・病後保育（病児保育）の拡充
5. 障がい児保育の拡充
6. 夜間保育の拡充
7. 一時預かり保育の拡充
8. 育児休業制度や育児支援事業の啓発
9. 保育、教育に関する経済的負担の軽減
10. その他（_____）

質問 31. ひとり親世帯への子育て支援策について、市に取り組んでほしいまたは拡充してほしいと思うことを次の中から2つまでお選びください。

- | | | |
|-----------------|-------------------------|---------|
| 1. 養育費の確保支援 | 2. 就業支援 | 3. 居住支援 |
| 4. 資金貸付の条件の緩和 | 5. インターネットなどを活用した手続きの推進 | |
| 6. こどもの預かり等家事支援 | 7. その他 (_____) | |

質問 32. こどもの貧困を解消し、こどものみらいを応援する取り組みとして、あなたが効果的だと思う施策は次のうちどれですか。次の中から3つまでお選びください。

- | |
|--|
| 1. 保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援 |
| 2. こどもの医療費助成など医療施策の充実 |
| 3. こどもの健康診査事業や子育て相談などの保健事業の充実 |
| 4. 無料学習塾や子ども食堂などの居場所づくりの支援 |
| 5. 学力保障やこどもに寄り添う支援員（相談員）の配置など学校を中心とした支援の充実 |
| 6. 不登校・中退対策、キャリア教育などのこどもの就労支援 |
| 7. 職業訓練、雇用創出などの親への就労支援 |
| 8. 貧困対策を行うNPOや企業、団体への支援 |

質問 33. こどものみらいを応援する取り組みとして、あなたができると思うことを次の中から1つお選びください。

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. 学習支援などのボランティア活動 | 2. 寄付や募金などの資金援助 |
| 3. 食材やサービスなどの物品提供 | 4. 無料学習塾や子ども食堂などへの場の提供 |
| 5. 就労体験などの機会の提供 | 6. 地域のこどもたちへ挨拶・見守り活動 |
| 7. わからない | |

質問 34. 本市における子育て支援（保育所での延長保育、放課後児童クラブの設置等）の取り組みについて満足していますか。次の中から1つお選びください。

- | | | | | |
|-------|---------|---------|-------|----------|
| 1. 満足 | 2. まあ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |
|-------|---------|---------|-------|----------|

質問 35. 令和5年4月に制定された「こども基本法」に規定されている「こどもの権利（生きる、育つ、守られる、参加する権利）（※）」について、あなたの関心度を、次の中から1つお選びください。

※こどもの権利は、以下の4つの権利を指します。

（生きる権利） 住む場所や食べ物があり、医療を受けられるなどして、命が守られる権利

（育つ権利） 勉強したり遊んだりして、もって生まれた能力を十分に伸ばしながら成長できる権利

（守られる権利）紛争に巻きこまれず、難民になったら保護され、暴力や搾取、有害な労働などから守られる権利

（参加する権利）自由に意見を表したり、団体を作ったりできる権利

- | | | |
|--------------|--------------|-------------|
| 1. 非常に関心がある | 2. まあ関心がある | 3. あまり関心がない |
| 4. まったく関心がない | 5. どちらともいえない | |

質問 36. あなたは、社会全体で見た場合に「こどもの権利」が守られていると感じていますか。
次の中から1つお選びください。

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 守られている | 2. どちらかというと守られている |
| 3. どちらかというと守られていない | 4. 守られていない |
| 5. どちらともいえない | |

(11)福祉について

質問 37. 地域の中で困っている方（高齢者、障がいのある方等）に対して、あなたができることはどのようなことですか。次の中から3つまでお選びください

- | | | | | | |
|--------------|-------------|-----------------|-------|-------|---------|
| 1. 話し相手 | 2. 買い物 | 3. 調理 | 4. 掃除 | 5. 洗濯 | 6. ゴミ出し |
| 7. 電球交換 | 8. 車等での送迎 | 9. 散歩等の運動への付き添い | | | |
| 10. 見守り訪問 | 11. 災害時の手助け | 12. その他（_____） | | | |
| 13. できることはない | | | | | |

質問 38. 那覇市が、障がいのある方も地域でともに暮らせるまちにするためには、どのような取り組みの充実が必要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

- | | | |
|-------------------|---------------------------|-----------|
| 1. 生活相談 | 2. 福祉サービス（介護・自立訓練・就労支援など） | 3. 医療等の助成 |
| 4. 年金・手当等 | 5. 割引・優遇制度（税関係・施設等割引など） | |
| 6. 補装具費・日常生活用具の給付 | 7. イベント等（運動会） | 8. 特になし |
| 9. その他（_____） | | |

質問 39. 那覇市内には、生活や福祉制度等でのお困り事に対する相談支援機関があります。知っているまたは利用したことがある相談支援機関があれば、次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

- | | |
|-----------------------------|----------------|
| 1. 那覇市 就職・生活支援パーソナルサポートセンター | 2. 那覇市社会福祉協議会 |
| 3. 地域包括支援センター | 4. 指定特定相談支援事業所 |
| 5. 知っている機関はない | |

(12)健康について

質問 40. あなたは、1回30分以上の運動（ウォーキングなどを含む）をどの程度取り組んでいますか。次の中から1つお選びください。

- | | | |
|------------|----------------|------------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 週3回以上 | 3. 週1～2回程度 |
| 4. 月1～2回程度 | 5. 関心はあるが機会がない | 6. 関心がない |

質問 41. あなたは、主食（※1）、主菜（※2）、副菜（※3）の3つを組み合わせる食べることが1日2回以上ある日が、週に何日ありますか。次の中から1つお選びください。

- ※1 ごはん、パン、麺類などの料理
 ※2 魚介類、肉類、卵類、大豆及び大豆製品を主材料にした料理
 ※3 野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理

- | | | | |
|-----------|-----------|-------------|-----------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 週に4～5日 | 3. 週に2～3日程度 | 4. ほとんどない |
|-----------|-----------|-------------|-----------|

(13)文化・芸術について

質問 42. 那覇市が振興したほうが良いと考える文化芸術の分野は何ですか。次の中から3つまでお選びください。

- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| 1. 古典芸能（組踊、能・狂言、歌舞伎、文楽など） | 2. 演劇（沖縄芝居、ミュージカルを含む） |
| 3. 洋舞（バレエ、ヒップホップなど） | 4. 邦舞（琉球舞踊、日本舞踊） |
| 5. ポップス、ジャズ、ロックなど | 6. クラシック音楽（オーケストラ、オペラ、吹奏楽など） |
| 7. 合奏、歌唱 | 8. 美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真） |
| 9. 映像・アニメーションなど | 10. デザイン（グラフィックデザイン、プロダクトデザインなど） |
| 11. 文芸 | 12. その他（ ） |

質問 43. 1年間にどのくらいの頻度で劇場や博物館などへ鑑賞に出掛けますか。次の中から1つお選びください。

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1. 年に1～2回程度 | 2. 年に3～4回程度 | 3. 年に5～6回程度 |
| 4. 年に7回以上 | 5. ほとんど行かない | |

質問 44. 文化芸術を鑑賞したり習い事をしたりする機会や、優れた地域文化にふれる機会など、本市内での文化的な環境に満足していますか。次の中から1つお選びください。

- | | | | | |
|-------|---------|---------|-------|----------|
| 1. 満足 | 2. まあ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |
|-------|---------|---------|-------|----------|

(14)観光意識について

質問 45. 那覇市内における観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化について、あなたはどのように思いますか。次の中から3つまでお選びください。

- | |
|---|
| 1. 自然環境や景観、伝統文化・芸能が保存・継承されている |
| 2. 道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている |
| 3. 高賃金の仕事、雇用を生み出している |
| 4. 新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している |
| 5. レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている |
| 6. マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている |
| 7. 地域が受け入れられる観光客の量を超えていると感じている |
| 8. 不特定多数の来訪者の増加に不安を感じている |
| 9. その他（ ） |

(15)生涯学習について

質問 46. あなたは、どのような活動に興味があり学んでみたいと思いますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

- | | |
|-----------------------------|------------------|
| 1. 犬猫の保護などの動物愛護活動 | 2. ごみ問題などの環境保全活動 |
| 3. 食育や生活習慣病予防などの健康活動 | 4. 避難訓練などの地域防災活動 |
| 5. 介護や障がいのある方への支援などの福祉活動 | |
| 6. 趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動 | |
| 7. その他（ ） | |

(16) 青少年育成について

質問 47. あなたは、地域の青少年（小学生～29 歳まで）とどのように関わっていますか。あてはまるものをすべてお選びください。

- | | |
|--|-----------------------|
| 1. あいさつや地域行事への参加の声掛け | |
| 2. 青少年団体へ寄付をするなど金銭的な支援で関わっている | |
| 3. 部活動のコーチや読み聞かせ、登下校の見守りなど学校支援を通して関わっている | |
| 4. 地域の青年会活動などで関わっている | 5. 地域の子ども会活動などで関わっている |
| 6. 特に関わりがない | 7. その他（ ） |

(17) 消防行政について

質問 48. あなたは、応急手当（心肺蘇生法及び AED の取扱い）の講習を受けたことがありますか。次の中から 1 つお選びください。

- | | |
|-------------|------------------------|
| 1. 受けたことがある | 2. 受けたことはないが、受けてみたい |
| 3. 受けたくない | 4. どちらともいえない（受けたことがない） |

(18) 防災対策について

質問 49. あなたが実施している防災対策は何ですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

- | | | |
|---------------|-----------------------|---------------|
| 1. 非常用食糧の備蓄 | 2. 家具などの転倒・落下防止策 | 3. 避難場所・経路の確認 |
| 4. ハザードマップの確認 | 5. 家族間での連絡方法の確認 | 6. 防災訓練への参加 |
| 7. 家屋の耐震化 | 8. 自治体や勤務先の防災情報メールに登録 | |
| 9. その他（ ） | 10. 特にやっていない | |

質問 50. あなたが市に特に力を入れてほしい災害対策は何ですか。次の中から 3 つまでお選びください。

- | |
|---|
| 1. 非常用食糧の備蓄 |
| 2. 高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援 |
| 3. 防災に関するパンフレット・チラシ等の発行・提供 |
| 4. 避難路・避難場所・津波避難ビルの整備・指定 |
| 5. 地域の防災リーダーの育成・活用 |
| 6. 防災訓練の充実 |
| 7. 防災に関するイベント・講演会 |
| 8. インターネット（自治体ホームページ、フェイスブックなど）による防災情報の提供 |
| 9. 防災行政無線などの通信設備の整備による情報伝達手段の拡充 |
| 10. ボランティアの育成、受け入れ、活用 |
| 11. 自主防災組織が使用する防災用資機材の整備 |
| 12. 企業や各種団体との災害時応援協定の締結 |
| 13. その他（ ） |

(19)環境について

質問 51. 資源循環型社会の形成促進のため、本市では、次に掲げるものを資源化物としてリサイクルしています。今後も資源化物としての取り扱いを続けてほしいものをすべてお選びください。

- | | | |
|----------|-----------|-----------------|
| 1. 紙類 | 2. 布類 | 3. 缶類（アルミ・スチール） |
| 4. ガラスビン | 5. ペットボトル | 6. 草木 |

質問 52. 地球環境保護のため、あなたが実践していることは何ですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

- | |
|--|
| 1. 電気の節約（LED への交換、こまめな消灯など） |
| 2. 水の節約（節水シャワーヘッドの利用など） |
| 3. いらないもの（レジ袋、ポケットティッシュ、チラシなど）は断る（リフューズ） |
| 4. ごみが出る量が少ない製品・食品を買う（リデュース） |
| 5. フリーマーケット（メルカリやジモティなどのフリーマーケットアプリを含む）やリサイクルショップの利用（リユース） |
| 6. ごみは分別して再資源化に努める（リサイクル） |
| 7. エコドライブの実践 |
| 8. 公共交通の利用（パークアンドライド含む） |
| 9. ノーマイカーデーの実践（相乗り出勤含む） |
| 10. 地産地消の実践 |
| 11. 環境性能に優れた自動車（プラグインハイブリッド車（PHV）・電気自動車（EV）など）の利用 |
| 12. 太陽光発電の利用 |
| 13. 太陽熱温水器の利用 |
| 14. エコキュート・エネファーム（電気による給湯システム）の利用 |
| 15. 環境にやさしい製品（簡易包装、紙ストローなど）の選択 |
| 16. 屋上・壁面等緑化、緑のカーテンの実践 |
| 17. 省エネタイプの電化製品を利用（買い替えの際は省エネタイプのものを選択）している |
| 18. クールビズ（かりゆしウェアの着用、ノーネクタイなど）を実践している |

(20)行政手続きのデジタル化について

質問 53. 本市における行政手続きのオンライン化、情報発信等の行政サービスのデジタル化の取り組みについて満足していますか。次の中から1つお選びください。

- | | | | | |
|-------|---------|---------|-------|----------|
| 1. 満足 | 2. まあ満足 | 3. やや不満 | 4. 不満 | 5. わからない |
|-------|---------|---------|-------|----------|

【市の政策に対する満足度・重要度調査】

質問 58. 那覇市では、第5次総合計画に基づき、様々な政策を展開しています。本市の取り組んでいる23の政策に対する「満足度」と「重要度」について、あなたの実感や印象、経験に基づき、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

本市の第5次総合計画 政策(取組)	満足度 (現在、どの程度満足していますか)					重要度 (今後、どの程度重要だと思いますか)				
	満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない	高い	まあ高い	やや低い	低い	わからない
回答例→	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
【めざすまちの姿】 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA										
小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり (自治会や校区まちづくり協議会への活動支援等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
地域の力が重なる安全安心のまちづくり (防犯・交通安全活動の推進、防災体制の強化等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり (平和・国際交流の推進等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり (人権尊重、男女共同参画推進等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
【めざすまちの姿】 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA										
地域で暮らし地域で支えるまちづくり (福祉・介護・障がいのある方への支援、子どもの貧困対策等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり (健康づくりの実践、こころの健康維持等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり (地域医療の充実等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり (生活衛生・食品衛生・感染症対策等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
【めざすまちの姿】 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA										
子育てが楽しくなるまちづくり (子育て支援、待機児童対策等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり (学力向上、教育環境の整備等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり (スポーツ施設等の整備、青少年健全育成等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり (文化財の保全、文化芸術・芸能活動の支援等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

本市の第5次総合計画 政策(取組)	満足度 (現在、どの程度満足していますか)					重要度 (今後、どの程度重要だと思いますか)				
	満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない	高い	まあ高い	やや低い	低い	わからない
回答例⇒	5	④	3	2	1	5	④	3	2	1
【めざすまちの姿】 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA										
ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり (観光客受入体制の整備、観光資源の発掘・創造等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり (産業振興、中小企業支援等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり (労働環境の改善、就労支援、人材育成の推進等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
中心市街地を活かしたまちづくり (商店街・マチグワの振興等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
【めざすまちの姿】 自然環境と都市機能が調和した住みつけたいまち NAHA										
省エネを実践し、資源が循環するまちづくり (省エネを実践するライフスタイルの推進、ごみ減量化等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり (魅力ある都市景観の形成、道路美化等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり (交通体系の整備等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり (安全安心で快適な道路や公園の整備等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり (都市計画、土地利用等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
【基本構想を推進するために】 市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う										
市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり (行政サービスの電子化等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
効率的で効果的な行財政運営を行う (市民満足度の高いサービスの提供等)	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

Ⅱ. 調査結果の概要

Ⅱ. 調査結果の概要

1. 日常生活等に関する意識調査結果の概要・要約

令和5年度実施の日常生活等に関する意識調査結果の概要は、下記のとおりである。

(1) 住み心地について

那覇市を「非常に住みよい」と感じている市民の割合は、前回調査と比較するとやや増加傾向にある。

約7割の市民が那覇市に対して「自分のまち」として愛着を感じている。

- 住み心地が「非常に住みよい」、「まあ住みよい」を合わせて「住みよい」と感じている市民は 65.2%。
- 居住地区別では、首里地区の愛着度が最も高く、小禄地区が最も低い。
- 愛着を感じる理由は「通勤・通学・買い物など生活に便利だから」が 69.0%で最も高く、次いで「公共交通の便がよいから」が 55.4%となっている。



(2) 自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について

20.6%の市民が自治会、校区まちづくり協議会等へ「参加している」と回答しており、前回調査時から、1.4ポイント減少している。

参加している活動については「立哨当番や美化作業等の機会があるときにのみ参加」と回答した市民が多い。

地域コミュニティ活動へ「参加していない」と回答した市民の理由について、個人的な理由以外に、「地域コミュニティがない」、「勧誘がない」などの地域の事情がある。

地域の課題としては「地域の美化・清掃」が首位となっている。次いで「防犯に関する取組」、「一人暮らしのお年寄りの支援」と回答した市民が多い。

- 地域コミュニティ活動については、首里地区で「参加している」の割合が高く、今後参加したい市民の割合を含めると5割を上回っている。
- 参加している活動としては「立哨当番や美化作業等の機会があるときにのみ参加」が 31.8%、次いで「祭りやイベント等又は講座等への来場」が 19.3%、「役員又は組織運営」が 16.8%となっている。
- 「参加していない」と回答した市民の理由は、「時間的にゆとりがない」が 27.0%、次いで「関心がない」が 14.5%、「参加の仕方がわからない」が 13.5%となっている。
- 地域の課題としては「地域の美化・清掃」が 24.0%で最も割合が高い。



(3) 協働によるまちづくりについて

市民が行っているボランティア活動について、「行っていない」が約9割となっている。

行政機関に求めるボランティア活動を支援する取組みとしては、「市民へ情報発信（ホームページの充実やボランティア団体の活動の紹介等）」が期待されている。

市民が「協働大使」に期待する役割について、「協働大使について知らないのわからない」が約7割と最も多い。



- 市民が行っているボランティア活動有無について「行っている」が8.8%、「行っていない」が89.4%となっている。
- 市民が行っているボランティア活動について「環境（例：公園清掃活動、ビーチクリーン活動、ゴミ減量活動）」が49.6%と最も多く、次いで「教育・文化・スポーツ（例：部活動サポート、スポーツイベントの開催）」の18.5%となっている。
- 行政機関が行うボランティア活動支援としては「市民へ情報発信（ホームページの充実やボランティア団体の活動の紹介等）」が48.2%で最も高く、次いで「ボランティアを求める側としたい側との仲介（マッチング・コーディネート）」が44.5%となっている。
- 市民が「協働大使」に期待する役割について、「協働大使について知らないのわからない」が71.1%で最も多く、次いで「協働大使の周知と広報活動の強化」が9.7%となっている。

(4) 市政への市民参加について

市政へ関心がある市民は58.7%となっており、市政に対する関心は、前回調査結果（59.4%）と比較して、減少傾向にある。

選挙公報の情報取得に有効な媒体としては、「テレビ」、「新聞」、「ラジオ」の割合が高い。

市の情報を取得している媒体について、20代以下は「テレビ」、30代以上は「広報紙なは市民の友」の割合が最も高くなっている。



- 市政へ関心のある市民は58.7%、関心がない市民は26.6%である。
- 市民の市政参加を促すために「わかりやすい広報活動」、「楽しく参加できる工夫」が望まれている。
- 自宅から投票所までの距離については、「適当」が43.8%で最も多く、次いで「近い」が30.3%、「期日前投票を利用しているので特に何も感じていない」が16.2%となっている。
- 選挙公報の情報取得に有効な媒体については、「テレビ」が72.3%で最も高く、次いで「新聞」が53.1%、「ラジオ」が29.3%となっている。
- 市の情報を取得している媒体については、「広報紙なは市民の友」が30代以上で最も高い割合となっている。

(5) 議会への市民参加について

市民が議会へ求めていることは、「地域問題や市民相談への対応」、「議員定数や報酬などの見直し」が多い。

また、議会報告会で取り上げてほしいテーマとして、20代～40代は「子育て支援・教育問題」、50代以上では「医療や福祉問題」などライフステージに応じたテーマがあげられている。



- 議会に求めることについて「地域問題や市民相談への対応」が47.3%と最も高く、ほとんどの属性別においても最も割合が高くなっている。続いて「議員定数や報酬などの見直し」が30.3%、「行政の監視機能」が27.1%の順となっている。
- 市民が議会報告会で取り上げてほしいテーマとしては「医療や福祉問題」が51.4%、「子育て支援・教育問題」が43.8%、「防災・防犯など安全なまちづくり」が25.5%となっている。

(6) 平和行政・男女共同参画について

平和行政について、市民が最も望む取り組みは「沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実」、次いで「米軍の事件・事故に対する取り組み」となっている。

年代別にみると70代以上で「米軍の事件・事故に対する取り組み」の割合が最も高く、60代以下では「沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実」の割合が最も高くなっている。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、6割を超える市民が反対と回答している。

市では、「男女平等」、「性の多様性」の取り組みに対し支持または理解を示す市民を増やしていく事を目標に掲げており、市の取り組みが概ね受け入れられていると考えられる。



- 平和行政について市民が最も望む取り組みは、「沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実」の52.3%と最も高く、次いで「米軍の事件・事故に対する取り組み」が51.6%となっている。
- 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、「賛成」・「どちらかといえば賛成」の合計は16.7%、「反対」・「どちらかといえば反対」の合計は63.4%となっている。
- 「性の多様性」に関する取り組みについては、「賛成」が43.8%と最も多く、次いで「どちらかといえば賛成」が34.6%、「どちらかといえば反対」が11.9%の順となっており、「賛成」が「反対」を大きく上回っている。

(7) 誰もが移動しやすいまちについて

誰もが快適に移動できるまちづくりのために重要だと思うものは、「歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する」、「バスを利用しやすくする」が上位を占めている。

各公共交通について「満足している」市民は16.7%に対し、「不満」な市民は33.4%であり、「不満」が「満足」を上回っている。



- 誰もが快適に移動できるまちづくりのために重要だと思うものは、「歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する」が45.0%と最も多く、次いで「バスを利用しやすくする」が44.4%となっている。
- 平日に最も多く利用する交通手段については、「自家用車(自分で運転)」が42.3%と最も多く、次いで「路線バス」が10.9%、「徒歩」が10.1%となっている。
- 各公共交通について、満足しているかについては、「普通」が46.5%と最も多く、次いで「不満」が26.8%、「満足している」が14.3%の順となっている。
- 各公共交通の不満に感じていることは、「バスが時間通りに来ない」が46.4%と最も高く、次いで、「バスの路線がわかりづらい」が45.7%、「バスの便数が少ない」が40.4%と、上位3位までを「バス」に対する不満が占めている。

(8) 緑のまちについて

居住地域の花や緑に「満足」している市民は52.9%。「不満」な市民は33.5%で居住地域の花や緑に対して「満足」している市民の方が多い。

居住地区別では真和志地区で「満足」が5割を下回っている。他の地域では、5割を上回っている。



- 住んでいる地域の花や緑（公園の緑や街路樹、公共や民間の緑化）に対して、「まあ満足」が43.7%で最も多く、次いで「やや不満」が22.1%、「不満」が11.4%となっている。

(9) 中心市街地活性化について

市民が国際通り、マチグラー等の中心市街地商店街へ行く頻度は、「年1~2回」が最も多い。「全く行かない」と「年1~2回」を合わせると、国際通りで約6割、マチグラーで約7割となっている。

中心市街地商店街を魅力あるものにするための必要な方策として「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」を望む声が最も多く、ついで「市街地周辺部に駐車場を整備する」、「日かげ等の環境整備（暑さ対策）」である。



- 国際通りについては、「年1~2回」が34.9%と最も多く、次いで「全く行かない」が24.7%、「月1~2回」が24.1%、の順となっている。

- マチグラーについては、「全く行かない」が 36.8%と最も多く、次いで「年 1～2 回」が 32.6%、「月 1～2 回」が 17.8%の順となっている。
- 中心市街地商店街を魅力あるものにするための必要な方策として「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」が 53.2%、「市街地周辺部に駐車場を整備する」30.4%、「日かげ等の環境整備（暑さ対策）」27.7%となっている。

(10) 子育て支援について



小学校就学前までの子育て支援について優先的に取り組んでほしい施策は、「認定こども園や認可保育所の受け入れ児童数の拡大」が最も多く、次いで「保育、教育に関する経済的負担の軽減」となっている。

こどもの貧困を解消し、こどものみらいを応援する取組として効果的だと思う施策は「保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援」が最も多く、次に「無料学習塾や子ども食堂などの居場所づくりの支援」となっている。

こどものみらいを応援する取組みとして、市民ができると思うことは、「寄付や募金などの資金援助」である。

- 子育て支援策について優先的に取り組んでほしい施策は「認定こども園や認可保育所の受け入れ児童数の拡大」が 51.0%、次いで「保育、教育に関する経済的負担の軽減」が 48.9%となっている。
- こどもの貧困を解消し、こどものみらいを応援する取組として効果的だと思う施策は「保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援」が 57.6%、次いで「無料学習塾や子ども食堂などの居場所づくりの支援」が 50.5%となっている。
- ひとり親世帯への子育て支援策について優先的に取り組んでほしい施策については、「養育費の確保支援」が 52.1%で最も高く、次いで「就業支援」が 38.1%、「居住支援」が 33.8%となっている。
- こどものみらいを応援する取組みとして、市民ができると思うことは「寄付や募金などの資金援助」が 21.5%で最も多く、次いで「地域の子どもたちへ挨拶・見守り活動」が 17.8%となっている。
- 本市における子育て支援について満足しているかについて、「満足」「まあ満足」を合わせた割合は 22.8%、「不満」「やや不満」を合わせた割合は 14.0%となっている。
- こどもの権利の関心度について、「非常に関心がある」「まあ関心がある」を合わせた割合は 70.7%となっており、こどもの権利が守られていると感じているかについては、「守られている」「どちらかというと守られている」を合わせた割合は、47.2%となっている。

(11) 福祉について

市民が地域で困っている方（高齢者、障がいのある方等）にできる取り組みとして、「話し相手」が最も多く、次いで「災害時の手助け」である。

障がいのある方も地域でともに暮らせるまちにするためには、「福祉サービス（介護・自立訓練・就労支援など）」や「生活相談」等の充実が求められている。

- 市民が困っている方（高齢者、障がいのある方等）にできる取り組みとして、「話し相手」が 43.5%で最も多く、次いで「災害時の手助け」が 30.3%となっている。
- 障がいのある方も地域でともに暮らせるまちにするためには、「福祉サービス（介護・自立訓練・就労支援など）」が 74.1%で最も高く、次いで「生活相談」が 49.0%、「医療等の助成」が 44.9%の順となっている。
- 知っているまたは利用したことがある相談支援機関については、「地域包括支援センター」が 49.3%で最も高く、次いで「那覇市社会福祉協議会」が 38.3%、「那覇市 就職・生活支援パーソナルサポートセンター」が 14.6%の順となっている。



(12) 健康について



1 回 30 分以上の運動を週 3 回以上取り組んでいる市民は 34.9%。一方で、取り組む関心はあるが、機会がない市民は 24.7%となっている。

年代別でみると、70 代以上では「ほとんど毎日」の割合が、他の年代より高くなっている。

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を 1 日 2 回以上の日がほぼ毎日の市民は 4 割を上回っている。

- 1 回 30 分以上の運動への取り組みに対して、「関心はあるが機会がない」が 24.7%、次いで「週 1～2 回程度」が 23.2%、「週 3 回以上」が 17.7%の順となっている。
- 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が 1 日 2 回以上の日が「ほぼ毎日」の市民は、42.8%、次いで「週に 2～3 日」が 23.4%、「週に 4～5 日」が 21.2%の順となっている。

(13) 文化・芸術について

那覇市が振興したほうが良いと考える文化芸術の分野は「演劇」が最も多く、次いで「古典芸能」となっている。

一方で、劇場や博物館などへ鑑賞には「ほとんど行かない」という市民は約 5 割となっており、文化的環境の満足度をみると、「満足」と「まあ満足」を合わせた割合が 3 割を下回っている。



- 那覇市が振興したほうが良いと考える文化芸術の分野は「演劇（沖縄芝居、ミュージカルを含む）」が 41.9%で最も高く、次いで「古典芸能（組踊、能・狂言、歌舞伎、文楽など）」が 36.1%、「美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真）」が 34.7%の順となっている。
- 1 年間に劇場や博物館などへ鑑賞に出掛ける頻度については、「ほとんど行かない」が 51.3%で最も多く、次いで「年に 1～2 回程度」が 27.9%、「年に 3～4 回程度」が 11.4%の順となっている。前回調査よりも「ほとんど行かない」の割合が減少しており、新型コロナウイルス感染症流行前の状態に戻りつつあると思われる。
- 本市内での文化的な環境に満足しているかについては、「わからない」が 50.7%で最も多く、次いで「まあ満足」が 24.6%、「やや不満」が 13.7%の順となっている。

(14) 観光意識について

那覇市内における観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化について、「レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている」と 6 割の市民が感じており、全ての属性別においても、最も高い回答結果となっている。



- 観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化について、「レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている」が 60.0%と最も高く、次いで「新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している」が 35.1%、「道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている」が 29.4%の順となっている。

(15) 生涯学習について

市民が、興味があり学んでみたい活動は「趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動」が最も多い。

性別でみると、男性は「ごみ問題などの環境保全活動」、女性は「介護や障がいのある方への支援などの福祉活動」の割合が高くなっている。

- 興味があり学んでみたい活動については、「趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動」が 46.4%で最も高く、次いで「食育や生活習慣病予防などの健康活動」が 40.9%、「介護や障がいのある方への支援などの福祉活動」が 27.9%の順となっている。

(16) 青少年の育成について

市民の地域青少年との関わりについて、「特に関わりがない」が 7 割を上回っている。

- 地域の青少年とどのように関わっているかについては、「あいさつや地域行事への参加の声掛け」が 11.9%と最も高く、次いで「部活動のコーチや読み聞かせ、登下校の見守りなど、学校支援を通して関わっている」が 4.0%、「青少年団体への寄付をするなど金銭的な支援で関わっている」が 2.9%の順となっている。

(17) 消防行政について

応急手当（心肺蘇生法及び AED の取扱い）の講習を受けたことがあると回答した市民の割合は 4 割を上回っている。若い年代ほど受講経験がある割合は高く、20 代では「受けたことがある」が 8 割を超えている。

- 応急手当法の講習を「受けたことがある」市民は 43.9%で最も多く、次いで「どちらともいえない(受けたことがない)」市民は 25.4%の順である。
- 若い年代ほど応急手当法の受講経験がある市民の割合が高くなっており、20 代で 85.4%、30 代で 62.7%が受講の経験がある。



(18) 防災対策について

市民が実施している防災対策について、「特にやっていない」が約 3 割となっており、ほぼすべての属性で高い割合を占めている。

市民が特に力を入れてほしい災害対策は「高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」が 5 割を超えている。

- 市民が実施している防災対策については、「非常用食糧の備蓄」が 29.1%で最も高く、次いで「避難場所・経路の確認」が 26.2%、「家族間での連絡方法の確認」が 22.1%の順となっている。
- 那覇市に特に力を入れてほしい災害対策については、「高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」が 53.0%で最も高く、次いで「非常用食糧の備蓄」が 49.2%、「避難路・避難場所・津波避難ビルの整備・指定」が 34.7%となっている。



(19) 環境について

資源化物として取り扱いを続けてほしいものは「ペットボトル」、「缶類（アルミ・スチール）」、「紙類」などである。

一人当たりの実践数の平均は 4.44 個である。

- 資源循環型社会の形成促進のために、資源化物として取り扱いを続けてほしいものについては、「ペットボトル」が 86.1%と最も高く、次いで「缶類（アルミ・スチール）」が 83.6%、「紙類」が 79.4%となっている。
- 地球環境保護のため実践していることで最も多かったものは「ごみは分別して再資源化に努める（リサイクル）」となっている。



(20) 行政手続きのデジタル化について

行政手続きのデジタル化に「満足」している市民は 29.6%、「不満」な市民は 21.8%で「満足」している市民の方がやや多いが、「わからない」と回答した市民も 45.2%となっている。

特に力を入れてほしいデジタル化施策は「インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる」が最も多い。

行政サービスのデジタル化への不安としては「個人情報漏洩して悪用される」が6割を上回っている。



- 行政手続きのデジタル化について「満足」と答えた割合は 29.6%、「不満」と答えた割合は 21.8%となっている。
- 那覇市に特に力を入れてほしい災害対策については、「インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる」が 47.3%で最も高く、次いで「暮らしを支える行政サービスがスマートフォン等で受けられる」が 41.5%、「マイナンバーカードを活用した便利なサービスが充実している」が 27.0%の順となっている。
- 行政サービスのデジタル化に不安を感じるものについては、「個人情報漏洩して悪用される」が 64.1%と最も高く、次いで「スマートフォン等の機器の操作が不慣れで、サービスを受けられなくなる」が 39.9%、「スマートフォン等の機器にウィルスが感染し、不正操作される」が 34.3%の順となっている。

(21) その他

那覇市民の平均幸せ点数は 10 点満点中 6.65 点となっている。

昨年と比べて幸福感が「変わらない」市民は約 7 割となっている。

- 那覇市民の平均幸せ点数は、10 点満点中 6.65 点となっている。
- 昨年と比べて幸福感が「変わらない」が 68.6%で最も多く、次いで「上がっている」が 13.6%、「下がっている」が 13.0%の順となっている。



2. 第5次総合計画の各政策に対する満足度・重要度調査の概要・要約

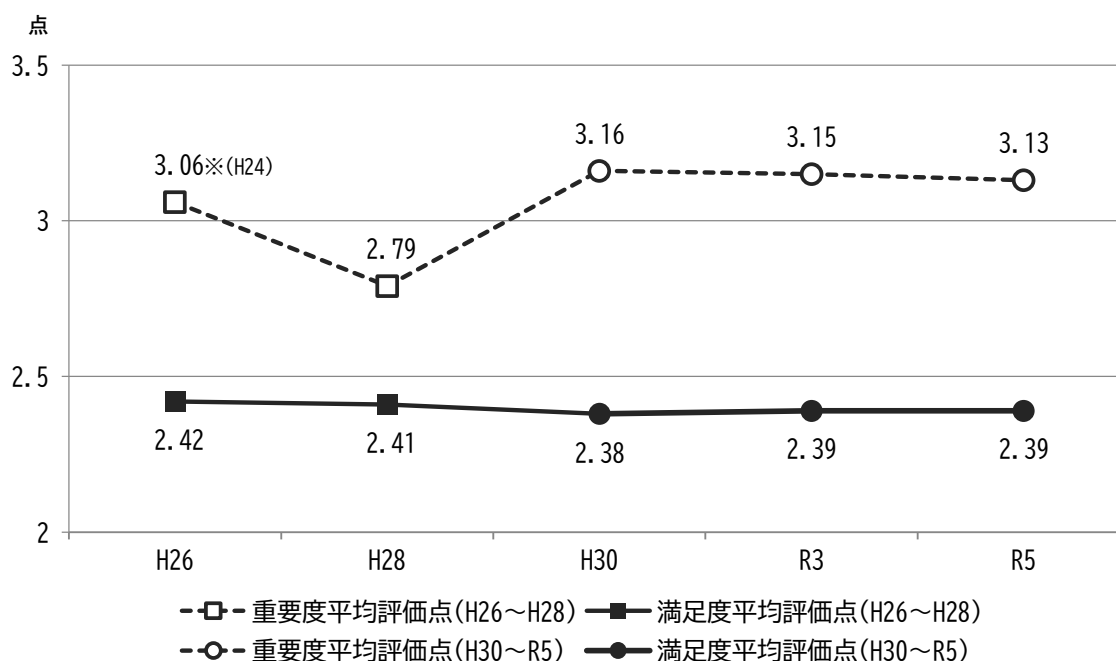
令和5年度実施の第5次総合計画各政策に対する満足度・重要度調査結果の概要は、下記のとおりである。

第5次総合計画で掲げた23の政策に対する市民の満足度・重要度は、概ね重要度が高い領域で、満足度も平均値の周辺に集中して分布するという結果となった。

満足度の合計点数平均 = 1,722 点
 満足度の有意回答者数平均 = 721 人
満足度の一人当たり平均評価点 = 2.39 点

重要度の合計点数平均 = 2,899 点
 重要度の有意回答者数平均 = 925 人
重要度の一人当たり平均評価点 = 3.13 点

●満足度・重要度一人当たり平均評価点の経年変化グラフ（平成26年度～令和5年度）



平成30年度の調査から第5次総合計画の政策となったことで、質問項目が前回と異なることから、単純比較は出来ないが、参考として、前回までの調査結果との経年変化を掲載した。

満足度については、政策23項目のうち全施策の平均点2.39以上の項目が11項目（前回23項目の内11項目）あることから、満足度に大きな変化はないと考えられる。

重要度については、政策23項目のうち全施策の平均点3.13以上の項目が14項目（前回23項目の内12項目）という結果となっている。

※H26調査は重要度調査を実施しておらず、H24調査の重要度を掲載している。

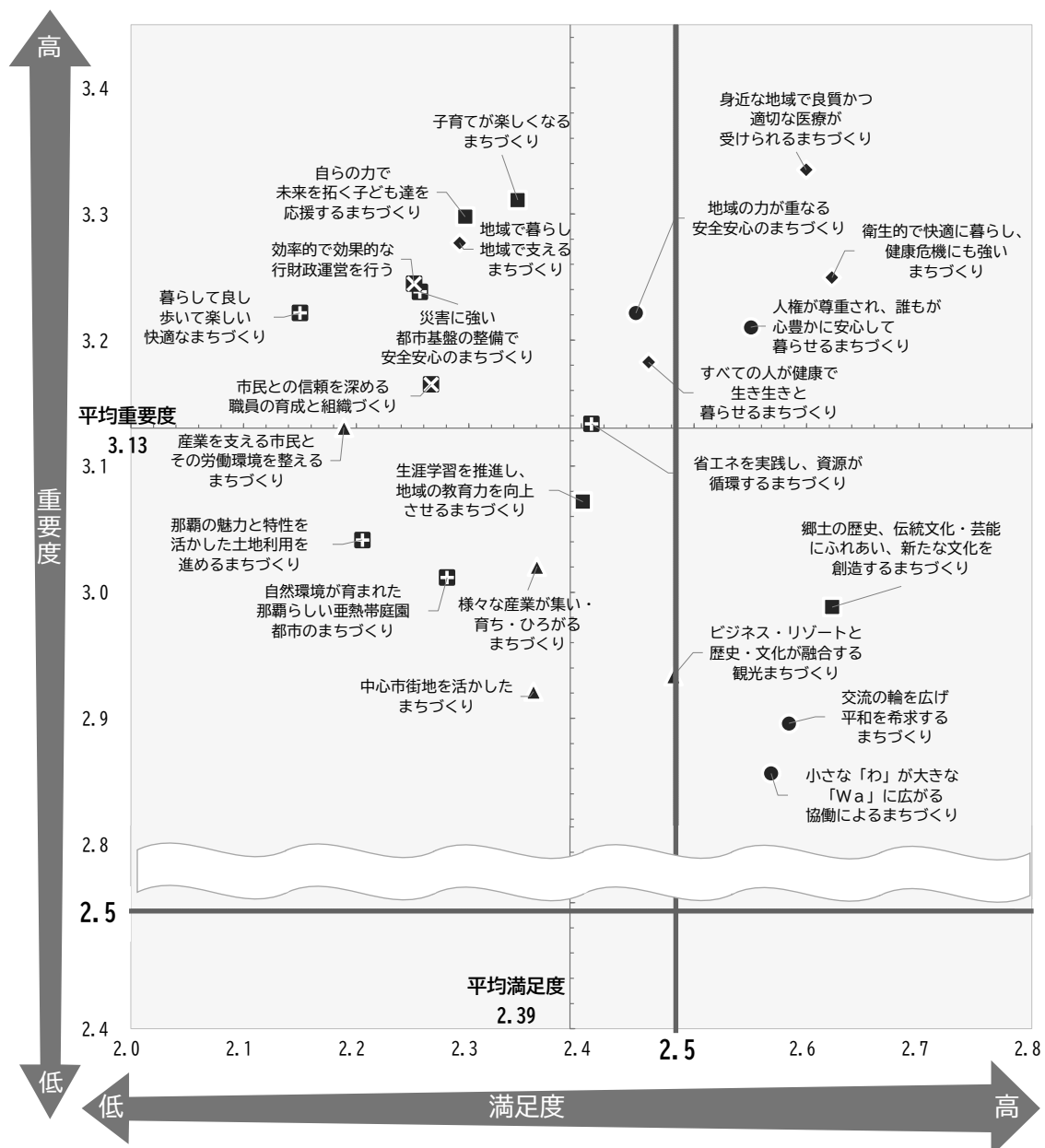
満足度・重要度とも相対的に高い評価を得た政策は、以下の5つの政策である。

- 身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり
- 衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり
- 人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり
- 地域の力が重なる安全安心のまちづくり
- すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり

満足度・重要度とも相対的に低い評価を得た政策は、以下の4つの政策である。

- 那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり
- 中心市街地を活かしたまちづくり
- 自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり
- 様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり

●平均満足度・平均重要度を中心とした23の個々の政策分布図



Ⅲ. 基本調査結果

Ⅲ. 基本調査結果

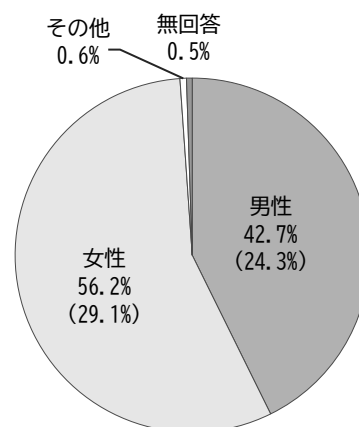
質問 1. あなたの性別を、次の中から 1つお選びください。

1. 男性 2. 女性 3. その他

回答者の性別については、「男性」が 579 人 (42.7%)、「女性」が 762 人 (56.2%)、「その他」が 8 人 (0.6%)、「無回答」が 7 人 (0.5%) となっている。

男女比については、男性よりも女性が多いという那覇市の現状に近い標本数が確保されている。

選択項目	回答数	割合
男性	579	42.7%
女性	762	56.2%
その他	8	0.6%
無回答	7	0.5%
合 計	1,356	100%



()内は送付数に対する回収率

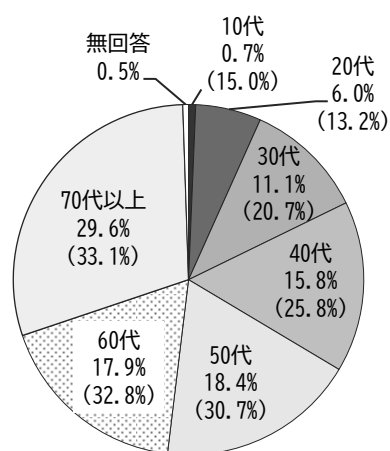
質問 2. あなたの年代を、次の中から 1つお選びください。

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代
6. 60代 7. 70代以上

年代別の回収率をみると、「70代以上」が 29.6%と最も多く、次いで「50代」が 18.4%、「60代」がともに 17.9%の順となっている。

送付数に対する回収率は、「20代」の割合が低いものの概ね各年代の那覇市の現状に近い標本数が確保されている。

選択項目	回答数	割合
10代	9	0.7%
20代	82	6.0%
30代	150	11.1%
40代	214	15.8%
50代	249	18.4%
60代	243	17.9%
70代以上	402	29.6%
無回答	7	0.5%
合 計	1,356	100%



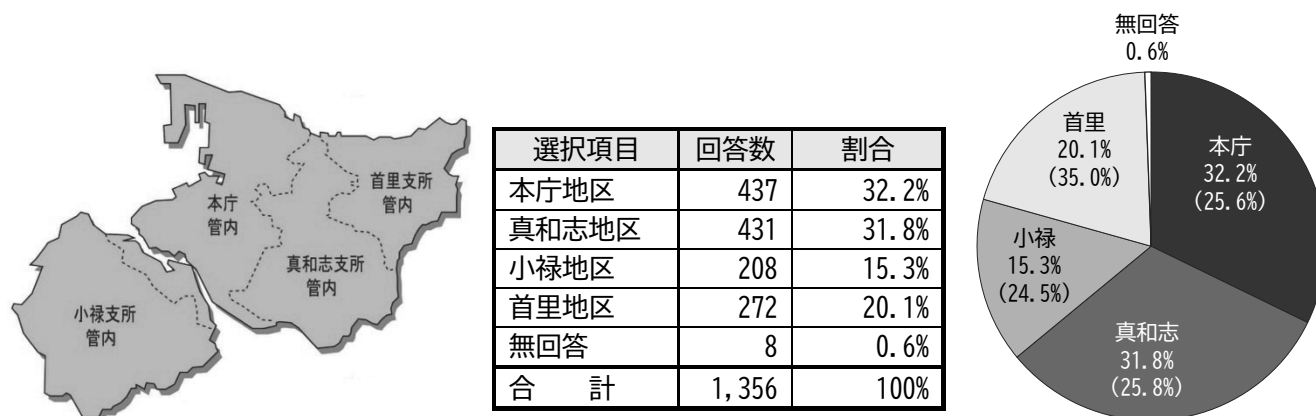
()内は送付数に対する回収率

Ⅲ. 基本調査結果

質問 3. あなたがお住まいの地区を、次の中から 1 つお選びください。

1. 本庁地区 2. 真和志地区 3. 小禄地区 4. 首里地区

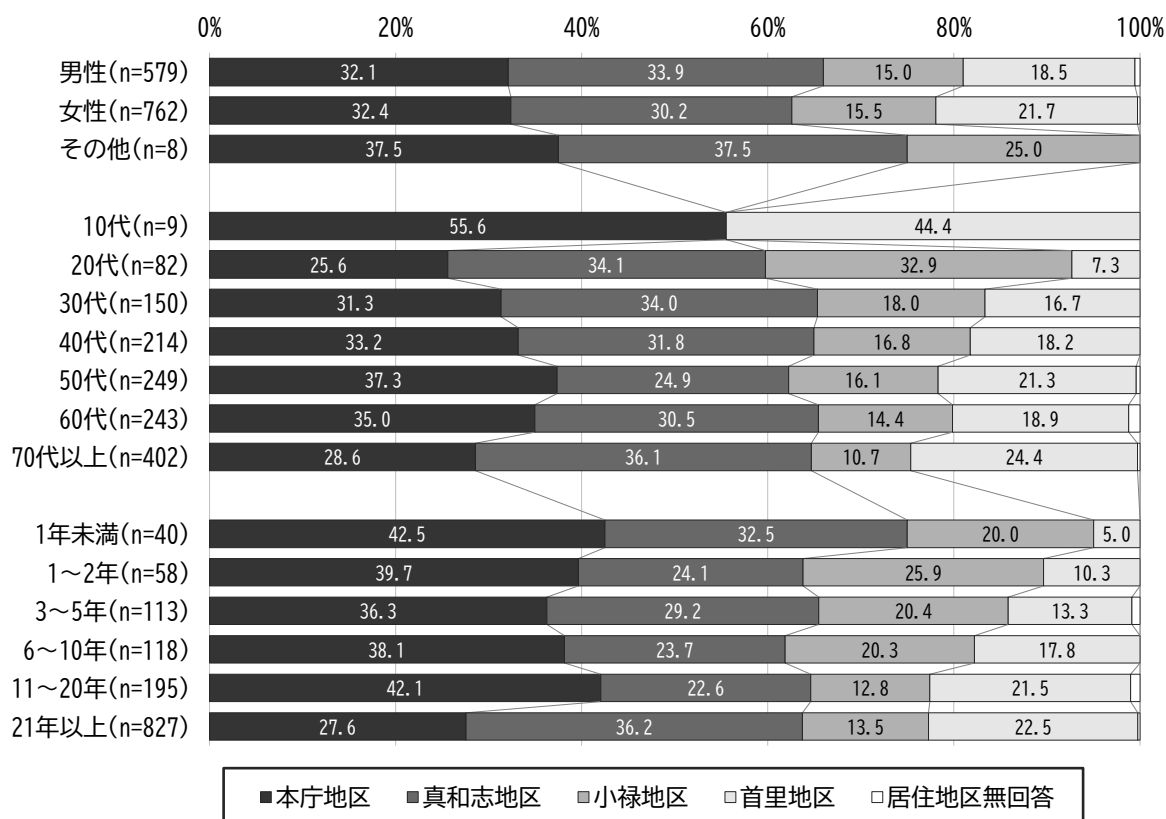
居住地区別については、送付数に対する回収率が「首里地区」でやや高くなっているが、ほぼ那覇市の現状に近い標本数が確保されている。



()内は送付数に対する回収率

【属性別集計（回答者属性無回答除く）】

属性別でみると、「本庁地区」では居住年数「21 年以上」の割合が低く、「真和志地区」では居住年数「1 年未満」と「21 年以上」の割合が高くなっている。また、「小禄地区」では居住年数の長い人よりも短い人の割合が高い傾向があるのに対し、「首里地区」では居住年数の長い人の割合がより高くなる傾向がある。

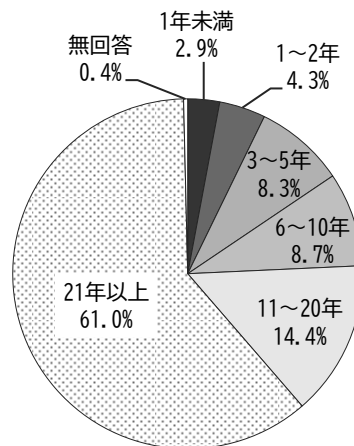


質問 4. あなたは那覇市にお住まいになって何年になりますか？

1. 1年未満 2. 1～2年 3. 3～5年
4. 6～10年 5. 11～20年 6. 21年以上

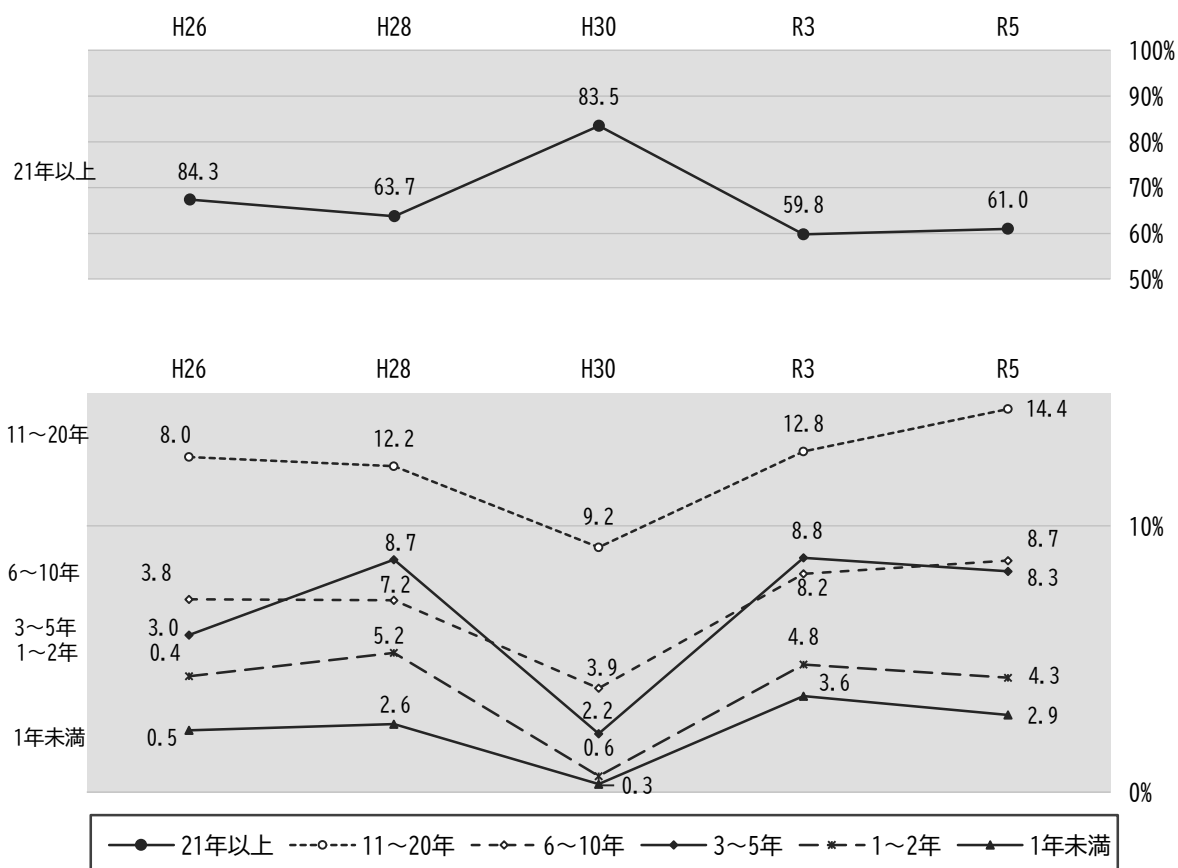
居住年数については、「21年以上」が61.0%と最も多く、次いで「11～20年」が14.4%、「6～10年」が8.7%の順となっており、居住年数に比例して回答割合が高いという結果になった。

選択項目	回答数	割合
1年未満	40	2.9%
1～2年	58	4.3%
3～5年	113	8.3%
6～10年	118	8.7%
11～20年	195	14.4%
21年以上	827	61.0%
無回答	5	0.4%
合 計	1,356	100%



【経年変化（平成26年～令和5年）】

前回調査と比較すると、「11～20年」の割合が1.6ポイント増加している。



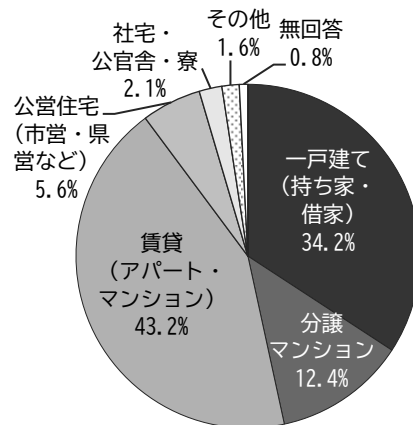
Ⅲ. 基本調査結果

質問 5. あなたのお住まいの住居形態を、次の中から 1つお選びください。

1. 一戸建て(持ち家・借家) 2. 分譲マンション 3. 賃貸(アパート・マンション)
 4. 公営住宅(市営・県営など) 5. 社宅・公官舎・寮
 6. その他(具体的に: _____)

住居形態別については、「賃貸(アパート・マンション)」が43.2%と最も多く、次いで「一戸建て(持ち家・借家)」が34.2%、「分譲マンション」が12.4%の順となっている。

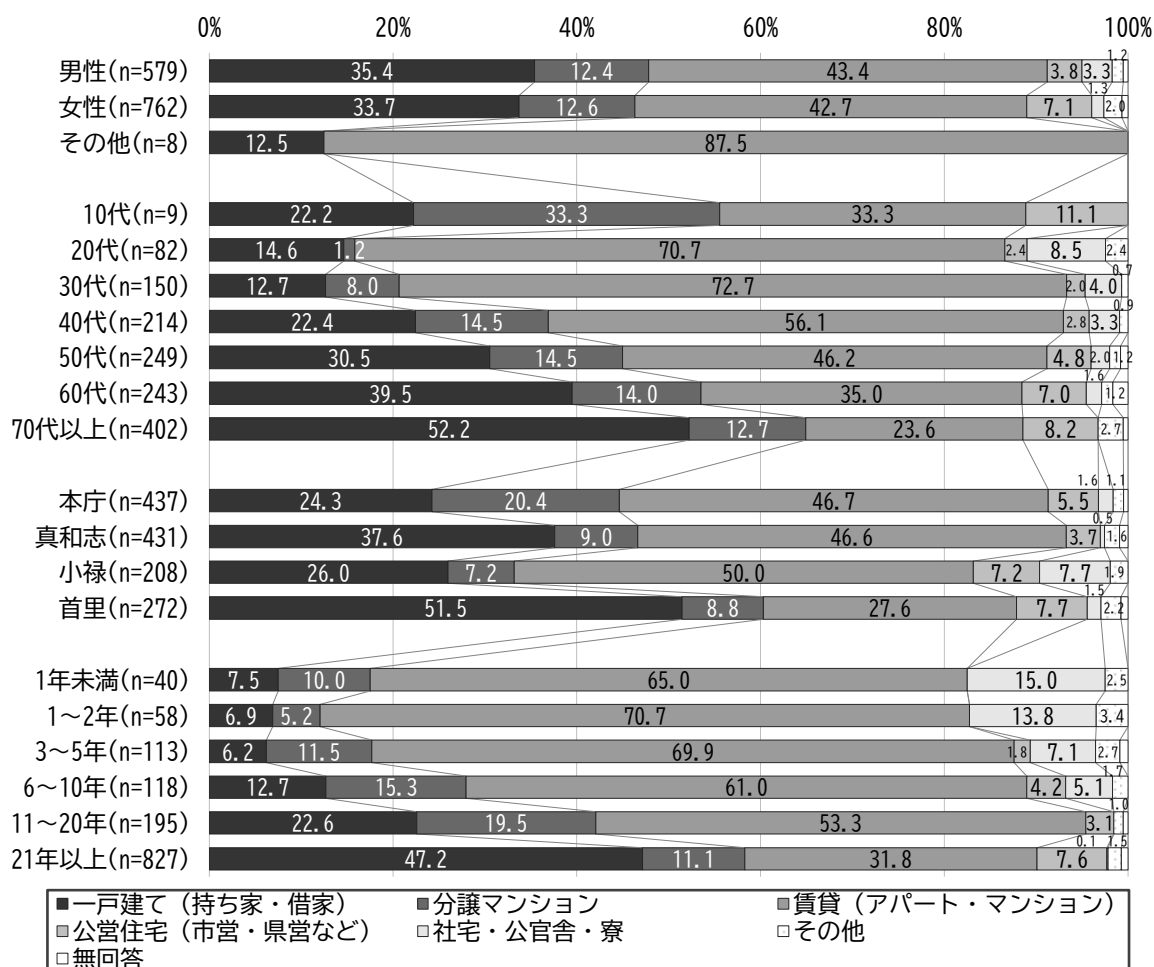
選択項目	回答数	割合
一戸建て(持ち家・借家)	464	34.2%
分譲マンション	168	12.4%
賃貸(アパート・マンション)	586	43.2%
公営住宅(市営・県営など)	76	5.6%
社宅・公官舎・寮	29	2.1%
その他	22	1.6%
無回答	11	0.8%
合 計	1,356	100%



【属性別集計(回答者属性無回答除く)】

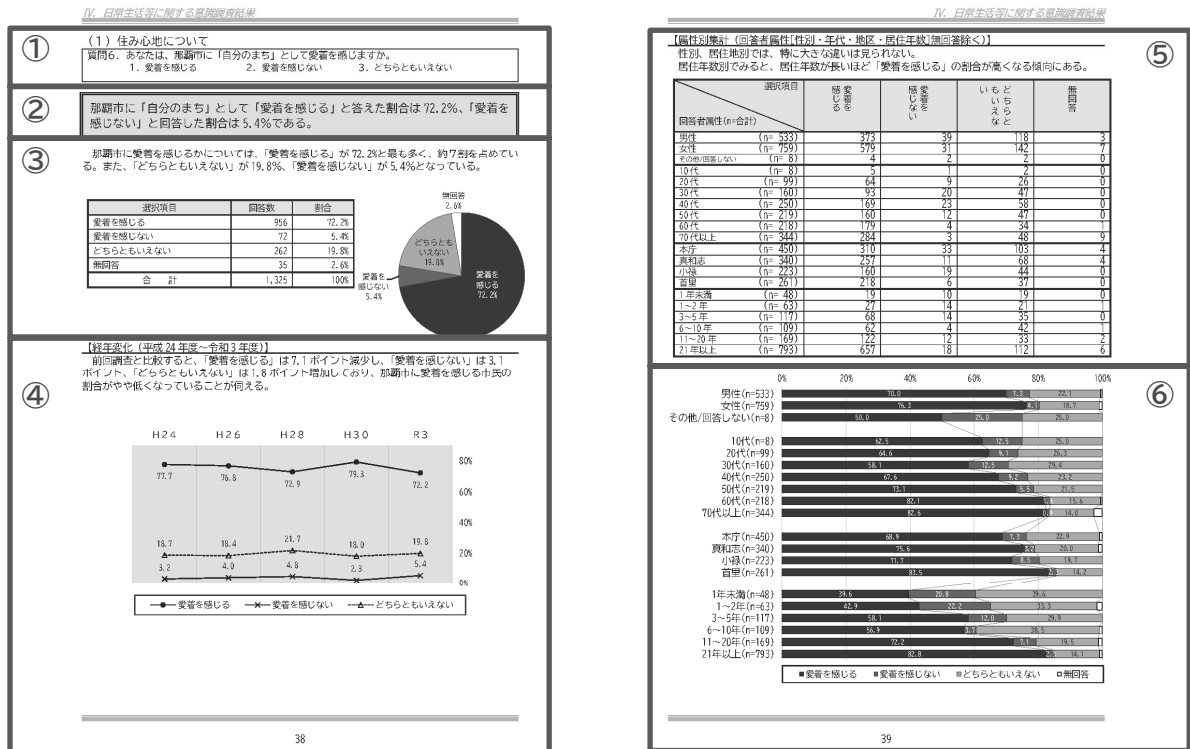
年代別でみると、50代までは、「賃貸(アパート・マンション)」の割合が最も高くなっているが、年齢が上がるにつれて「一戸建て(持ち家・借家)」の割合が高くなる傾向にある。

居住年数別でみると、1～20年では「賃貸」の割合が高いが、21年以上では「一戸建て(持ち家・借家)」の割合が高くなっている。



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

IV. 日常生活等に関する意識調査結果 報告書の見方について



- ① 今回調査に使用したアンケート用紙の質問を掲載
- ② ①の質問に関し、③～⑥の表・グラフから分析した総括を掲載
- ③ ①の質問に関する、回答数の集計及び集計グラフを掲載
- ④ H26（2014年）～R5（2023年）までの、①と同種質問の経年変化グラフを掲載
- ⑤ ①の質問に関する回答を、属性（性別、年代、居住地区、居住年数）別に集計し掲載
- ⑥ ⑤において集計した結果を棒グラフにて掲載

※今回の「経年変化グラフ」及び「属性別集計表・グラフ」では、過去調査同様、無回答を含めた百分率で算出しているが、グラフの見やすさや、わかりやすさを考慮し、特に解析の必要が無い限り「無回答」「その他」等についてはグラフの表示を、比率の小さい選択項目については%表示を省略している。

(1) 住み心地について

質問6. 那覇市の住み心地について、あなたはどのように思いますか。次の中から1つお選びください。

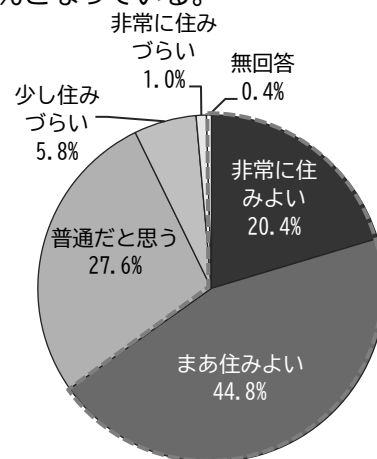
1. 非常に住みよい
2. まあ住みよい
3. 普通だと思う
4. 少し住みづらい
5. 非常に住みづらい

那覇市の住み心地が「住みよい」の割合は65.2%、「住みづらい」の割合は6.8%である。

那覇市の住み心地については、「まあ住みよい」が44.8%と最も多く、次いで「普通だと思う」が27.6%、「非常に住みよい」が20.4%の順となっている。

「少し住みづらい」と「非常に住みづらい」を合わせると6.8%となっている。

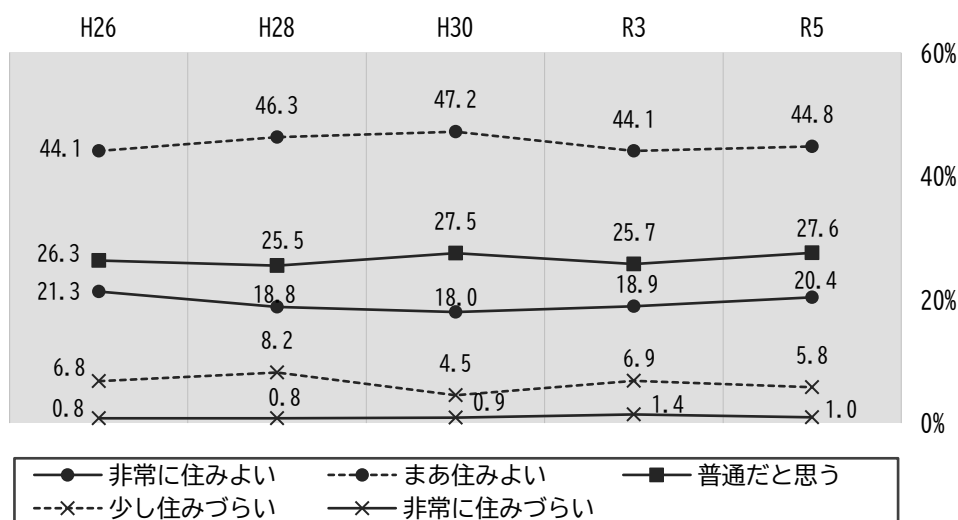
選択項目	回答数	割合
非常に住みよい	276	20.4%
まあ住みよい	608	44.8%
普通だと思う	374	27.6%
少し住みづらい	79	5.8%
非常に住みづらい	13	1.0%
無回答	6	0.4%
合 計	1,356	100%



【経年変化（平成26年度～令和5年度）】

前回調査と比較すると、「非常に住みよい」の割合は1.5ポイント、「まあ住みよい」の割合は0.7ポイント増加している。

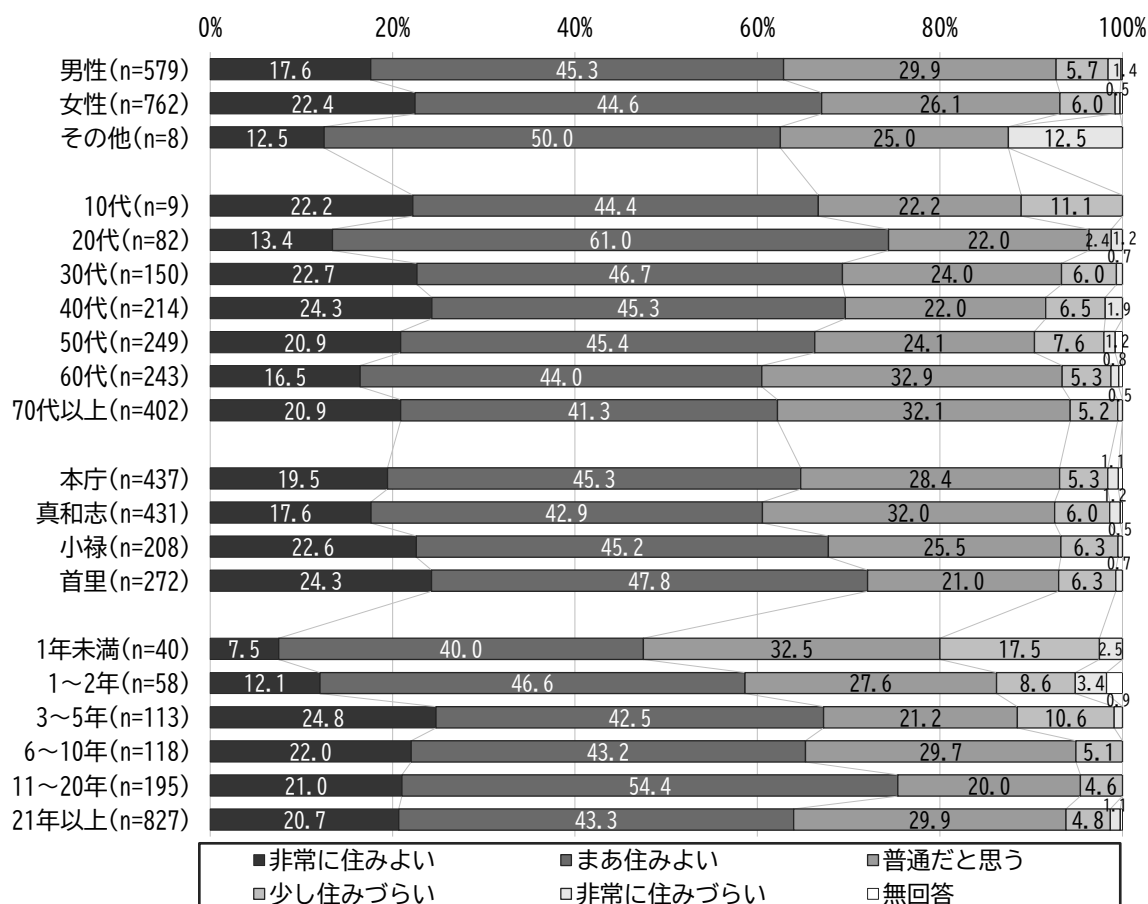
今回の調査では、「少し住みづらい」の割合が1.1ポイント、「非常に住みづらい」の割合が0.4ポイント減少していることから、市民の住み心地に対する評価が少し上がっていることが伺える。



【属性別集計（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）】

性別では、特に大きな違いは見られない。年代別でみると、20代は「非常に住みよい」の割合が低くなっている。居住年数別では、3～5年で「非常に住みよい」の割合が最も高くなっている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	非常に 住みよい	まあ 住みよい	普通だと 思う	少し 住みづらい	非常に 住みづらい	無回答
男性 (n= 579)		102	262	173	33	8	1
女性 (n= 762)		171	340	199	46	4	2
その他 (n= 8)		1	4	2	0	1	0
10代 (n= 9)		2	4	2	1	0	0
20代 (n= 82)		11	50	18	2	1	0
30代 (n= 150)		34	70	36	9	1	0
40代 (n= 214)		52	97	47	14	4	0
50代 (n= 249)		52	113	60	19	3	2
60代 (n= 243)		40	107	80	13	2	1
70代以上 (n= 402)		84	166	129	21	2	0
本庁 (n= 437)		85	198	124	23	5	2
真和志 (n= 431)		76	185	138	26	5	1
小禄 (n= 208)		47	94	53	13	1	0
首里 (n= 272)		66	130	57	17	2	0
1年未満 (n= 40)		3	16	13	7	1	0
1～2年 (n= 58)		7	27	16	5	2	1
3～5年 (n= 113)		28	48	24	12	1	0
6～10年 (n= 118)		26	51	35	6	0	0
11～20年 (n= 195)		41	106	39	9	0	0
21年以上 (n= 827)		171	358	247	40	9	2



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

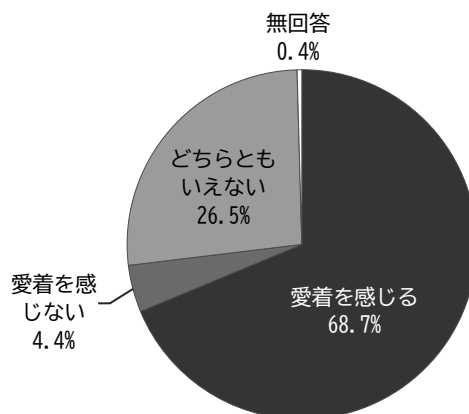
質問7. あなたは、那覇市に「自分のまち」として愛着を感じますか。次の中から 1 つお選びください。

1. 愛着を感じる 2. 愛着を感じない 3. どちらともいえない

那覇市に「自分のまち」として「愛着を感じる」の割合は 68.7%、「愛着を感じない」の割合は 4.4%である。

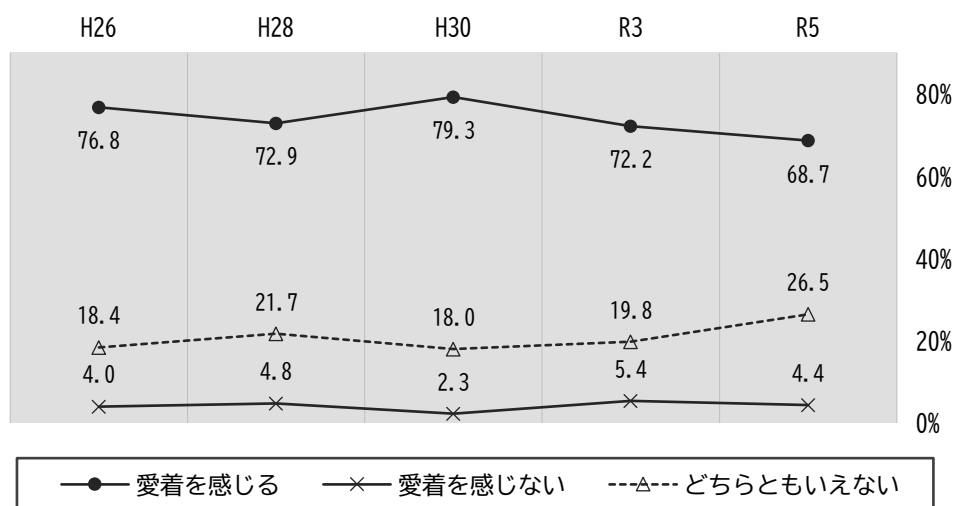
那覇市に愛着を感じるかについては、「愛着を感じる」の割合が 68.7%と最も多く、約7割を占めている。また、「どちらともいえない」の割合が 26.5%、「愛着を感じない」の割合が 4.4%となっている。

選択項目	回答数	割合
愛着を感じる	932	68.7%
愛着を感じない	59	4.4%
どちらともいえない	359	26.5%
無回答	6	0.4%
合 計	1,356	100%



【経年変化（平成26年度～令和5年度）】

前回調査と比較すると、「愛着を感じる」の割合は 3.5 ポイント、「愛着を感じない」の割合は 1.0 ポイント減少し、「どちらともいえない」の割合は 6.7 ポイント増加している。那覇市に愛着を感じる市民の割合が低くなっていることがうかがえる。

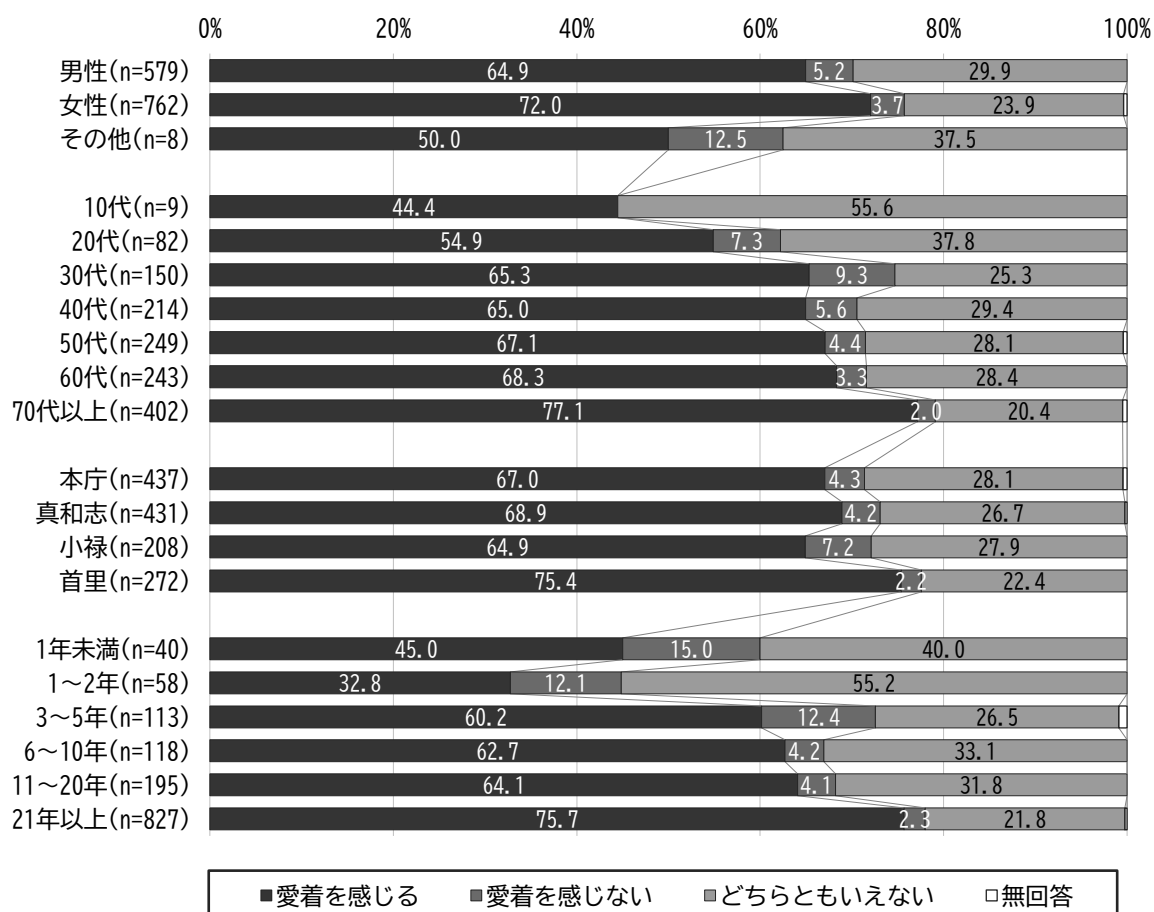


【属性別集計（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）】

性別、居住地別では、特に大きな違いは見られない。

居住年数別でみると、居住年数が長いほど「愛着を感じる」の割合が高くなる傾向にある。

選択項目 回答者属性(n=合計)	愛着を 感じる	愛着を 感じない	どちらとも いえない	無 回 答
男性 (n= 579)	376	30	173	0
女性 (n= 762)	549	28	182	3
その他 (n= 8)	4	1	3	0
10代 (n= 9)	4	0	5	0
20代 (n= 82)	45	6	31	0
30代 (n= 150)	98	14	38	0
40代 (n= 214)	139	12	63	0
50代 (n= 249)	167	11	70	1
60代 (n= 243)	166	8	69	0
70代以上 (n= 402)	310	8	82	2
本庁 (n= 437)	293	19	123	2
真和志 (n= 431)	297	18	115	1
小禄 (n= 208)	135	15	58	0
首里 (n= 272)	205	6	61	0
1年未満 (n= 40)	18	6	16	0
1～2年 (n= 58)	19	7	32	0
3～5年 (n= 113)	68	14	30	1
6～10年 (n= 118)	74	5	39	0
11～20年 (n= 195)	125	8	62	0
21年以上 (n= 827)	626	19	180	2



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 7-1. 質問 7 で「1. 愛着を感じる」を選択した方に伺います。愛着を感じる理由を 2 つまでお選びください。

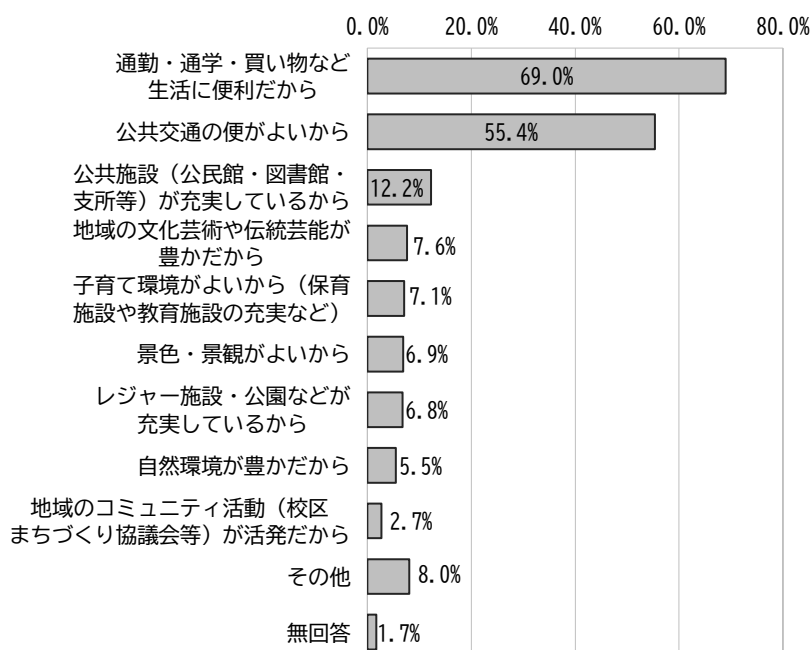
1. 公共交通の便がよいから 2. 通勤・通学・買い物など生活に便利だから
3. 子育て環境がよいから（保育施設や教育施設の充実など）
4. 地域の文化芸術や伝統芸能が豊かだから
5. 地域のコミュニティ活動（校区まちづくり協議会等）が活発だから
6. レジャー施設・公園などが充実しているから 7. 景色・景観がよいから
8. 公共施設（公民館・図書館・支所等）が充実しているから
9. 自然環境が豊かだから 10. その他（ ）

愛着を感じる理由で最も多かったのは「通勤・通学・買い物など生活に便利だから」である。

愛着を感じる理由については、「通勤・通学・買い物など生活に便利だから」の割合が 69.0%と最も高く、次いで「公共交通の便がよいから」の割合が 55.4%、「公共施設（公民館・図書館・支所等）が充実しているから」の割合が 12.2%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1 位	通勤・通学・買い物など生活に便利だから	643	69.0%
2 位	公共交通の便がよいから	516	55.4%
3 位	公共施設（公民館・図書館・支所等）が充実しているから	114	12.2%
4 位	地域の文化芸術や伝統芸能が豊かだから	71	7.6%
5 位	子育て環境がよいから（保育施設や教育施設の充実など）	66	7.1%
6 位	景色・景観がよいから	64	6.9%
7 位	レジャー施設・公園などが充実しているから	63	6.8%
8 位	自然環境が豊かだから	51	5.5%
9 位	地域のコミュニティ活動（校区まちづくり協議会等）が活発だから	25	2.7%
-	その他	75	8.0%
-	無回答	16	1.7%
合 計		1,704	—
回答者数		932	182.8%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。



今回の調査結果から、那覇市が多くの企業や商業施設を有していることや、モノレールやバスなどの公共交通機関が整備されていることなど、生活における利便性の高さが市民の愛着度につながっていることが見受けられる。

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別について、10代と70代では「公共交通の便がよいから」が最も多く、他の年代では「通勤・通学・買い物など生活に便利だから」が最も多くなっている。

地区別では、3番目に挙げる理由をみると真和志地区、小禄地区、首里地区では「公共施設（公民館・図書館・支所等）が充実しているから」となっている。

※■は第1位、■は第2位、□は第3位の項目

選択項目		公共交通の便が よいから	通勤・通学・ 買い物など生活に 便利だから	子育て環境がよいから （保育施設や教育施設の 充実など）	地域の文化芸術や 伝統芸能が豊かだから	地域のコミュニティ活動 （校区まちづくり協議会等） が活発だから	レジャー施設・公園など が充実しているから	景色・景観がよいから	公共施設（公民館・ 図書館・支所等）が 充実しているから	自然環境が豊かだから	その他	無回答
回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（%）												
性別	男性（n= 376）	191 50.8	244 64.9	33 8.8	32 8.5	5 1.3	36 9.6	34 9.0	45 12.0	27 7.2	32 8.5	5 1.3
	女性（n= 549）	320 58.3	394 71.8	33 6.0	39 7.1	20 3.6	26 4.7	30 5.5	67 12.2	23 4.2	43 7.8	11 2.0
	その他（n= 4）	2 50.0	2 50.0	-	-	-	1 25.0	-	2 50.0	1 25.0	-	-
年代別	10代（n= 4）	3 75.0	1 25.0	-	1 25.0	-	1 25.0	1 25.0	1 25.0	-	-	-
	20代（n= 45）	23 51.1	33 73.3	3 6.7	4 8.9	2 4.4	8 17.8	6 13.3	2 4.4	4 8.9	1 2.2	-
	30代（n= 98）	50 51.0	83 84.7	10 10.2	7 7.1	1 1.0	6 6.1	4 4.1	8 8.2	2 2.0	7 7.1	-
	40代（n= 139）	71 51.1	104 74.8	17 12.2	8 5.8	3 2.2	12 8.6	11 7.9	10 7.2	3 2.2	18 12.9	1 0.7
	50代（n= 167）	92 55.1	125 74.9	13 7.8	12 7.2	3 1.8	10 6.0	14 8.4	11 6.6	9 5.4	13 7.8	-
	60代（n= 166）	100 60.2	126 75.9	5 3.0	12 7.2	4 2.4	13 7.8	11 6.6	27 16.3	9 5.4	6 3.6	2 1.2
	70代以上（n= 310）	174 56.1	170 54.8	17 5.5	27 8.7	12 3.9	13 4.2	16 5.2	55 17.7	24 7.7	30 9.7	13 4.2
地区別	本庁（n= 293）	150 51.2	201 68.6	21 7.2	22 7.5	8 2.7	36 12.3	14 4.8	33 11.3	12 4.1	26 8.9	5 1.7
	真和志（n= 297）	159 53.5	209 70.4	22 7.4	17 5.7	6 2.0	13 4.4	22 7.4	38 12.8	21 7.1	26 8.8	6 2.0
	小禄（n= 135）	89 65.9	103 76.3	6 4.4	3 2.2	3 2.2	10 7.4	8 5.9	13 9.6	7 5.2	9 6.7	2 1.5
	首里（n= 205）	117 57.1	129 62.9	17 8.3	29 14.1	8 3.9	4 2.0	20 9.8	30 14.6	11 5.4	14 6.8	2 1.0
居住年数別	1年未満（n= 18）	2 11.1	8 44.4	2 11.1	5 27.8	-	4 22.2	6 33.3	-	6 33.3	2 11.1	-
	1～2年（n= 19）	9 47.4	12 63.2	1 5.3	1 5.3	-	1 5.3	6 31.6	-	2 10.5	1 5.3	-
	3～5年（n= 68）	29 42.6	41 60.3	3 4.4	8 11.8	-	10 14.7	10 14.7	9 13.2	7 10.3	5 7.4	1 1.5
	6～10年（n= 74）	42 56.8	55 74.3	5 6.8	8 10.8	3 4.1	7 9.5	5 6.8	8 10.8	2 2.7	4 5.4	1 1.4
	11～20年（n= 125）	54 43.2	90 72.0	12 9.6	9 7.2	4 3.2	17 13.6	8 6.4	12 9.6	6 4.8	15 12.0	-
	21年以上（n= 626）	378 60.4	435 69.5	43 6.9	40 6.4	18 2.9	24 3.8	29 4.6	85 13.6	28 4.5	48 7.7	14 2.2

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・生まれ育った所だから（26人）
- ・長年住んでいるから（15人）
- ・住環境が落ち着いている（5人）

男性-60代-本庁地区・他
女性-70代以上-本庁地区・他
女性-70代以上-首里地区・他

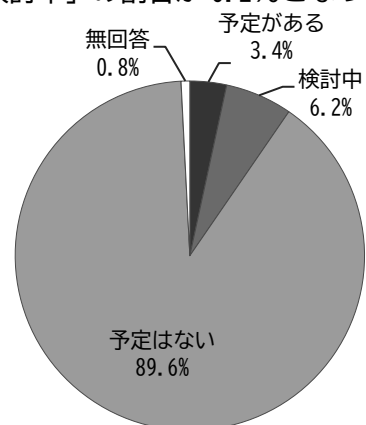
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問8. 那覇市外へ1年以内に転出する予定はありますか。次の中から1つお選びください。
1. 予定がある 2. 検討中 3. 予定はない

那覇市外へ1年以内に転出する予定について「予定はない」の割合は89.6%、「予定がある」の割合は3.4%である。

那覇市外へ1年以内に転出する予定については、「予定はない」の割合が89.6%と最も多く、約9割を占めている。また、「予定がある」の割合が3.4%、「検討中」の割合が6.2%となっている。

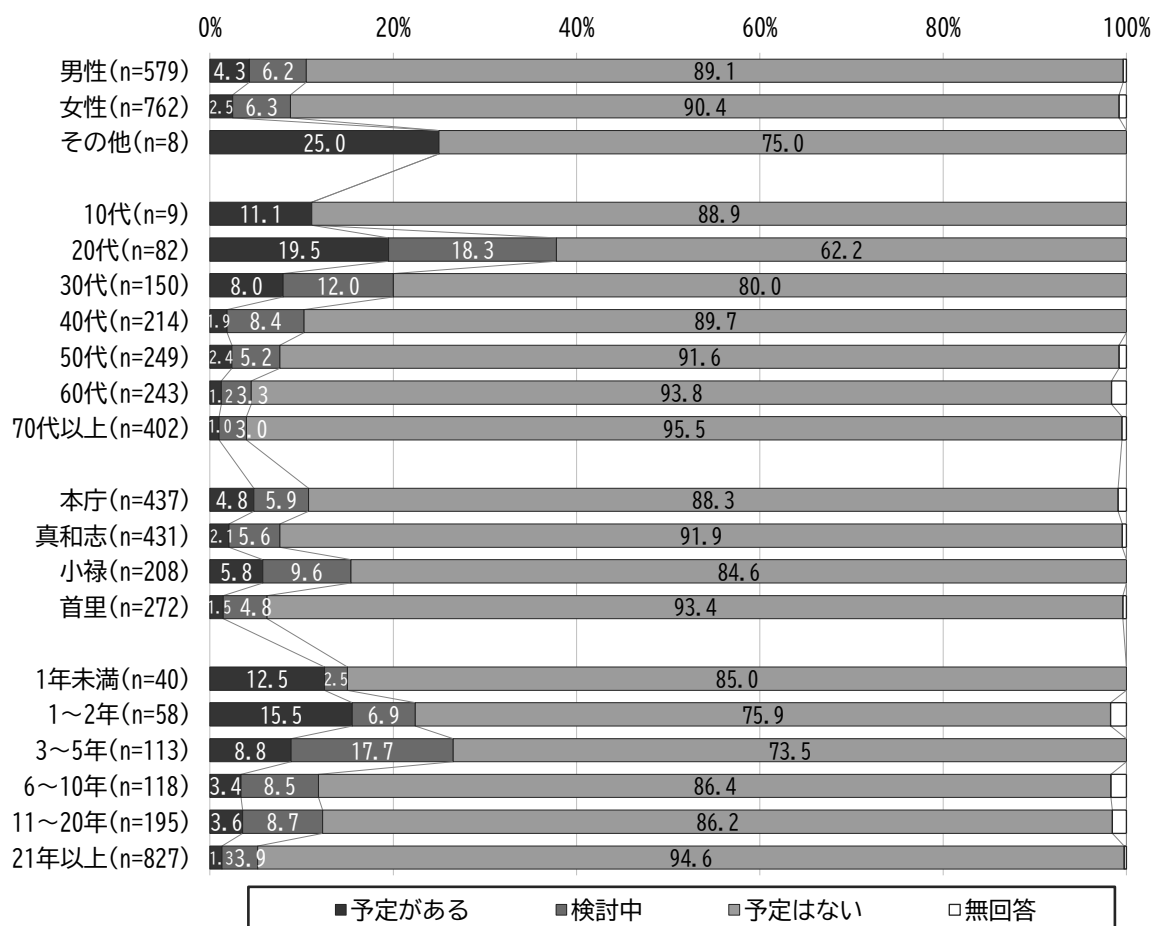
選択項目	回答数	割合
予定がある	46	3.4%
検討中	84	6.2%
予定はない	1,215	89.6%
無回答	11	0.8%
合 計	1,356	100%



【属性別集計（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）】

年代別でみると、20代で「予定がある」と「検討中」を合わせた割合が3割を上回っている。
居住年数別でみると、2年以下で「予定がある」の割合が高く、3～5年で「検討中」の割合が高くなっている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	予定がある	検討中	予定はない	無回答
男性	(n= 579)	25	36	516	2
女性	(n= 762)	19	48	689	6
その他	(n= 8)	2	0	6	0
10代	(n= 9)	1	0	8	0
20代	(n= 82)	16	15	51	0
30代	(n= 150)	12	18	120	0
40代	(n= 214)	4	18	192	0
50代	(n= 249)	6	13	228	2
60代	(n= 243)	3	8	228	4
70代以上	(n= 402)	4	12	384	2
本庁	(n= 437)	21	26	386	4
真和志	(n= 431)	9	24	396	2
小禄	(n= 208)	12	20	176	0
首里	(n= 272)	4	13	254	1
1年未満	(n= 40)	5	1	34	0
1～2年	(n= 58)	9	4	44	1
3～5年	(n= 113)	10	20	83	0
6～10年	(n= 118)	4	10	102	2
11～20年	(n= 195)	7	17	168	3
21年以上	(n= 827)	11	32	782	2



質問8で「1. 予定がある」または「2. 検討中」を選択した方に伺います。

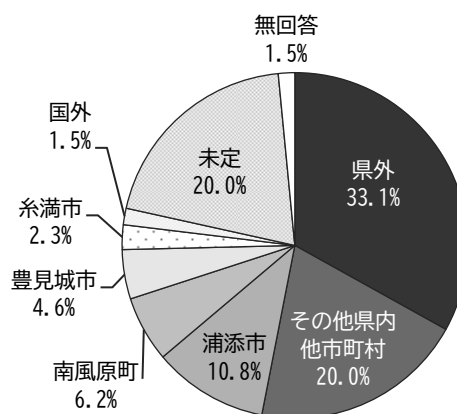
質問8-1. 転出予定（検討）先を次の中から1つお選びください。

- | | | | |
|--|--------|---------|--------|
| 1. 豊見城市 | 2. 浦添市 | 3. 南風原町 | 4. 糸満市 |
| 5. その他県内他市町村（ ）※市町村名をお書きください。 | | | |
| 6. 県外 | 7. 国外 | 8. 未定 | |

転出予定（検討）先のうち最も多かったのは「県外」である。

転出予定（検討）先については、「県外」の割合が33.1%と最も多く、次いで「その他県内他市町村」の割合が20.0%、「浦添市」の割合が10.8%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	県外	43	33.1%
2位	その他県内他市町村	26	20.0%
3位	浦添市	14	10.8%
4位	南風原町	8	6.2%
5位	豊見城市	6	4.6%
6位	糸満市	3	2.3%
7位	国外	2	1.5%
—	未定	26	20.0%
—	無回答	2	1.5%
合 計		130	100%



【選択肢「その他県内他市町村」の主な内容】

- ・宮古島市（4人）
- ・宜野湾市（4人）
- ・八重瀬町（3人）
- ・名護市（3人）

女性-50代-本庁地区・他
 女性-30代-小禄地区・他
 女性-70代以上-真和志地区・他
 男性-30代-真和志地区・他

質問8で「1. 予定がある」または「2. 検討中」を選択した方に伺います。

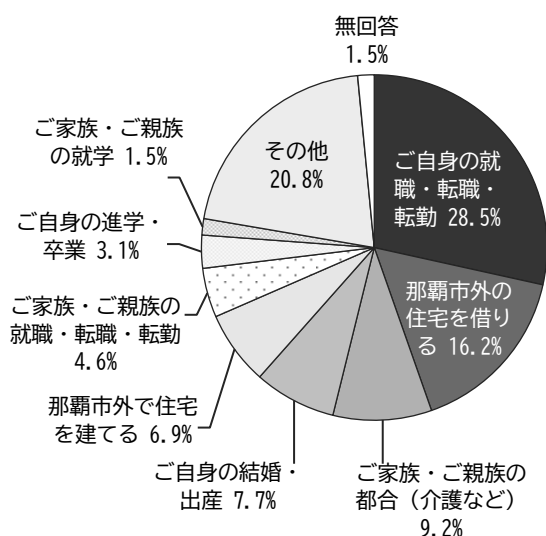
質問8-2. 転出を予定（検討）している理由を次の中から1つお選びください。

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1. ご自身の就職・転職・転勤 | 2. ご自身の進学・卒業 |
| 3. ご自身の結婚・出産 | 4. ご家族・ご親族の就職・転職・転勤 |
| 5. ご家族・ご親族の就学 | 6. ご家族・ご親族の都合（介護など） |
| 7. 那覇市外の住宅を借りる | 8. 那覇市外で住宅を建てる |
| 9. その他（ | ） |

転出を予定（検討）している理由のうち最も多かったのは「ご自身の就職・転職・転勤」である。

転出を予定（検討）している理由は「ご自身の就職・転職・転勤」の割合が28.5%と最も多く、次いで「那覇市外の住宅を借りる」の割合が16.2%、「ご家族・ご親族の都合（介護など）」の割合が9.2%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	ご自身の就職・転職・転勤	37	28.5%
2位	那覇市外の住宅を借りる	21	16.2%
3位	ご家族・ご親族の都合（介護など）	12	9.2%
4位	ご自身の結婚・出産	10	7.7%
5位	那覇市外で住宅を建てる	9	6.9%
6位	ご家族・ご親族の就職・転職・転勤	6	4.6%
7位	ご自身の進学・卒業	4	3.1%
8位	ご家族・ご親族の就学	2	1.5%
—	その他	27	20.8%
—	無回答	2	1.5%
合 計		130	100%



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・実家に帰る（4人）
- ・環境があまり良くないから（4人）
- ・那覇市外の分譲マンションを購入（3人）

男性-60代-首里地区・他
女性-40代-本庁・他
男性-30代-首里地区・他

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問8で「1. 予定がある」または「2. 検討中」を選択した方に伺います。

質問8-3. 転出予定（検討）先を選んだ理由について次のうちから3つまでお選びください。

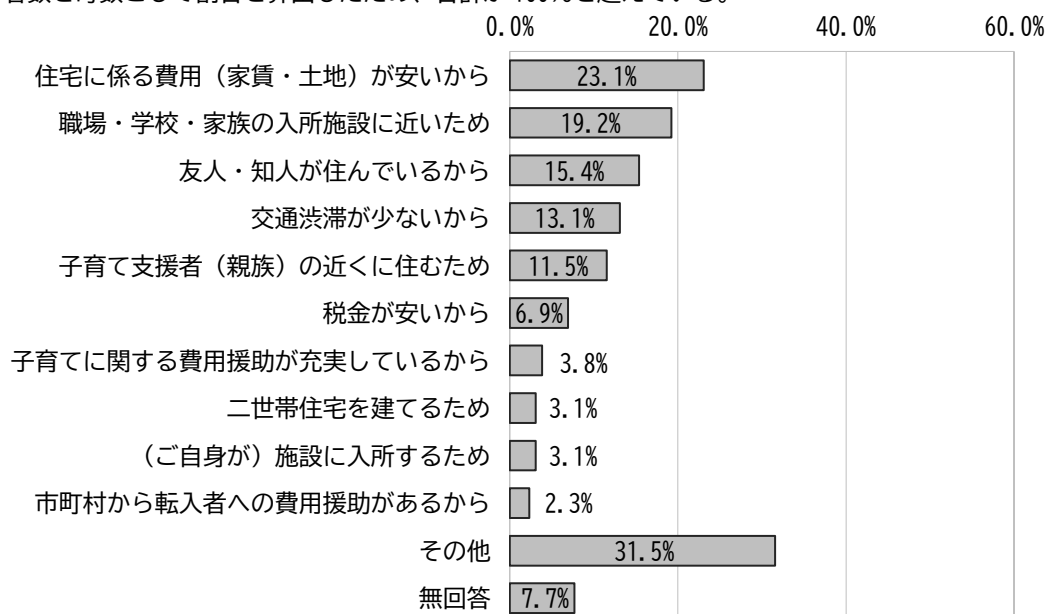
- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1. 交通渋滞が少ないから | 2. 二世帯住宅を建てるため |
| 3. (ご自身が) 施設に入所するため | 4. 職場・学校・家族の入所施設に近い |
| 5. 子育て支援者（親族）の近くに住むため | 6. 子育てに関する費用援助が充実しているから |
| 7. 市町村から転入者への費用援助があるから | 8. 住宅に係る費用（家賃・土地）が安いから |
| 9. 税金が安いから | 10. 友人・知人が住んでいるから |
| 11. その他（ | ） |

転出予定（検討）先を選んだ理由について最も多かったのは「住宅に係る費用（家賃・土地）が安いから」である。

転出予定（検討）先を選んだ理由については、「住宅に係る費用（家賃・土地）が安いから」の割合が 23.1%と最も多く、次いで「職場・学校・家族の入所施設に近い」の割合が 19.2%、「友人・知人が住んでいるから」の割合が 15.4%の順となっている。

選択項目		回答数	割合
1位	住宅に係る費用（家賃・土地）が安いから	30	23.1%
2位	職場・学校・家族の入所施設に近い	25	19.2%
3位	友人・知人が住んでいるから	20	15.4%
4位	交通渋滞が少ないから	17	13.1%
5位	子育て支援者（親族）の近くに住むため	15	11.5%
6位	税金が安いから	9	6.9%
7位	子育てに関する費用援助が充実しているから	5	3.8%
8位	二世帯住宅を建てるため	4	3.1%
9位	(ご自身が) 施設に入所するため	4	3.1%
10位	市町村から転入者への費用援助があるから	3	2.3%
—	その他	41	31.5%
—	無回答	10	7.7%
合 計		183	—
回答者数		130	140.8%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。



(2) 自治会や校区まちづくり協議会等の地域コミュニティ活動について

質問9. あなたのご家庭は、自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT(C)Aの活動に参加していますか。次の中から1つお選びください。

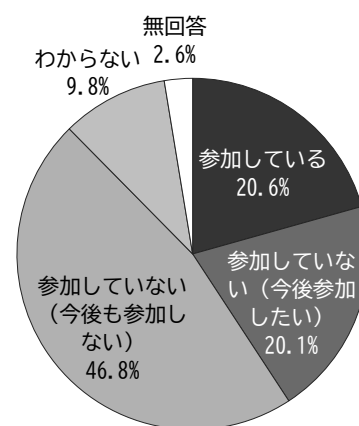
1. 参加している
2. 参加していない（今後参加したい）
3. 参加していない（今後も参加しない）
4. わからない

自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT(C)Aの活動に「参加している」割合は 20.6%、「参加していない」の割合は 66.9%（うち「今後参加したい」意向があるのは 20.1%）である。

自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT(C)Aの活動に参加しているかについては、「参加していない（今後も参加しない）」が 46.8%で最も多く、次いで「参加している」が 20.6%、「参加していない（今後参加したい）」が 20.1%の順となっている。

「参加していない（今後参加したい）」と「参加していない（今後も参加しない）」を合わせた市民の割合は 66.9%となっており、今後も参加しない意向は4割を上回っている。

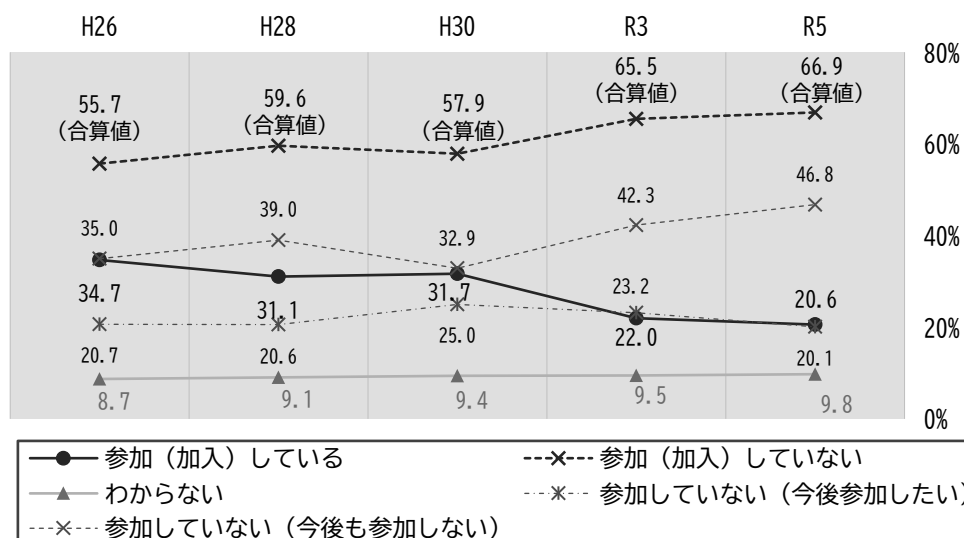
選択項目	回答数	割合
参加している	280	20.6%
参加していない（今後参加したい）	273	20.1%
参加していない（今後も参加しない）	635	46.8%
わからない	133	9.8%
無回答	35	2.6%
合 計	1,356	100%



【経年変化（平成26年度～令和5年度）】

前回調査と比較すると、「参加している」の割合が 1.4 ポイント減少しているが、「参加していない（今後も参加しない）」の割合は 4.5 ポイント増加している。

※平成 28 年度までは自治会・通り会等の加入を対象としており、平成 30 年度から「校区まちづくり協議会」や「PT(C)A」の活動を含めた参加状況としているため、単純比較できないので、取扱いに注意する必要がある。

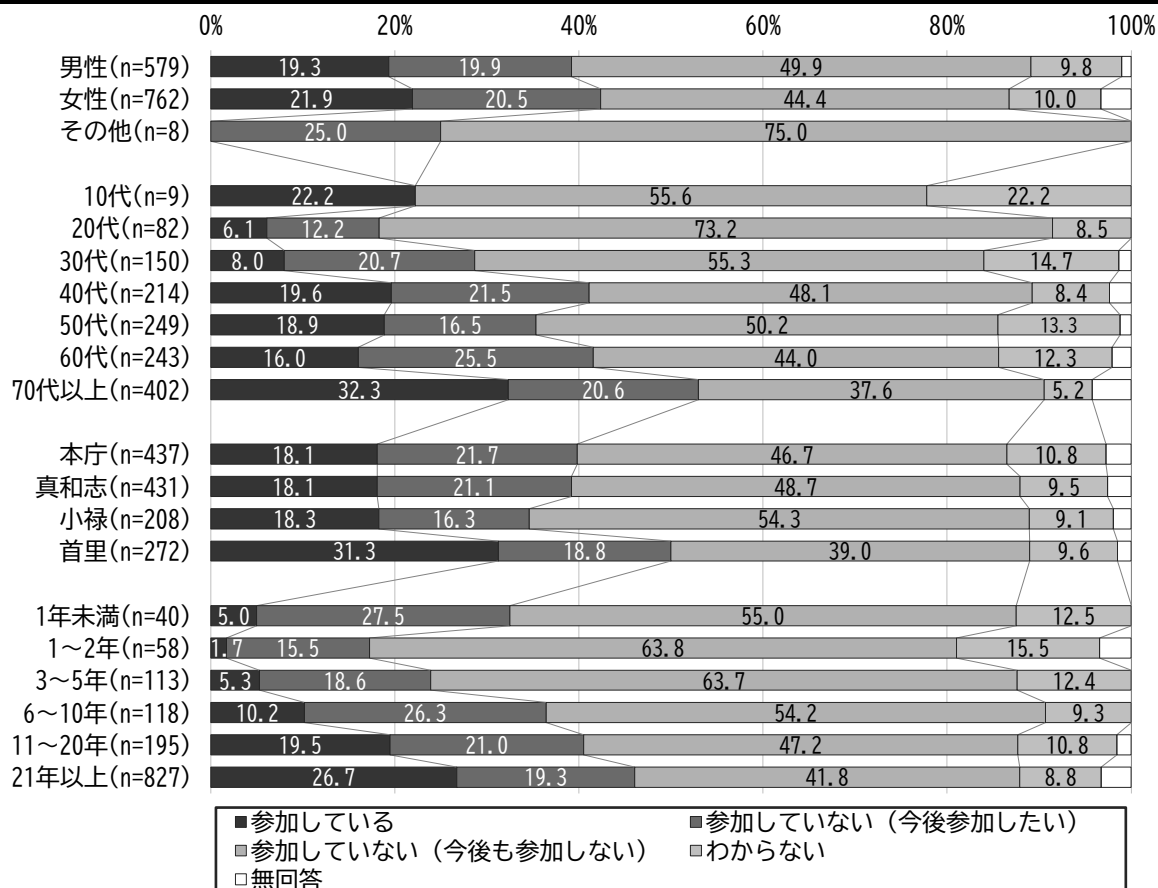


IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

居住地区別でみると、首里地区が「参加している」の割合が高く、今後参加したい市民の割合を含めると5割を上回っている。居住年数別でみると、1～2年で「参加している」の割合が最も低く、居住年数が長くなるにつれて「参加している」の割合が高くなっている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	参加している	参加していない (今後参加したい)	参加していない (今後参加しない)	わからない	無回答
男性 (n= 579)		112	115	289	57	6
女性 (n= 762)		167	156	338	76	25
その他 (n= 8)		0	2	6	0	0
10代 (n= 9)		2	0	5	2	0
20代 (n= 82)		5	10	60	7	0
30代 (n= 150)		12	31	83	22	2
40代 (n= 214)		42	46	103	18	5
50代 (n= 249)		47	41	125	33	3
60代 (n= 243)		39	62	107	30	5
70代以上 (n= 402)		130	83	151	21	17
本庁 (n= 437)		79	95	204	47	12
真和志 (n= 431)		78	91	210	41	11
小禄 (n= 208)		38	34	113	19	4
首里 (n= 272)		85	51	106	26	4
1年未満 (n= 40)		2	11	22	5	0
1～2年 (n= 58)		1	9	37	9	2
3～5年 (n= 113)		6	21	72	14	0
6～10年 (n= 118)		12	31	64	11	0
11～20年 (n= 195)		38	41	92	21	3
21年以上 (n= 827)		221	160	346	73	27



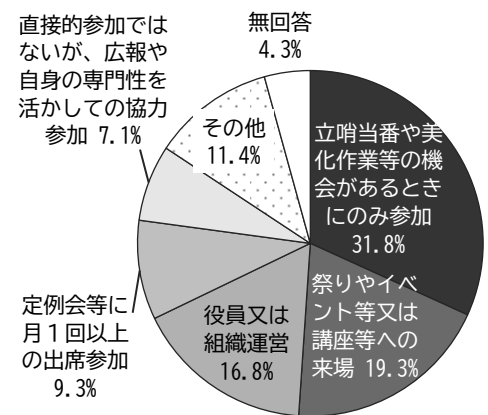
質問 9-1. 質問9で「1. 参加している」を選択した方に伺います。活動への参加はどのような内容ですか。次の中から1つお選びください。

1. 役員又は組織運営
2. 定例会等に月1回以上の出席参加
3. 立哨当番や美化作業等の機会があるときにのみ参加
4. 祭りやイベント等又は講座等への来場
5. 直接的参加ではないが、広報や自身の専門性を活かしての協力参加
6. その他（ ）

参加している活動のうち最も多かったのは「立哨当番や美化作業等の機会があるときにのみ参加」である。

自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT（C）Aの活動に参加している活動内容は「立哨当番や美化作業等の機会があるときにのみ参加」の割合が31.8%と最も多く、次いで「祭りやイベント等又は講座等への来場」の割合が19.3%、「役員又は組織運営」の割合が16.8%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	立哨当番や美化作業等の機会があるときにのみ参加	89	31.8%
2位	祭りやイベント等又は講座等への来場	54	19.3%
3位	役員又は組織運営	47	16.8%
4位	定例会等に月1回以上の出席参加	26	9.3%
5位	直接的参加ではないが、広報や自身の専門性を活かしての協力参加	20	7.1%
—	その他	32	11.4%
—	無回答	12	4.3%
合 計		280	100%



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・高齢の為、自治会費のみ（8人）
- ・班長、役員として関わる（5人）

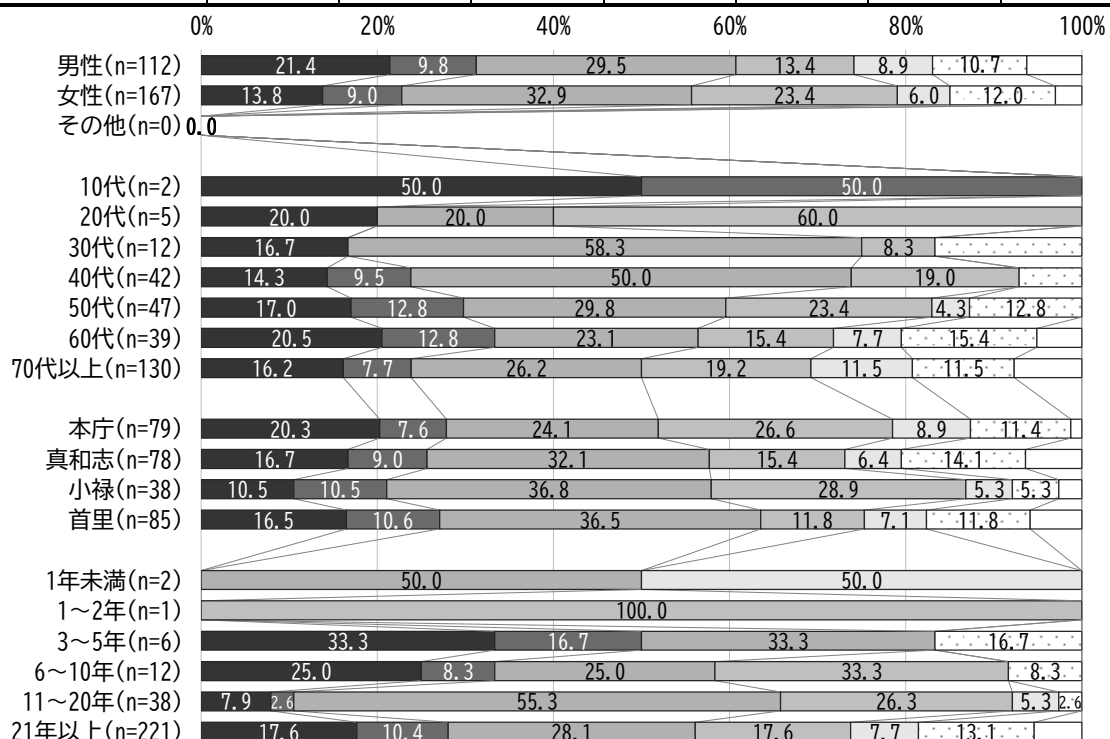
男性-70代以上-本庁地区・他
男性-50代-首里地区・他

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）】

年代別でみると、30代、40代で「立哨当番や美化作業等の機会があるときにのみ参加」の割合が高く、5割を上回っている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	役員又は組織運営	定例会等に月1回以上の出席参加	立哨当番や美化作業等の機会があるときにのみ参加	祭りやイベント等又は講座等への来場	直接的参加ではないが、広報や自身の専門性を活かしての協力参加	その他	無回答
男性 (n= 112)		24	11	33	15	10	12	7
女性 (n= 167)		23	15	55	39	10	20	5
その他 (n= 0)		0	0	0	0	0	0	0
10代 (n= 2)		1	1	0	0	0	0	0
20代 (n= 5)		1	0	1	3	0	0	0
30代 (n= 12)		2	0	7	1	0	2	0
40代 (n= 42)		6	4	21	8	0	3	0
50代 (n= 47)		8	6	14	11	2	6	0
60代 (n= 39)		8	5	9	6	3	6	2
70代以上 (n= 130)		21	10	34	25	15	15	10
本庁 (n= 79)		16	6	19	21	7	9	1
真和志 (n= 78)		13	7	25	12	5	11	5
小禄 (n= 38)		4	4	14	11	2	2	1
首里 (n= 85)		14	9	31	10	6	10	5
1年未満 (n= 2)		0	0	1	0	1	0	0
1～2年 (n= 1)		0	0	0	1	0	0	0
3～5年 (n= 6)		2	1	2	0	0	1	0
6～10年 (n= 12)		3	1	3	4	0	1	0
11～20年 (n= 38)		3	1	21	10	2	1	0
21年以上 (n= 221)		39	23	62	39	17	29	12



- 役員又は組織運営
- 定例会等に月1回以上の出席参加
- 立哨当番や美化作業等の機会があるときにのみ参加
- 祭りやイベント等又は講座等への来場
- 直接的参加ではないが、広報や自身の専門性を活かしての協力参加
- その他
- 無回答

質問 9-2. 質問 9 で「2. 参加していない（今後参加したい）」又は「3. 参加していない（今後も参加しない）」を選択した方に伺います。活動に参加していない理由を、次の中から 1 つお選びください。

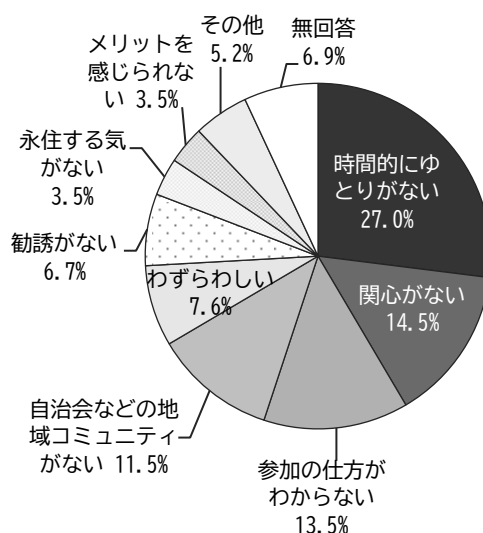
- | | |
|----------------|----------------------|
| 1. 参加の仕方がわからない | 2. 自治会などの地域コミュニティがない |
| 3. 勧誘がない | 4. 時間的にゆとりがない |
| 5. 永住する気がない | 6. わずらわしい |
| 7. 関心がない | 8. メリットを感じられない |
| 9. その他（具体的に： | |

活動に参加していない理由のうち最も多かったのは「時間的にゆとりがない」である。

自治会・通り会・校区まちづくり協議会・PT（C）A の活動に参加していない理由は「時間的にゆとりがない」の割合が 27.0%と最も多く、次いで「関心がない」の割合が 14.5%、「参加の仕方がわからない」の割合が 13.5%の順となっている。

個人の意思（「時間的にゆとりがない」、「関心がない」、「わずらわしい」、「永住する気がない」、「メリットを感じられない」を合わせた割合）で加入していない市民は 6 割弱を占めている。また、地域の事情（「自治会などの地域コミュニティがない」、「勧誘がない」を合わせた割合）で加入していない市民は約 2 割となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1 位	時間的にゆとりがない	245	27.0%
2 位	関心がない	132	14.5%
3 位	参加の仕方がわからない	123	13.5%
4 位	自治会などの地域コミュニティがない	104	11.5%
5 位	わずらわしい	69	7.6%
6 位	勧誘がない	61	6.7%
7 位	永住する気がない	32	3.5%
7 位	メリットを感じられない	32	3.5%
—	その他	47	5.2%
—	無回答	63	6.9%
合 計		908	100%



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・高齢のため（13 人）
- ・健康上の理由から（8 人）
- ・入り方が分からない（5 人）

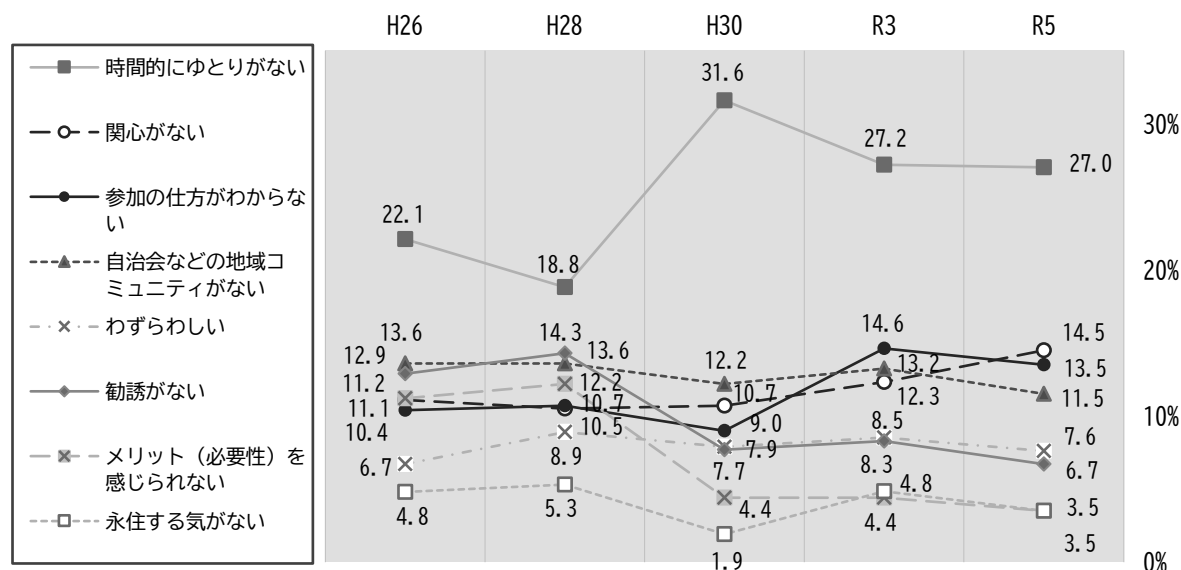
女性-70 代以上-真和志地区・他
男性-70 代以上-本庁地区・他
女性-30 代-小禄地区・他



【経年変化（平成 26 年度～令和 5 年度）】

前回調査と比較すると、「関心がない」の割合が 2.2 ポイント増加しており、「参自治会などの地域コミュニティがない」の割合は 1.7 ポイント減少している。

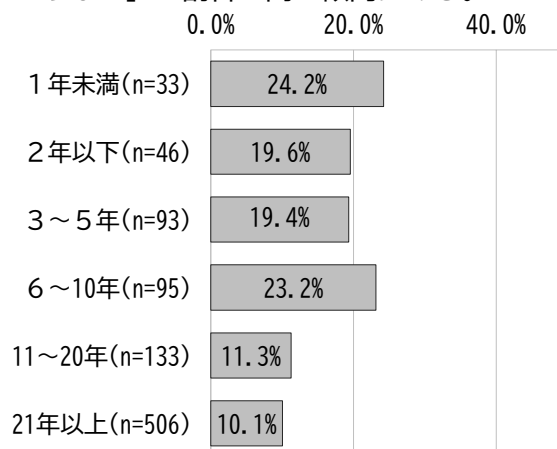
※平成 30 年度より、対象と選択項目を変更しているため単純比較できないので、取扱いに注意する必要がある。



【属性別集計（回答者属性[居住年数]無回答除く）】

「参加の仕方がわからない」について、回答者の居住年数に着目し、その割合について比較を行った。概ね居住年数が短いほど、「参加の仕方がわからない」の割合が高い傾向にある。

居住年数	居住年数 回答数	「参加の仕方が わからない」 回答数	%
1 年未満	33	8	24.2%
2 年以下	46	9	19.6%
3～5 年	93	18	19.4%
6～10 年	95	22	23.2%
11～20 年	133	15	11.3%
21 年以上	506	51	10.1%
合計	906	123	—



【属性別集計（回答者属性[今後の参加意向・性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）】

ここでは、質問 9 で「今後参加したい」「今後も参加しない」と回答した市民を属性に加えて分析を行った。

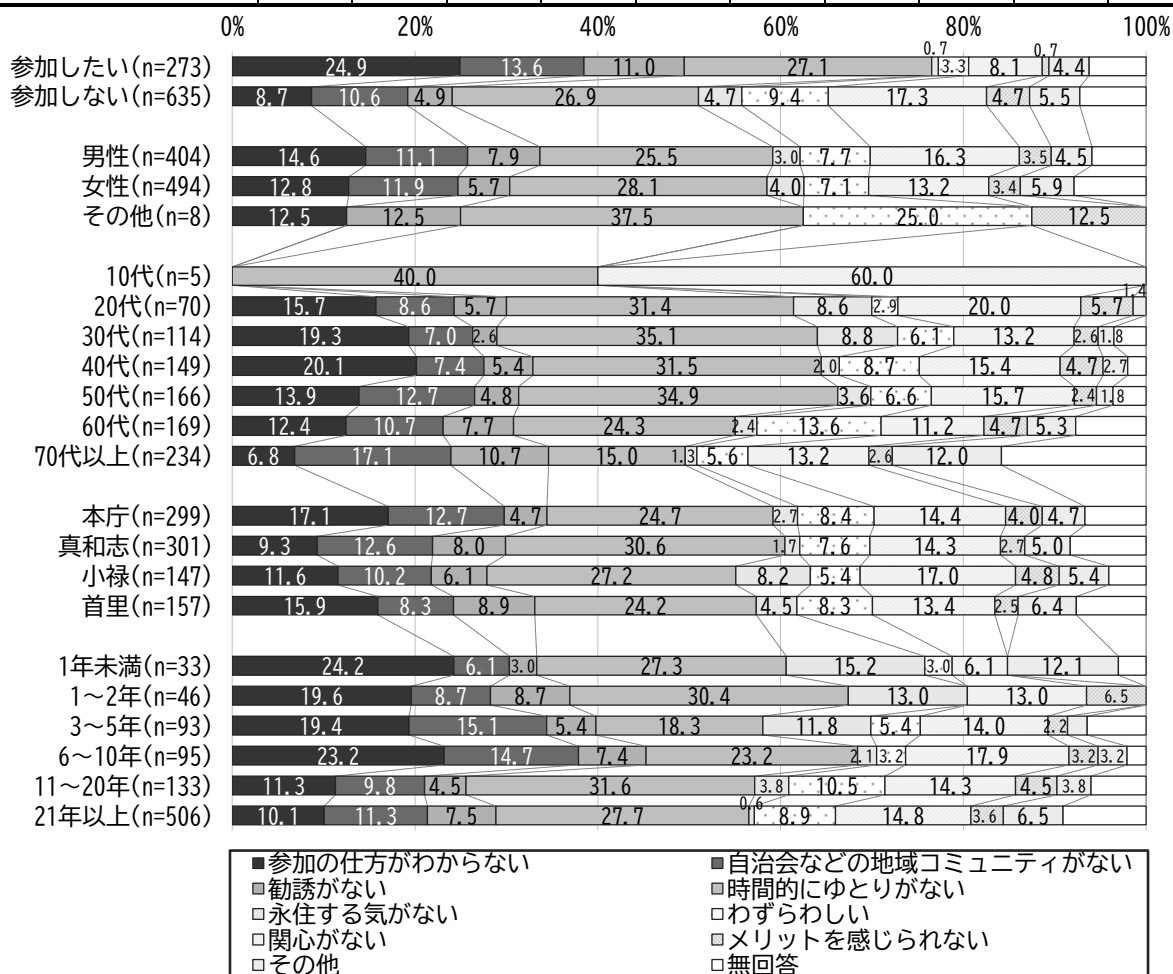
「参加していない」市民の参加意向別にみると、「今後参加したい」と回答した市民は、「今後も参加しない」と回答した市民に比べ、「参加の仕方がわからない」の割合が高くなっている。

年代別でみると、10 代～60 代では「時間的にゆとりがない」の割合が高くなっている。70 代以上では「自治会などの地域コミュニティがない」の割合が最も高い。

居住地区別でみると、小緑地区で「永住する気がない」の割合が比較的高くなっている。

居住年数別でみると、1 年未満～10 年では「参加の仕方がわからない」の割合が比較的高くなっている。

選択項目 回答者属性(n=合計)	参加の仕方が わからない	自治会などの地域 コミュニティがない	勧誘がない	時間的に ゆとりがない	永住する気がない	わずらわしい	関心がない	メリットを 感じられない	その他	無回答
参加したい (n= 273)	68	37	30	74	2	9	22	2	12	17
参加しない (n= 635)	55	67	31	171	30	60	110	30	35	46
男性 (n= 404)	59	45	32	103	12	31	66	14	18	24
女性 (n= 494)	63	59	28	139	20	35	65	17	29	39
その他 (n= 8)	1	0	1	3	0	2	0	1	0	0
10代 (n= 5)	0	0	0	2	0	0	3	0	0	0
20代 (n= 70)	11	6	4	22	6	2	14	4	1	0
30代 (n= 114)	22	8	3	40	10	7	15	3	2	4
40代 (n= 149)	30	11	8	47	3	13	23	7	4	3
50代 (n= 166)	23	21	8	58	6	11	26	4	3	6
60代 (n= 169)	21	18	13	41	4	23	19	8	9	13
70代以上 (n= 234)	16	40	25	35	3	13	31	6	28	37
本庁 (n= 299)	51	38	14	74	8	25	43	12	14	20
真和志 (n= 301)	28	38	24	92	5	23	43	8	15	25
小禄 (n= 147)	17	15	9	40	12	8	25	7	8	6
首里 (n= 157)	25	13	14	38	7	13	21	4	10	12
1年未満 (n= 33)	8	2	1	9	5	1	2	0	4	1
1～2年 (n= 46)	9	4	4	14	6	0	6	3	0	0
3～5年 (n= 93)	18	14	5	17	11	5	13	2	2	6
6～10年 (n= 95)	22	14	7	22	2	3	17	3	3	2
11～20年 (n= 133)	15	13	6	42	5	14	19	6	5	8
21年以上 (n= 506)	51	57	38	140	3	45	75	18	33	46



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

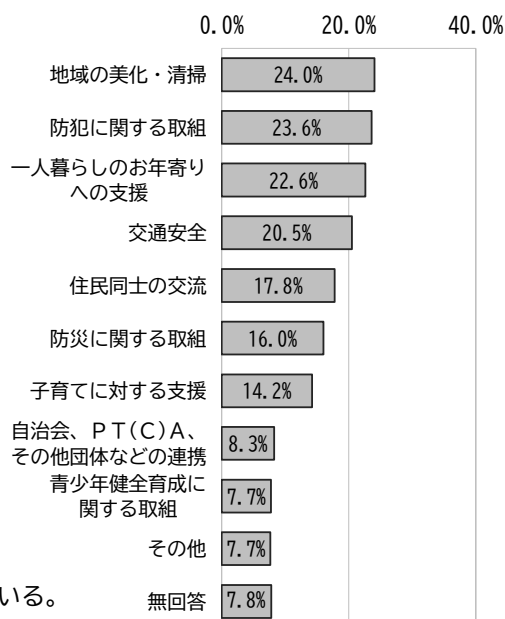
質問 10. あなたがお住まいの地域で、特に大きいと思われる課題について 2 つまでお選びください。

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 地域の美化・清掃 | 2. 自治会、PT(C)A、その他団体などの連携 |
| 3. 防犯に関する取組 | 4. 防災に関する取組 |
| 5. 青少年健全育成に関する取組 | 6. 一人暮らしのお年寄りへの支援 |
| 7. 子育てに対する支援 | 8. 交通安全 |
| 9. 住民同士の交流 | 10. その他 () |

居住地域で特に大きいと思われる課題について最も多かったのは「地域の美化・清掃」である。

居住地域での特に大きいと思われる課題については、「地域の美化・清掃」の割合が 24.0%と最も多く、次いで「防犯に関する取組」の割合が 23.6%、「一人暮らしのお年寄りへの支援」の割合が 22.6%の順となっている。

選択項目		回答数	割合
1 位	地域の美化・清掃	326	24.0%
2 位	防犯に関する取組	320	23.6%
3 位	一人暮らしのお年寄りへの支援	307	22.6%
4 位	交通安全	278	20.5%
5 位	住民同士の交流	241	17.8%
6 位	防災に関する取組	217	16.0%
7 位	子育てに対する支援	193	14.2%
8 位	自治会、PT(C)A、その他団体などの連携	112	8.3%
9 位	青少年健全育成に関する取組	105	7.7%
—	その他	104	7.7%
—	無回答	106	7.8%
合 計		2,309	—
回答者数		1,356	170.3%

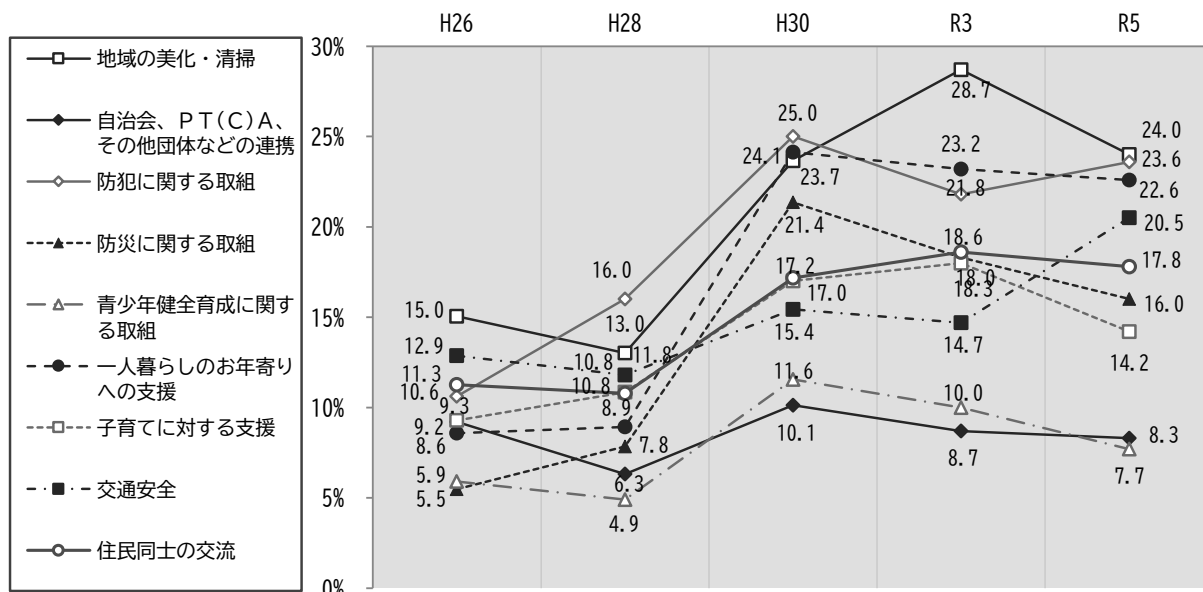


※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

【経年変化（平成 26 年度～令和 5 年度）】

前回調査と比較すると、「交通安全」の割合が高くなっている。

※平成 30 年度の調査より、単一回答ではなく複数回答としたため、全体的に回答割合の数値が増加している。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別でみると、20代～40代では「子育てに対する支援」や「交通安全」の割合が高くなっている。一方、70代以上では「地域の美化・清掃」、「一人暮らしのお年寄りへの支援」の割合が高くなっており、「住民同士の交流」の割合も比較的高い。

居住地区別でみると、首里地区では「一人暮らしのお年寄りへの支援」、真和志地区では「地域の美化・清掃」、本庁地区では「防犯に関する取組」、小禄地区では「防犯に関する取組」と「交通安全」の割合が最も高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		地域の 美化・ 清掃	自治会、 PT(C)A、 その他 団体など の連携	防犯に 関する 取組	防災に 関する 取組	青少年 健全育 成に 関する 取組	お一人 暮らし への支 援	子育て に対する 支援	交通 安全	住民 同士の 交流	その他	無 回 答
性別	男性 (n= 579)	142 24.5	40 6.9	136 23.5	96 16.6	44 7.6	142 24.5	79 13.6	140 24.2	113 19.5	36 6.2	33 5.7
	女性 (n= 762)	183 24.0	72 9.4	176 23.1	118 15.5	59 7.7	161 21.1	113 14.8	135 17.7	127 16.7	68 8.9	71 9.3
	その他 (n= 8)	-	-	5 62.5	1 12.5	1 12.5	2 25.0	1 12.5	3 37.5	1 12.5	-	-
年代別	10代 (n= 9)	3 33.3	1 11.1	1 11.1	1 11.1	-	2 22.2	1 11.1	4 44.4	3 33.3	-	-
	20代 (n= 82)	25 30.5	4 4.9	18 22.0	14 17.1	10 12.2	9 11.0	24 29.3	25 30.5	6 7.3	7 8.5	3 3.7
	30代 (n= 150)	29 19.3	7 4.7	34 22.7	19 12.7	18 12.0	12 8.0	43 28.7	41 27.3	18 12.0	23 15.3	5 3.3
	40代 (n= 214)	45 21.0	8 3.7	61 28.5	30 14.0	21 9.8	46 21.5	55 25.7	54 25.2	35 16.4	23 10.7	3 1.4
	50代 (n= 249)	70 28.1	20 8.0	60 24.1	32 12.9	20 8.0	58 23.3	31 12.4	64 25.7	34 13.7	19 7.6	17 6.8
	60代 (n= 243)	55 22.6	21 8.6	62 25.5	53 21.8	19 7.8	67 27.6	16 6.6	44 18.1	52 21.4	12 4.9	19 7.8
	70代以上 (n= 402)	97 24.1	51 12.7	82 20.4	66 16.4	16 4.0	111 27.6	23 5.7	46 11.4	93 23.1	20 5.0	57 14.2
地区別	本庁 (n= 437)	117 26.8	29 6.6	118 27.0	68 15.6	37 8.5	103 23.6	62 14.2	80 18.3	67 15.3	33 7.6	33 7.6
	真和志 (n= 431)	113 26.2	42 9.7	94 21.8	64 14.8	30 7.0	93 21.6	56 13.0	87 20.2	91 21.1	33 7.7	29 6.7
	小禄 (n= 208)	33 15.9	16 7.7	52 25.0	38 18.3	21 10.1	40 19.2	41 19.7	52 25.0	27 13.0	15 7.2	16 7.7
	首里 (n= 272)	63 23.2	25 9.2	54 19.9	45 16.5	17 6.3	67 24.6	33 12.1	58 21.3	55 20.2	23 8.5	26 9.6
居住年数別	1年未満 (n= 40)	11 27.5	1 2.5	4 10.0	6 15.0	5 12.5	9 22.5	8 20.0	15 37.5	4 10.0	5 12.5	1 2.5
	1～2年 (n= 58)	14 24.1	1 1.7	14 24.1	9 15.5	4 6.9	3 5.2	15 25.9	16 27.6	7 12.1	8 13.8	4 6.9
	3～5年 (n= 113)	35 31.0	2 1.8	22 19.5	22 19.5	7 6.2	16 14.2	15 13.3	32 28.3	16 14.2	9 8.0	10 8.8
	6～10年 (n= 118)	32 27.1	10 8.5	31 26.3	21 17.8	10 8.5	23 19.5	18 15.3	28 23.7	23 19.5	13 11.0	3 2.5
	11～20年 (n= 195)	48 24.6	11 5.6	49 25.1	31 15.9	17 8.7	36 18.5	38 19.5	45 23.1	27 13.8	20 10.3	10 5.1
	21年以上 (n= 827)	185 22.4	87 10.5	197 23.8	128 15.5	62 7.5	219 26.5	99 12.0	142 17.2	163 19.7	49 5.9	76 9.2

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・交通渋滞・路上駐車等 (20人)
- ・道路・歩道の整備 (11人)

男性-50代-本庁地区・他
女性-40代-小禄地区・他

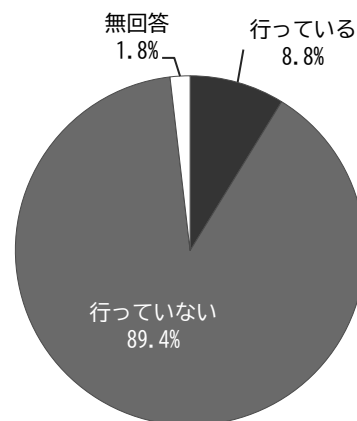
(3) 協働によるまちづくりについて

質問 11. あなたは現在、ボランティア活動を行っていますか。次の中から 1 つお選びください。
 1. 行っている 2. 行っていない

ボランティア活動を「行っている」の割合は 8.8%、「行っていない」の割合は 89.4% である。

ボランティア活動の有無については、「行っている」の割合が 8.8%、「行っていない」の割合が 89.4%となっている。

選択項目	回答数	割合
行っている	119	8.8%
行っていない	1,212	89.4%
無回答	25	1.8%
合 計	1,356	100%

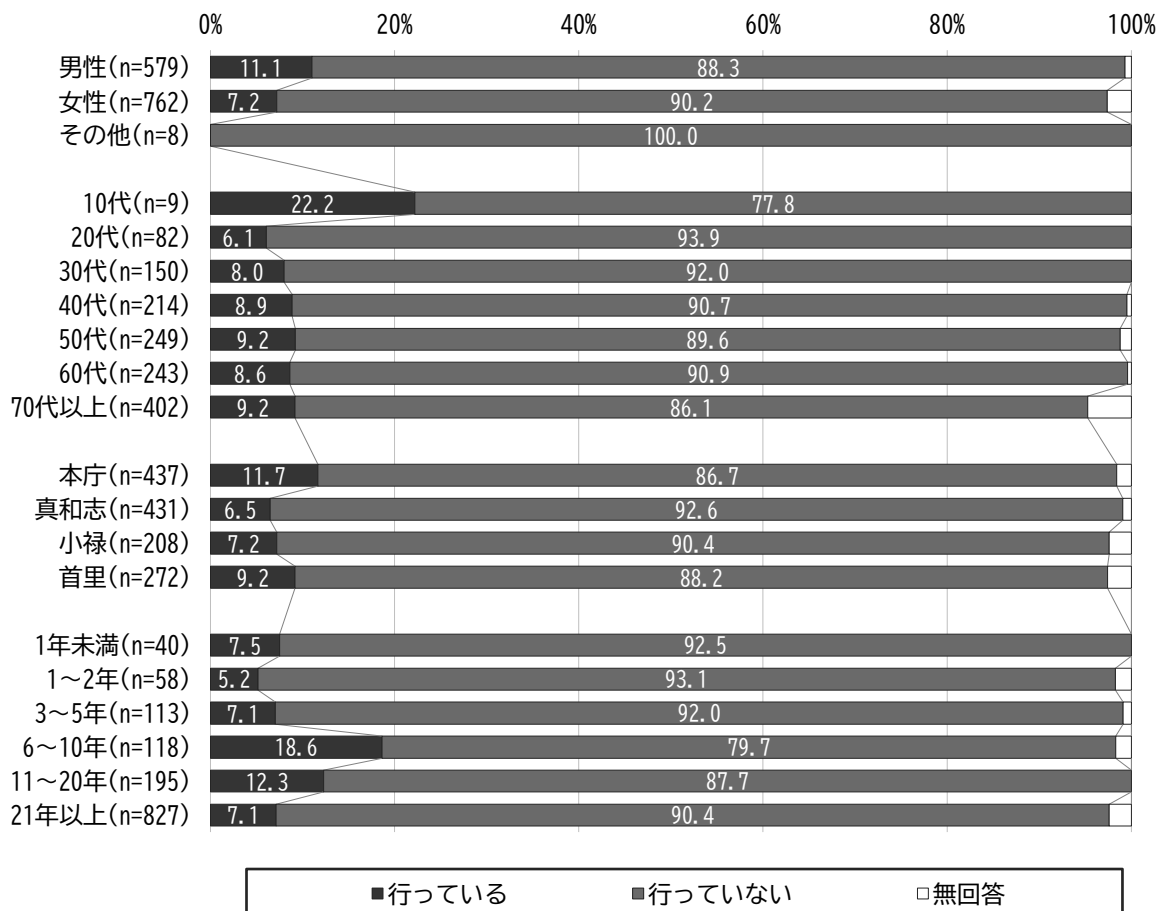


【属性別集計（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）】

性別、居住地別では、特に大きな違いは見られない。

居住年数別でみると、6～10年で「行っている」の割合が高くなっている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	行っている	行っていない	無回答
男性 (n= 579)		64	511	4
女性 (n= 762)		55	687	20
その他 (n= 8)		0	8	0
10代 (n= 9)		2	7	0
20代 (n= 82)		5	77	0
30代 (n= 150)		12	138	0
40代 (n= 214)		19	194	1
50代 (n= 249)		23	223	3
60代 (n= 243)		21	221	1
70代以上 (n= 402)		37	346	19
本庁 (n= 437)		51	379	7
真和志 (n= 431)		28	399	4
小禄 (n= 208)		15	188	5
首里 (n= 272)		25	240	7
1年未満 (n= 40)		3	37	0
1～2年 (n= 58)		3	54	1
3～5年 (n= 113)		8	104	1
6～10年 (n= 118)		22	94	2
11～20年 (n= 195)		24	171	0
21年以上 (n= 827)		59	748	20



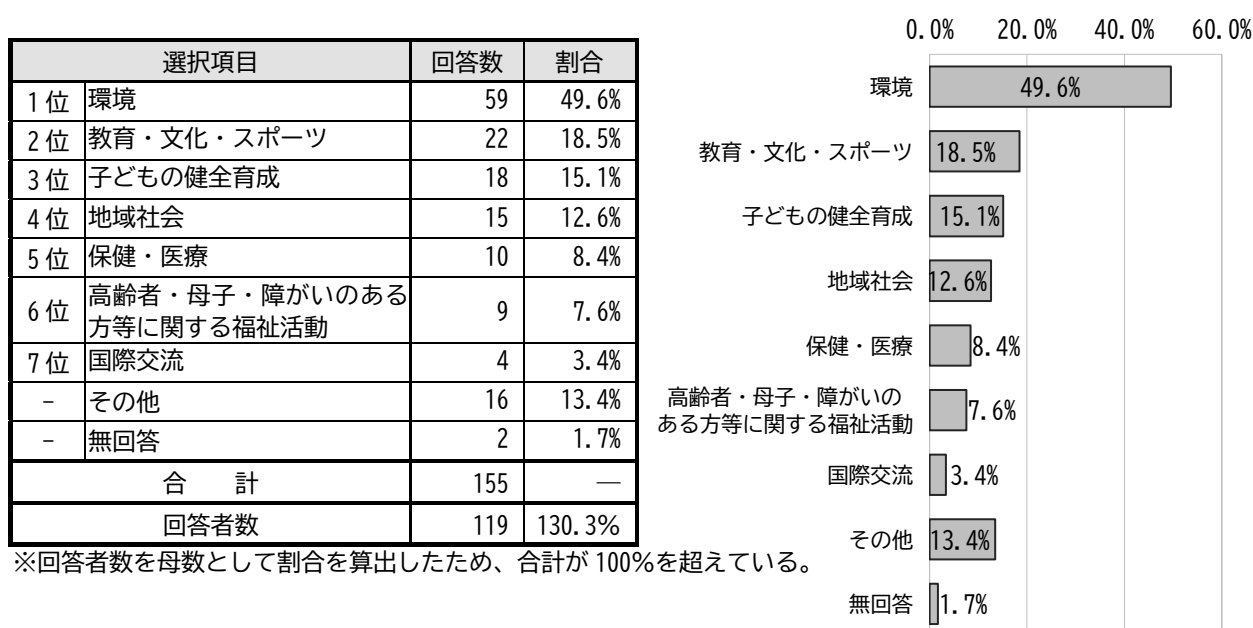
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 11-1. 質問 11 で「1. 行っている」を選択した方に伺います。あなたが現在行っているボランティア活動の分野について、次の中から2つまでお選びください。

1. 子どもの健全育成(例 子ども食堂、読み聞かせ、育児サポートなど)
2. 高齢者・母子・障がいのある方等に関する福祉活動
(例 高齢者の家庭・施設訪問、母子家庭への食料支援、傾聴活動など)
3. 保健・医療(例 献血活動、食の改善サポート)
4. 環境(例 公園清掃活動、ビーチクリーン活動、ゴミ減量活動)
5. 教育・文化・スポーツ(例 部活動サポート、スポーツイベントの開催)
6. 国際交流(例 留学生サポート、通訳)
7. 地域社会(例 交流イベント、交通安全活動)
8. その他()

現在行っているボランティア活動の分野で最も多かったのは「環境」である。

現在行っているボランティア活動については、「環境」の割合が 49.6%で最も多く、次いで「教育・文化・スポーツ」の割合が 18.5%、「子どもの健全育成」の割合が 15.1%の順となっている。



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・住居周辺の美化、清掃 (4 人)
- ・猫の保護活動 (2 人)

女性-60 代-首里地区・他
男性-70 代以上-真和志地区・他

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性は「地域社会」、女性は「子どもの健全育成」の割合が比較的高くなっている。

年代別でみると、40代以上で「環境」の割合が最も高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		選択項目	子どもの健全育成	高齢者・母子・関障が る福祉活動	保健・医療	環境	教育・文化・スポーツ	国際交流	地域社会	その他	無回答
性別	男性 (n= 64)		6 9.4	4 6.3	5 7.8	39 60.9	10 15.6	3 4.7	9 14.1	6 9.4	1 1.6
	女性 (n= 55)		12 21.8	5 9.1	5 9.1	20 36.4	12 21.8	1 1.8	6 10.9	10 18.2	1 1.8
	その他 (n= 0)		-	-	-	-	-	-	-	-	-
年代別	10代 (n= 2)		-	-	-	1 50.0	1 50.0	-	-	-	-
	20代 (n= 5)		-	-	-	2 40.0	1 20.0	-	3 60.0	-	-
	30代 (n= 12)		-	-	3 25.0	3 25.0	2 16.7	-	1 8.3	5 41.7	-
	40代 (n= 19)		4 21.1	3 15.8	3 15.8	6 31.6	5 26.3	1 5.3	1 5.3	2 10.5	-
	50代 (n= 23)		6 26.1	4 17.4	2 8.7	11 47.8	4 17.4	1 4.3	1 4.3	1 4.3	-
	60代 (n= 21)		4 19.0	-	1 4.8	14 66.7	3 14.3	1 4.8	2 9.5	2 9.5	-
	70代以上 (n= 37)		4 10.8	2 5.4	1 2.7	22 59.5	6 16.2	1 2.7	7 18.9	6 16.2	2 5.4
地区別	本庁 (n= 51)		11 21.6	5 9.8	6 11.8	23 45.1	7 13.7	3 5.9	4 7.8	8 15.7	1 2.0
	真和志 (n= 28)		1 3.6	1 3.6	2 7.1	16 57.1	7 25.0	-	4 14.3	4 14.3	-
	小禄 (n= 15)		3 20.0	1 6.7	2 13.3	7 46.7	3 20.0	1 6.7	4 26.7	1 6.7	-
	首里 (n= 25)		3 12.0	2 8.0	-	13 52.0	5 20.0	-	3 12.0	3 12.0	1 4.0
居住年数別	1年未満 (n= 3)		-	-	1 33.3	1 33.3	-	1 33.3	-	1 33.3	-
	1～2年 (n= 3)		1 33.3	1 33.3	-	1 33.3	-	-	1 33.3	-	-
	3～5年 (n= 8)		-	2 25.0	1 12.5	3 37.5	2 25.0	-	2 25.0	-	-
	6～10年 (n= 22)		2 9.1	3 13.6	1 4.5	10 45.5	4 18.2	2 9.1	1 4.5	4 18.2	-
	11～20年 (n= 24)		7 29.2	2 8.3	1 4.2	9 37.5	5 20.8	-	2 8.3	5 20.8	-
	21年以上 (n= 59)		8 13.6	1 1.7	6 10.2	35 59.3	11 18.6	1 1.7	9 15.3	6 10.2	2 3.4

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 12. 行政機関がボランティア活動を支援する場合、どのようなことをしたらよいと思いますか。
次の中から2つまでお選びください。

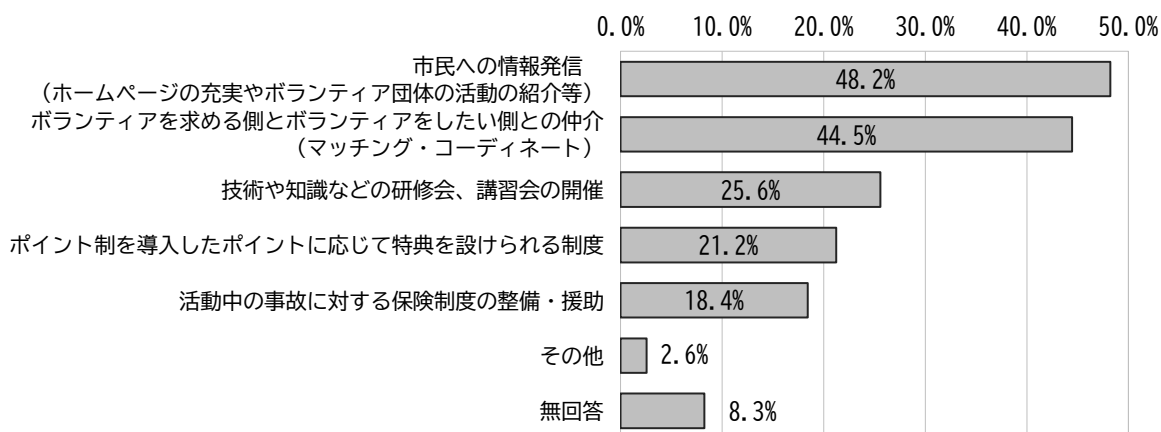
1. 市民への情報発信（ホームページの充実やボランティア団体の活動の紹介等）
2. 技術や知識などの研修会、講習会の開催
3. 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助
4. ポイント制を導入したポイントに応じて特典を設けられる制度
5. ボランティアを求める側とボランティアをしたい側との仲介（マッチング・コーディネート）
6. その他（ ）

行政機関がボランティア活動を支援する取組として求められることで最も多かったのは「市民への情報発信（ホームページの充実やボランティア団体の活動の紹介等）」である。

ボランティア活動を支援する取組は、「市民への情報発信（ホームページの充実やボランティア団体の活動の紹介等）」の割合が 48.2%で最も高く、次いで「ボランティアを求める側とボランティアをしたい側との仲介（マッチング・コーディネート）」の割合が 44.5%、「技術や知識などの研修会、講習会の開催」の割合が 25.6%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
1 位 市民への情報発信（ホームページの充実やボランティア団体の活動の紹介等）	654	48.2%
2 位 ボランティアを求める側とボランティアをしたい側との仲介（マッチング・コーディネート）	603	44.5%
3 位 技術や知識などの研修会、講習会の開催	347	25.6%
4 位 ポイント制を導入したポイントに応じて特典を設けられる制度	288	21.2%
5 位 活動中の事故に対する保険制度の整備・援助	250	18.4%
— その他	35	2.6%
— 無回答	112	8.3%
合 計	2,289	—
回答者数	1,356	168.8%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・活動への物的支援、金銭的支援（7人）
 - ・PR（新聞、テレビ、広報）（3人）
 - ・気軽に参加できる様な雰囲気づくり（2人）
- 男性-40代-真和志地区・他
女性-70代以上-首里地区・他
男性-50代-真和志地区・他

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別でみると、30代以下、60代以上で「市民への情報発信」の割合が最も高くなっているが、40代～50代では「仲介（マッチング・コーディネート）」の割合が高い。

地区別でみると、首里地区では「仲介（マッチング・コーディネート）」の割合が最も高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（％）		市民への情報発信 （ホームページの充実や ボランティア団体の 活動の紹介等）	技術や知識などの 研修会、講習会の開催	活動中の事故に 保険制度の整備・援助	ポイント制を導入した 特典を設けられる制度	ボランティアを 求める側と ボランティアを したい側の 仲介（マッチング・ コーディネート）	その他	無回答
性別	男性（n= 579）	284 49.1	165 28.5	112 19.3	121 20.9	238 41.1	15 2.6	40 6.9
	女性（n= 762）	364 47.8	177 23.2	135 17.7	165 21.7	358 47.0	19 2.5	70 9.2
	その他（n= 8）	4 50.0	4 50.0	3 37.5	2 25.0	3 37.5	- -	- -
年代別	10代（n= 9）	4 44.4	2 22.2	1 11.1	4 44.4	4 44.4	- -	- -
	20代（n= 82）	39 47.6	20 24.4	13 15.9	29 35.4	39 47.6	1 1.2	3 3.7
	30代（n= 150）	68 45.3	29 19.3	28 18.7	66 44.0	65 43.3	4 2.7	4 2.7
	40代（n= 214）	95 44.4	66 30.8	35 16.4	64 29.9	112 52.3	8 3.7	2 0.9
	50代（n= 249）	123 49.4	56 22.5	48 19.3	46 18.5	142 57.0	6 2.4	11 4.4
	60代（n= 243）	135 55.6	77 31.7	52 21.4	35 14.4	107 44.0	3 1.2	10 4.1
	70代以上（n= 402）	189 47.0	94 23.4	73 18.2	43 10.7	131 32.6	12 3.0	81 20.1
地区別	本庁（n= 437）	222 50.8	115 26.3	79 18.1	95 21.7	201 46.0	9 2.1	31 7.1
	真和志（n= 431）	202 46.9	112 26.0	74 17.2	93 21.6	181 42.0	15 3.5	38 8.8
	小禄（n= 208）	99 47.6	55 26.4	34 16.3	53 25.5	86 41.3	4 1.9	18 8.7
	首里（n= 272）	128 47.1	63 23.2	63 23.2	47 17.3	132 48.5	6 2.2	23 8.5
居住年数別	1年未満（n= 40）	18 45.0	19 47.5	5 12.5	8 20.0	17 42.5	4 10.0	- -
	1～2年（n= 58）	26 44.8	11 19.0	12 20.7	19 32.8	25 43.1	1 1.7	3 5.2
	3～5年（n= 113）	56 49.6	28 24.8	18 15.9	33 29.2	44 38.9	3 2.7	8 7.1
	6～10年（n= 118）	62 52.5	31 26.3	17 14.4	37 31.4	51 43.2	5 4.2	4 3.4
	11～20年（n= 195）	94 48.2	48 24.6	36 18.5	42 21.5	103 52.8	6 3.1	9 4.6
	21年以上（n= 827）	397 48.0	209 25.3	161 19.5	149 18.0	361 43.7	15 1.8	87 10.5

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 13. 那覇市では、協働によるまちづくりを実践している団体の代表者や、団体が推薦する方々を「協働大使」として委嘱しております。

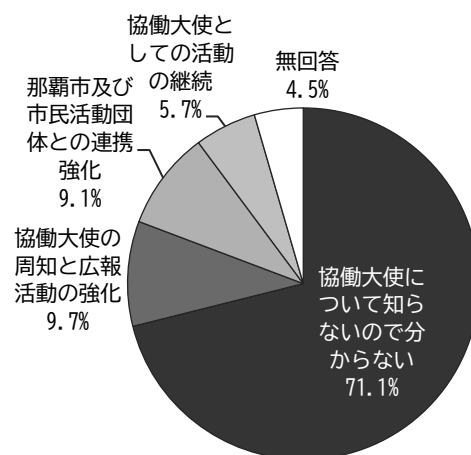
「協働大使」にどのような役割を期待しますか。次の中から1つお選びください。

1. 協働大使としての活動の継続
2. 那覇市及び市民活動団体との連携強化
3. 協働大使の周知と広報活動の強化
4. 協働大使について知らないで分からない

「協働大使」に期待する役割として最も多かったのは「協働大使の周知と広報活動の強化」である。

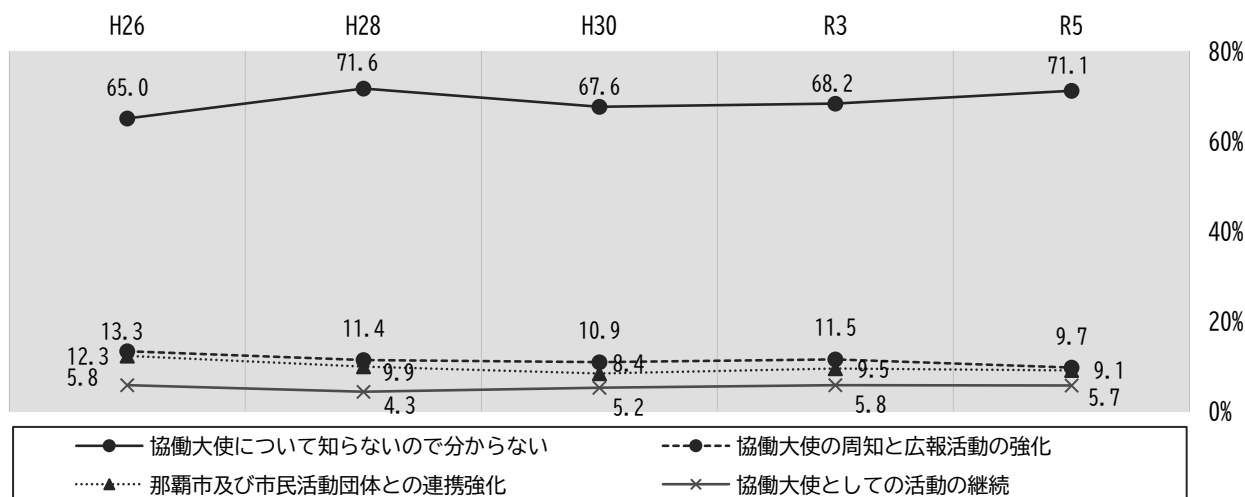
「協働大使」に期待する役割については、「協働大使の周知と広報活動の強化」が9.7%と最も多く、次いで「那覇市及び市民活動団体との連携強化」が9.1%、「協働大使としての活動の継続」が5.7%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
1 位 協働大使について知らないで分からない	964	71.1%
2 位 協働大使の周知と広報活動の強化	131	9.7%
3 位 那覇市及び市民活動団体との連携強化	123	9.1%
4 位 協働大使としての活動の継続	77	5.7%
- 無回答	61	4.5%
合 計	1,356	100%



【経年変化（平成 26 年度～令和 5 年度）】

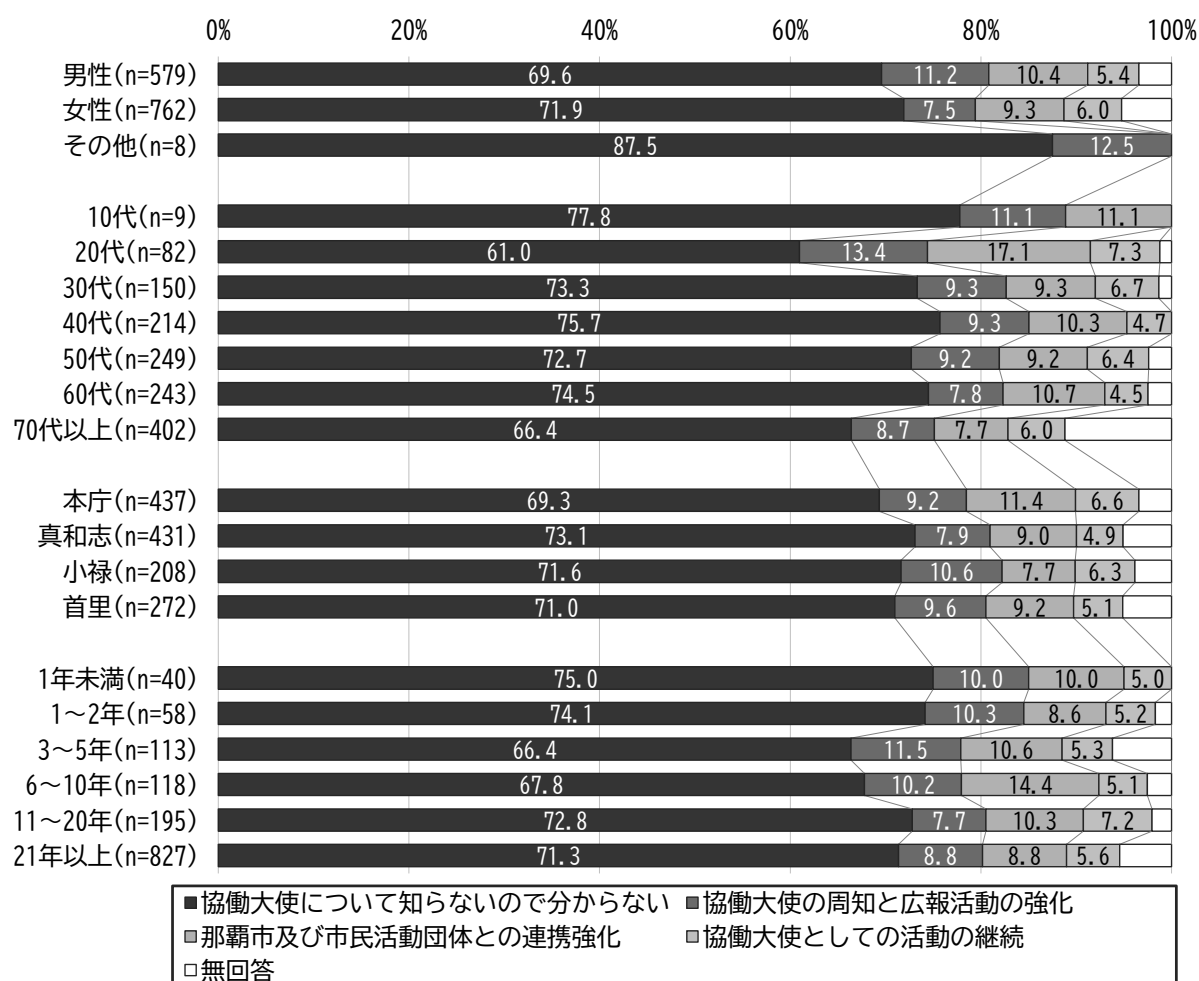
前回調査と比較すると、「協働大使について知らないで分からない」の割合は 2.9 ポイント増加しており、平成 26 年度から最も高い状態に変化はない。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

すべての属性において、「協働大使について知らないで分からない」の割合が高くなっており、あまり大きな違いは見られない。

回答者属性 (n=合計)	選択項目	協働大使について知らないで分からない	協働大使の周知と広報活動の強化	那覇市及び市民活動団体との連携強化	協働大使としての活動の継続	無回答
男性 (n= 579)		403	65	60	31	20
女性 (n= 762)		548	57	71	46	40
その他 (n= 8)		7	1	0	0	0
10代 (n= 9)		7	1	1	0	0
20代 (n= 82)		50	11	14	6	1
30代 (n= 150)		110	14	14	10	2
40代 (n= 214)		162	20	22	10	0
50代 (n= 249)		181	23	23	16	6
60代 (n= 243)		181	19	26	11	6
70代以上 (n= 402)		267	35	31	24	45
本庁 (n= 437)		303	40	50	29	15
真和志 (n= 431)		315	34	39	21	22
小禄 (n= 208)		149	22	16	13	8
首里 (n= 272)		193	26	25	14	14
1年未満 (n= 40)		30	4	4	2	0
1～2年 (n= 58)		43	6	5	3	1
3～5年 (n= 113)		75	13	12	6	7
6～10年 (n= 118)		80	12	17	6	3
11～20年 (n= 195)		142	15	20	14	4
21年以上 (n= 827)		590	73	73	46	45



(4) 市政への市民参加について

質問 14. 市政への関心について、次の中から1つお選びください。

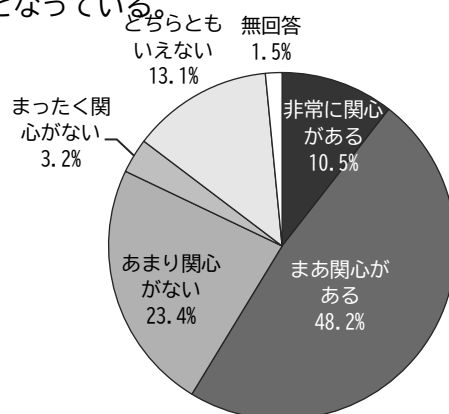
1. 非常に関心がある
2. まあ関心がある
3. あまり関心がない
4. まったく関心がない
5. どちらともいえない

市政への関心について「関心がある」の割合は 58.7%、「関心がない」の割合は 26.6%である。

市政への関心については、「まあ関心がある」の割合が 48.2%で最も多く、次いで「あまり関心がない」の割合が 23.4%、「どちらともいえない」の割合が 13.1%の順となっている。

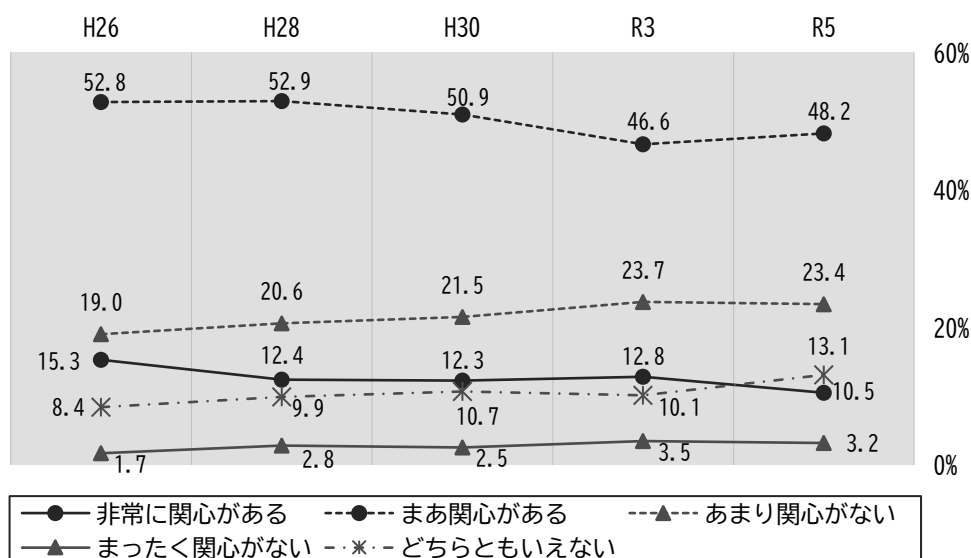
「非常に関心がある」と「まあ関心がある」を合わせた割合は 58.7%に対し、「まったく関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた割合は 26.6%となっている。

選択項目	回答数	割合
非常に関心がある	143	10.5%
まあ関心がある	653	48.2%
あまり関心がない	317	23.4%
まったく関心がない	44	3.2%
どちらともいえない	178	13.1%
無回答	21	1.5%
合 計	1,356	100%



【経年変化（平成 26 年度～令和 5 年度）】

前回調査と比較すると、「非常に関心がある」の割合は 2.3 ポイント減少、「まあ関心がある」の割合は 1.6 ポイント増加しており、市政に対する関心はわずかに下降している。

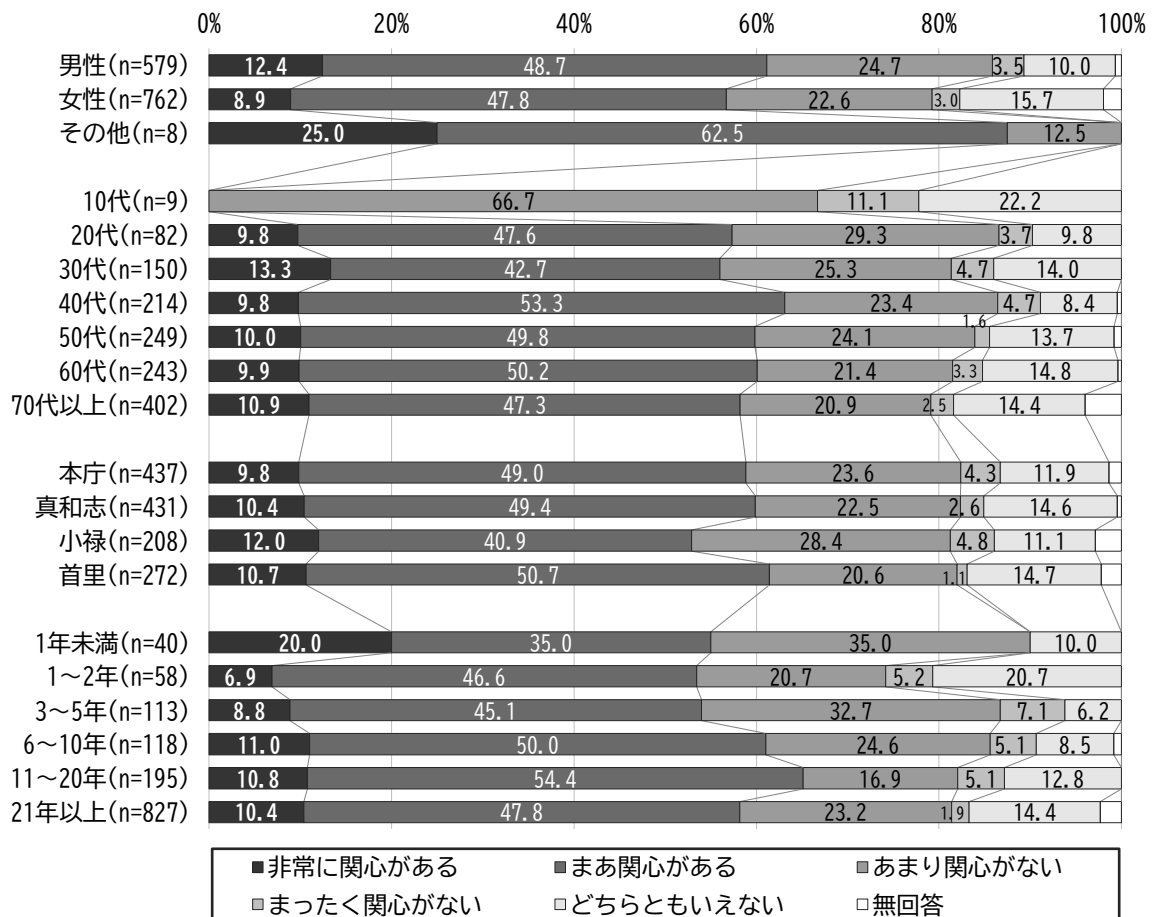


【属性別集計（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）】

性別でみると、男性は女性に比べ、「非常に関心がある」「まあ関心がある」を合わせた割合が高い。

居住年数別でみると、1年未満で「非常に関心がある」の割合が高くなっている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	非常に関心がある	まあ関心がある	あまり関心がない	まったく関心がない	どちらともいえない	無回答
男性 (n= 579)		72	282	143	20	58	4
女性 (n= 762)		68	364	172	23	120	15
その他 (n= 8)		2	5	1	0	0	0
10代 (n= 9)		0	0	6	1	2	0
20代 (n= 82)		8	39	24	3	8	0
30代 (n= 150)		20	64	38	7	21	0
40代 (n= 214)		21	114	50	10	18	1
50代 (n= 249)		25	124	60	4	34	2
60代 (n= 243)		24	122	52	8	36	1
70代以上 (n= 402)		44	190	84	10	58	16
本庁 (n= 437)		43	214	103	19	52	6
真和志 (n= 431)		45	213	97	11	63	2
小禄 (n= 208)		25	85	59	10	23	6
首里 (n= 272)		29	138	56	3	40	6
1年未満 (n= 40)		8	14	14	0	4	0
1～2年 (n= 58)		4	27	12	3	12	0
3～5年 (n= 113)		10	51	37	8	7	0
6～10年 (n= 118)		13	59	29	6	10	1
11～20年 (n= 195)		21	106	33	10	25	0
21年以上 (n= 827)		86	395	192	16	119	19



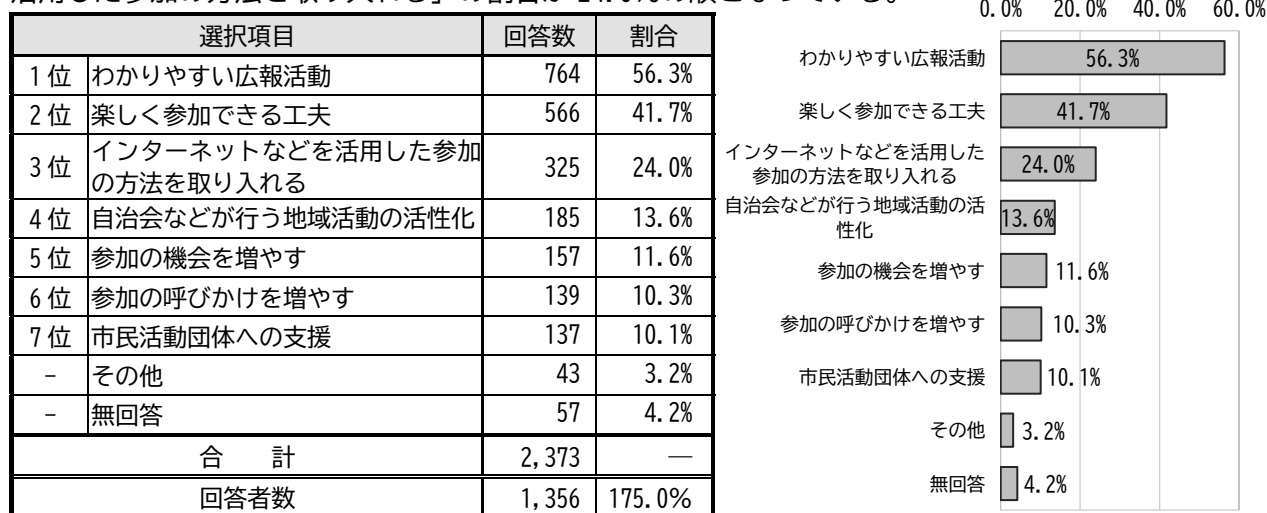
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 15. 市民の市政参加を促すために、市がすべきだと思うことを次の中から2つまでお選びください。

1. 参加の機会を増やす
2. わかりやすい広報活動
3. 楽しく参加できる工夫
4. 参加の呼びかけを増やす
5. インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる
6. 自治会などが行う地域活動の活性化
7. 市民活動団体への支援
8. その他（ ）

市民の市政参加を促すために市がすべきだと思うことで最も多かったのは「わかりやすい広報活動」である。

市民の市政参加を促すために、市がすべきだと思うことは、「わかりやすい広報活動」の割合が 56.3%と最も高く、次いで「楽しく参加できる工夫」の割合が 41.7%、「インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる」の割合が 24.0%の順となっている。

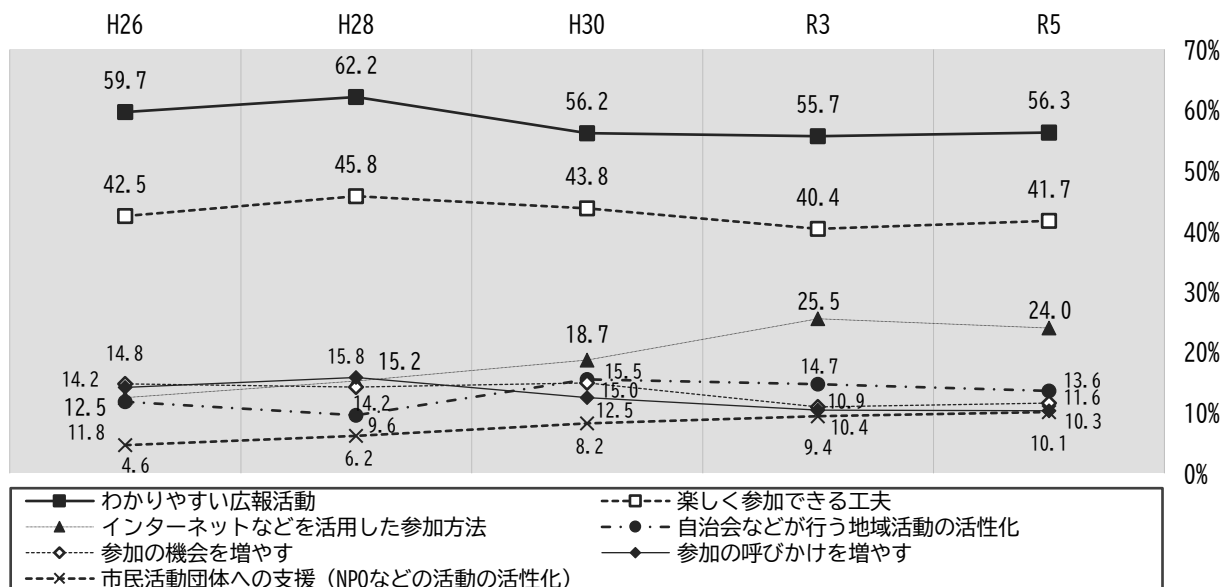


※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

【経年変化（平成 26 年度～令和 5 年度）】

前回調査と比較すると、「楽しく参加できる工夫」の割合が 1.3 ポイント増加している。

※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成 26～28 年度も同様に算出し、比較。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別でみると、60代～70代以上で「インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる」の割合が低くなっているが、その他の年代での割合は高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		選択項目	参加の機会を増やす	わかりやすい広報活動	楽しく参加できる工夫	参加の呼びかけを増やす	インターネットなどを活用した参加の方法を取り入れる	地域自治会などの活性化	市民活動団体への支援	その他	無回答
性別	男性 (n= 579)		78 13.5	332 57.3	201 34.7	72 12.4	161 27.8	77 13.3	60 10.4	22 3.8	20 3.5
	女性 (n= 762)		76 10.0	426 55.9	358 47.0	66 8.7	162 21.3	107 14.0	75 9.8	20 2.6	35 4.6
	その他 (n= 8)		2 25.0	5 62.5	5 62.5	1 12.5	-	-	2 25.0	-	-
年代別	10代 (n= 9)		1 11.1	3 33.3	5 55.6	1 11.1	3 33.3	2 22.2	2 22.2	-	-
	20代 (n= 82)		16 19.5	51 62.2	25 30.5	5 6.1	37 45.1	7 8.5	3 3.7	5 6.1	-
	30代 (n= 150)		21 14.0	92 61.3	54 36.0	8 5.3	61 40.7	10 6.7	11 7.3	8 5.3	3 2.0
	40代 (n= 214)		32 15.0	118 55.1	98 45.8	14 6.5	86 40.2	20 9.3	20 9.3	7 3.3	1 0.5
	50代 (n= 249)		30 12.0	139 55.8	103 41.4	26 10.4	73 29.3	20 8.0	23 9.2	10 4.0	5 2.0
	60代 (n= 243)		20 8.2	158 65.0	119 49.0	24 9.9	33 13.6	36 14.8	35 14.4	5 2.1	3 1.2
	70代以上 (n= 402)		36 9.0	201 50.0	159 39.6	60 14.9	32 8.0	88 21.9	43 10.7	7 1.7	44 10.9
地区別	本庁 (n= 437)		52 11.9	250 57.2	181 41.4	52 11.9	104 23.8	52 11.9	40 9.2	14 3.2	16 3.7
	真和志 (n= 431)		45 10.4	254 58.9	183 42.5	50 11.6	95 22.0	58 13.5	40 9.3	16 3.7	15 3.5
	小禄 (n= 208)		25 12.0	115 55.3	81 38.9	18 8.7	58 27.9	30 14.4	18 8.7	7 3.4	8 3.8
	首里 (n= 272)		35 12.9	141 51.8	117 43.0	19 7.0	68 25.0	44 16.2	37 13.6	4 1.5	17 6.3
居住年数別	1年未満 (n= 40)		5 12.5	21 52.5	14 35.0	7 17.5	14 35.0	-	1 2.5	6 15.0	-
	1～2年 (n= 58)		14 24.1	29 50.0	18 31.0	6 10.3	24 41.4	4 6.9	3 5.2	2 3.4	-
	3～5年 (n= 113)		14 12.4	67 59.3	39 34.5	12 10.6	42 37.2	7 6.2	10 8.8	5 4.4	7 6.2
	6～10年 (n= 118)		12 10.2	72 61.0	46 39.0	8 6.8	45 38.1	13 11.0	10 8.5	5 4.2	3 2.5
	11～20年 (n= 195)		27 13.8	114 58.5	78 40.0	12 6.2	59 30.3	19 9.7	27 13.8	6 3.1	6 3.1
	21年以上 (n= 827)		85 10.3	459 55.5	369 44.6	94 11.4	141 17.0	140 16.9	86 10.4	18 2.2	40 4.8

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・情報の公開 (9人)
- ・インターネット、YouTube での配信等 (5人)
- ・参加することのメリット (5人)

女性-40代-首里地区・他
男性-50代-真和志地区・他
男性-30代-小禄地区・他

1. 適当 2. 近い 3. 遠い
4. 期日前投票を利用しているので特に何も感じていない
5. その他 ()

--

期口前投票を利用しているの	その他	無回答
	1.1%	0.0%

理由 (Reason)	割合 (Percentage)
適当 (Appropriate)	43.8%
近い (Close)	30.3%
期日前投票を利用しているのに特に何も感じていない (Not feeling anything despite using advance voting)	16.2%
遠い (Far)	4.5%
その他 (Others)	4.4%
無回答 (No answer)	0.9%

[illegible]

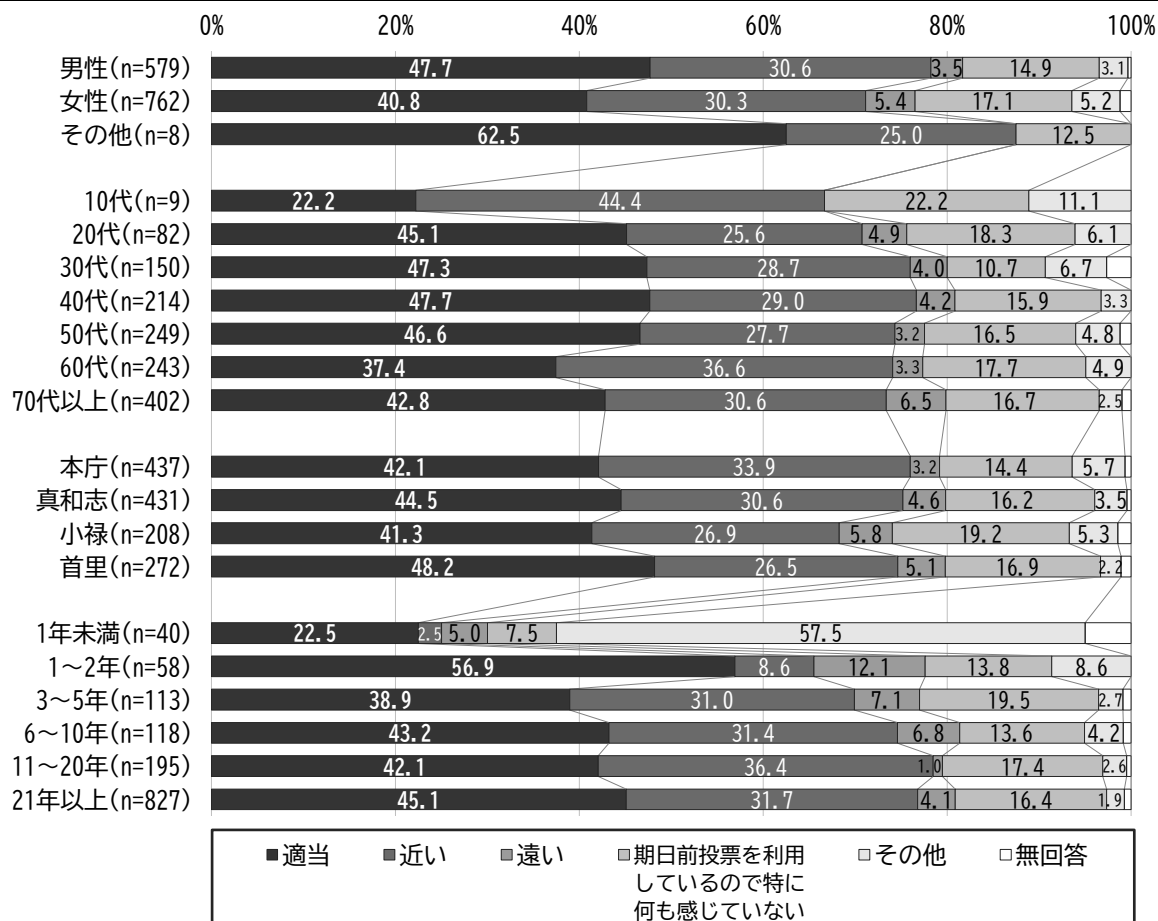
- 女性-70代以上-首里地区・他
男性-50代-小禄地区・他
女性-30代-本庁地区・他

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性は女性に比べ、「適当」の割合が高い。

居住年数別でみると、1～2年で「適当」の割合が高くなっている。

選択項目 回答者属性(n=合計)	適当	近い	遠い	感の利用期 じてで用日 て特して前 い何に投票 もにを	その他	無回答
男性 (n= 579)	276	177	20	86	18	2
女性 (n= 762)	311	231	41	130	40	9
その他 (n= 8)	5	2	0	1	0	0
10代 (n= 9)	2	4	0	2	1	0
20代 (n= 82)	37	21	4	15	5	0
30代 (n= 150)	71	43	6	16	10	4
40代 (n= 214)	102	62	9	34	7	0
50代 (n= 249)	116	69	8	41	12	3
60代 (n= 243)	91	89	8	43	12	0
70代以上 (n= 402)	172	123	26	67	10	4
本庁 (n= 437)	184	148	14	63	25	3
真和志 (n= 431)	192	132	20	70	15	2
小禄 (n= 208)	86	56	12	40	11	3
首里 (n= 272)	131	72	14	46	6	3
1年未満 (n= 40)	9	1	2	3	23	2
1～2年 (n= 58)	33	5	7	8	5	0
3～5年 (n= 113)	44	35	8	22	3	1
6～10年 (n= 118)	51	37	8	16	5	1
11～20年 (n= 195)	82	71	2	34	5	1
21年以上 (n= 827)	373	262	34	136	16	6



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 17. 選挙広報についてどのような手段が情報を得るのに有効だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

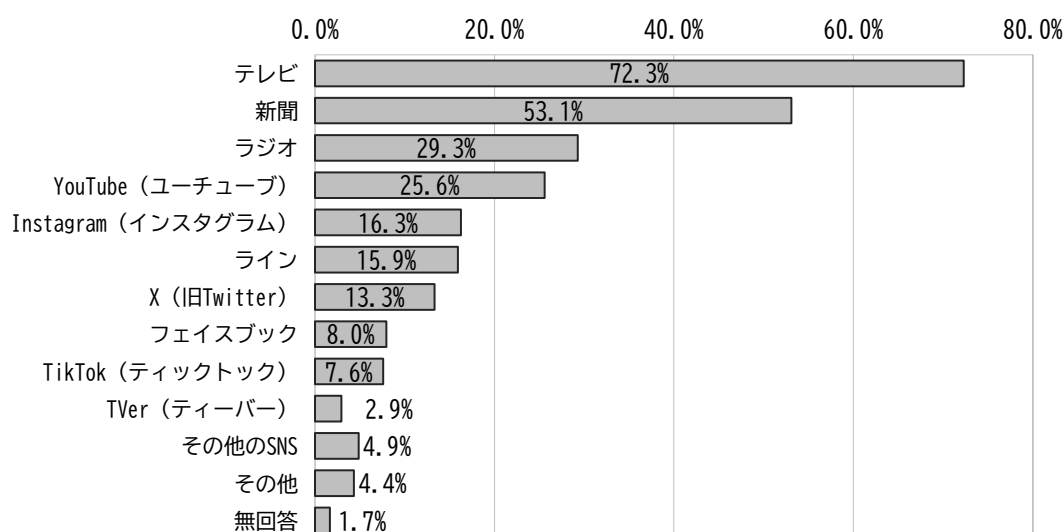
- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1. テレビ | 2. ラジオ |
| 3. 新聞 | 4. YouTube（ユーチューブ） |
| 5. TikTok（ティックトック） | 6. TVer（ティーバー） |
| 7. ライン | 8. フェイスブック |
| 9. X（旧 Twitter） | 10. Instagram（インスタグラム） |
| 11. その他の SNS | 12. その他（ ） |

選挙広報の情報源として有効だと思うもので最も多かったのは「テレビ」である。

選挙広報に関する情報源として有効だと思うものについては、「テレビ」の割合が 72.3%と最も高く、次いで「新聞」の割合が 53.1%、「ラジオ」の割合が 29.3%の順となっている。

選択項目		回答数	割合
1 位	テレビ	980	72.3%
2 位	新聞	720	53.1%
3 位	ラジオ	397	29.3%
4 位	YouTube（ユーチューブ）	347	25.6%
5 位	Instagram（インスタグラム）	221	16.3%
6 位	ライン	216	15.9%
7 位	X（旧 Twitter）	181	13.3%
8 位	フェイスブック	108	8.0%
9 位	TikTok（ティックトック）	103	7.6%
10 位	TVer（ティーバー）	40	2.9%
—	その他の SNS	66	4.9%
—	その他	59	4.4%
—	無回答	23	1.7%
合 計		3,461	—
回答者数		1,356	255.2%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。



【属性別集計（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）】

年代別で見ると、20代、30代は「YouTube（ユーチューブ）」、「Instagram（インスタグラム）」の割合が高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		テレビ	ラジオ	新聞	YouTube (ユーチューブ)	TikTok (ティックトック)	Twitter (ティーパー)	ライン	フェイスブック	(旧Twitter)	Instagram (インスタグラム)	その他のSNS	その他	無回答
性別	男性 (n= 579)	408 70.5	168 29.0	304 52.5	175 30.2	47 8.1	15 2.6	93 16.1	56 9.7	94 16.2	97 16.8	31 5.4	25 4.3	9 1.6
	女性 (n= 762)	562 73.8	225 29.5	407 53.4	169 22.2	55 7.2	24 3.1	122 16.0	52 6.8	87 11.4	123 16.1	35 4.6	32 4.2	13 1.7
	その他 (n= 8)	7 87.5	4 50.0	6 75.0	1 12.5	1 12.5	-	1 12.5	-	-	1 12.5	-	1 12.5	-
年代別	10代 (n= 9)	7 77.8	2 22.2	3 33.3	2 22.2	1 11.1	1 11.1	-	1 11.1	2 22.2	4 44.4	1 11.1	-	-
	20代 (n= 82)	47 57.3	13 15.9	31 37.8	48 58.5	20 24.4	7 8.5	15 18.3	5 6.1	32 39.0	36 43.9	1 1.2	5 6.1	-
	30代 (n= 150)	93 62.0	36 24.0	44 29.3	65 43.3	23 15.3	8 5.3	41 27.3	13 8.7	46 30.7	49 32.7	11 7.3	16 10.7	3 2.0
	40代 (n= 214)	142 66.4	78 36.4	101 47.2	90 42.1	36 16.8	15 7.0	60 28.0	34 15.9	52 24.3	68 31.8	19 8.9	12 5.6	1 0.5
	50代 (n= 249)	179 71.9	82 32.9	139 55.8	79 31.7	15 6.0	6 2.4	55 22.1	30 12.0	31 12.4	44 17.7	16 6.4	10 4.0	3 1.2
	60代 (n= 243)	196 80.7	81 33.3	136 56.0	41 16.9	7 2.9	2 0.8	26 10.7	14 5.8	11 4.5	15 6.2	11 4.5	5 2.1	5 2.1
	70代以上 (n= 402)	312 77.6	104 25.9	263 65.4	22 5.5	1 0.2	1 0.2	19 4.7	11 2.7	7 1.7	5 1.2	7 1.7	9 2.2	10 2.5
地区別	本庁 (n= 437)	304 69.6	117 26.8	217 49.7	115 26.3	34 7.8	12 2.7	74 16.9	36 8.2	54 12.4	65 14.9	24 5.5	16 3.7	8 1.8
	真和志 (n= 431)	330 76.6	137 31.8	238 55.2	98 22.7	28 6.5	11 2.6	62 14.4	25 5.8	51 11.8	55 12.8	21 4.9	22 5.1	5 1.2
	小禄 (n= 208)	142 68.3	54 26.0	93 44.7	54 26.0	17 8.2	11 5.3	35 16.8	15 7.2	37 17.8	52 25.0	8 3.8	14 6.7	5 2.4
	首里 (n= 272)	200 73.5	87 32.0	168 61.8	78 28.7	24 8.8	6 2.2	45 16.5	32 11.8	39 14.3	49 18.0	13 4.8	6 2.2	4 1.5
居住年数別	1年未満 (n= 40)	28 70.0	16 40.0	16 40.0	17 42.5	6 15.0	2 5.0	13 32.5	7 17.5	9 22.5	12 30.0	2 5.0	2 5.0	-
	1～2年 (n= 58)	32 55.2	12 20.7	20 34.5	19 32.8	6 10.3	1 1.7	16 27.6	5 8.6	6 10.3	12 20.7	6 10.3	3 5.2	2 3.4
	3～5年 (n= 113)	78 69.0	36 31.9	40 35.4	45 39.8	17 15.0	8 7.1	21 18.6	11 9.7	33 29.2	38 33.6	6 5.3	4 3.5	3 2.7
	6～10年 (n= 118)	81 68.6	26 22.0	43 36.4	42 35.6	8 6.8	5 4.2	24 20.3	13 11.0	22 18.6	29 24.6	8 6.8	8 6.8	1 0.8
	11～20年 (n= 195)	129 66.2	64 32.8	104 53.3	58 29.7	18 9.2	6 3.1	33 16.9	19 9.7	33 16.9	42 21.5	12 6.2	16 8.2	2 1.0
	21年以上 (n= 827)	630 76.2	242 29.3	494 59.7	166 20.1	48 5.8	18 2.2	109 13.2	53 6.4	78 9.4	88 10.6	32 3.9	24 2.9	14 1.7

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・広報誌、チラシ (24人)
- ・ホームページ (11人)
- ・街での演説 (3人)

女性-30代-真和志地区・他
男性-50代-本庁地区・他
女性-50代-首里地区・他

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

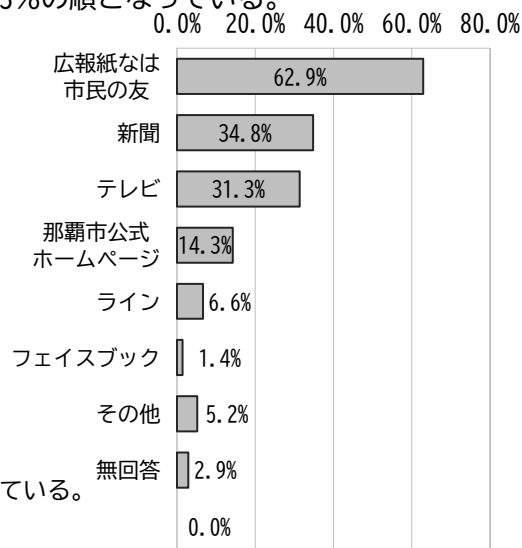
質問 18. あなたは普段那覇市の情報（施策やイベント等）をどの媒体から取得していますか。
次の中から2つまでお選びください。

- | | | |
|--------------|----------------|--------|
| 1. 広報紙なは市民の友 | 2. 那覇市公式ホームページ | 3. ライン |
| 4. フェイスブック | 5. 新聞 | 6. テレビ |
| 7. その他（ ） | | |

那覇市の情報取得媒体について最も多かったのは「広報紙なは市民の友」である。

那覇市の情報を取得しているについては、「広報紙なは市民の友」の割合が 62.9%で最も高く、次いで「新聞」の割合が 34.8%、「テレビ」の割合が 31.3%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
1 位 広報紙なは市民の友	853	62.9%
2 位 新聞	472	34.8%
3 位 テレビ	425	31.3%
4 位 那覇市公式ホームページ	194	14.3%
5 位 ライン	90	6.6%
6 位 フェイスブック	19	1.4%
- その他	70	5.2%
- 無回答	40	2.9%
合 計	2,163	—
回答者数	1,356	159.5%



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・インターネット、SNS（15 人）
- ・友人、知人から（10 人）
- ・インスタグラム（8 人）

男性-30 代-本庁地区・他
男性-70 代以上-真和志地区・他
女性-40 代-本庁地区・他

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別でみると、10代、20代は「テレビ」の割合が最も高く、30代以上では「広報紙なは市民の友」の割合が最も高くなっている。また、20代、30代では「那覇市公式ホームページ」の割合が比較的高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		選択項目	なは市民の友	那覇市公式ホームページ	ライン	フェイスブック	新聞	テレビ	その他	無回答
性別	男性 (n= 579)		346 59.8	102 17.6	30 5.2	9 1.6	209 36.1	173 29.9	30 5.2	17 2.9
	女性 (n= 762)		498 65.4	91 11.9	60 7.9	10 1.3	254 33.3	250 32.8	39 5.1	22 2.9
	その他 (n= 8)		5 62.5	1 12.5	- -	- -	6 75.0	- -	- -	- -
年代別	10代 (n= 9)		2 22.2	1 11.1	1 11.1	1 11.1	1 11.1	6 66.7	- -	- -
	20代 (n= 82)		25 30.5	24 29.3	14 17.1	3 3.7	14 17.1	33 40.2	7 8.5	3 3.7
	30代 (n= 150)		74 49.3	36 24.0	26 17.3	1 0.7	22 14.7	41 27.3	18 12.0	5 3.3
	40代 (n= 214)		135 63.1	44 20.6	19 8.9	5 2.3	54 25.2	56 26.2	17 7.9	2 0.9
	50代 (n= 249)		171 68.7	38 15.3	21 8.4	5 2.0	75 30.1	72 28.9	10 4.0	4 1.6
	60代 (n= 243)		161 66.3	23 9.5	6 2.5	1 0.4	91 37.4	100 41.2	7 2.9	6 2.5
	70代以上 (n= 402)		280 69.7	27 6.7	3 0.7	3 0.7	212 52.7	114 28.4	11 2.7	19 4.7
地区別	本庁 (n= 437)		276 63.2	64 14.6	26 5.9	7 1.6	133 30.4	145 33.2	25 5.7	13 3.0
	真和志 (n= 431)		279 64.7	63 14.6	26 6.0	4 0.9	161 37.4	133 30.9	26 6.0	7 1.6
	小禄 (n= 208)		114 54.8	28 13.5	23 11.1	4 1.9	56 26.9	70 33.7	10 4.8	9 4.3
	首里 (n= 272)		180 66.2	38 14.0	15 5.5	4 1.5	118 43.4	74 27.2	9 3.3	10 3.7
居住年数別	1年未満 (n= 40)		19 47.5	5 12.5	6 15.0	2 5.0	6 15.0	15 37.5	3 7.5	2 5.0
	1～2年 (n= 58)		22 37.9	11 19.0	5 8.6	1 1.7	13 22.4	23 39.7	7 12.1	2 3.4
	3～5年 (n= 113)		60 53.1	31 27.4	12 10.6	- -	14 12.4	32 28.3	8 7.1	6 5.3
	6～10年 (n= 118)		70 59.3	26 22.0	11 9.3	7 5.9	29 24.6	35 29.7	7 5.9	- -
	11～20年 (n= 195)		121 62.1	30 15.4	13 6.7	4 2.1	54 27.7	49 25.1	15 7.7	6 3.1
	21年以上 (n= 827)		557 67.4	91 11.0	43 5.2	5 0.6	354 42.8	269 32.5	30 3.6	23 2.8

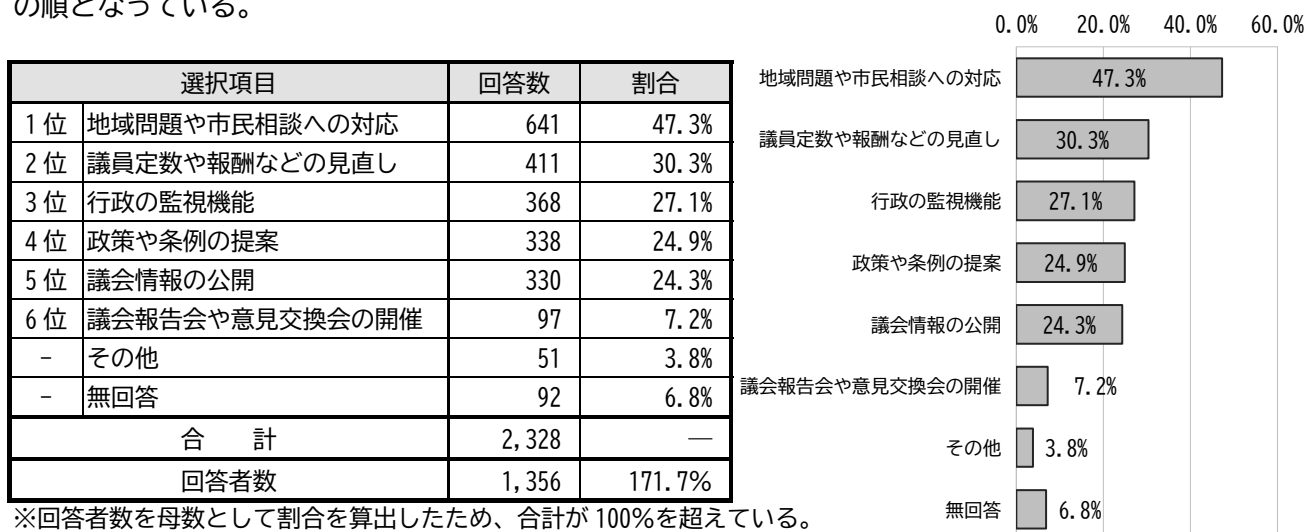
(5) 議会への市民参加について

質問 19. あなたは議会に何を求めますか。次の中から2つまでお選びください。

1. 行政の監視機能
2. 政策や条例の提案
3. 議会情報の公開
4. 地域問題や市民相談への対応
5. 議会報告会や意見交換会の開催
6. 議員定数や報酬などの見直し
7. その他（ ）

議会に求めることで最も多かったのは「地域問題や市民相談への対応」である。

市民が議会に求めることについては、「地域問題や市民相談への対応」の割合が 47.3%と最も高く、次いで「議員定数や報酬などの見直し」の割合が 30.3%、「行政の監視機能」の割合が 27.1%の順となっている。

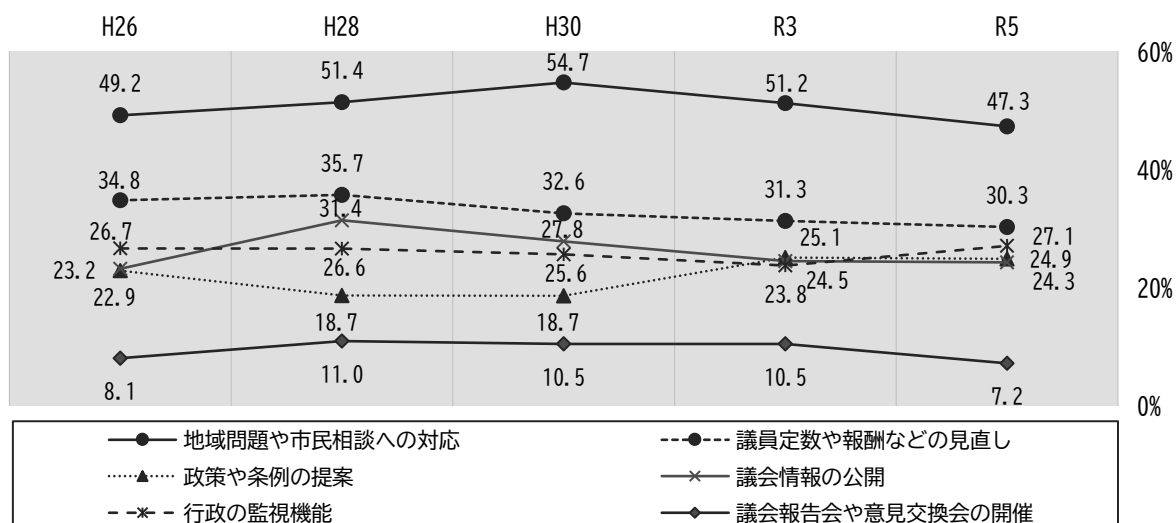


※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

【経年変化（平成 26 年度～令和 5 年度）】

前回調査と比較すると、「行政の監視機能」の割合が 3.3 ポイント増加している。一方、「地域問題や市民相談への対応」の割合は 3.9 ポイント減少している。

※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成 26～28 年度も同様に算出し、比較。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

居住年数別にみると、1～2年で「政策や条例の提案」の割合が最も高くなっている。その他の属性については、「地域問題や市民相談への対応」の割合が最も高く、あまり大きな違いは見られない。

※■は第1位、■は第2位、□は第3位の項目

回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		選択項目	行政 の 監視 機能	政策 や 条例 の 提案	議会 情報 の 公開	市民 相談 への 対応 地域 問題 や	意見 交換 会 の 開催 議会 報告 会 や	報酬 など の 見直し 議員 定数 や	その他	無 回 答
性別	男性 (n= 579)		173 29.9	161 27.8	159 27.5	238 41.1	46 7.9	178 30.7	30 5.2	34 5.9
	女性 (n= 762)		189 24.8	174 22.8	168 22.0	397 52.1	50 6.6	229 30.1	20 2.6	56 7.3
	その他 (n= 8)		4 50.0	2 25.0	1 12.5	5 62.5	1 12.5	3 37.5	- -	- -
年代別	10代 (n= 9)		- -	3 33.3	3 33.3	3 33.3	2 22.2	4 44.4	- -	- -
	20代 (n= 82)		26 31.7	28 34.1	20 24.4	33 40.2	4 4.9	22 26.8	4 4.9	3 3.7
	30代 (n= 150)		34 22.7	47 31.3	37 24.7	66 44.0	9 6.0	42 28.0	12 8.0	8 5.3
	40代 (n= 214)		49 22.9	58 27.1	55 25.7	117 54.7	17 7.9	66 30.8	8 3.7	5 2.3
	50代 (n= 249)		74 29.7	69 27.7	48 19.3	129 51.8	18 7.2	79 31.7	9 3.6	11 4.4
	60代 (n= 243)		61 25.1	60 24.7	65 26.7	121 49.8	20 8.2	76 31.3	5 2.1	16 6.6
	70代以上 (n= 402)		122 30.3	73 18.2	99 24.6	169 42.0	26 6.5	122 30.3	12 3.0	48 11.9
地区別	本庁 (n= 437)		115 26.3	125 28.6	100 22.9	203 46.5	26 5.9	132 30.2	20 4.6	30 6.9
	真和志 (n= 431)		120 27.8	87 20.2	98 22.7	212 49.2	30 7.0	136 31.6	14 3.2	32 7.4
	小禄 (n= 208)		59 28.4	47 22.6	58 27.9	99 47.6	13 6.3	64 30.8	9 4.3	11 5.3
	首里 (n= 272)		73 26.8	77 28.3	72 26.5	125 46.0	28 10.3	78 28.7	6 2.2	17 6.3
居住年数別	1年未満 (n= 40)		8 20.0	9 22.5	11 27.5	19 47.5	4 10.0	12 30.0	5 12.5	- -
	1～2年 (n= 58)		15 25.9	24 41.4	9 15.5	23 39.7	7 12.1	11 19.0	3 5.2	4 6.9
	3～5年 (n= 113)		27 23.9	30 26.5	28 24.8	57 50.4	5 4.4	28 24.8	5 4.4	10 8.8
	6～10年 (n= 118)		33 28.0	30 25.4	39 33.1	59 50.0	10 8.5	34 28.8	6 5.1	4 3.4
	11～20年 (n= 195)		48 24.6	61 31.3	40 20.5	93 47.7	18 9.2	53 27.2	9 4.6	10 5.1
	21年以上 (n= 827)		236 28.5	184 22.2	201 24.3	389 47.0	52 6.3	272 32.9	22 2.7	63 7.6

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・市民の意見を聞いてほしい (7人)
- ・議員の活動報告、議会のオンライン化 (9人)

男性-30代-本庁地区・他
男性-70代以上-首里地区・他

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

質問 20. 議会報告会で取り上げてほしいテーマを次の中から3つまでお選びください。

- | | | |
|---------------------|---------------|------------------|
| 1. 子育て支援・教育問題 | 2. 健康長寿対策 | 3. 医療や福祉問題 |
| 4. 環境問題 | 5. お住まいの地域の課題 | 6. 産業・観光振興、経済活性化 |
| 7. 雇用・失業問題 | 8. 中心市街地の活性化 | 9. 交通政策・都市計画 |
| 10. 防災・防犯など安全なまちづくり | 11. 協働のまちづくり | 12. 文化・芸能・スポーツ振興 |
| 13. その他（ ） | | |

議会報告会で取り上げてほしいテーマで最も多かったのは「医療や福祉問題」である。

議会報告会で取り上げてほしいテーマについては、「医療や福祉問題」の割合が 51.4%で最も高く、次いで「子育て支援・教育問題」の割合が 43.8%、「防災・防犯など安全なまちづくり」の割合が 25.5%の順となっている。



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

【選択肢「その他」の主な内容】

- | | |
|----------------|---------------|
| ・公園整備等（6人） | 女性-30代-本庁地区・他 |
| ・若年層の支援（5人） | 男性-50代-本庁地区・他 |
| ・LGBT、貧困問題（3人） | 女性-30代-小祿地区・他 |

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性、女性ともに「医療や福祉問題」の割合が高くなっている。

年代別でみると、20代～40代では「子育て支援・教育問題」の割合が最も高くなっており、50代以上では「医療や福祉問題」の割合が最も高い。また、60代以上では「健康長寿対策」の割合も高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		子育て支援・ 教育問題	健康長寿対策	医療や福祉問題	環境問題	お住まいの地域の 課題	産業・観光振興、 経済活性化	雇用・失業問題	中心市街地の 活性化	都市計画・ 交通政策	防災・防犯など 安全なまちづくり	協働のまちづくり	文化・芸能・ スポーツ振興	その他	無回答
性別	男性 (n= 579)	235 40.6	116 20.0	281 48.5	93 16.1	131 22.6	109 18.8	126 21.8	41 7.1	143 24.7	135 23.3	15 2.6	49 8.5	27 4.7	20 3.5
	女性 (n= 762)	354 46.5	164 21.5	408 53.5	132 17.3	142 18.6	86 11.3	167 21.9	38 5.0	136 17.8	207 27.2	21 2.8	61 8.0	25 3.3	27 3.5
	その他 (n= 8)	1 12.5	2 25.0	5 62.5	2 25.0	2 25.0	-	1 12.5	-	4 50.0	3 37.5	1 12.5	-	1 12.5	-
年代別	10代 (n= 9)	5 55.6	-	7 77.8	-	2 22.2	1 11.1	1 11.1	-	1 11.1	3 33.3	-	1 11.1	-	-
	20代 (n= 82)	52 63.4	3 3.7	35 42.7	6 7.3	15 18.3	22 26.8	25 30.5	7 8.5	21 25.6	18 22.0	4 4.9	8 9.8	3 3.7	-
	30代 (n= 150)	99 66.0	8 5.3	59 39.3	26 17.3	26 17.3	27 18.0	37 24.7	7 4.7	36 24.0	34 22.7	3 2.0	19 12.7	12 8.0	2 1.3
	40代 (n= 214)	132 61.7	19 8.9	92 43.0	28 13.1	49 22.9	34 15.9	51 23.8	16 7.5	53 24.8	54 25.2	4 1.9	26 12.1	16 7.5	1 0.5
	50代 (n= 249)	95 38.2	22 8.8	114 45.8	47 18.9	58 23.3	44 17.7	74 29.7	22 8.8	65 26.1	62 24.9	11 4.4	20 8.0	9 3.6	8 3.2
	60代 (n= 243)	88 36.2	65 26.7	159 65.4	38 15.6	41 16.9	36 14.8	62 25.5	9 3.7	41 16.9	60 24.7	7 2.9	16 6.6	5 2.1	7 2.9
	70代以上 (n= 402)	120 29.9	165 41.0	229 57.0	82 20.4	82 20.4	31 7.7	44 10.9	18 4.5	66 16.4	113 28.1	8 2.0	20 5.0	9 2.2	30 7.5
地区別	本庁 (n= 437)	186 42.6	76 17.4	215 49.2	78 17.8	84 19.2	82 18.8	101 23.1	33 7.6	90 20.6	119 27.2	10 2.3	32 7.3	19 4.3	16 3.7
	真和志 (n= 431)	178 41.3	91 21.1	223 51.7	84 19.5	92 21.3	46 10.7	94 21.8	26 6.0	90 20.9	102 23.7	13 3.0	46 10.7	18 4.2	13 3.0
	小禄 (n= 208)	101 48.6	37 17.8	107 51.4	30 14.4	36 17.3	35 16.8	53 25.5	11 5.3	43 20.7	52 25.0	3 1.4	16 7.7	9 4.3	8 3.8
	首里 (n= 272)	126 46.3	76 27.9	148 54.4	35 12.9	63 23.2	32 11.8	46 16.9	8 2.9	57 21.0	73 26.8	11 4.0	15 5.5	8 2.9	11 4.0
居住年数別	1年未満 (n= 40)	18 45.0	9 22.5	16 40.0	8 20.0	4 10.0	4 10.0	8 20.0	2 5.0	15 37.5	7 17.5	1 2.5	3 7.5	4 10.0	2 5.0
	1～2年 (n= 58)	31 53.4	-	19 32.8	9 15.5	12 20.7	11 19.0	17 29.3	2 3.4	20 34.5	11 19.0	2 3.4	8 13.8	3 5.2	1 1.7
	3～5年 (n= 113)	47 41.6	13 11.5	47 41.6	20 17.7	19 16.8	22 19.5	25 22.1	9 8.0	27 23.9	32 28.3	6 5.3	14 12.4	6 5.3	4 3.5
	6～10年 (n= 118)	54 45.8	14 11.9	58 49.2	21 17.8	23 19.5	25 21.2	23 19.5	8 6.8	30 25.4	34 28.8	2 1.7	6 5.1	6 5.1	3 2.5
	11～20年 (n= 195)	98 50.3	25 12.8	91 46.7	37 19.0	37 19.0	29 14.9	47 24.1	6 3.1	41 21.0	51 26.2	8 4.1	22 11.3	13 6.7	5 2.6
	21年以上 (n= 827)	344 41.6	221 26.7	464 56.1	133 16.1	180 21.8	103 12.5	174 21.0	52 6.3	149 18.0	210 25.4	18 2.2	57 6.9	22 2.7	33 4.0

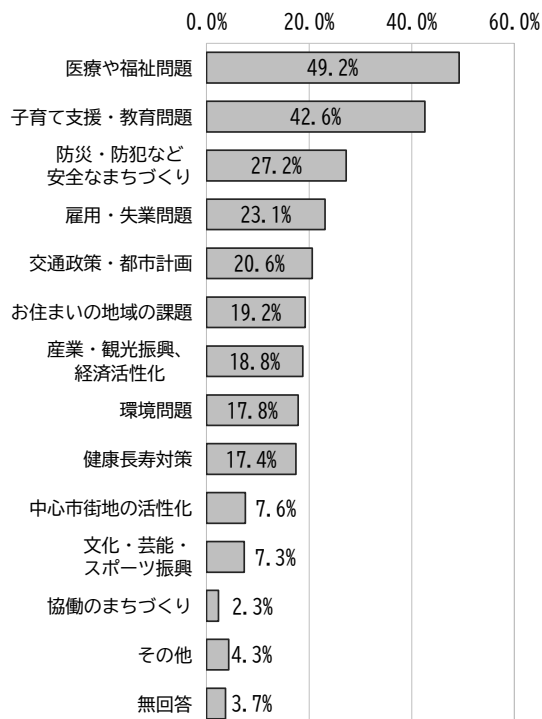
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）】

議会報告会で取り上げてほしいテーマについて、居住地区別に順位づけし、比較を行った。
すべての地区で「医療や福祉問題」の割合が最も高く、次いで「子育て支援・教育問題」となっている。

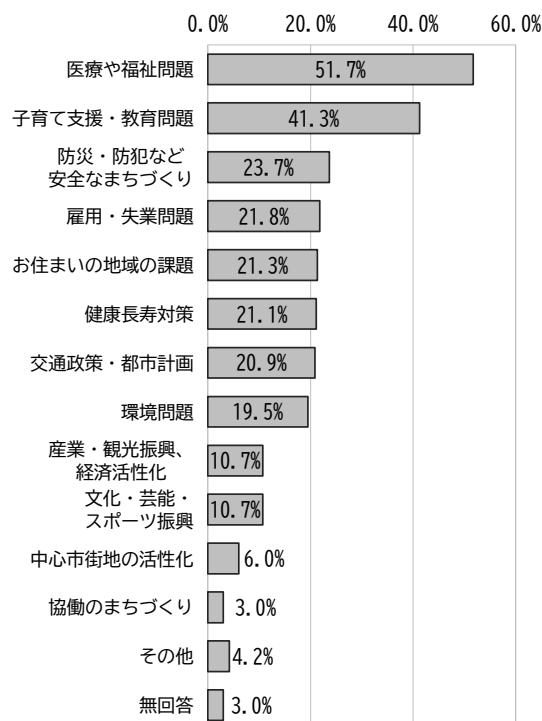
【本庁地区】

選択項目		回答数	割合
1 位	医療や福祉問題	215	49.2%
2 位	子育て支援・教育問題	186	42.6%
3 位	防災・防犯など安全なまちづくり	119	27.2%
4 位	雇用・失業問題	101	23.1%
5 位	交通政策・都市計画	90	20.6%
6 位	お住まいの地域の課題	84	19.2%
7 位	産業・観光振興、経済活性化	82	18.8%
8 位	環境問題	78	17.8%
9 位	健康長寿対策	76	17.4%
10 位	中心市街地の活性化	33	7.6%
11 位	文化・芸能・スポーツ振興	32	7.3%
12 位	協働のまちづくり	10	2.3%
—	その他	19	4.3%
—	無回答	16	3.7%
合 計		1,141	—
回答者数		437	261.1%



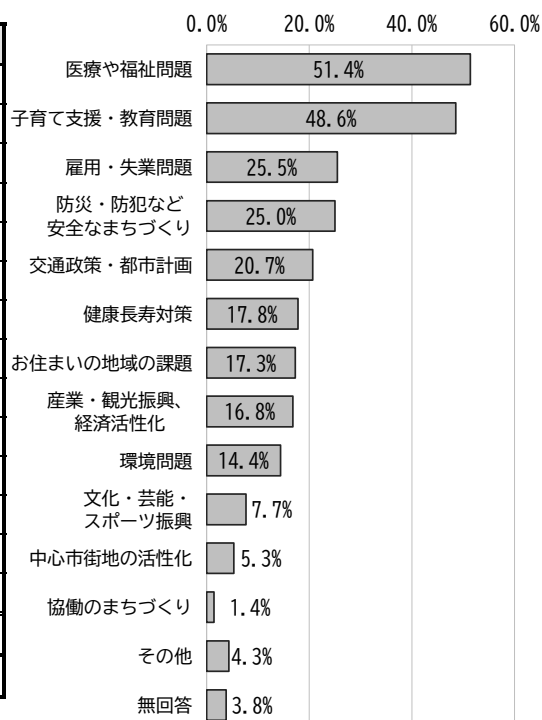
【真和志地区】

選択項目		回答数	割合
1 位	医療や福祉問題	223	51.7%
2 位	子育て支援・教育問題	178	41.3%
3 位	防災・防犯など安全なまちづくり	102	23.7%
4 位	雇用・失業問題	94	21.8%
5 位	お住まいの地域の課題	92	21.3%
6 位	健康長寿対策	91	21.1%
7 位	交通政策・都市計画	90	20.9%
8 位	環境問題	84	19.5%
9 位	産業・観光振興、経済活性化	46	10.7%
10 位	文化・芸能・スポーツ振興	46	10.7%
11 位	中心市街地の活性化	26	6.0%
12 位	協働のまちづくり	13	3.0%
—	その他	18	4.2%
—	無回答	13	3.0%
合 計		1,116	—
回答者数		431	258.9%



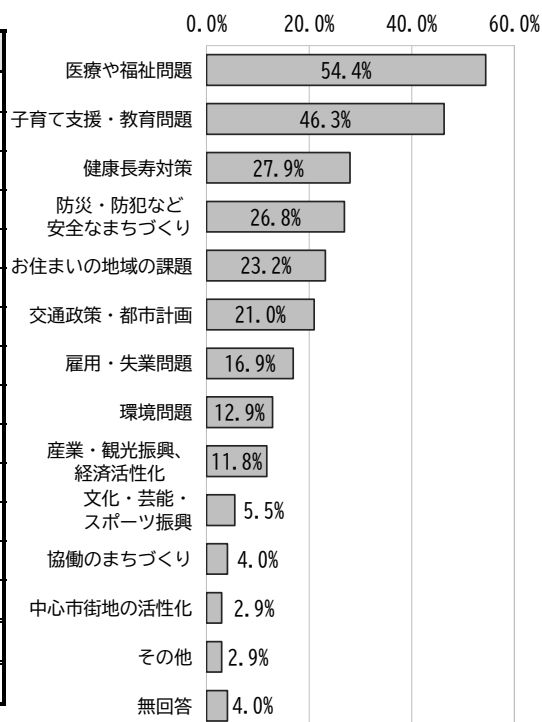
【小緑地区】

	選択項目	回答数	割合
1 位	医療や福祉問題	107	51.4%
2 位	子育て支援・教育問題	101	48.6%
3 位	雇用・失業問題	53	25.5%
4 位	防災・防犯など安全なまちづくり	52	25.0%
5 位	交通政策・都市計画	43	20.7%
6 位	健康長寿対策	37	17.8%
7 位	お住まいの地域の課題	36	17.3%
8 位	産業・観光振興、経済活性化	35	16.8%
9 位	環境問題	30	14.4%
10 位	文化・芸能・スポーツ振興	16	7.7%
11 位	中心市街地の活性化	11	5.3%
12 位	協働のまちづくり	3	1.4%
—	その他	9	4.3%
—	無回答	8	3.8%
合 計		541	—
回答者数		208	260.1%



【首里地区】

	選択項目	回答数	割合
1 位	医療や福祉問題	148	54.4%
2 位	子育て支援・教育問題	126	46.3%
3 位	健康長寿対策	76	27.9%
4 位	防災・防犯など安全なまちづくり	73	26.8%
5 位	お住まいの地域の課題	63	23.2%
6 位	交通政策・都市計画	57	21.0%
7 位	雇用・失業問題	46	16.9%
8 位	環境問題	35	12.9%
9 位	産業・観光振興、経済活性化	32	11.8%
10 位	文化・芸能・スポーツ振興	15	5.5%
11 位	協働のまちづくり	11	4.0%
12 位	中心市街地の活性化	8	2.9%
—	その他	8	2.9%
—	無回答	11	4.0%
合 計		709	—
回答者数		272	260.7%



(6) 平和行政・男女共同参画について

質問 21. 平和行政について、重点的に取り組むべきだと思うものを3つまでお選びください。

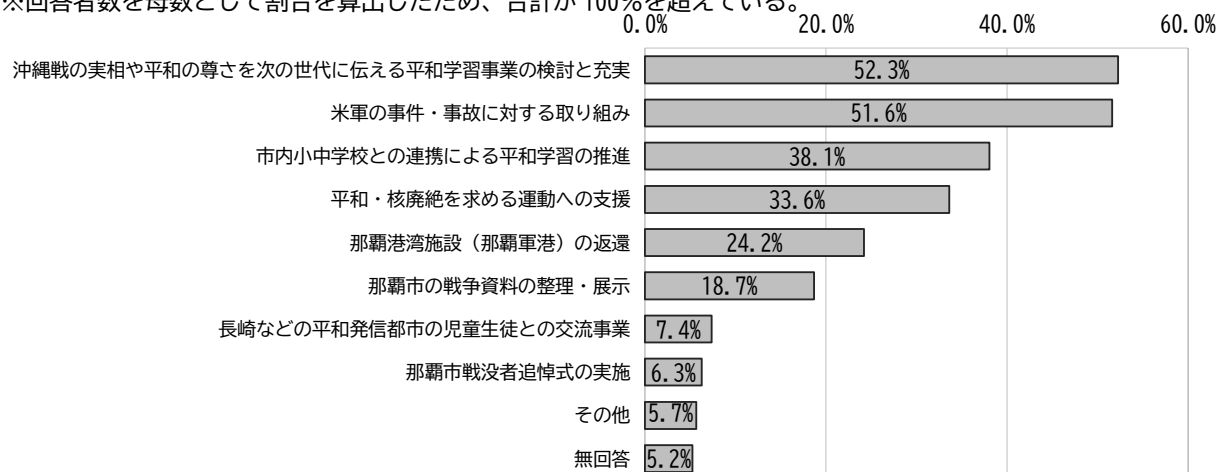
1. 米軍の事件・事故に対する取り組み
2. 那覇港湾施設（那覇軍港）の返還
3. 平和・核廃絶を求める運動への支援
4. 那覇市戦没者追悼式の実施
5. 長崎などの平和発信都市の児童生徒との交流事業
6. 市内小中学校との連携による平和学習の推進
7. 那覇市の戦争資料の整理・展示
8. 沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実
9. その他（ ）

平和行政について重点的に取り組むべきだと思うもので最も多かったのは「沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実」である。

平和行政について重点的に取り組むべきことについては、「沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実」の割合が 52.3%と最も高く、次いで「米軍の事件・事故に対する取り組み」の割合が 51.6%、「市内小中学校との連携による平和学習の推進」の割合が 38.1%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
1 位 沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実	709	52.3%
2 位 米軍の事件・事故に対する取り組み	700	51.6%
3 位 市内小中学校との連携による平和学習の推進	516	38.1%
4 位 平和・核廃絶を求める運動への支援	456	33.6%
5 位 那覇港湾施設（那覇軍港）の返還	328	24.2%
6 位 那覇市の戦争資料の整理・展示	253	18.7%
7 位 長崎などの平和発信都市の児童生徒との交流事業	100	7.4%
8 位 那覇市戦没者追悼式の実施	85	6.3%
— その他	77	5.7%
— 無回答	71	5.2%
合 計	3,295	—
回答者数	1,356	243.0%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。



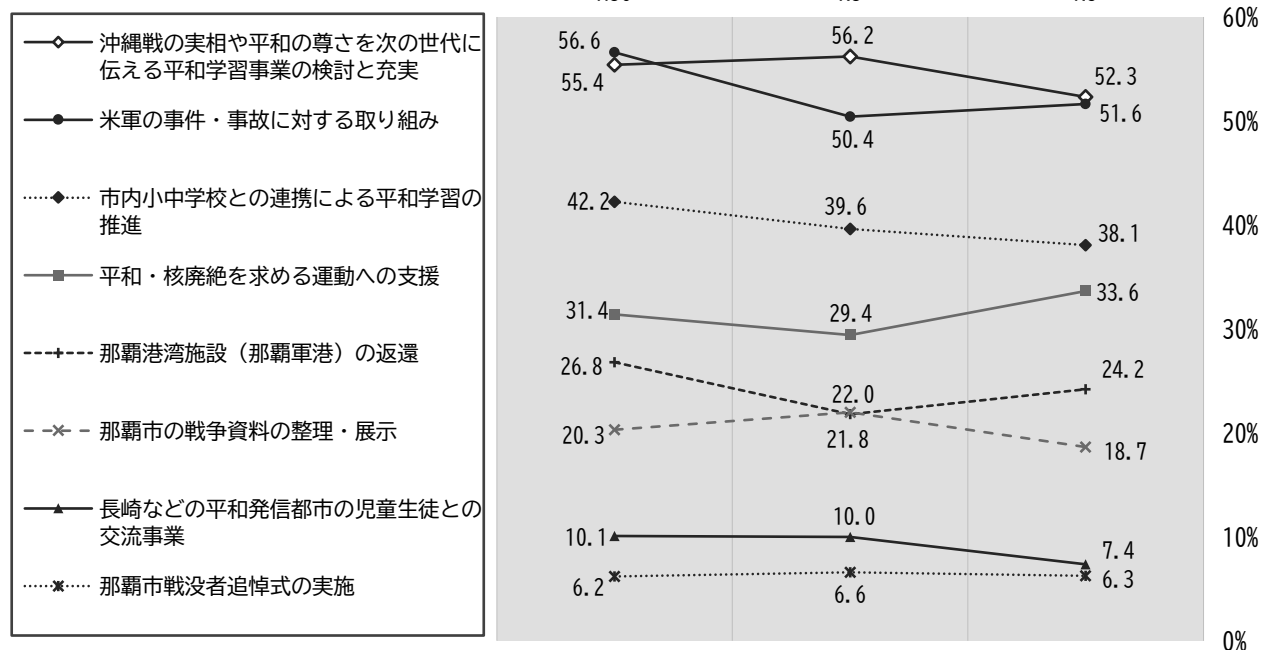
【選択肢「その他」の主な内容】

- ・ 平和行政・学習の内容の見直し（14 人）
- ・ 対中国問題や世界情勢等（6 人）

男性-60 代-真和志地区・他
男性-30 代-本庁地区・他

【経年変化（平成 30 年度～令和 5 年度）】

前回調査と比較すると、「平和・核廃絶を求める運動への支援」の割合が 4.2 ポイント増加している。



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性は「米軍の事件・事故に対する取り組み」の割合が高く、女性は「沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実」の割合が高くなっている。

居住年数別でみると、10年以下では「米軍の事件・事故に対する取り組み」の割合が高く、11年以上では「沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実」の割合が高くなっている。

※ ■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		米軍の事件・事故に対する取り組み	(那覇軍港)の返還	平和運動・核廃絶を求める	追悼式の実施者	長崎などの平和発信事業	市内小中学校との連携	那覇市の戦争資料の整理・展示	沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に伝える平和学習事業の検討と充実	その他	無回答
性別	男性 (n= 579)	293 50.6	172 29.7	163 28.2	46 7.9	38 6.6	205 35.4	124 21.4	266 45.9	48 8.3	29 5.0
	女性 (n= 762)	399 52.4	153 20.1	289 37.9	38 5.0	61 8.0	305 40.0	128 16.8	432 56.7	29 3.8	40 5.2
	その他 (n= 8)	6 75.0	2 25.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	2 25.0	1 12.5	7 87.5	-	-
年代別	10代 (n= 9)	4 44.4	1 11.1	1 11.1	-	1 11.1	3 33.3	2 22.2	5 55.6	1 11.1	-
	20代 (n= 82)	38 46.3	13 15.9	19 23.2	9 11.0	8 9.8	29 35.4	24 29.3	40 48.8	7 8.5	2 2.4
	30代 (n= 150)	76 50.7	24 16.0	44 29.3	13 8.7	19 12.7	59 39.3	36 24.0	76 50.7	13 8.7	6 4.0
	40代 (n= 214)	99 46.3	39 18.2	51 23.8	16 7.5	26 12.1	102 47.7	50 23.4	103 48.1	16 7.5	5 2.3
	50代 (n= 249)	128 51.4	48 19.3	76 30.5	20 8.0	16 6.4	93 37.3	50 20.1	133 53.4	20 8.0	13 5.2
	60代 (n= 243)	127 52.3	62 25.5	99 40.7	7 2.9	13 5.3	99 40.7	41 16.9	141 58.0	6 2.5	11 4.5
	70代以上 (n= 402)	225 56.0	140 34.8	161 40.0	20 5.0	17 4.2	128 31.8	50 12.4	208 51.7	14 3.5	33 8.2
地区別	本庁 (n= 437)	206 47.1	110 25.2	151 34.6	40 9.2	34 7.8	148 33.9	69 15.8	207 47.4	32 7.3	25 5.7
	真和志 (n= 431)	227 52.7	108 25.1	135 31.3	18 4.2	38 8.8	173 40.1	91 21.1	233 54.1	23 5.3	20 4.6
	小禄 (n= 208)	111 53.4	50 24.0	66 31.7	16 7.7	14 6.7	70 33.7	44 21.2	108 51.9	10 4.8	11 5.3
	首里 (n= 272)	155 57.0	60 22.1	100 36.8	11 4.0	13 4.8	119 43.8	48 17.6	156 57.4	11 4.0	14 5.1
居住年数別	1年未満 (n= 40)	19 47.5	9 22.5	14 35.0	7 17.5	1 2.5	9 22.5	11 27.5	16 40.0	4 10.0	-
	1～2年 (n= 58)	31 53.4	9 15.5	18 31.0	1 1.7	4 6.9	14 24.1	17 29.3	25 43.1	6 10.3	4 6.9
	3～5年 (n= 113)	62 54.9	23 20.4	35 31.0	12 10.6	5 4.4	38 33.6	33 29.2	42 37.2	7 6.2	6 5.3
	6～10年 (n= 118)	56 47.5	31 26.3	32 27.1	8 6.8	12 10.2	42 35.6	23 19.5	55 46.6	8 6.8	8 6.8
	11～20年 (n= 195)	79 40.5	40 20.5	62 31.8	5 2.6	21 10.8	84 43.1	36 18.5	102 52.3	20 10.3	11 5.6
	21年以上 (n= 827)	452 54.7	216 26.1	291 35.2	52 6.3	57 6.9	327 39.5	132 16.0	465 56.2	32 3.9	41 5.0

質問 22. 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、あなたはごどう思いますか。
次の中から1つお選びください。

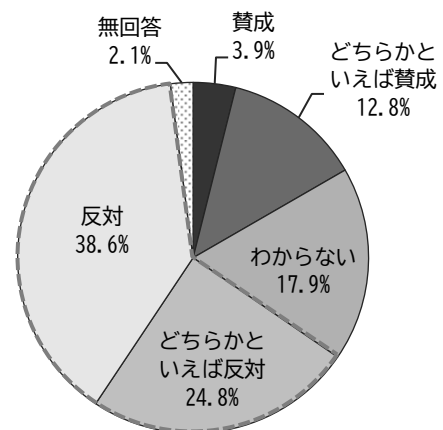
1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. わからない
4. どちらかといえば反対 5. 反対

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について「賛成」の割合は16.7%、「反対」の割合は63.4%である。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について「反対」の割合が38.6%で最も多く、次いで「どちらかといえば反対」の割合が24.8%、「わからない」の割合が17.9%の順となっている。

「賛成」・「どちらかといえば賛成」を合わせた割合は16.7%、「反対」・「どちらかといえば反対」を合わせた割合は63.4%となっており、「反対」が「賛成」を大きく上回っている。

選択項目	回答数	割合
賛成	53	3.9%
どちらかといえば賛成	173	12.8%
わからない	243	17.9%
どちらかといえば反対	336	24.8%
反対	523	38.6%
無回答	28	2.1%
合 計	1,356	100%



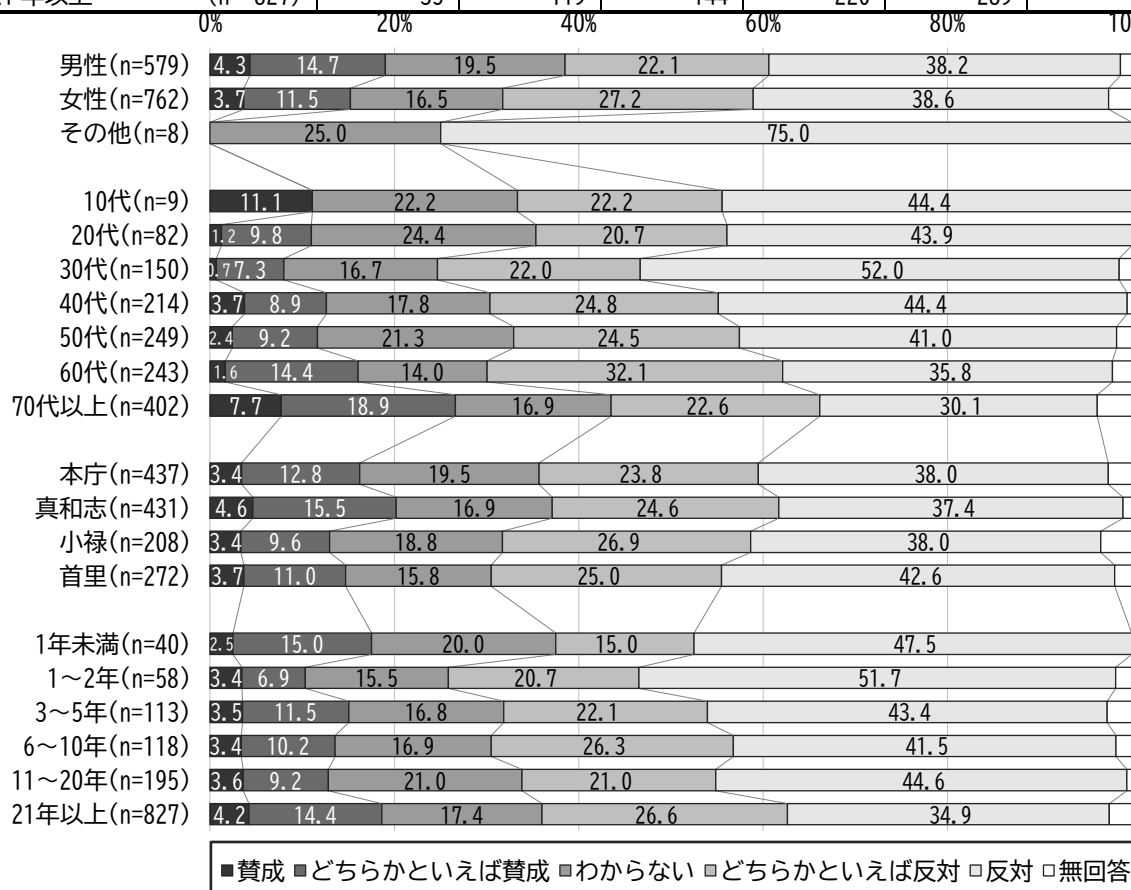
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性は女性に比べ、「どちらかといえば賛成」の割合が高くなっている。

年代別でみると、70 代以上で「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた割合が高くなっている。

選択項目 回答者属性(n=合計)	賛成	どちらか といえば 賛成	わからない	どちらか といえば 反対	反対	無回答
男性 (n= 579)	25	85	113	128	221	7
女性 (n= 762)	28	88	126	207	294	19
その他 (n= 8)	0	0	2	0	6	0
10代 (n= 9)	1	0	2	2	4	0
20代 (n= 82)	1	8	20	17	36	0
30代 (n= 150)	1	11	25	33	78	2
40代 (n= 214)	8	19	38	53	95	1
50代 (n= 249)	6	23	53	61	102	4
60代 (n= 243)	4	35	34	78	87	5
70代以上 (n= 402)	31	76	68	91	121	15
本庁 (n= 437)	15	56	85	104	166	11
真和志 (n= 431)	20	67	73	106	161	4
小禄 (n= 208)	7	20	39	56	79	7
首里 (n= 272)	10	30	43	68	116	5
1年未満 (n= 40)	1	6	8	6	19	0
1～2年 (n= 58)	2	4	9	12	30	1
3～5年 (n= 113)	4	13	19	25	49	3
6～10年 (n= 118)	4	12	20	31	49	2
11～20年 (n= 195)	7	18	41	41	87	1
21年以上 (n= 827)	35	119	144	220	289	20



質問 23. 「性の多様性」に関する問題を人権問題ととらえ、「性の多様性を尊重する都市・なは」を宣言しました。LGBTQ カップルの申請に基づく、那覇市パートナーシップ・ファミリーシップ登録制度など、「性の多様性」に関する取り組みについて、あなたはどのように思いますか。次の中から1つお選びください。

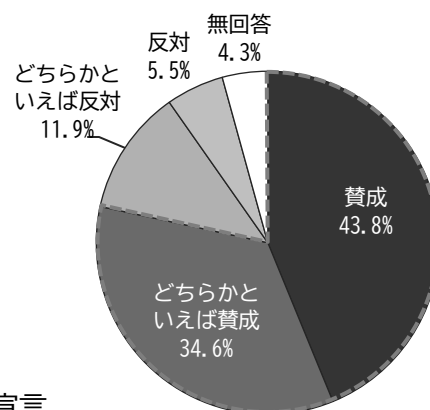
1. 賛成
2. どちらかといえば賛成
3. どちらかといえば反対
4. 反対

「性の多様性」に関する取り組みについて「賛成」の割合は 78.4%、「反対」の割合は 17.4%である。

「性の多様性」に関する取り組みについては、「賛成」の割合が 43.8%と最も多く、次いで「どちらかといえば賛成」の割合が 34.6%、「どちらかといえば反対」の割合が 11.9%の順となっており、「賛成」が「反対」を大きく上回っている。

「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合は 17.4%になっている。

選択項目	回答数	割合
賛成	594	43.8%
どちらかといえば賛成	469	34.6%
どちらかといえば反対	161	11.9%
反対	74	5.5%
無回答	58	4.3%
合 計	1,356	100%



【那覇市の取組み】

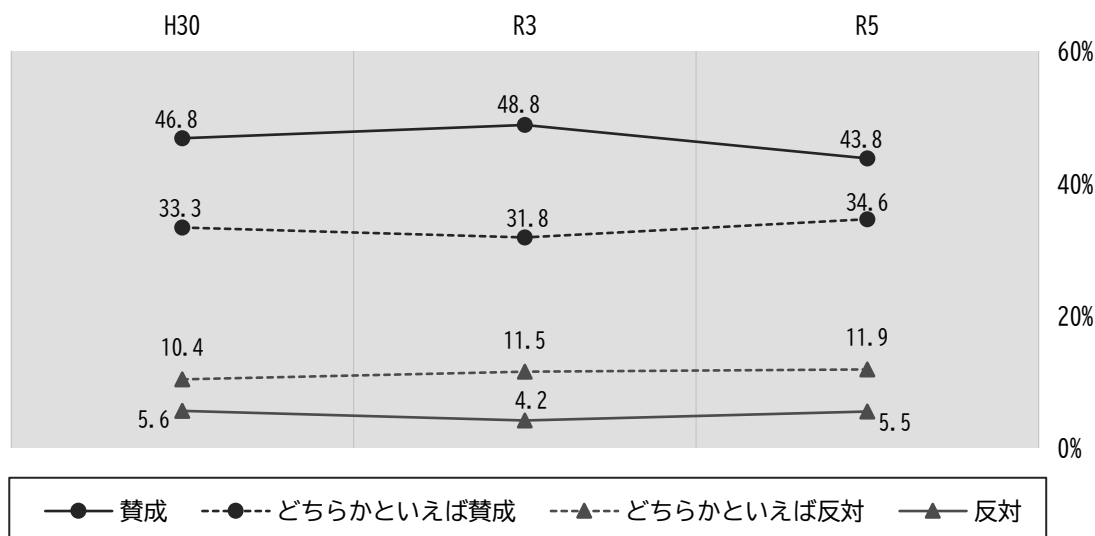
平成 27 年 7 月 「性の多様性を尊重する都市・なは」宣言

平成 28 年 7 月 「那覇市パートナーシップ登録」制度の開始

令和 4 年 10 月 「那覇市パートナーシップ・ファミリーシップ登録」制度へ拡充

【経年変化（平成 30 年度～令和 5 年度）】

前回調査と比較すると、「賛成」の割合は 5.0 ポイント減少している。



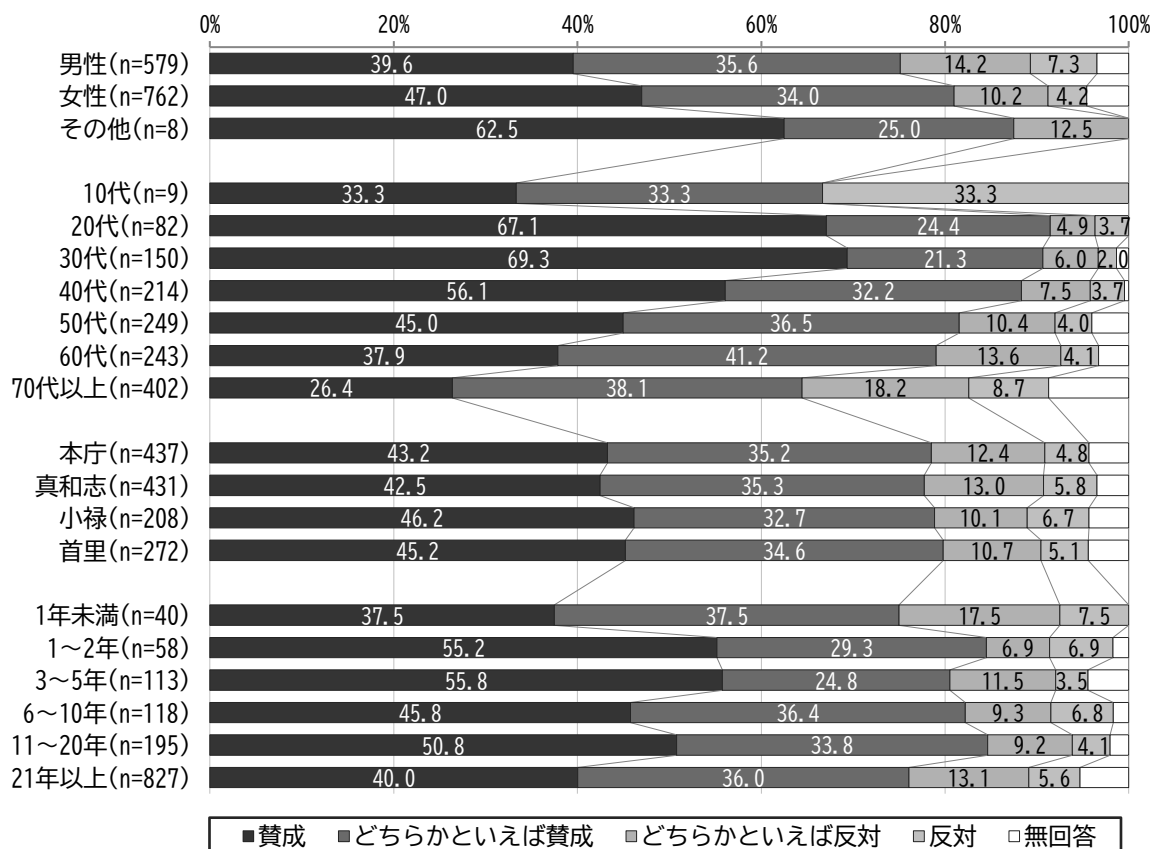
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）】

性別でみると、女性は男性に比べ、「賛成」、「どちらかといえば賛成」の割合が高くなっている。

年代別でみると、10代を除き年代が上がるにつれて、「反対」、「どちらかといえば反対」の割合が高くなる傾向にあるが、いずれの年代も「賛成」「どちらかといえば賛成」を合わせた割合は6割を上回っている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	無回答
男性 (n= 579)		229	206	82	42	20
女性 (n= 762)		358	259	78	32	35
その他 (n= 8)		5	2	1	0	0
10代 (n= 9)		3	3	0	3	0
20代 (n= 82)		55	20	4	3	0
30代 (n= 150)		104	32	9	3	2
40代 (n= 214)		120	69	16	8	1
50代 (n= 249)		112	91	26	10	10
60代 (n= 243)		92	100	33	10	8
70代以上 (n= 402)		106	153	73	35	35
本庁 (n= 437)		189	154	54	21	19
真和志 (n= 431)		183	152	56	25	15
小禄 (n= 208)		96	68	21	14	9
首里 (n= 272)		123	94	29	14	12
1年未満 (n= 40)		15	15	7	3	0
1～2年 (n= 58)		32	17	4	4	1
3～5年 (n= 113)		63	28	13	4	5
6～10年 (n= 118)		54	43	11	8	2
11～20年 (n= 195)		99	66	18	8	4
21年以上 (n= 827)		331	298	108	46	44



(7) 誰もが移動しやすいまちについて

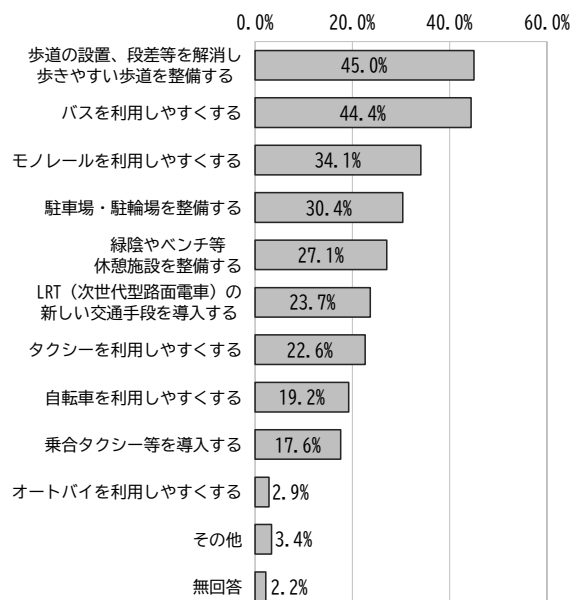
質問 24. 子どもからお年寄りまで、誰でも快適に移動できるまちづくりのために、重要だと思うものを次の中から3つまでお選びください。

1. 自転車を利用しやすくする
2. オートバイを利用しやすくする
3. タクシーを利用しやすくする
4. バスを利用しやすくする
5. モノレールを利用しやすくする
6. LRT（次世代型路面電車）を導入する
7. 乗合タクシー等を導入する
8. 歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する
9. 緑陰やベンチ等休憩施設を整備する
10. 駐車場・駐輪場を整備する
11. その他（ ）

誰もが快適に移動できるまちづくりのために重要だと思うものについて最も多かったのは「歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する」である。

誰もが快適に移動できるまちづくりのために重要だと思うものは、「歩道の設置、段差等を解消し、歩きやすい歩道を整備する」の割合が45.0%と最も高く、次いで「バスを利用しやすくする」の割合が44.4%、「モノレールを利用しやすくする」の割合が34.1%、の順となっている。

選択項目	回答数	割合
1位 歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する	610	45.0%
2位 バスを利用しやすくする	602	44.4%
3位 モノレールを利用しやすくする	462	34.1%
4位 駐車場・駐輪場を整備する	412	30.4%
5位 緑陰やベンチ等休憩施設を整備する	367	27.1%
6位 LRT（次世代型路面電車）の新しい交通手段を導入する	321	23.7%
7位 タクシーを利用しやすくする	307	22.6%
8位 自転車を利用しやすくする	261	19.2%
9位 乗合タクシー等を導入する	239	17.6%
10位 オートバイを利用しやすくする	39	2.9%
— その他	46	3.4%
— 無回答	30	2.2%
合 計	3,696	—
回答者数	1,356	272.6%

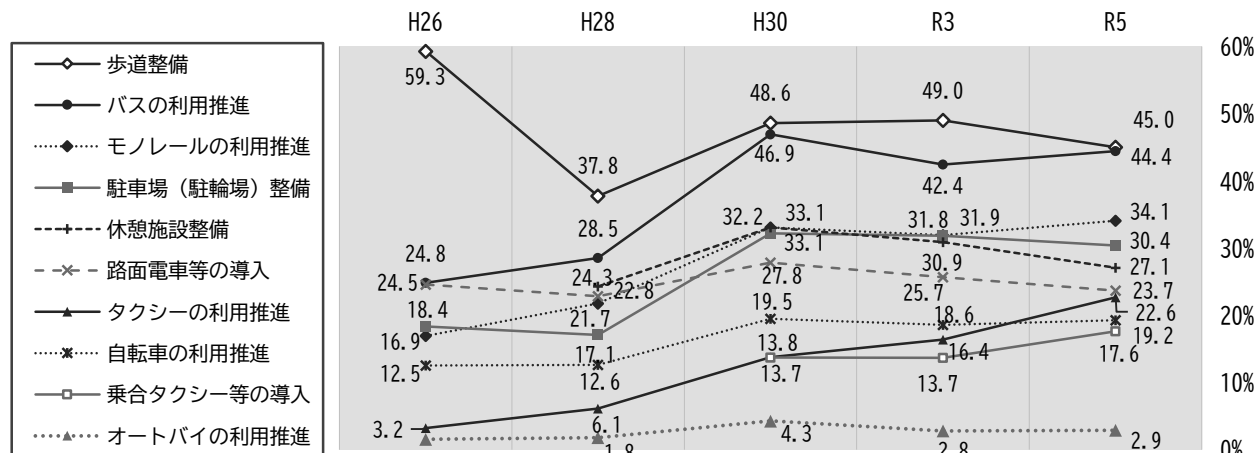


※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

【経年変化（平成26年度～令和5年度）】

前回調査と比較すると、「タクシーの利用推進」の割合が6.2ポイント増加している。

※平成30年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成26～28年度も同様に算出し、比較。



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性は「バスを利用しやすくする」の割合が最も高く、女性は「歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する」の割合が最も高くなっている。

年代別でみると、30代以下では「駐車場・駐輪場を整備する」の割合が高くなっている。50代以上は「歩道の設置、段差等を解消し歩きやすい歩道を整備する」の割合が最も高い。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		利用しやすくする 自転車	利用しやすくする オートバイ	利用しやすくする タクシー	利用しやすくする バス	利用しやすくする モノレール	路面電車（次世代型） の新しい型を 導入する	乗合タクシー等 を導入する	歩道の設置、段差等 を解消し歩きやすい歩 道を整備する	休憩施設やベンチ等 を整備する	駐車場・駐輪場 を整備する	その他	無回答
性別	男性 (n= 579)	139 24.0	32 5.5	121 20.9	241 41.6	199 34.4	154 26.6	98 16.9	225 38.9	140 24.2	189 32.6	21 3.6	13 2.2
	女性 (n= 762)	118 15.5	7 0.9	181 23.8	357 46.9	259 34.0	164 21.5	139 18.2	378 49.6	222 29.1	219 28.7	25 3.3	15 2.0
	その他 (n= 8)	4 50.0	-	3 37.5	2 25.0	2 25.0	2 25.0	1 12.5	4 50.0	3 37.5	3 37.5	-	-
年代別	10代 (n= 9)	3 33.3	-	-	3 33.3	6 66.7	1 11.1	-	3 33.3	3 33.3	5 55.6	-	-
	20代 (n= 82)	17 20.7	2 2.4	14 17.1	32 39.0	42 51.2	25 30.5	5 6.1	23 28.0	14 17.1	38 46.3	3 3.7	1 1.2
	30代 (n= 150)	29 19.3	7 4.7	38 25.3	58 38.7	58 38.7	36 24.0	24 16.0	55 36.7	33 22.0	66 44.0	10 6.7	1 0.7
	40代 (n= 214)	61 28.5	7 3.3	40 18.7	92 43.0	84 39.3	60 28.0	31 14.5	89 41.6	45 21.0	80 37.4	14 6.5	1 0.5
	50代 (n= 249)	52 20.9	6 2.4	51 20.5	107 43.0	85 34.1	63 25.3	49 19.7	120 48.2	48 19.3	73 29.3	8 3.2	6 2.4
	60代 (n= 243)	44 18.1	10 4.1	55 22.6	114 46.9	77 31.7	58 23.9	42 17.3	120 49.4	86 35.4	59 24.3	4 1.6	5 2.1
	70代以上 (n= 402)	55 13.7	7 1.7	107 26.6	194 48.3	106 26.4	77 19.2	87 21.6	196 48.8	135 33.6	91 22.6	7 1.7	15 3.7
地区別	本庁 (n= 437)	96 22.0	13 3.0	98 22.4	189 43.2	138 31.6	104 23.8	82 18.8	197 45.1	109 24.9	131 30.0	19 4.3	12 2.7
	真和志 (n= 431)	81 18.8	14 3.2	102 23.7	222 51.5	137 31.8	99 23.0	76 17.6	197 45.7	124 28.8	125 29.0	11 2.6	6 1.4
	小禄 (n= 208)	41 19.7	6 2.9	46 22.1	78 37.5	79 38.0	55 26.4	22 10.6	87 41.8	54 26.0	77 37.0	8 3.8	4 1.9
	首里 (n= 272)	42 15.4	6 2.2	60 22.1	109 40.1	107 39.3	62 22.8	57 21.0	124 45.6	77 28.3	78 28.7	7 2.6	7 2.6
居住年数別	1年未満 (n= 40)	8 20.0	-	8 20.0	24 60.0	16 40.0	8 20.0	5 12.5	16 40.0	11 27.5	7 17.5	5 12.5	-
	1～2年 (n= 58)	9 15.5	2 3.4	11 19.0	26 44.8	33 56.9	13 22.4	6 10.3	20 34.5	9 15.5	20 34.5	2 3.4	2 3.4
	3～5年 (n= 113)	29 25.7	6 5.3	23 20.4	45 39.8	46 40.7	31 27.4	12 10.6	48 42.5	22 19.5	40 35.4	3 2.7	3 2.7
	6～10年 (n= 118)	26 22.0	5 4.2	21 17.8	46 39.0	46 39.0	36 30.5	20 16.9	51 43.2	27 22.9	43 36.4	7 5.9	-
	11～20年 (n= 195)	54 27.7	5 2.6	28 14.4	89 45.6	67 34.4	50 25.6	33 16.9	76 39.0	47 24.1	55 28.2	11 5.6	4 2.1
	21年以上 (n= 827)	135 16.3	21 2.5	214 25.9	371 44.9	253 30.6	182 22.0	163 19.7	396 47.9	249 30.1	247 29.9	18 2.2	20 2.4

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・道路の整備・清掃（7人）
- ・ライドシェアの導入（6人）
- ・バス停の整備等（6人）

女性-70代以上-本庁・他
男性-40代-真和志地区・他
女性-60代-本庁地区・他

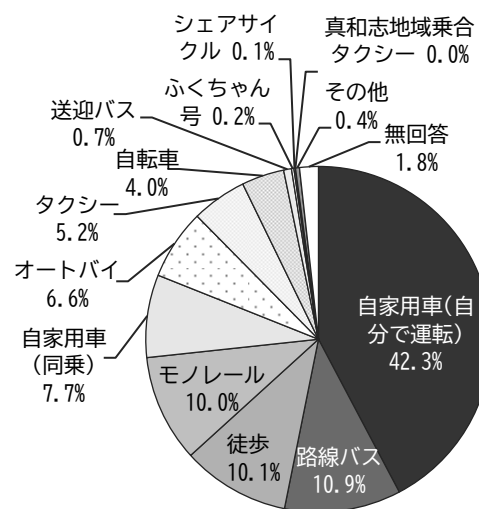
質問 25. あなたが現在、平日に最も多く利用する交通手段を次の中から1つお選びください。

1. モノレール 2. 路線バス 3. ふくちゃん号 4. 真和志地域乗合タクシー
 5. タクシー 6. 自転車 7. シェアサイクル 8. オートバイ
 9. 徒歩 10. 送迎バス 11. 自家用車(自分で運転) 12. 自家用車(同乗)
 13. その他 ()

平日に最も多く利用する交通手段は「自家用車(自分で運転)」である。

平日に最も多く利用する交通手段は「自家用車(自分で運転)」の割合が42.3%と最も高く、次いで「路線バス」の割合が10.9%、「徒歩」の割合が10.1%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1位	自家用車(自分で運転)	573	42.3%
2位	路線バス	148	10.9%
3位	徒歩	137	10.1%
4位	モノレール	136	10.0%
5位	自家用車(同乗)	105	7.7%
6位	オートバイ	89	6.6%
7位	タクシー	70	5.2%
8位	自転車	54	4.0%
9位	送迎バス	10	0.7%
10位	ふくちゃん号	3	0.2%
11位	シェアサイクル	2	0.1%
12位	真和志地域乗合タクシー	0	0.0%
—	その他	5	0.4%
—	無回答	24	1.8%
合 計		1,356	100%



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・介護タクシー (2人)
- ・シニアバイク

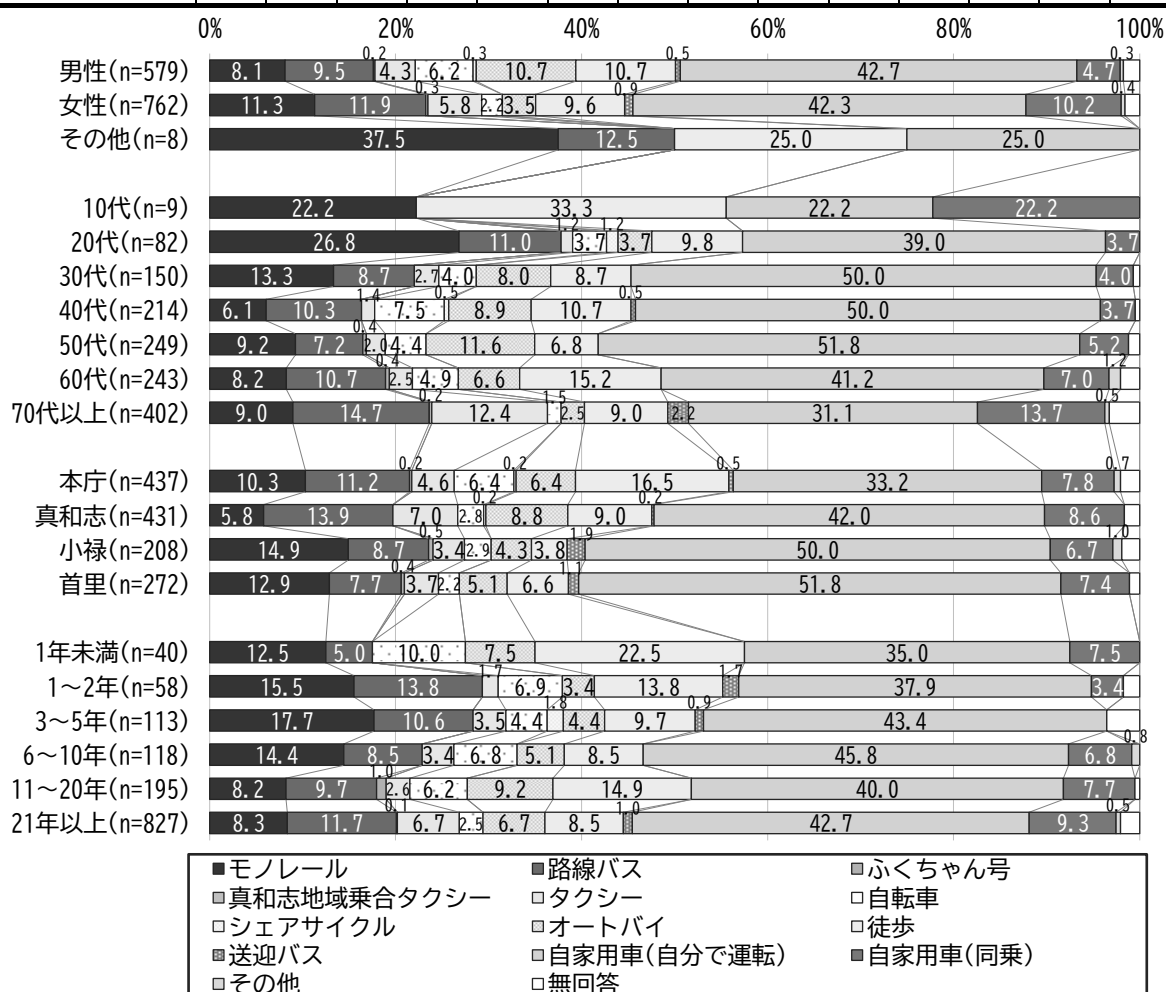
女性-70代以上-首里地区・他
 男性-60代-本庁地区

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別でみると、20代以下で「モノレール」の割合が高くなっている。

回答者属性 (n=合計)	モノレール	路線バス	ふくちゃん号	真和志地域乗合 タクシー	タクシー	自転車	シェアサイクル	オートバイ	徒歩	送迎バス	（自分で運転） 自家用車	自家用車 （同乗）	その他	無回答
男性 (n= 579)	47	55	1	0	25	36	2	62	62	3	247	27	2	10
女性 (n= 762)	86	91	2	0	44	17	0	27	73	7	322	78	3	12
その他 (n= 8)	3	1	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0
10代 (n= 9)	2	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2	2	0	0
20代 (n= 82)	22	9	0	0	1	3	1	3	8	0	32	3	0	0
30代 (n= 150)	20	13	0	0	4	6	0	12	13	0	75	6	0	1
40代 (n= 214)	13	22	0	0	3	16	1	19	23	1	107	8	0	1
50代 (n= 249)	23	18	1	0	5	11	0	29	17	0	129	13	0	3
60代 (n= 243)	20	26	1	0	6	12	0	16	37	0	100	17	3	5
70代以上 (n= 402)	36	59	1	0	50	6	0	10	36	9	125	55	2	13
本庁 (n= 437)	45	49	1	0	20	28	1	28	72	2	145	34	3	9
真和志 (n= 431)	25	60	0	0	30	12	1	38	39	1	181	37	0	7
小禄 (n= 208)	31	18	1	0	7	6	0	9	8	4	104	14	2	4
首里 (n= 272)	35	21	1	0	10	6	0	14	18	3	141	20	0	3
1年未満 (n= 40)	5	2	0	0	0	4	0	3	9	0	14	3	0	0
1～2年 (n= 58)	9	8	0	0	1	4	0	2	8	1	22	2	0	1
3～5年 (n= 113)	20	12	0	0	4	5	2	5	11	1	49	0	0	4
6～10年 (n= 118)	17	10	0	0	4	8	0	6	10	0	54	8	1	0
11～20年 (n= 195)	16	19	2	0	5	12	0	18	29	0	78	15	0	1
21年以上 (n= 827)	69	97	1	0	55	21	0	55	70	8	353	77	4	17



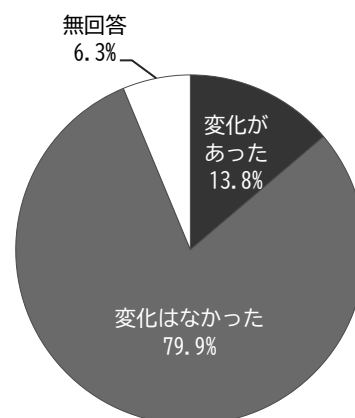
質問 25-1. 質問 25 で回答いただいた交通手段は、コロナ禍前（2019 年以前）から変化がありましたか。次の中から 1 つお選びください。

1. 変化があった 2. 変化はなかった

交通手段についてコロナ禍前から「変化があった」の割合は 13.8%、「変化はなかった」の割合は 79.9%である。

平日に最も多く利用する交通手段についてコロナ禍前から「変化があった」の割合が 13.8%、「変化はなかった」の割合が 79.9%となっている。

選択項目	回答数	割合
変化があった	187	13.8%
変化はなかった	1,084	79.9%
無回答	85	6.3%
合 計	1,356	100%



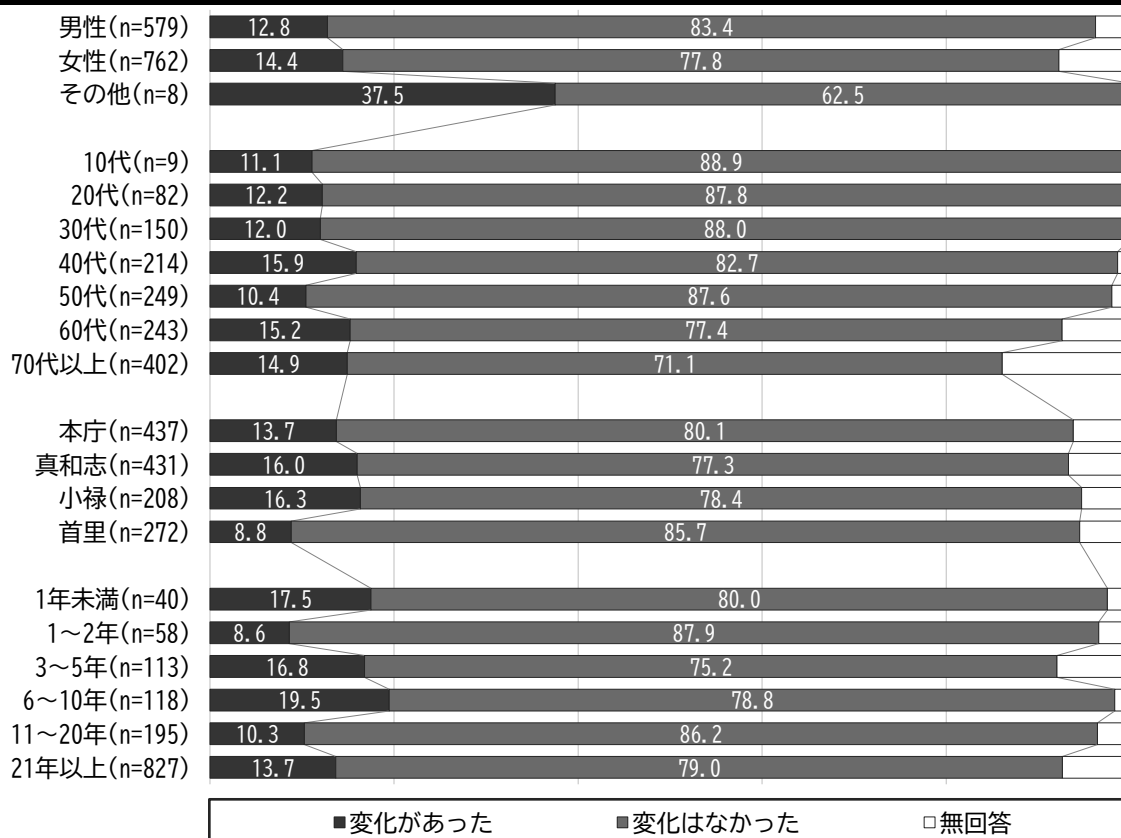
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると男性よりも女性で「変化があった」の割合がやや高く、年代別では40代で「変化があった」の割合が最も高くなっている。

居住地区別でみると、「変化があった」割合は小祿地区で最も高く、次いで、真和志地区、本庁地区、首里地区の順となっており、首里地区では「変化があった」の割合が1割を下回っている。

選択項目		変化があった	変化はなかった	無回答		
回答者属性(n=合計)						
男性	(n= 579)	74	483	22		
女性	(n= 762)	110	593	59		
その他	(n= 8)	3	5	0		
10代	(n= 9)	1	8	0		
20代	(n= 82)	10	72	0		
30代	(n= 150)	18	132	0		
40代	(n= 214)	34	177	3		
50代	(n= 249)	26	218	5		
60代	(n= 243)	37	188	18		
70代以上	(n= 402)	60	286	56		
本庁	(n= 437)	60	350	27		
真和志	(n= 431)	69	333	29		
小禄	(n= 208)	34	163	11		
首里	(n= 272)	24	233	15		
1年未満	(n= 40)	7	32	1		
1～2年	(n= 58)	5	51	2		
3～5年	(n= 113)	19	85	9		
6～10年	(n= 118)	23	93	2		
11～20年	(n= 195)	20	168	7		
21年以上	(n= 827)	113	653	61		
0%		20%	40%	60%	80%	100%



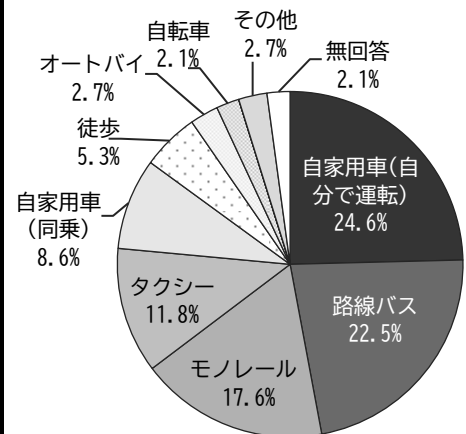
質問 25-2. 質問 25-1 で「1. 変化があった」を選択した方に伺います。コロナ禍前（2019 年以前）の平日に最も多く利用していた交通手段を次の中から 1 つお選びください。

1. モノレール 2. 路線バス 3. ふくちゃん号 4. 真和志地域乗合タクシー
5. タクシー 6. 自転車 7. シェアサイクル 8. オートバイ
9. 徒歩 10. 送迎バ 11. 自家用車(自分で運転) 12. 自家用車(同乗)
13. その他 ()

コロナ禍前の平日に最も多く利用していた交通手段は「自家用車（自分で運転）」である。

コロナ禍前に平日に最も多く利用していた交通手段は「自家用車(自分で運転)」の割合が 24.6%と最も高く、次いで「路線バス」の割合が 22.5%、「モノレール」の割合が 17.6%の順となっている。

順位	選択項目	回答数	割合
1 位	自家用車(自分で運転)	46	24.6%
2 位	路線バス	42	22.5%
3 位	モノレール	33	17.6%
4 位	タクシー	22	11.8%
5 位	自家用車(同乗)	16	8.6%
6 位	徒歩	10	5.3%
7 位	オートバイ	5	2.7%
8 位	自転車	4	2.1%
9 位	ふくちゃん号	0	0.0%
9 位	真和志地域乗合タクシー	0	0.0%
9 位	シェアサイクル	0	0.0%
9 位	送迎バス	0	0.0%
—	その他	5	2.7%
—	無回答	4	2.1%
合 計		187	100%



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・ 不要の外出は控えるようになった
- ・ 引っ越しした為環境が変わった（3人）

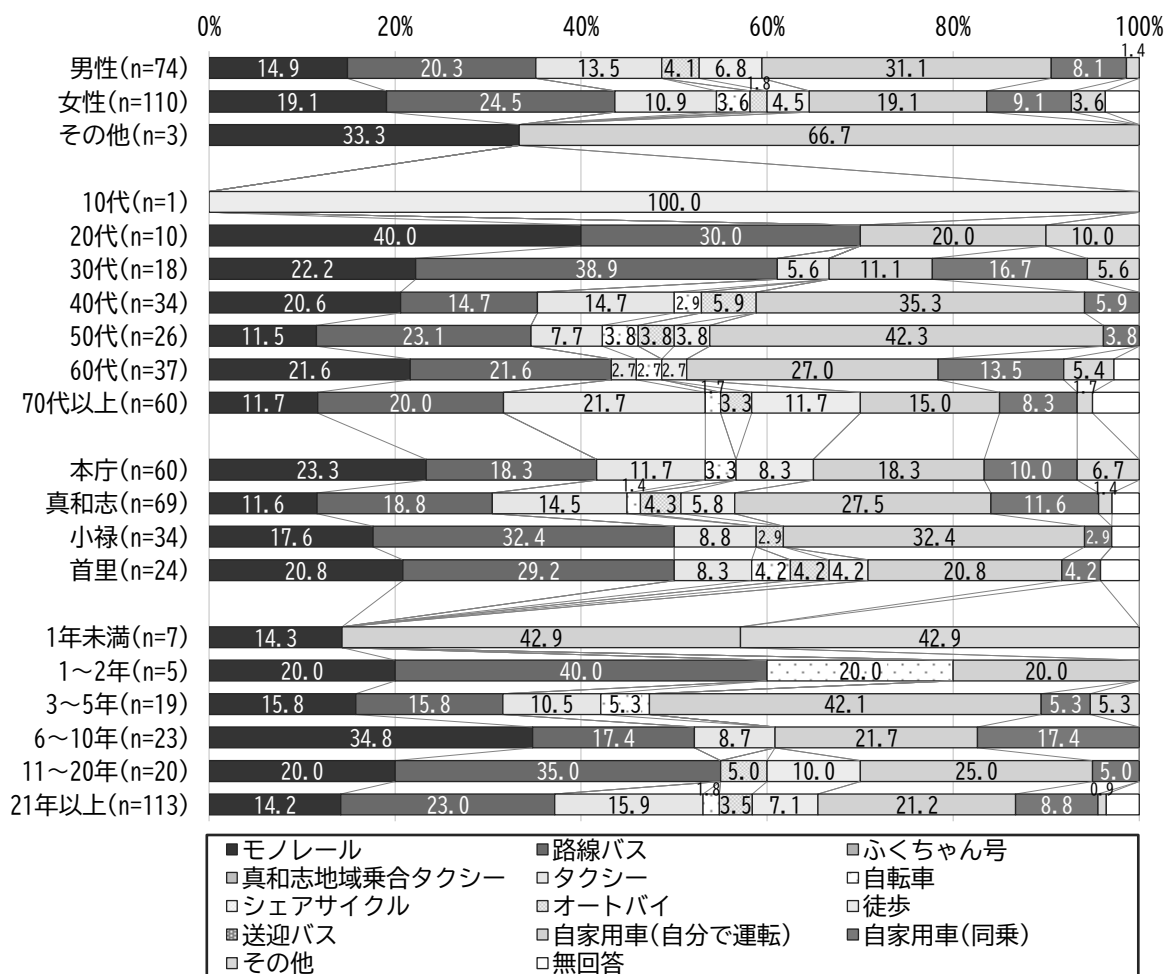
女性-60代-本庁・他
女性-60代-本庁地区・他

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別でみると、20代、30代で「モノレール」と「路線バス」の割合が高くなっている。

回答者属性 (n=合計)	モノレール	路線バス	ふくちゃん号	真和志地域乗合 タクシー	タクシー	自転車	シェアサイクル	オートバイ	徒歩	送迎バス	（自分で運転） 自家用車	（同乗） 自家用車	その他	無回答
男性 (n= 74)	11	15	0	0	10	0	0	3	5	0	23	6	1	0
女性 (n= 110)	21	27	0	0	12	4	0	2	5	0	21	10	4	4
その他 (n= 3)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
10代 (n= 1)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
20代 (n= 10)	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0
30代 (n= 18)	4	7	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3	1	0
40代 (n= 34)	7	5	0	0	5	1	0	2	0	0	12	2	0	0
50代 (n= 26)	3	6	0	0	2	1	0	1	1	0	11	1	0	0
60代 (n= 37)	8	8	0	0	1	1	0	0	1	0	10	5	2	1
70代以上 (n= 60)	7	12	0	0	13	1	0	2	7	0	9	5	1	3
本庁 (n= 60)	14	11	0	0	7	2	0	0	5	0	11	6	4	0
真和志 (n= 69)	8	13	0	0	10	1	0	3	4	0	19	8	1	2
小祿 (n= 34)	6	11	0	0	3	0	0	1	0	0	11	1	0	1
首里 (n= 24)	5	7	0	0	2	1	0	1	1	0	5	1	0	1
1年未満 (n= 7)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0
1～2年 (n= 5)	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
3～5年 (n= 19)	3	3	0	0	2	1	0	0	0	0	8	1	1	0
6～10年 (n= 23)	8	4	0	0	2	0	0	0	0	0	5	4	0	0
11～20年 (n= 20)	4	7	0	0	0	0	0	1	2	0	5	1	0	0
21年以上 (n= 113)	16	26	0	0	18	2	0	4	8	0	24	10	1	4



質問 26. バス、モノレール、タクシーの各公共交通について満足していますか。次の中から1つお選びください。

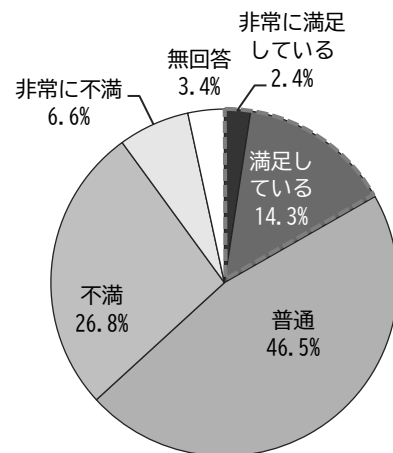
1. 非常に満足している 2. 満足している 3. 普通
4. 不満 5. 非常に不満

各公共交通について「満足」の割合は 16.7%、「不満」の割合は 33.4%である。

バス、モノレール、タクシーの各公共交通について、満足しているかについては、「普通」の割合が 46.5%と最も多く、次いで「不満」の割合が 26.8%、「満足している」の割合が 14.3%の順となっている。

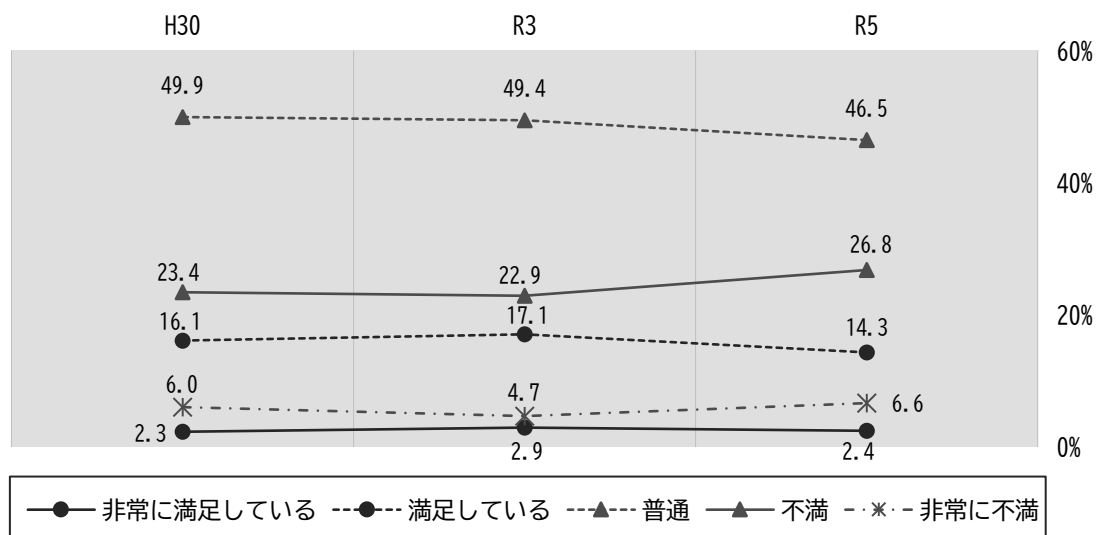
「非常に満足している」と「満足している」を合わせた割合 16.7%に対し、「不満」と「非常に不満」を合わせた割合は 33.4%であり、各公共交通に対して、「不満」を感じている市民の方が多いことが伺える。

選択項目	回答数	割合
非常に満足している	33	2.4%
満足している	194	14.3%
普通	630	46.5%
不満	363	26.8%
非常に不満	90	6.6%
無回答	46	3.4%
合 計	1,356	100%



【経年変化（平成 30 年度～令和 5 年度）】

前回調査と比較すると、「満足している」の割合は 2.8 ポイント減少し、「不満」の割合は 3.9 ポイント増加している。



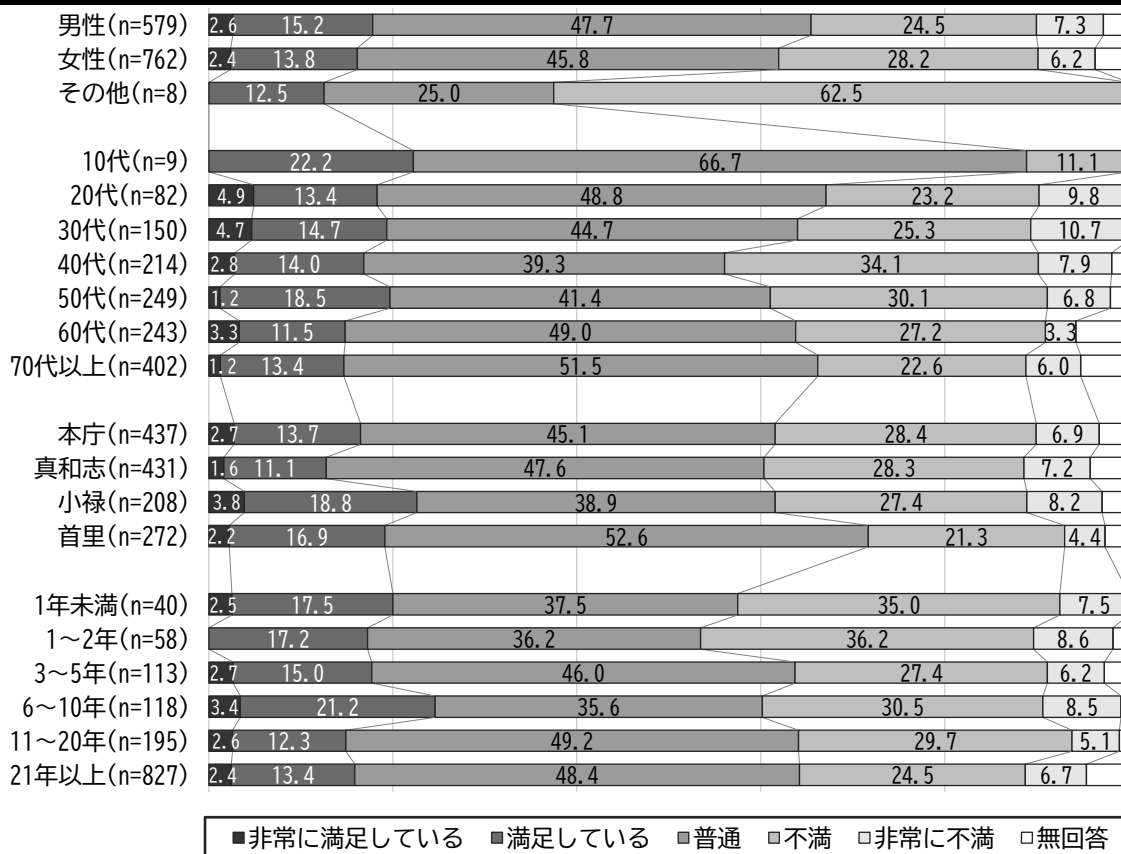
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男女ともに「普通」の割合が最も多く、「不満」と「非常に不満」を合わせた割合は男性よりも女性が高い。

居住地区別でみると、「非常に満足している」「満足している」を合わせた割合は小祿地区で最も高く2割以上の人々が満足している。

選択項目 回答者属性(n=合計)	非常に満足している	満足している	普通	不満	非常に不満	無回答
男性 (n= 579)	15	88	276	142	42	16
女性 (n= 762)	18	105	349	215	47	28
その他 (n= 8)	0	1	2	5	0	0
10代 (n= 9)	0	2	6	1	0	0
20代 (n= 82)	4	11	40	19	8	0
30代 (n= 150)	7	22	67	38	16	0
40代 (n= 214)	6	30	84	73	17	4
50代 (n= 249)	3	46	103	75	17	5
60代 (n= 243)	8	28	119	66	8	14
70代以上 (n= 402)	5	54	207	91	24	21
本庁 (n= 437)	12	60	197	124	30	14
真和志 (n= 431)	7	48	205	122	31	18
小祿 (n= 208)	8	39	81	57	17	6
首里 (n= 272)	6	46	143	58	12	7
1年未満 (n= 40)	1	7	15	14	3	0
1～2年 (n= 58)	0	10	21	21	5	1
3～5年 (n= 113)	3	17	52	31	7	3
6～10年 (n= 118)	4	25	42	36	10	1
11～20年 (n= 195)	5	24	96	58	10	2
21年以上 (n= 827)	20%	11%	40%	60%	80%	100%



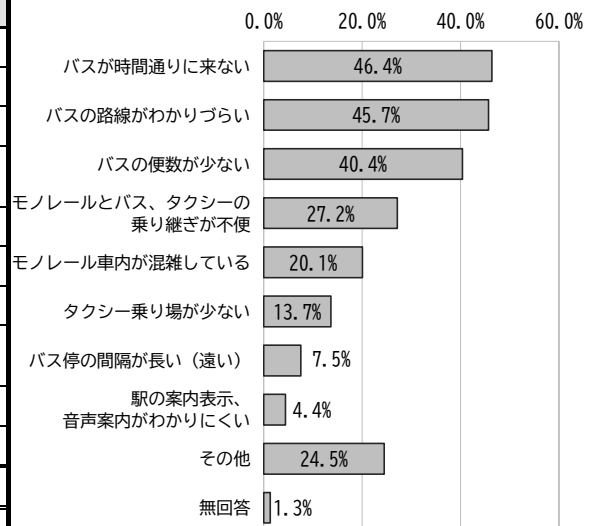
質問 26-1. 質問 26 で「4. 不満」又は「5. 非常に不満」を選択した方に伺います。不満に感じていることを次の中から3つまでお選びください。

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1. バスが時間通りに来ない | 2. バスの便数が少ない |
| 3. バスの路線がわかりづらい | 4. バス停の間隔が長い（遠い） |
| 5. モノレールとバス、タクシーの乗り継ぎが不便 | 6. タクシー乗り場が少ない |
| 7. 駅の案内表示、音声案内がわかりにくい | 8. モノレール車内が混雑している |
| 9. その他（ ） | |

公共交通の不満に感じていることで最も多かったのは「バスが時間通りに来ない」である。

質問 26 で、各公共交通に対し「不満」に感じている理由について、「バスが時間通りに来ない」の割合が 46.4%と最も高く、次いで「バスの路線がわかりづらい」の割合が 45.7%、「バスの便数が少ない」の割合が 40.4%の順となっている。

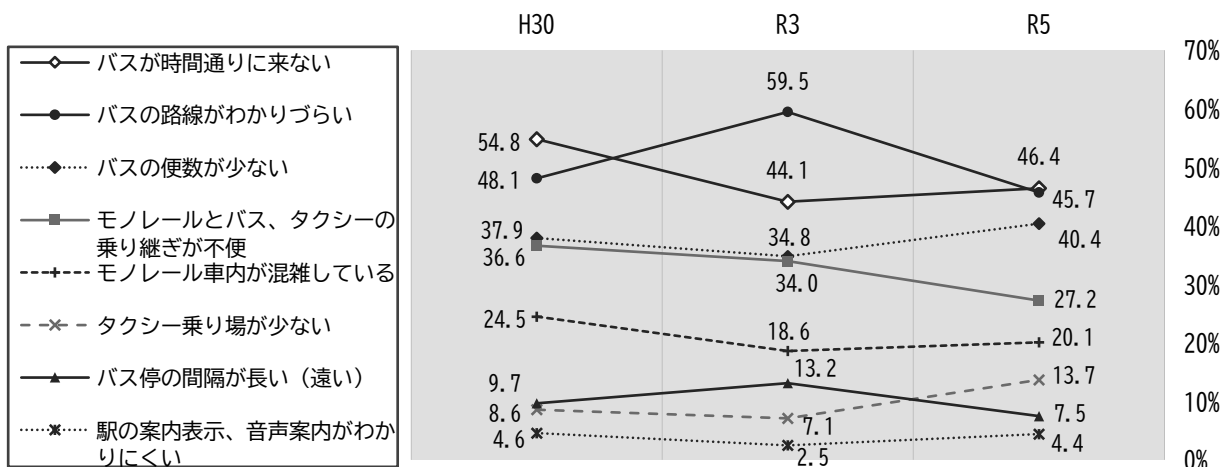
選択項目	回答数	割合
1 位 バスが時間通りに来ない	210	46.4%
2 位 バスの路線がわかりづらい	207	45.7%
3 位 バスの便数が少ない	183	40.4%
4 位 モノレールとバス、タクシーの乗り継ぎが不便	123	27.2%
5 位 モノレール車内が混雑している	91	20.1%
6 位 タクシー乗り場が少ない	62	13.7%
7 位 バス停の間隔が長い（遠い）	34	7.5%
8 位 駅の案内表示、音声案内がわかりにくい	20	4.4%
— その他	111	24.5%
— 無回答	6	1.3%
合 計	1,047	—
回答者数	453	231.2%



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

【経年変化（平成 30 年度～令和 5 年度）】

前回調査と比較すると、「バスの路線がわかりづらい」の割合は 13.8 ポイント減少し、「バスの便数が少ない」の割合は 5.6 ポイント増加している。



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

居住地区別でみると、本庁は「バスの路線がわかりづらい」、真和志地区、首里地区では「バスの便数が少ない」、小禄地区では「バスが時間通りに来ない」の割合が最も高くなっている。

※ ■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		バスが時間通りに来ない	バスの便数が少ない	バスの路線がわかりづらい	バス停の間隔が長い(遠い)	モノレールとバス、タクシーの乗り継ぎが不便	タクシー乗り場が少ない	音声案内がわかりにくい	駅の案内表示、混雑している	モノレール車内が混雑している	その他	無回答
性別	男性 (n= 184)	81 44.0	61 33.2	81 44.0	14 7.6	44 23.9	30 16.3	4 2.2	40 21.7	48 26.1	4 2.2	
	女性 (n= 262)	127 48.5	119 45.4	122 46.6	19 7.3	76 29.0	31 11.8	15 5.7	50 19.1	62 23.7	2 0.8	
	その他 (n= 5)	1 20.0	2 40.0	3 60.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	-	-
年代別	10代 (n= 1)	1 100.0	1 100.0	1 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	20代 (n= 27)	18 66.7	8 29.6	8 29.6	3 11.1	7 25.9	2 7.4	-	6 22.2	5 18.5	1 3.7	
	30代 (n= 54)	22 40.7	14 25.9	18 33.3	2 3.7	10 18.5	2 3.7	1 1.9	16 29.6	24 44.4	-	-
	40代 (n= 90)	35 38.9	29 32.2	43 47.8	5 5.6	22 24.4	17 18.9	5 5.6	29 32.2	24 26.7	-	-
	50代 (n= 92)	50 54.3	32 34.8	50 54.3	6 6.5	21 22.8	12 13.0	6 6.5	19 20.7	23 25.0	-	-
	60代 (n= 74)	36 48.6	38 51.4	40 54.1	3 4.1	27 36.5	7 9.5	-	11 14.9	13 17.6	1 1.4	
	70代以上 (n= 115)	48 41.7	61 53.0	47 40.9	15 13.0	36 31.3	22 19.1	8 7.0	10 8.7	22 19.1	4 3.5	
地区別	本庁 (n= 154)	71 46.1	51 33.1	87 56.5	11 7.1	39 25.3	23 14.9	9 5.8	33 21.4	38 24.7	2 1.3	
	真和志 (n= 153)	69 45.1	71 46.4	59 38.6	11 7.2	51 33.3	17 11.1	6 3.9	23 15.0	35 22.9	2 1.3	
	小禄 (n= 74)	40 54.1	28 37.8	32 43.2	4 5.4	17 23.0	11 14.9	2 2.7	17 23.0	19 25.7	1 1.4	
	首里 (n= 70)	29 41.4	32 45.7	27 38.6	8 11.4	16 22.9	11 15.7	3 4.3	18 25.7	18 25.7	1 1.4	
居住年数別	1年未満 (n= 17)	7 41.2	3 17.6	11 64.7	-	5 29.4	1 5.9	1 5.9	3 17.6	4 23.5	-	-
	1～2年 (n= 26)	13 50.0	5 19.2	9 34.6	2 7.7	8 30.8	1 3.8	2 7.7	8 30.8	10 38.5	1 3.8	
	3～5年 (n= 38)	15 39.5	12 31.6	20 52.6	4 10.5	9 23.7	2 5.3	4 10.5	11 28.9	13 34.2	-	-
	6～10年 (n= 46)	18 39.1	15 32.6	29 63.0	3 6.5	9 19.6	5 10.9	4 8.7	13 28.3	10 21.7	-	-
	11～20年 (n= 68)	38 55.9	27 39.7	34 50.0	4 5.9	14 20.6	8 11.8	2 2.9	13 19.1	14 20.6	1 1.5	
	21年以上 (n= 258)	119 46.1	121 46.9	104 40.3	21 8.1	78 30.2	45 17.4	7 2.7	43 16.7	60 23.3	4 1.6	

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・モノレールが一部の地域の利用にかぎられている (29 人) 男性-50代-真和志地区・他
- ・タクシーがつかまらない (21 人) 女性-30代-本庁地区・他
- ・運賃が高い (17 人) 女性-30代-首里地区・他
- ・運転手のマナーが悪い (16 人) 男性-40代-本庁地区・他

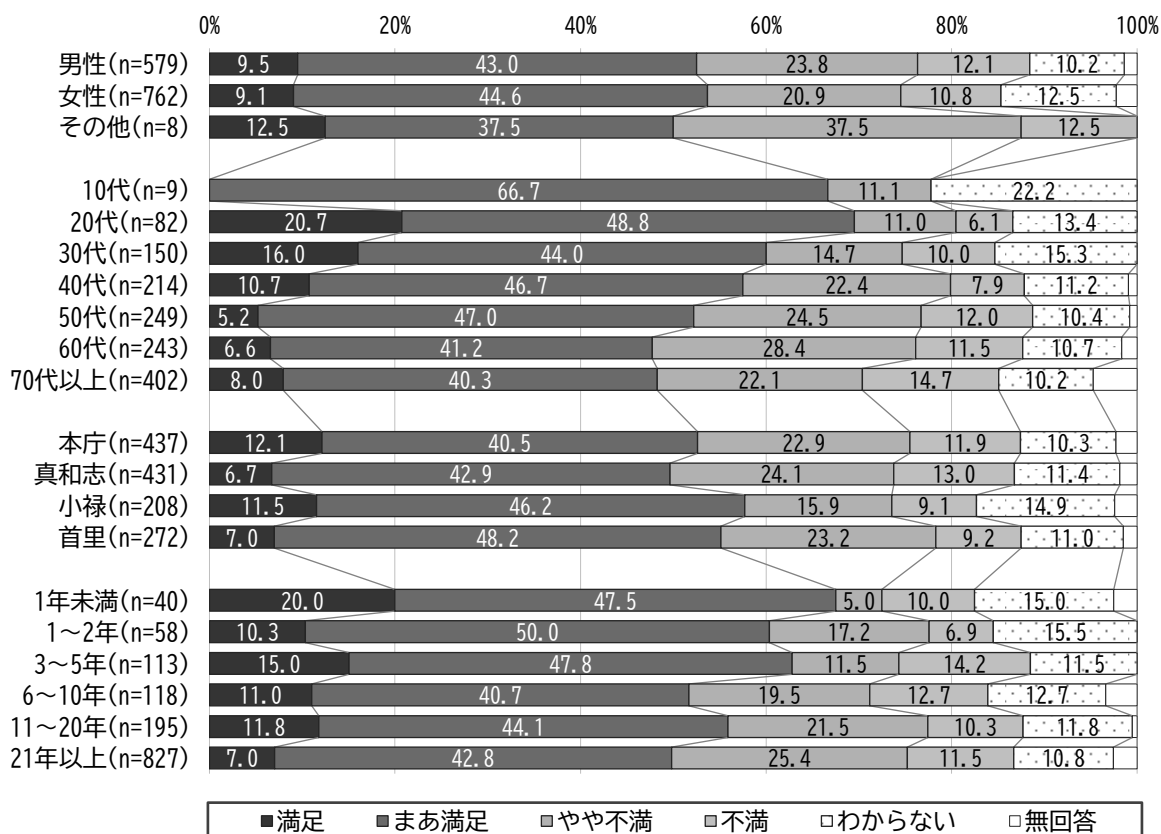
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）】

年代別では、40代以下で「満足」と「まあ満足」を合わせた割合が高く、50代以上で「不満」と「やや不満」を合わせた割合が高くなっている。

居住地区別では、真和志地区で「不満」と「やや不満」を合わせた割合が4割弱となっている。

選択項目 回答者属性(n=合計)	満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない	無回答
男性 (n= 579)	55	249	138	70	59	8
女性 (n= 762)	69	340	159	82	95	17
その他 (n= 8)	1	3	3	1	0	0
10代 (n= 9)	0	6	1	0	2	0
20代 (n= 82)	17	40	9	5	11	0
30代 (n= 150)	24	66	22	15	23	0
40代 (n= 214)	23	100	48	17	24	2
50代 (n= 249)	13	117	61	30	26	2
60代 (n= 243)	16	100	69	28	26	4
70代以上 (n= 402)	32	162	89	59	41	19
本庁 (n= 437)	53	177	100	52	45	10
真和志 (n= 431)	29	185	104	56	49	8
小禄 (n= 208)	24	96	33	19	31	5
首里 (n= 272)	19	131	63	25	30	4
1年未満 (n= 40)	8	19	2	4	6	1
1～2年 (n= 58)	6	29	10	4	9	0
3～5年 (n= 113)	17	54	13	16	13	0
6～10年 (n= 118)	13	48	23	15	15	4
11～20年 (n= 195)	23	86	42	20	23	1
21年以上 (n= 827)	58	354	210	95	89	21



(9) 中心市街地活性化について

質問 28. あなたが、次の中心市街地商店街へ行く回数をそれぞれ1つお選びください。

- 【国際通り】 { 1. ほぼ毎日 2. 週3～4回 3. 週1～2回
4. 月1～2回 5. 年1～2回 6. 全く行かない
- 【マチグラー】 { 1. ほぼ毎日 2. 週3～4回 3. 週1～2回
4. 月1～2回 5. 年1～2回 6. 全く行かない

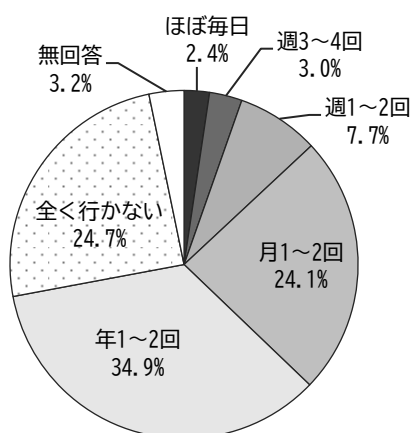
「国際通り」へ行く回数で最も多かったのは「年1～2回」、「マチグラー」へ行く回数で最も多かったのは「全く行かない」である。

中心市街地を、国際通りとマチグラーに分類し、行く回数について、それぞれ集計を行った。
国際通りへ行く回数は、「年1～2回」の割合が34.9%と最も高く、次いで「全く行かない」の割合が24.7%、「月1～2回」の割合が24.1%、の順となっている。

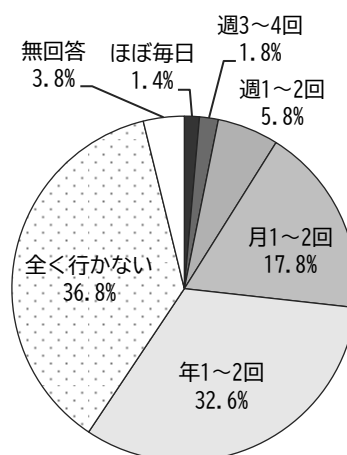
マチグラーについては、「全く行かない」の割合が36.8%と最も高く、次いで「年1～2回」の割合が32.6%、「月1～2回」の割合が17.8%の順となっている。

選択項目	国際通り		マチグラー	
	回答数	割合	回答数	割合
ほぼ毎日	32	2.4%	19	1.4%
週3～4回	41	3.0%	24	1.8%
週1～2回	104	7.7%	78	5.8%
月1～2回	327	24.1%	242	17.8%
年1～2回	473	34.9%	442	32.6%
全く行かない	335	24.7%	499	36.8%
無回答	44	3.2%	52	3.8%
合 計	1,356	100%	1,356	100%

【国際通り】



【マチグラー】



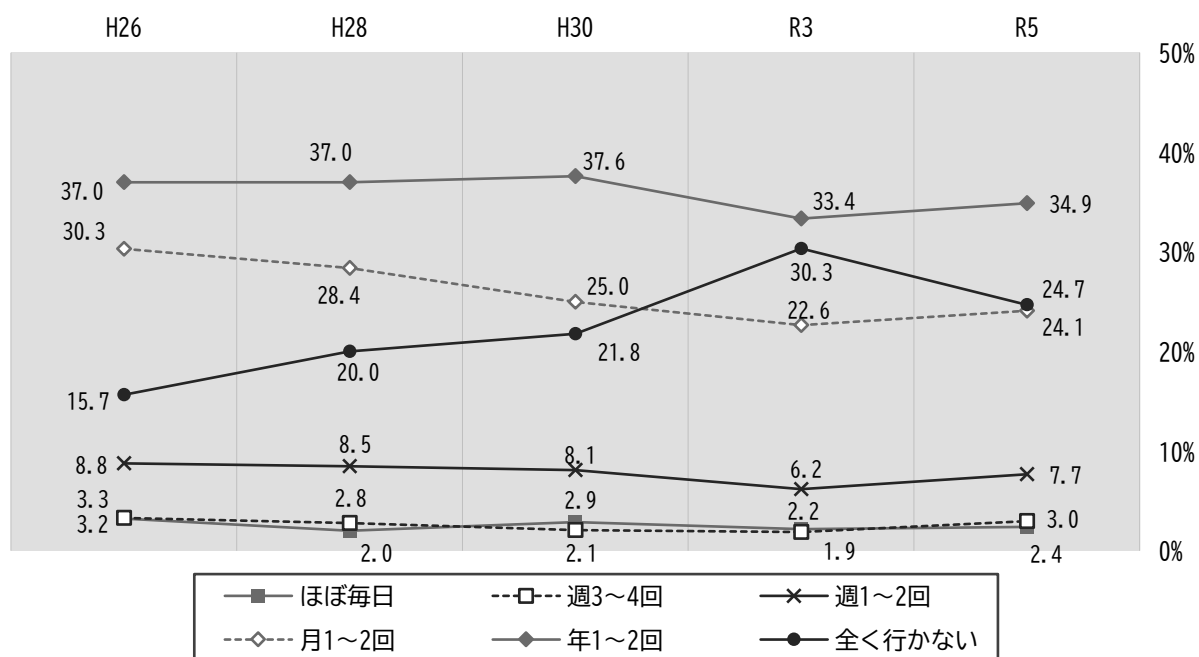
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【経年変化（平成 26 年度～令和 5 年度）】

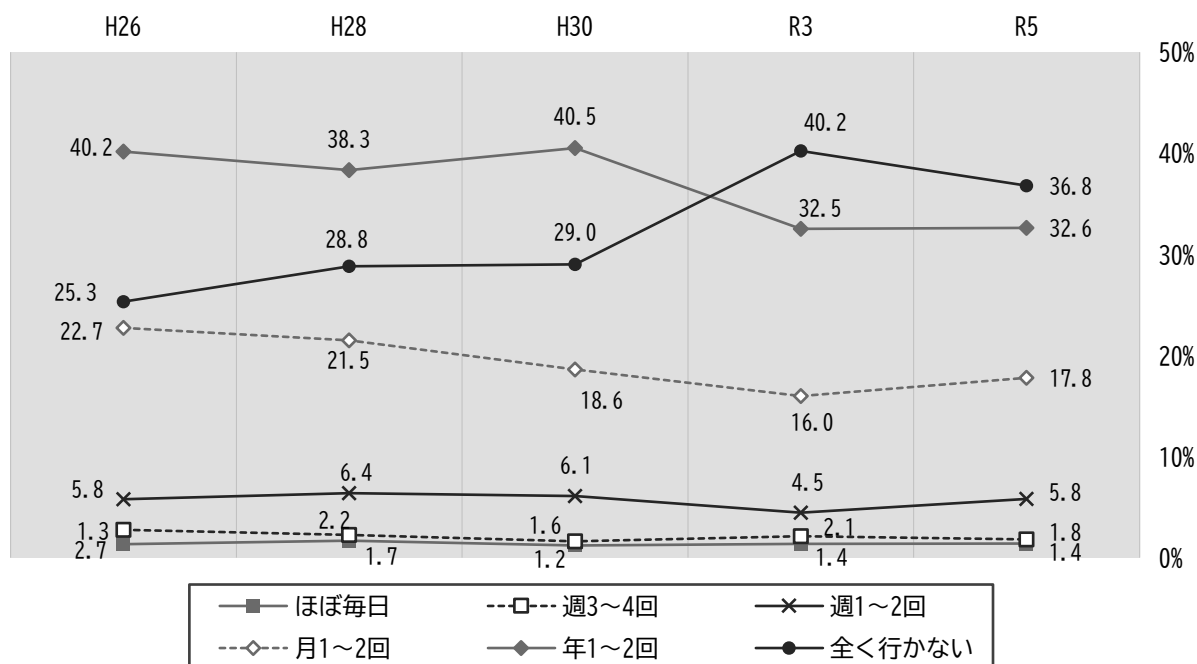
国際通りについて前回調査と比較すると、「全く行かない」の割合が 5.6 ポイント減少している。
マチグラーについて前回調査と比較すると、「全く行かない」の割合は 3.4 ポイント減少している。

新型コロナウイルス感染症の流行前の状態に戻りつつあると考えられる。

【国際通り】



【マチグラー】



【属性別集計（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）】

属性別では、通う頻度が高い（「ほぼ毎日」「週3～4日」「週1～2回」を合わせた割合）と、相対する通う頻度が低い（「月1～2回」「年1～2回」「全く行かない」を合わせた割合）に分けて、比較した。

性別では、あまり大きな違いは見られない。

年代別では、60代以下は、マチグワーに比べ、国際通りに通う頻度が高くなっている。

居住地区別でみると、本庁地区と真和志地区は、国際通り、マチグワーともに通う頻度が高くなっているが、小禄地区と首里地区は頻度が低くなっている。本庁地区と真和志地区は、国際通りやマチグワーに比較的近いことから、アクセスしやすく、通う頻度が高くなっていると考えられる。

【国際通り】



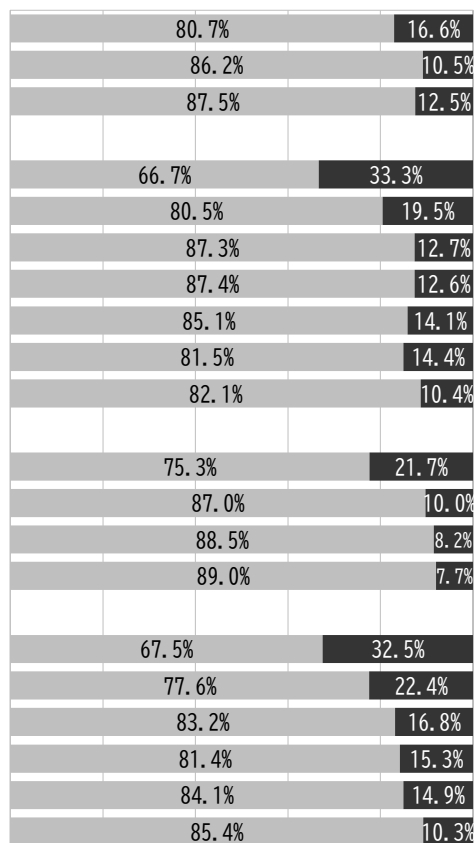
【マチグワー】



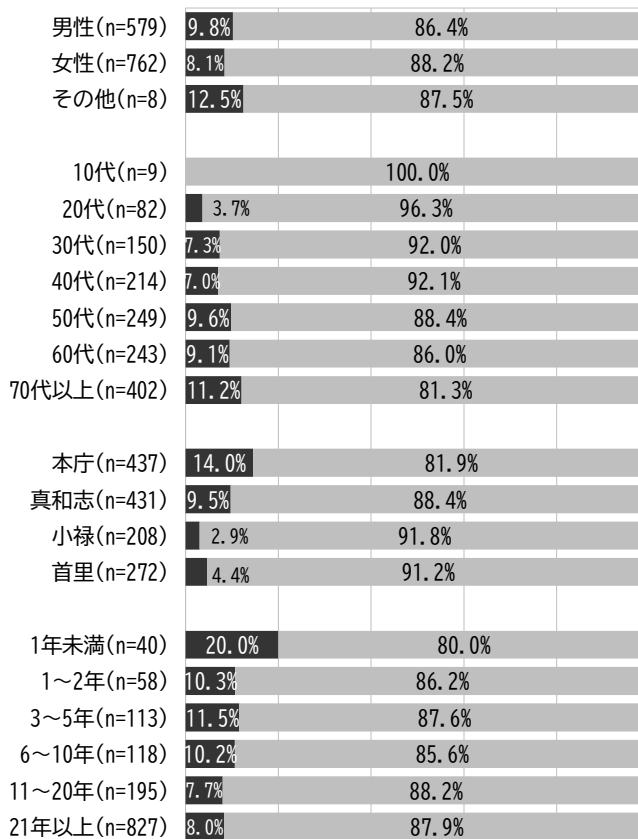
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

国際通り							選択項目 回答者属性(n=合計)		マチグラー						
無回答	全く行かない	年1～2回	月1～2回	週1～2回	週3～4回	ほぼ毎日			ほぼ毎日	週3～4回	週1～2回	月1～2回	年1～2回	全く行かない	無回答
16	134	186	147	58	17	21	男性	(n= 579)	9	11	37	112	184	204	22
25	198	281	178	45	24	11	女性	(n= 762)	10	13	39	128	254	290	28
0	2	3	2	1	0	0	その他	(n= 8)	0	0	1	1	3	3	0
0	1	4	1	2	0	1	10代	(n= 9)	0	0	0	2	1	6	0
0	10	20	36	12	3	1	20代	(n= 82)	0	1	2	21	28	30	0
0	30	55	46	12	4	3	30代	(n= 150)	0	4	7	31	53	54	1
0	42	89	56	14	7	6	40代	(n= 214)	3	3	9	44	73	80	2
2	54	97	61	21	9	5	50代	(n= 249)	4	4	16	48	86	86	5
10	71	84	43	18	7	10	60代	(n= 243)	4	5	13	38	83	88	12
30	127	120	83	25	11	6	70代以上	(n= 402)	8	7	30	56	117	154	30
13	77	132	120	56	21	18	本庁	(n= 437)	10	8	43	98	131	129	18
13	111	153	111	25	13	5	真和志	(n= 431)	6	13	22	94	136	151	9
7	60	85	39	13	3	1	小祿	(n= 208)	1	1	4	27	72	92	11
9	86	100	56	10	4	7	首里	(n= 272)	2	2	8	23	102	123	12
0	8	4	15	6	4	3	1年未満	(n= 40)	1	2	5	12	10	10	0
0	9	14	22	7	4	2	1～2年	(n= 58)	0	3	3	15	17	18	2
0	19	29	46	16	3	0	3～5年	(n= 113)	1	3	9	28	35	36	1
4	26	41	29	9	4	5	6～10年	(n= 118)	4	1	7	25	38	38	5
2	44	75	45	15	7	7	11～20年	(n= 195)	2	1	12	35	63	74	8
36	228	308	170	51	19	15	21年以上	(n= 827)	11	14	41	127	278	322	34

【国際通り】



【マチグラー】



■ ほぼ毎日～週1～2回 ■ 月1～2回～全く行かない

質問 29. 国際通りやマチグー等、中心市街地商店街を魅力あるものにするにはどのような方が必要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。（実施主体は行政・民間を問いません）

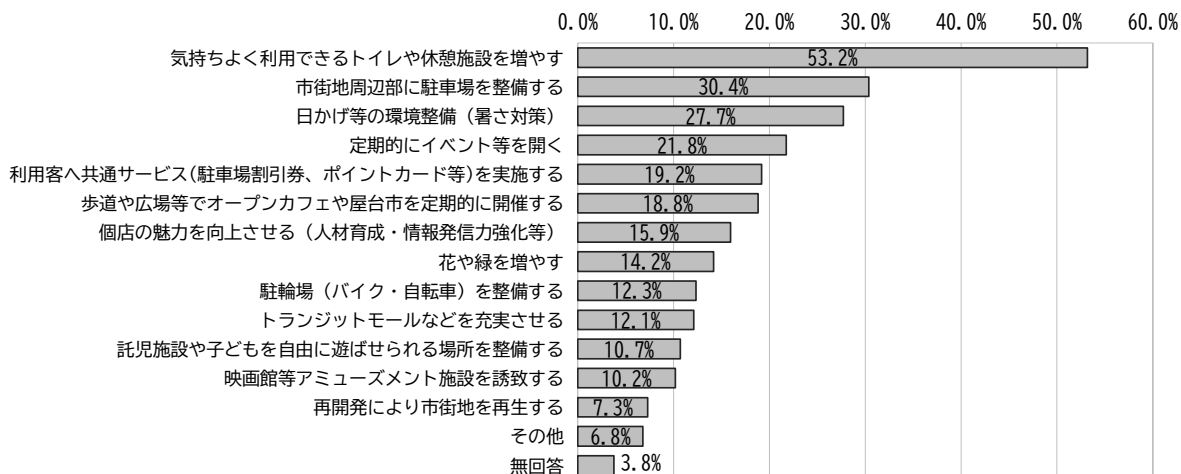
1. 花や緑を増やす
2. 日かげ等の環境整備（暑さ対策）
3. 定期的にイベント等を開く
4. トランジットモールなどを充実させる
5. 気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす
6. 歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的に開催する
7. 再開発により市街地を再生する
8. 市街地周辺部に駐車場を整備する
9. 駐輪場（バイク・自転車）を整備する
10. 託児施設や子供を自由に遊ばせられる場所を整備する
11. 個店の魅力を向上させる（人材育成・情報発信力強化等）
12. 映画館等アミューズメント施設を誘致する
13. 利用客へ共通サービス（駐車場割引券、ポイントカード等）を実施する
14. その他（ ）

中心市街地商店街を魅力あるものにするために必要だと思う方策について最も多かったのは「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」である。

中心市街地商店街を魅力あるものにするために必要だと思う方策については、「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」の割合が 53.2%で最も高く、次いで「市街地周辺部に駐車場を整備する」の割合が 30.4%、「日かげ等の環境整備（暑さ対策）」の割合が 27.7%の順となっている。

選択項目		回答数	割合
1 位	気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす	721	53.2%
2 位	市街地周辺部に駐車場を整備する	412	30.4%
3 位	日かげ等の環境整備（暑さ対策）	376	27.7%
4 位	定期的にイベント等を開く	295	21.8%
5 位	利用客へ共通サービス（駐車場割引券、ポイントカード等）を実施する	260	19.2%
6 位	歩道や広場等でオープンカフェや屋台市を定期的に開催する	255	18.8%
7 位	個店の魅力を向上させる（人材育成・情報発信力強化等）	216	15.9%
8 位	花や緑を増やす	192	14.2%
9 位	駐輪場（バイク・自転車）を整備する	167	12.3%
10 位	トランジットモールなどを充実させる	164	12.1%
11 位	託児施設や子どもを自由に遊ばせられる場所を整備する	145	10.7%
12 位	映画館等アミューズメント施設を誘致する	138	10.2%
13 位	再開発により市街地を再生する	99	7.3%
—	その他	92	6.8%
—	無回答	51	3.8%
合 計		3,583	—
回答者数		1,356	264.2%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。



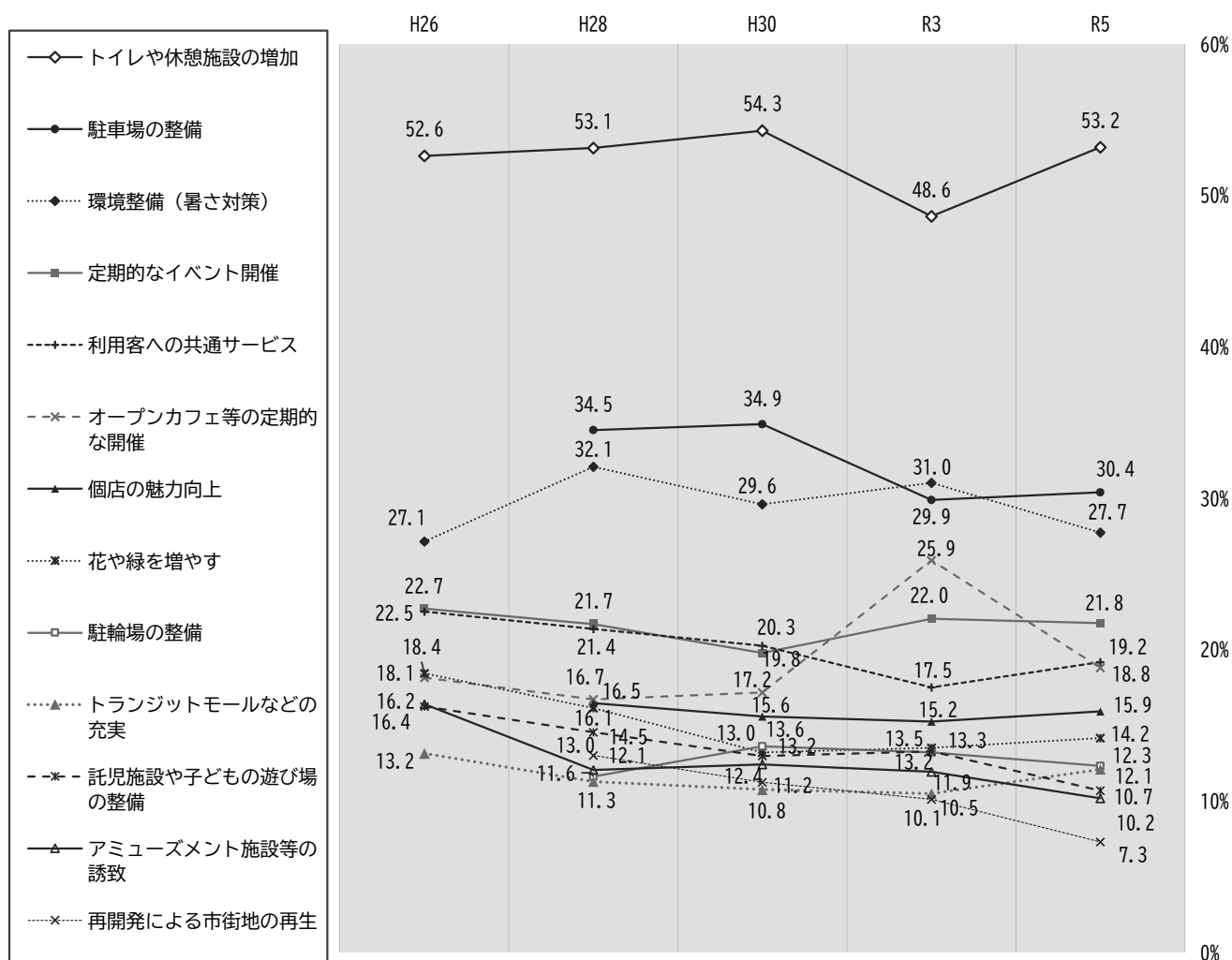
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【経年変化（平成 26 年度～令和 5 年度）】

前回調査と比較すると、「トイレや休憩施設の増加」の割合は 4.6 ポイント増加している。

2 位は、「駐車場の整備」となっており、0.5 ポイント増加している。3 位は、「環境整備（暑さ対策）」となっており、3.3 ポイント減少となっている。また、「オープンカフェ等の定期的な開催」の割合が 7.1 ポイント減少している。

※平成 30 年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成 26～28 年度も同様に割合を算出。



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・観光客優先感があるので、地元割等の導入（25 人）
- ・清潔感を重視したまちづくり（13 人）
- ・無料駐車場の整備（6 人）

女性-50 代-首里地区・他
女性-20 代-小禄地区・他
男性-40 代-本庁地区・他

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

すべての属性で「気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす」の割合が最も高くなっている。

年代別でみると、40代以下で「定期的にイベント等を開く」の割合が高くなっており、50代以上で「日かげ等の環境整備（暑さ対策）」の割合が高くなっている。

居住地区別でみると、小祿地区で「定期的にイベント等を開く」の割合が高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（%）		花や緑を増やす	日かげ等の環境整備（暑さ対策）	定期的にイベント等を開く	気持ちよく利用できるトイレや休憩施設を増やす	トランジットモールなどを充実させる	歩道や広場等でオープンカフェや屋台等を定期的に開催する	再開発により市街地を再生する	市街地周辺部に駐車場を整備する	駐輪場（バイク・自転車）を整備する	遊ばせられる場所を整備する	（人材育成・情報発信力強化等） （託児施設や子供を自由に遊ばせられる場所を整備する）	映画館等アミューズメント施設を誘致する	（駐車場割引券、ポイントカード等）を実施する	その他	無回答
性別	男性（n= 579）	75 13.0	143 24.7	128 22.1	82 14.2	311 53.7	110 19.0	62 10.7	177 30.6	98 16.9	47 8.1	97 16.8	57 9.8	96 16.6	39 6.7	19 3.3
	女性（n= 762）	114 15.0	227 29.8	164 21.5	81 10.6	402 52.8	142 18.6	37 4.9	230 30.2	68 8.9	98 12.9	116 15.2	80 10.5	163 21.4	52 6.8	30 3.9
	その他（n= 8）	2 25.0	3 37.5	2 25.0	1 12.5	4 50.0	3 37.5	-	3 37.5	1 12.5	-	1 12.5	1 12.5	1 12.5	-	-
年代別	10代（n= 9）	1 11.1	1 11.1	5 55.6	1 11.1	5 55.6	3 33.3	-	2 22.2	-	1 11.1	1 11.1	2 22.2	1 11.1	-	-
	20代（n= 82）	8 9.8	14 17.1	28 34.1	6 7.3	45 54.9	21 25.6	7 8.5	20 24.4	12 14.6	10 12.2	10 12.2	13 15.9	17 20.7	4 4.9	-
	30代（n= 150）	18 12.0	30 20.0	61 40.7	12 8.0	66 44.0	33 22.0	6 4.0	37 24.7	24 16.0	27 18.0	22 14.7	25 16.7	28 18.7	17 11.3	1 0.7
	40代（n= 214）	19 8.9	54 25.2	58 27.1	30 14.0	103 48.1	53 24.8	13 6.1	59 27.6	31 14.5	21 9.8	35 16.4	30 14.0	50 23.4	20 9.3	2 0.9
	50代（n= 249）	30 12.0	67 26.9	44 17.7	40 16.1	122 49.0	53 21.3	22 8.8	76 30.5	38 15.3	24 9.6	54 21.7	30 12.0	52 20.9	15 6.0	3 1.2
	60代（n= 243）	38 15.6	88 36.2	53 21.8	31 12.8	138 56.8	41 16.9	16 6.6	80 32.9	24 9.9	22 9.1	35 14.4	17 7.0	53 21.8	15 6.2	6 2.5
	70代以上（n= 402）	77 19.2	119 29.6	45 11.2	44 10.9	237 59.0	51 12.7	35 8.7	137 34.1	38 9.5	39 9.7	58 14.4	21 5.2	59 14.7	21 5.2	37 9.2
地区別	本庁（n= 437）	77 17.6	121 27.7	93 21.3	48 11.0	223 51.0	90 20.6	41 9.4	116 26.5	61 14.0	46 10.5	84 19.2	45 10.3	77 17.6	40 9.2	13 3.0
	真和志（n= 431）	60 13.9	132 30.6	99 23.0	50 11.6	241 55.9	75 17.4	30 7.0	130 30.2	53 12.3	52 12.1	56 13.0	45 10.4	70 16.2	23 5.3	15 3.5
	小祿（n= 208）	17 8.2	48 23.1	56 26.9	27 13.0	97 46.6	38 18.3	12 5.8	70 33.7	24 11.5	21 10.1	25 12.0	28 13.5	52 25.0	18 8.7	8 3.8
	首里（n= 272）	37 13.6	72 26.5	46 16.9	39 14.3	155 57.0	52 19.1	16 5.9	94 34.6	28 10.3	26 9.6	48 17.6	19 7.0	60 22.1	10 3.7	14 5.1
居住年数別	1年未満（n= 40）	5 12.5	15 37.5	13 32.5	4 10.0	21 52.5	8 20.0	3 7.5	9 22.5	5 12.5	5 12.5	7 17.5	4 10.0	6 15.0	5 12.5	-
	1～2年（n= 58）	10 17.2	11 19.0	17 29.3	7 12.1	31 53.4	13 22.4	3 5.2	15 25.9	4 6.9	6 10.3	8 13.8	6 10.3	12 20.7	4 6.9	1 1.7
	3～5年（n= 113）	15 13.3	20 17.7	28 24.8	14 12.4	60 53.1	21 18.6	9 8.0	27 23.9	20 17.7	14 12.4	27 23.9	15 13.3	18 15.9	10 8.8	2 1.8
	6～10年（n= 118）	18 15.3	31 26.3	33 28.0	16 13.6	52 44.1	26 22.0	7 5.9	35 29.7	14 11.9	18 15.3	18 15.3	10 8.5	26 22.0	11 9.3	5 4.2
	11～20年（n= 195）	24 12.3	52 26.7	51 26.2	20 10.3	106 54.4	46 23.6	11 5.6	49 25.1	25 12.8	21 10.8	31 15.9	28 14.4	35 17.9	17 8.7	4 2.1
	21年以上（n= 827）	120 14.5	244 29.5	153 18.5	102 12.3	448 54.2	140 16.9	66 8.0	275 33.3	99 12.0	81 9.8	124 15.0	75 9.1	163 19.7	45 5.4	38 4.6

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

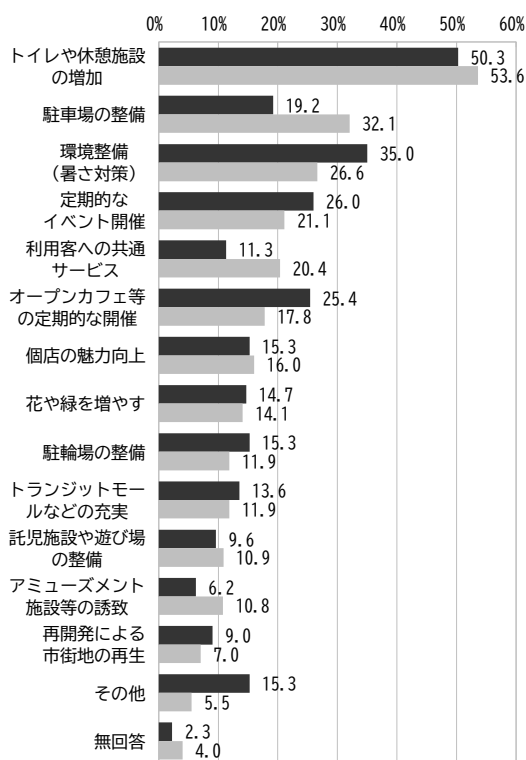
【属性別集計（回答者属性「中心市街地商店街への訪問頻度別」無回答除く）】

質問 28 で、国際通り、マチグラーに通う頻度の高い市民と頻度の低い市民で、それぞれの選択項目について比較を行ったところ、いずれも「トイレや休憩施設の増加」の割合が最も高くなっている。

また、国際通り、マチグラーともに、通う頻度の低い市民は、通う頻度の高い市民に比べ、特に「駐車場の整備」の割合が高くなっており、「環境整備（暑さ対策）」の割合が低くなっている。

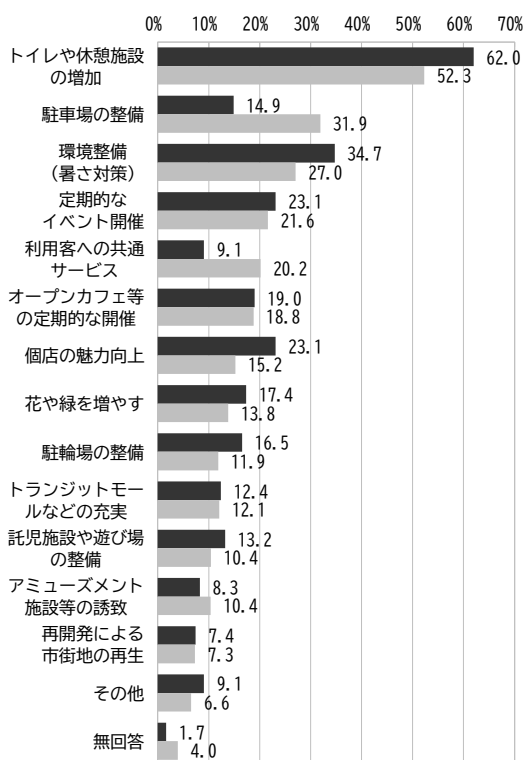
選択項目		トイレや休憩施設の増加	駐車場の整備	環境整備（暑さ対策）	定期的なイベント開催	利用客への共通サービス	オープンカフェ等の定期的な開催	個店の魅力向上	花や緑を増やす	駐輪場の整備	トランジットモールなどの充実	託児施設や遊び場の整備	アミューズメント施設等の誘致	再開発による市街地の再生	その他	無回答
回答者属性 (n=合計)																
国際通り	合 計	721	412	376	295	260	255	216	192	167	164	145	138	99	92	51
	ほぼ毎日～週1～2回 (n= 177)	89	34	62	46	20	45	27	26	27	24	17	11	16	27	4
	月1～2回～全く行かない (n= 1,179)	632	378	314	249	240	210	189	166	140	140	128	127	83	65	47
マチグラー	合 計	721	412	376	295	260	255	216	192	167	164	145	138	99	92	51
	ほぼ毎日～週1～2回 (n= 121)	75	18	42	28	11	23	28	21	20	15	16	10	9	11	2
	月1～2回～全く行かない (n= 1,235)	646	394	334	267	249	232	188	171	147	149	129	128	90	81	49

【国際通り】



■ ほぼ毎日～週1～2回 ■ 月1～2回～全く行かない

【マチグラー】



■ ほぼ毎日～週1～2回 ■ 月1～2回～全く行かない

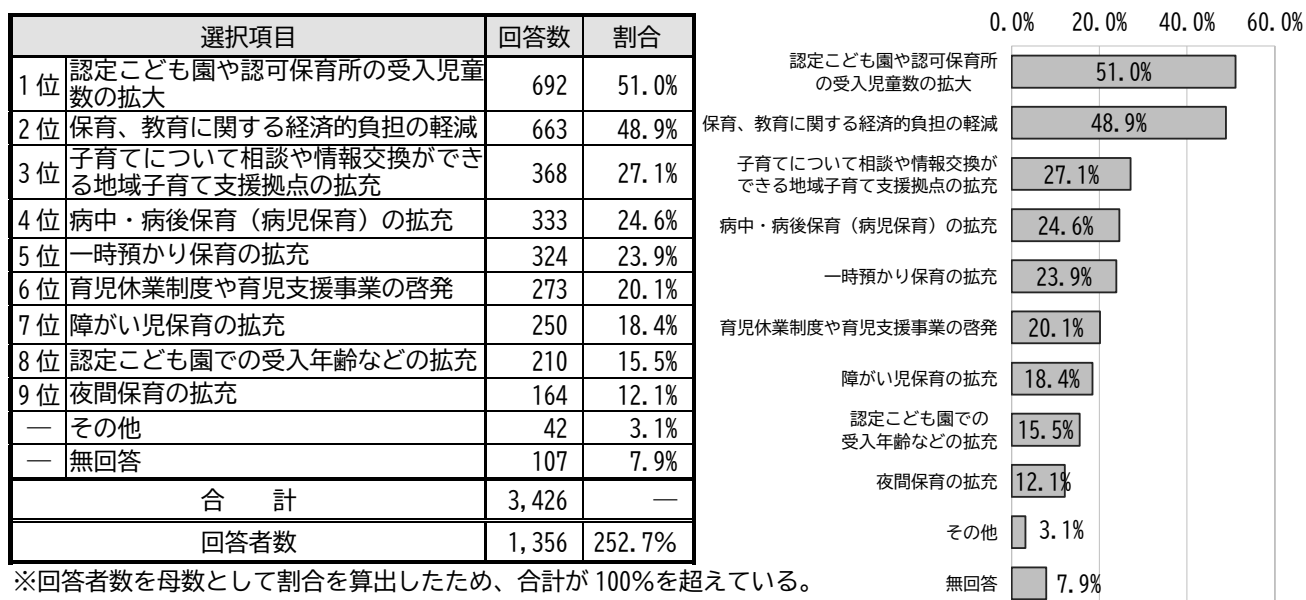
(10) 子育て支援について

質問 30. 小学校就学前までの子育て支援策について、優先的に取り組んでほしい施策を、次の中から3つまでお選びください。

1. 認定こども園や認可保育所の受入児童数の拡大
2. 認定こども園での受入年齢などの拡充
3. 子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充
4. 病中・病後保育（病児保育）の拡充
5. 障がい児保育の拡充
6. 夜間保育の拡充
7. 一時預かり保育の拡充
8. 育児休業制度や育児支援事業の啓発
9. 保育、教育に関する経済的負担の軽減
10. その他（ ）

子育て支援策のうち優先的に取り組んでほしい施策について最も多かったのは、「認定こども園や認可保育所の受け入れ児童数の拡大」である。

子育て支援策について優先的に取り組んでほしい施策については、「認定こども園や認可保育所の受け入れ児童数の拡大」の割合が51.0%で最も高く、次いで「保育、教育に関する経済的負担の軽減」の割合が48.9%、「子育てについて相談や情報交換ができる地域子育て支援拠点の拡充」の割合が27.1%の順となっている。

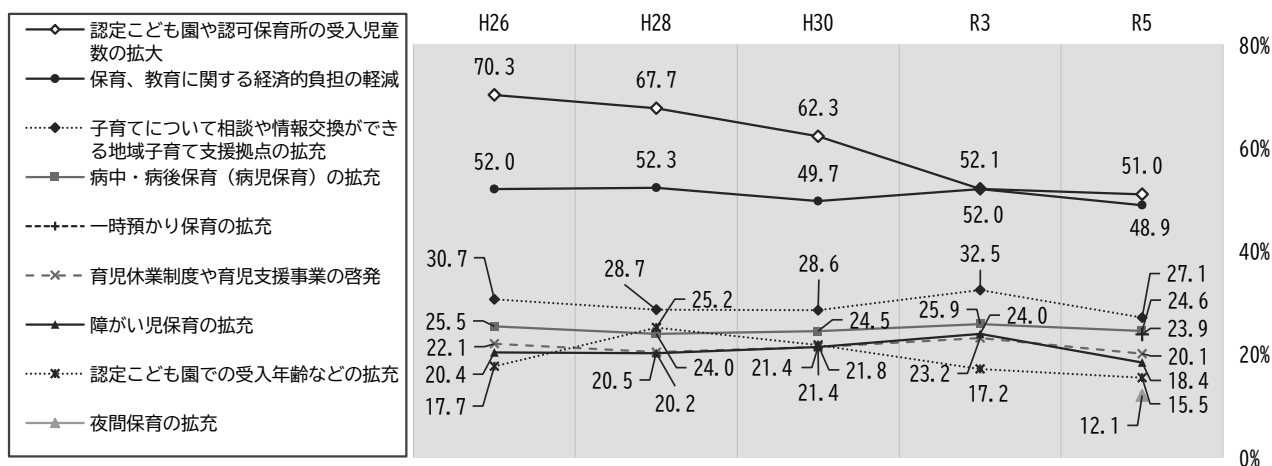


※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

【経年変化（平成26年度～令和5年度）】

平成26年度の調査より、上位3項目の順位は変わらない。

※平成30年度より、回答者数を母数として割合を算出しているため、平成26～28年度も同様に割合を算出。



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、女性は「病中・病後保育（病児保育）の拡充」の割合が高くなっている。

年代別でみると、30代、40代で「保育、教育に関する経済的負担の軽減」の割合が最も高くなっており、子育て世代における経済的支援に対する要望が高い。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		選択項目	認定こども園や認可保育所の受入児童数の拡大	認定こども園での受入年齢などの拡充	子育てについて相談や情報交換ができる地域の子育て支援拠点の拡充	病中・病後保育（病児保育）の拡充	障がい児保育の拡充	夜間保育の拡充	一時預かり保育の拡充	育児休業制度や育児支援事業の啓発	保育、教育に関する経済的負担の軽減	その他	無回答
性別	男性 (n= 579)		325 56.1	114 19.7	155 26.8	113 19.5	98 16.9	93 16.1	125 21.6	104 18.0	293 50.6	16 2.8	41 7.1
	女性 (n= 762)		364 47.8	96 12.6	211 27.7	214 28.1	148 19.4	70 9.2	195 25.6	167 21.9	364 47.8	24 3.1	63 8.3
	その他 (n= 8)		2 25.0	-	1 12.5	4 50.0	3 37.5	1 12.5	4 50.0	2 25.0	4 50.0	-	1.0 12.5
年代別	10代 (n= 9)		3 33.3	1 11.1	1 11.1	2 22.2	2 22.2	1 11.1	2 22.2	4 44.4	4 44.4	-	-
	20代 (n= 82)		48 58.5	13 15.9	17 20.7	14 17.1	9 11.0	17 20.7	18 22.0	26 31.7	44 53.7	4 4.9	1 1.2
	30代 (n= 150)		79 52.7	26 17.3	18 12.0	43 28.7	31 20.7	24 16.0	45 30.0	38 25.3	81 54.0	8 5.3	3 2.0
	40代 (n= 214)		110 51.4	24 11.2	45 21.0	70 32.7	42 19.6	23 10.7	54 25.2	44 20.6	123 57.5	13 6.1	3 1.4
	50代 (n= 249)		126 50.6	44 17.7	80 32.1	74 29.7	54 21.7	33 13.3	62 24.9	38 15.3	111 44.6	6 2.4	11 4.4
	60代 (n= 243)		134 55.1	44 18.1	85 35.0	61 25.1	44 18.1	26 10.7	61 25.1	46 18.9	122 50.2	3 1.2	13 5.3
	70代以上 (n= 402)		190 47.3	58 14.4	119 29.6	66 16.4	67 16.7	40 10.0	82 20.4	77 19.2	175 43.5	7 1.7	75 18.7
地区別	本庁 (n= 437)		231 52.9	62 14.2	113 25.9	113 25.9	80 18.3	64 14.6	109 24.9	83 19.0	206 47.1	9 2.1	34 7.8
	真和志 (n= 431)		212 49.2	70 16.2	113 26.2	115 26.7	83 19.3	53 12.3	90 20.9	89 20.6	211 49.0	14 3.2	33 7.7
	小禄 (n= 208)		117 56.3	33 15.9	53 25.5	39 18.8	36 17.3	22 10.6	43 20.7	47 22.6	108 51.9	8 3.8	17 8.2
	首里 (n= 272)		129 47.4	45 16.5	87 32.0	64 23.5	51 18.8	24 8.8	79 29.0	54 19.9	134 49.3	10 3.7	21 7.7
居住年数別	1年未満 (n= 40)		18 45.0	8 20.0	11 27.5	10 25.0	4 10.0	4 10.0	8 20.0	13 32.5	18 45.0	1 2.5	4 10.0
	1～2年 (n= 58)		32 55.2	10 17.2	7 12.1	15 25.9	12 20.7	7 12.1	12 20.7	12 20.7	27 46.6	4 6.9	1 1.7
	3～5年 (n= 113)		56 49.6	15 13.3	31 27.4	26 23.0	15 13.3	15 13.3	31 27.4	25 22.1	55 48.7	3 2.7	8 7.1
	6～10年 (n= 118)		56 47.5	20 16.9	31 26.3	29 24.6	25 21.2	20 16.9	32 27.1	20 16.9	54 45.8	4 3.4	7 5.9
	11～20年 (n= 195)		91 46.7	23 11.8	43 22.1	63 32.3	38 19.5	23 11.8	56 28.7	34 17.4	107 54.9	12 6.2	9 4.6
	21年以上 (n= 827)		438 53.0	133 16.1	244 29.5	188 22.7	155 18.7	95 11.5	184 22.2	168 20.3	402 48.6	17 2.1	77 9.3

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・保育士の労働条件の向上等（7人）
- ・育児支援（7人）

女性-30代-首里地区・他
女性-40代-本庁地区・他

質問 31. ひとり親世帯への子育て支援策について、市に取り組んでほしいまたは拡充してほしいと思うことを次の中から2つまでお選びください。

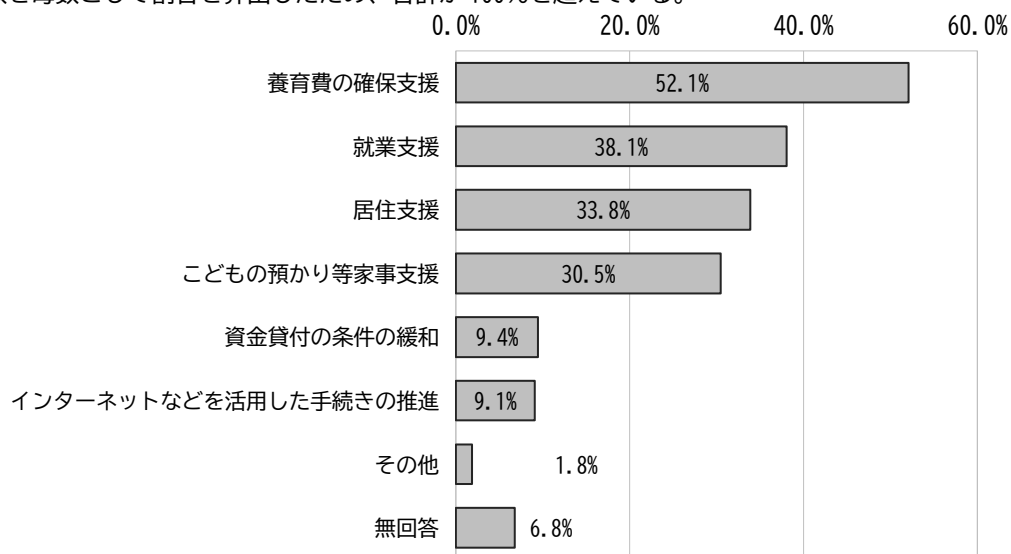
- | | | |
|-----------------|-------------------------|---------|
| 1. 養育費の確保支援 | 2. 就業支援 | 3. 居住支援 |
| 4. 資金貸付の条件の緩和 | 5. インターネットなどを活用した手続きの推進 | |
| 6. こどもの預かり等家事支援 | 7. その他 () | |

ひとり親世帯への子育て支援策のうち市に取り組んでほしいまたは拡充してほしいと思うことについて最も多かったのは、「養育費の確保支援」である。

子育て支援策について優先的に取り組んでほしい施策については、「養育費の確保支援」の割合が 52.1%で最も高く、次いで「就業支援」の割合が 38.1%、「居住支援」の割合が 33.8%の順となっている。

選択項目		回答数	割合
1 位	養育費の確保支援	706	52.1%
2 位	就業支援	516	38.1%
3 位	居住支援	459	33.8%
4 位	こどもの預かり等家事支援	413	30.5%
5 位	資金貸付の条件の緩和	128	9.4%
6 位	インターネットなどを活用した手続きの推進	123	9.1%
—	その他	25	1.8%
—	無回答	92	6.8%
合 計		2,462	—
回答者数		1,356	181.6%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・現状確認 (3 人)
- ・学業支援 (2 人)

女性-40 代-本庁地区・他
女性-50 代-首里地区・他

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

ほぼすべての属性において、「養育費の確保支援」の割合が高い。

性別でみると、男性は「居住支援」、女性は「こどもの預かり等家事支援」の割合が高くなっている。

年代別でみると、40代、50代で「就業支援」の割合が4割を上回っている。

※■は第1位、■は第2位、□は第3位の項目

選択項目 回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（％）		養育費の確保支援	就業支援	居住支援	資金貸付の条件の緩和	きょういんを生活に活用したネットバンク	こども預かり等家事支援	その他	無回答
性別	男性（n= 579）	331 57.2	214 37.0	210 36.3	60 10.4	58 10.0	164 28.3	9 1.6	28 4.8
	女性（n= 762）	368 48.3	297 39.0	245 32.2	67 8.8	64 8.4	247 32.4	16 2.1	61 8.0
	その他（n= 8）	3 37.5	3 37.5	3 37.5	1 12.5	- -	2 25.0	- -	1 12.5
年代別	10代（n= 9）	7 77.8	1 11.1	3 33.3	2 22.2	2 22.2	2 22.2	- -	- -
	20代（n= 82）	44 53.7	27 32.9	24 29.3	10 12.2	14 17.1	25 30.5	4 4.9	2 2.4
	30代（n= 150）	75 50.0	49 32.7	55 36.7	13 8.7	28 18.7	46 30.7	5 3.3	4 2.7
	40代（n= 214）	98 45.8	91 42.5	67 31.3	24 11.2	38 17.8	72 33.6	7 3.3	2 0.9
	50代（n= 249）	132 53.0	100 40.2	82 32.9	21 8.4	24 9.6	76 30.5	5 2.0	14 5.6
	60代（n= 243）	138 56.8	94 38.7	94 38.7	21 8.6	8 3.3	76 31.3	2 0.8	13 5.3
	70代以上（n= 402）	208 51.7	152 37.8	132 32.8	37 9.2	9 2.2	114 28.4	2 0.5	56 13.9
地区別	本庁（n= 437）	224 51.3	180 41.2	132 30.2	39 8.9	48 11.0	130 29.7	11 2.5	30 6.9
	真和志（n= 431）	222 51.5	165 38.3	145 33.6	43 10.0	29 6.7	143 33.2	6 1.4	29 6.7
	小禄（n= 208）	112 53.8	63 30.3	83 39.9	18 8.7	22 10.6	57 27.4	3 1.4	14 6.7
	首里（n= 272）	142 52.2	105 38.6	97 35.7	28 10.3	24 8.8	82 30.1	5 1.8	18 6.6
居住年数別	1年未満（n= 40）	15 37.5	16 40.0	11 27.5	3 7.5	6 15.0	14 35.0	2 5.0	4 10.0
	1～2年（n= 58）	33 56.9	17 29.3	16 27.6	5 8.6	8 13.8	22 37.9	1 1.7	1 1.7
	3～5年（n= 113）	52 46.0	35 31.0	50 44.2	15 13.3	14 12.4	32 28.3	1 0.9	6 5.3
	6～10年（n= 118）	61 51.7	45 38.1	36 30.5	12 10.2	16 13.6	39 33.1	3 2.5	5 4.2
	11～20年（n= 195）	100 51.3	74 37.9	61 31.3	10 5.1	28 14.4	62 31.8	11 5.6	8 4.1
	21年以上（n= 827）	443 53.6	327 39.5	284 34.3	82 9.9	51 6.2	244 29.5	7 0.8	67 8.1

質問 32. こどもの貧困を解消し、こどもの未来を応援する取り組みとして、あなたが効果的だと思う施策は次のうちどれですか。次の中から3つまでお選びください。

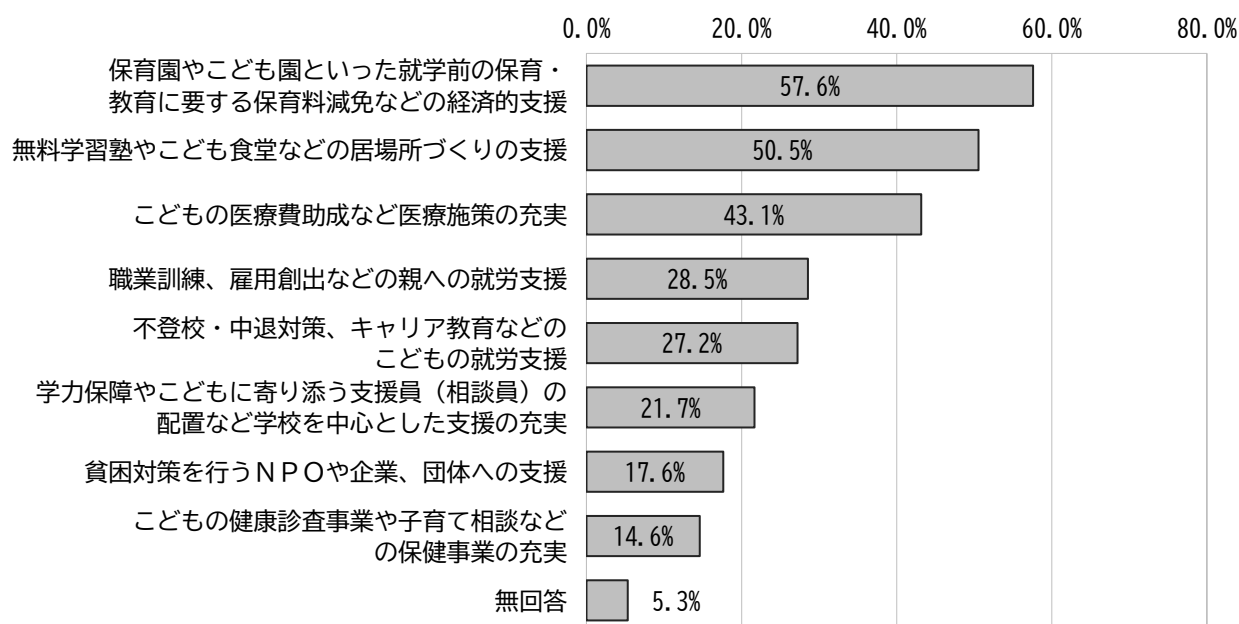
1. 保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援
2. こどもの医療費助成など医療施策の充実
3. こどもの健康診査事業や子育て相談などの保健事業の充実
4. 無料学習塾やこども食堂などの居場所づくりの支援
5. 学力保障やこどもに寄り添う支援員（相談員）の配置など学校を中心とした支援の充実
6. 不登校・中退対策、キャリア教育などのこどもの就労支援
7. 職業訓練、雇用創出などの親への就労支援
8. 貧困対策を行うNPOや企業、団体への支援

こどもの未来を応援する取り組みとして効果的だと思う施策について最も多かったのは、「保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援」である。

こどもの貧困を解消し、こどもの未来を応援する取り組みとして、効果的だと思う施策については、「保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援」の割合が57.6%と最も高く、次いで「無料学習塾やこども食堂などの居場所づくりの支援」の割合が50.5%、「こどもの医療費助成など医療施策の充実」の割合が43.1%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
1位 保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援	781	57.6%
2位 無料学習塾やこども食堂などの居場所づくりの支援	685	50.5%
3位 こどもの医療費助成など医療施策の充実	585	43.1%
4位 職業訓練、雇用創出などの親への就労支援	387	28.5%
5位 不登校・中退対策、キャリア教育などのこどもの就労支援	369	27.2%
6位 学力保障やこどもに寄り添う支援員（相談員）の配置など学校を中心とした支援の充実	294	21.7%
7位 貧困対策を行うNPOや企業、団体への支援	239	17.6%
8位 こどもの健康診査事業や子育て相談などの保健事業の充実	198	14.6%
－ 無回答	72	5.3%
合 計	3,610	—
回答者数	1,356	266.2%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別でみると、40代で「無料学習塾やこども食堂などの居場所づくりの支援」、その他の年代では「保育園やこども園といった就学前の保育・教育に要する保育料減免などの経済的支援」の割合が最も高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		保育園やこども園といった 就学前の保育・教育に要する 保育料減免などの経済的支援	こどもの医療費助成など 医療施策の充実	こどもの健康診断事業や子育て 相談などの保健事業の充実	無料学習塾やこども食堂などの 居場所づくりの支援	学力保障やこどもに寄り添った 支援員（相談員）の配置など 学校を中心とした支援の充実	不登校・中退対策、キャリア 教育などのこどもの就労支援	職業訓練、雇用創出などの 親への就労支援	貧困対策を行うNPOや 企業、団体への支援	無回答
性別	男性 (n= 579)	369 63.7	251 43.4	92 15.9	291 50.3	114 19.7	141 24.4	173 29.9	89 15.4	29 5.0
	女性 (n= 762)	404 53.0	324 42.5	104 13.6	388 50.9	177 23.2	226 29.7	211 27.7	148 19.4	41 5.4
	その他 (n= 8)	4 50.0	6 75.0	2 25.0	3 37.5	2 25.0	1 12.5	2 25.0	2 25.0	0 -
年代別	10代 (n= 9)	5 55.6	3 33.3	2 22.2	4 44.4	1 11.1	5 55.6	2 22.2	1 11.1	-
	20代 (n= 82)	51 62.2	35 42.7	10 12.2	46 56.1	22 26.8	26 31.7	22 26.8	8 9.8	-
	30代 (n= 150)	88 58.7	66 44.0	21 14.0	82 54.7	36 24.0	51 34.0	38 25.3	26 17.3	3 2.0
	40代 (n= 214)	104 48.6	100 46.7	31 14.5	107 50.0	64 29.9	61 28.5	70 32.7	35 16.4	2 0.9
	50代 (n= 249)	132 53.0	106 42.6	31 12.4	126 50.6	68 27.3	74 29.7	75 30.1	39 15.7	10 4.0
	60代 (n= 243)	148 60.9	114 46.9	33 13.6	125 51.4	38 15.6	58 23.9	69 28.4	54 22.2	10 4.1
	70代以上 (n= 402)	248 61.7	157 39.1	69 17.2	193 48.0	64 15.9	91 22.6	110 27.4	76 18.9	46 11.4
地区別	本庁 (n= 437)	247 56.5	185 42.3	71 16.2	213 48.7	96 22.0	118 27.0	136 31.1	86 19.7	21 4.8
	真和志 (n= 431)	245 56.8	187 43.4	61 14.2	216 50.1	98 22.7	126 29.2	128 29.7	73 16.9	24 5.6
	小祿 (n= 208)	118 56.7	86 41.3	23 11.1	116 55.8	37 17.8	60 28.8	49 23.6	34 16.3	12 5.8
	首里 (n= 272)	166 61.0	122 44.9	42 15.4	138 50.7	61 22.4	65 23.9	74 27.2	45 16.5	13 4.8
居住年数別	1年未満 (n= 40)	19 47.5	21 52.5	5 12.5	17 42.5	10 25.0	14 35.0	14 35.0	6 15.0	1 2.5
	1～2年 (n= 58)	37 63.8	25 43.1	7 12.1	27 46.6	15 25.9	18 31.0	12 20.7	8 13.8	1 1.7
	3～5年 (n= 113)	62 54.9	46 40.7	10 8.8	66 58.4	29 25.7	33 29.2	29 25.7	16 14.2	6 5.3
	6～10年 (n= 118)	67 56.8	54 45.8	31 26.3	59 50.0	25 21.2	31 26.3	32 27.1	14 11.9	3 2.5
	11～20年 (n= 195)	106 54.4	80 41.0	28 14.4	107 54.9	45 23.1	55 28.2	60 30.8	37 19.0	9 4.6
	21年以上 (n= 827)	487 58.9	357 43.2	117 14.1	408 49.3	168 20.3	217 26.2	239 28.9	157 19.0	51 6.2

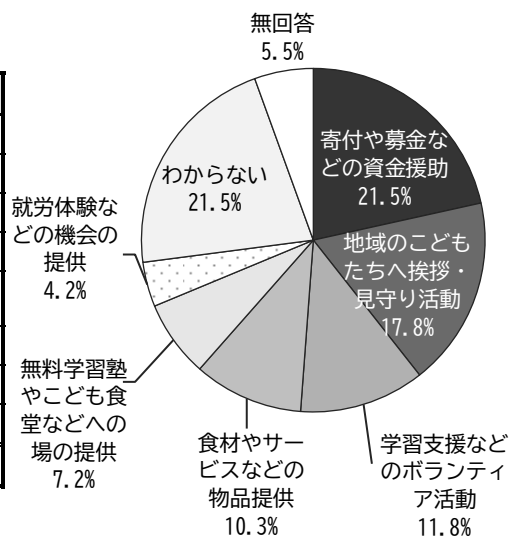
質問 33. こどもの未来を応援する取り組みとして、あなたができると思うことを次の中から1つお選びください。

1. 学習支援などのボランティア活動
2. 寄付や募金などの資金援助
3. 食材やサービスなどの物品提供
4. 無料学習塾やこども食堂などへの場の提供
5. 就労体験などの機会の提供
6. 地域のこどもたちへ挨拶・見守り活動
7. わからない

こどもの未来を応援する取り組みとして市民ができると思うことについて最も多かったのは「寄付や募金などの資金援助」である。

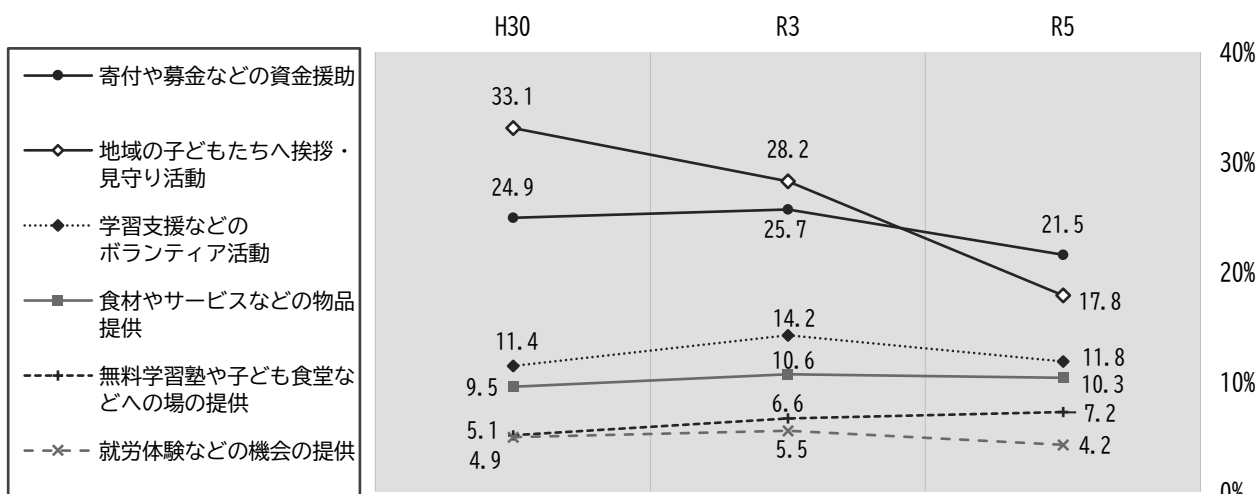
子どもの未来を応援する取り組みとして、市民ができると思うことについては、「寄付や募金などの資金援助」の割合が 21.5%と最も高く、次いで「地域の子どもたちへ挨拶・見守り活動」の割合が 17.8%、「学習支援などのボランティア活動」の割合が 11.8%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
1位 寄付や募金などの資金援助	292	21.5%
2位 地域の子どもたちへ挨拶・見守り活動	242	17.8%
3位 学習支援などのボランティア活動	160	11.8%
4位 食材やサービスなどの物品提供	140	10.3%
5位 無料学習塾やこども食堂などへの場の提供	98	7.2%
6位 就労体験などの機会の提供	57	4.2%
— わからない	292	21.5%
— 無回答	75	5.5%
合 計	1,356	100%



【経年変化（平成 30 年度～令和 5 年度）】

前回調査と比較すると、「地域の子どもたちへ挨拶・見守り活動」の割合が 10.4 ポイント減少している。

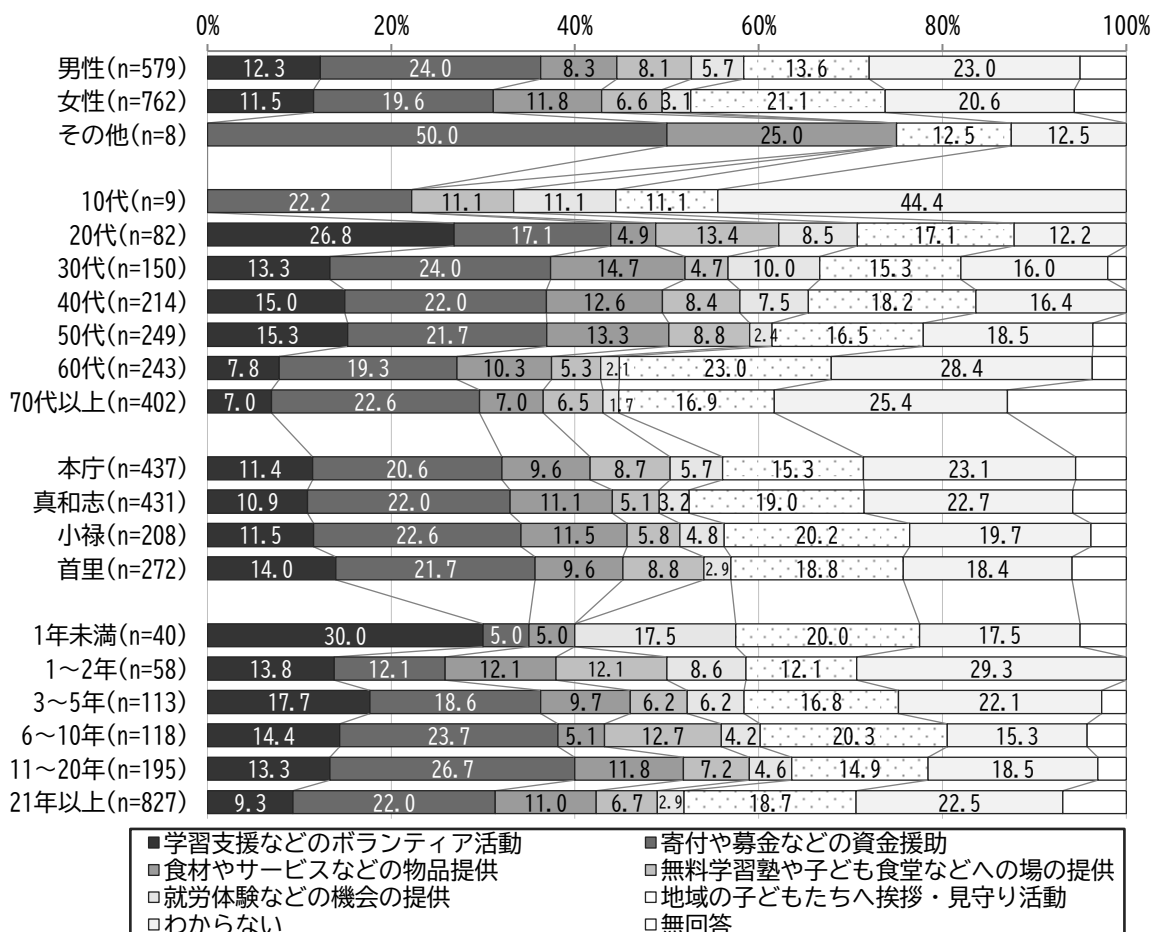


IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別でみると、20代では「学習支援などのボランティア活動」の割合が最も高くなっている。
居住年数別でみると、1年未満では「学習支援などのボランティア活動」の割合が最も高くなっている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	学習支援などの ボランティア活動	寄付や募金などの 資金援助	食材やサービス などの物品提供	無料学習塾や 子ども食堂など への場の提供	就労体験などの 機会の提供	地域のごども たちへ挨拶・ 見守り活動	わからない	無回答
男性 (n= 579)		71	139	48	47	33	79	133	29
女性 (n= 762)		88	149	90	50	24	161	157	43
その他 (n= 8)		0	4	2	0	0	1	1	0
10代 (n= 9)		0	2	0	1	1	1	4	0
20代 (n= 82)		22	14	4	11	7	14	10	0
30代 (n= 150)		20	36	22	7	15	23	24	3
40代 (n= 214)		32	47	27	18	16	39	35	0
50代 (n= 249)		38	54	33	22	6	41	46	9
60代 (n= 243)		19	47	25	13	5	56	69	9
70代以上 (n= 402)		28	91	28	26	7	68	102	52
本庁 (n= 437)		50	90	42	38	25	67	101	24
真和志 (n= 431)		47	95	48	22	14	82	98	25
小禄 (n= 208)		24	47	24	12	10	42	41	8
首里 (n= 272)		38	59	26	24	8	51	50	16
1年未満 (n= 40)		12	2	2	0	7	8	7	2
1～2年 (n= 58)		8	7	7	7	5	7	17	0
3～5年 (n= 113)		20	21	11	7	7	19	25	3
6～10年 (n= 118)		17	28	6	15	5	24	18	5
11～20年 (n= 195)		26	52	23	14	9	29	36	6
21年以上 (n= 827)		77	182	91	55	24	155	186	57



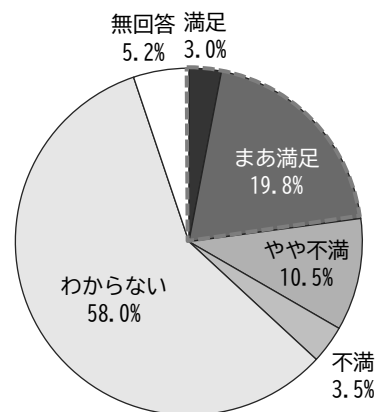
質問 34. 本市における子育て支援（保育所での延長保育、放課後児童クラブの設置等）の取り組みについて満足していますか。次の中から1つお選びください。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

本市の子育て支援の取り組みに「満足」の割合は 22.8%、「不満」の割合は 14.0%である。

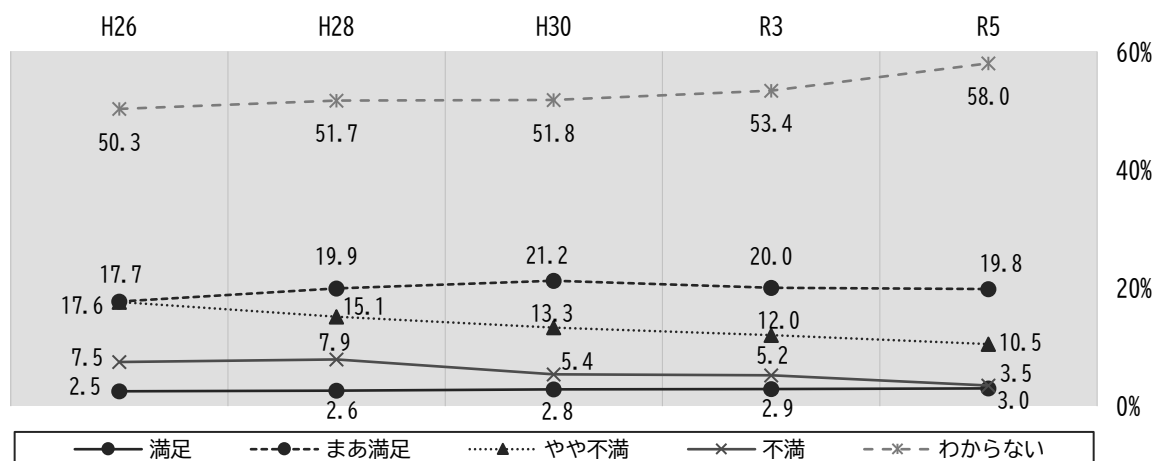
子育て支援の取り組みについて満足しているかについては、「わからない」の割合が 58.0%と最も多く、次いで「まあ満足」の割合が 19.8%、「やや不満」の割合が 10.5%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
満足	41	3.0%
まあ満足	269	19.8%
やや不満	142	10.5%
不満	48	3.5%
わからない	786	58.0%
無回答	70	5.2%
合 計	1,356	100%



【経年変化（平成 26 年度～令和 5 年度）】

前回調査と比較すると、「満足」の割合が 0.1 ポイント増加し、「まあ満足」の割合が 0.2 ポイント減少している一方、「不満」の割合が 1.7 ポイント、「やや不満」の割合が 1.5 ポイント減少している。



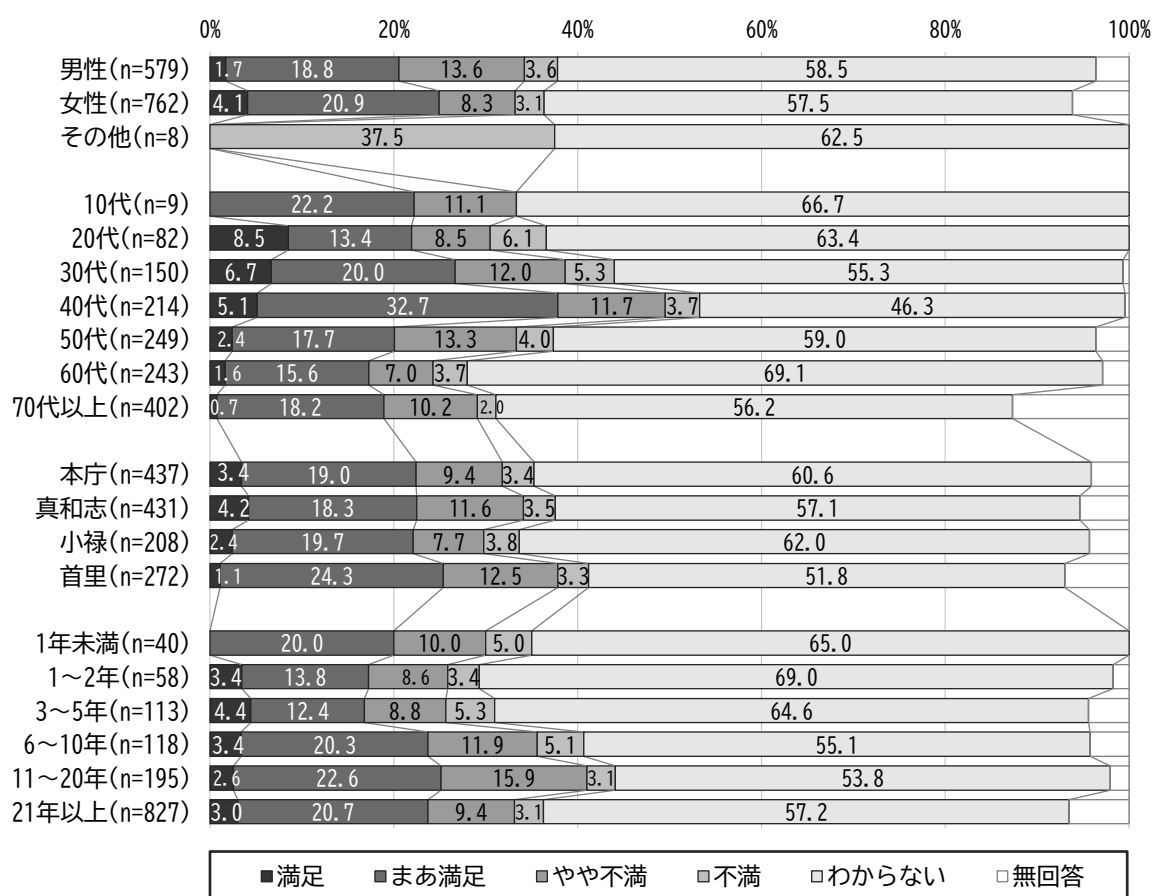
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると女性は男性よりも「満足」「まあ満足」を合わせた割合が高い。

年代別でみると、40代は「満足」「まあ満足」を合わせた割合は4割弱となっており、ほかの世代よりも高くなっている。

選択項目 回答者属性(n=合計)	満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない	無回答
男性 (n= 579)	10	109	79	21	339	21
女性 (n= 762)	31	159	63	24	438	47
その他 (n= 8)	0	0	0	3	5	0
10代 (n= 9)	0	2	1	0	6	0
20代 (n= 82)	7	11	7	5	52	0
30代 (n= 150)	10	30	18	8	83	1
40代 (n= 214)	11	70	25	8	99	1
50代 (n= 249)	6	44	33	10	147	9
60代 (n= 243)	4	38	17	9	168	7
70代以上 (n= 402)	3	73	41	8	226	51
本庁 (n= 437)	15	83	41	15	265	18
真和志 (n= 431)	18	79	50	15	246	23
小禄 (n= 208)	5	41	16	8	129	9
首里 (n= 272)	3	66	34	9	141	19
1年未満 (n= 40)	0	8	4	2	26	0
1～2年 (n= 58)	2	8	5	2	40	1
3～5年 (n= 113)	5	14	10	6	73	5
6～10年 (n= 118)	4	24	14	6	65	5
11～20年 (n= 195)	5	44	31	6	105	4
21年以上 (n= 827)	25	171	78	26	473	54



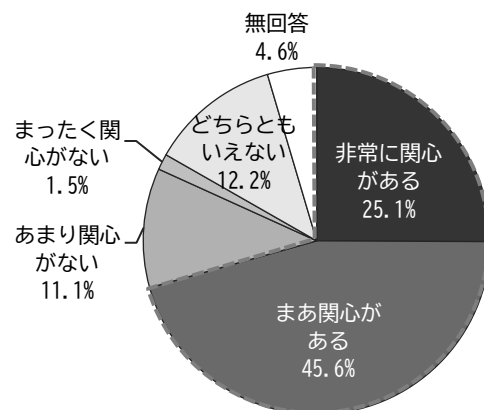
質問 35. 令和5年4月に制定された「こども基本法」に規定されている「こどもの権利（生きる、育つ、守られる、参加する権利）」について、あなたの関心度を、次の中から1つお選びください。

- | | | |
|--------------|--------------|-------------|
| 1. 非常に関心がある | 2. まあ関心がある | 3. あまり関心がない |
| 4. まったく関心がない | 5. どちらともいえない | |

こどもの権利の関心度について、「関心がある」の割合は 70.7%、「関心がない」の割合は 12.6%である。

こどもの権利の関心度については、「まあ関心がある」の割合が 45.6%と最も多く、次いで「非常に関心がある」の割合が 25.1%、「どちらともいえない」の割合が 12.2%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
非常に関心がある	340	25.1%
まあ関心がある	618	45.6%
あまり関心がない	151	11.1%
まったく関心がない	20	1.5%
どちらともいえない	165	12.2%
無回答	62	4.6%
合 計	1,356	100%

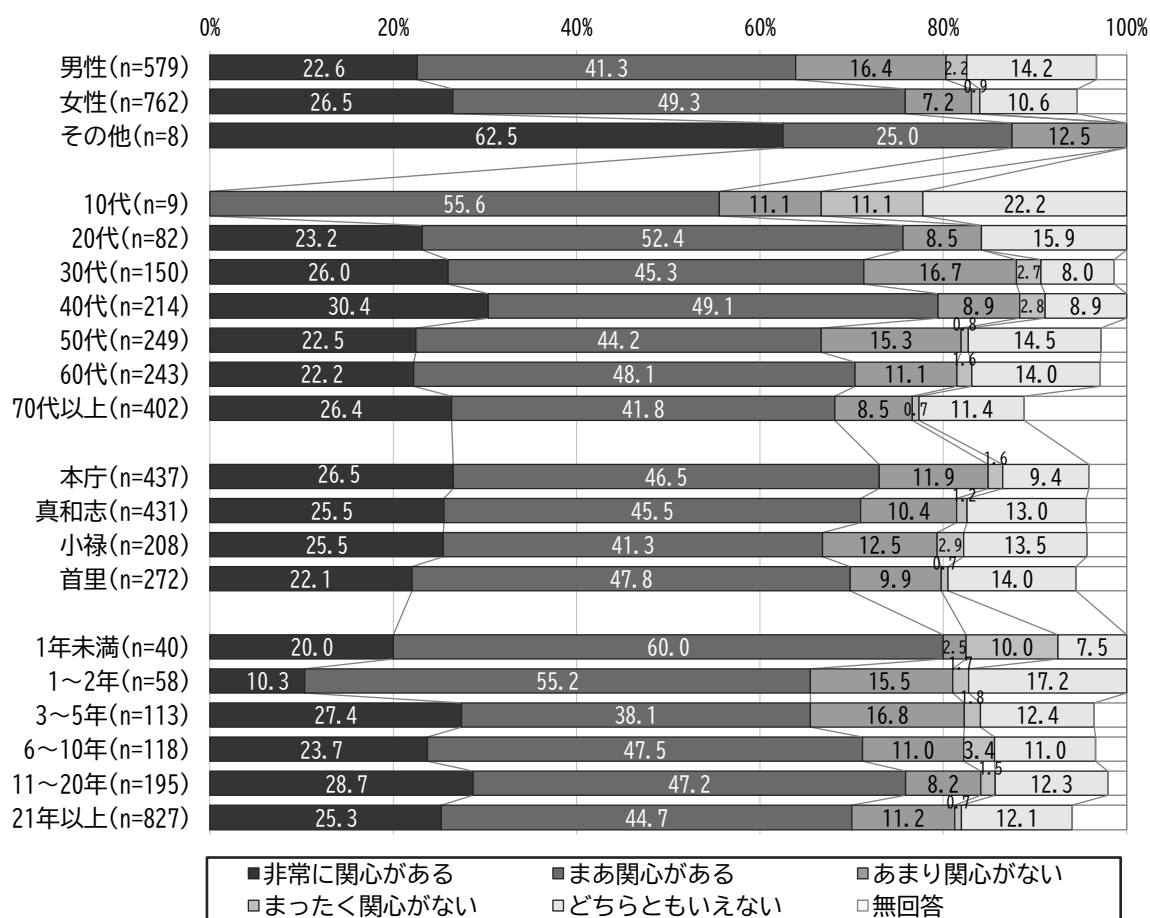


IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）】

性別でみると女性は男性よりも「非常に関心がある」「まあ関心がある」を合わせた割合が高い。
年代別でみると、10代は「非常に関心がある」と回答した方はいなかった。

回答者属性(n=合計)	選択項目	非常に関心がある	まあ関心がある	あまり関心がない	まったく関心がない	どちらともいえない	無回答
男性 (n= 579)		131	239	95	13	82	19
女性 (n= 762)		202	376	55	7	81	41
その他 (n= 8)		5	2	1	0	0	0
10代 (n= 9)		0	5	1	1	2	0
20代 (n= 82)		19	43	7	0	13	0
30代 (n= 150)		39	68	25	4	12	2
40代 (n= 214)		65	105	19	6	19	0
50代 (n= 249)		56	110	38	2	36	7
60代 (n= 243)		54	117	27	4	34	7
70代以上 (n= 402)		106	168	34	3	46	45
本庁 (n= 437)		116	203	52	7	41	18
真和志 (n= 431)		110	196	45	5	56	19
小禄 (n= 208)		53	86	26	6	28	9
首里 (n= 272)		60	130	27	2	38	15
1年未満 (n= 40)		8	24	1	4	3	0
1～2年 (n= 58)		6	32	9	1	10	0
3～5年 (n= 113)		31	43	19	2	14	4
6～10年 (n= 118)		28	56	13	4	13	4
11～20年 (n= 195)		56	92	16	3	24	4
21年以上 (n= 827)		209	370	93	6	100	49



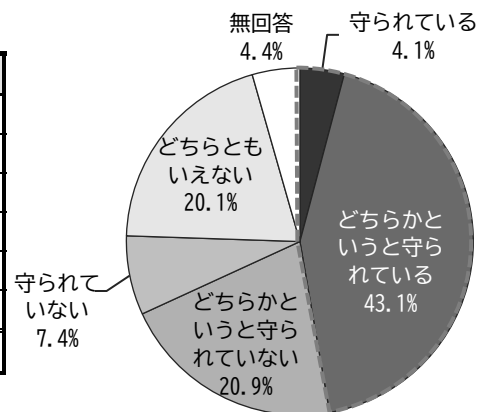
質問 36. あなたは、社会全体で見た場合に「こどもの権利」が守られていると感じていますか。次の中から1つお選びください。

1. 守られている 2. どちらかというと守られている
3. どちらかというと守られていない 4. 守られていない 5. どちらともいえない

こどもの権利が守られているかについて、「守られている」の割合は 47.2%、「守られていない」の割合は 28.3%である。

こどもの権利が守られていると感じるかについては、「どちらかというと守られている」の割合が 43.1%と最も多く、次いで「どちらかというと守られていない」の割合が 20.9%、「どちらともいえない」の割合が 20.1%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
守られている	56	4.1%
どちらかというと守られている	585	43.1%
どちらかというと守られていない	283	20.9%
守られていない	100	7.4%
どちらともいえない	272	20.1%
無回答	60	4.4%
合 計	1,356	100%



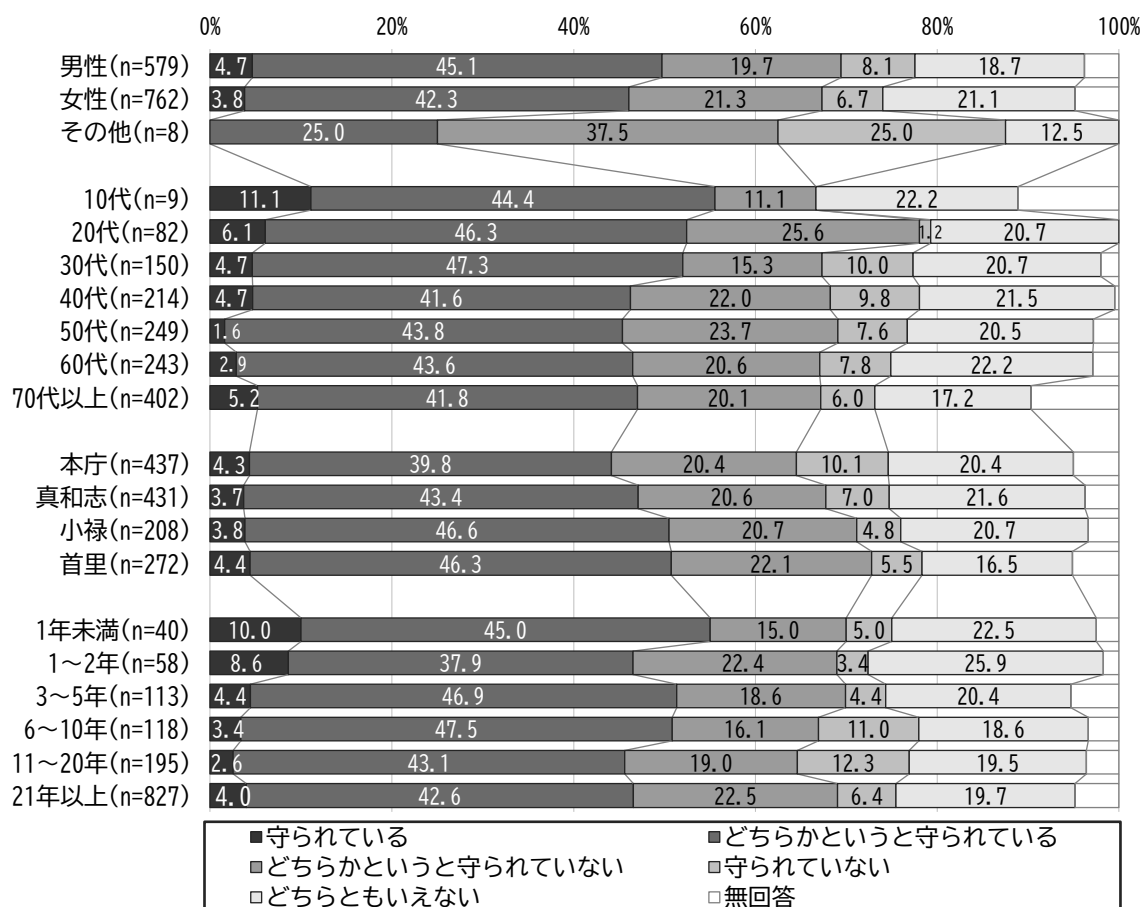
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると男性は女性よりも「守られている」「どちらかというと守られている」を合わせた割合が高い。

居住地区別でみると、本庁地区と真和志地区で「守られている」「どちらかというと守られている」を合わせた割合が5割を下回っている。

選択項目 回答者属性(n=合計)	守られてい る	どちらか というとし て守ら れている	どちらか というとし て守ら れていな い	守られて いない	どちらとも いえない	無回答
男性 (n= 579)	27	261	114	47	108	22
女性 (n= 762)	29	322	162	51	161	37
その他 (n= 8)	0	2	3	2	1	0
10代 (n= 9)	1	4	1	0	2	1
20代 (n= 82)	5	38	21	1	17	0
30代 (n= 150)	7	71	23	15	31	3
40代 (n= 214)	10	89	47	21	46	1
50代 (n= 249)	4	109	59	19	51	7
60代 (n= 243)	7	106	50	19	54	7
70代以上 (n= 402)	21	168	81	24	69	39
本庁 (n= 437)	19	174	89	44	89	22
真和志 (n= 431)	16	187	89	30	93	16
小禄 (n= 208)	8	97	43	10	43	7
首里 (n= 272)	12	126	60	15	45	14
1年未満 (n= 40)	4	18	6	2	9	1
1～2年 (n= 58)	5	22	13	2	15	1
3～5年 (n= 113)	5	53	21	5	23	6
6～10年 (n= 118)	4	56	19	13	22	4
11～20年 (n= 195)	5	84	37	24	38	7
21年以上 (n= 827)	33	352	186	53	163	40



(11) 福祉について

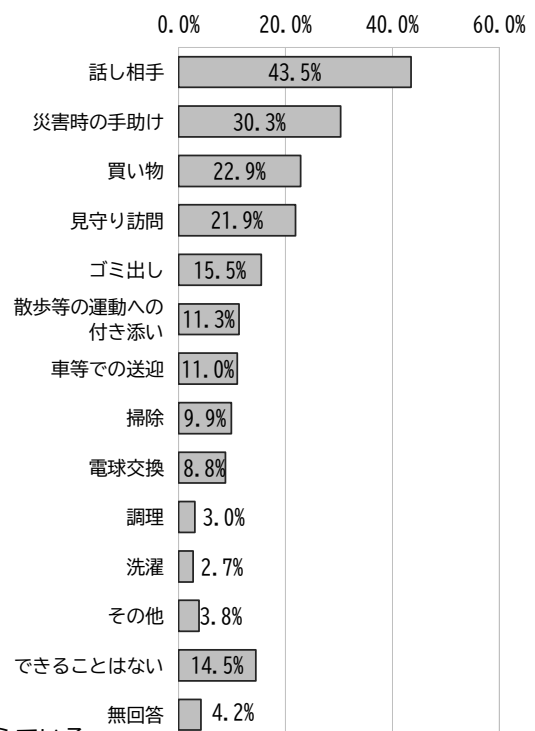
質問 37. 地域の中で困っている方（高齢者、障がいのある方等）に対して、あなたができることはどのようなことですか。次の中から3つまでお選びください。

- | | | |
|------------|--------------|-----------------|
| 1. 話し相手 | 2. 買い物 | 3. 調理 |
| 4. 掃除 | 5. 洗濯 | 6. ゴミ出し |
| 7. 電球交換 | 8. 車等での送迎 | 9. 散歩等の運動への付き添い |
| 10. 見守り訪問 | 11. 災害時の手助け | |
| 12. その他（ ） | 13. できることはない | |

地域の中で困っている方に対し市民ができることとして最も多かったのは「話し相手」である。

地域の中で困っている方に対し、市民ができることについては、「話し相手」の割合が 43.5% で最も高く、次いで「災害時の手助け」の割合が 30.3%、「買い物」の割合が 22.9%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
1位 話し相手	590	43.5%
2位 災害時の手助け	411	30.3%
3位 買い物	310	22.9%
4位 見守り訪問	297	21.9%
5位 ゴミ出し	210	15.5%
6位 散歩等の運動への付き添い	153	11.3%
7位 車等での送迎	149	11.0%
8位 掃除	134	9.9%
9位 電球交換	119	8.8%
10位 調理	41	3.0%
11位 洗濯	37	2.7%
12位 その他	52	3.8%
— できることはない	196	14.5%
— 無回答	57	4.2%
合 計	2,756	—
回答者数	1,356	203.2%



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・自信が高齢のためできない（17人）
- ・声掛け（3人）
- ・相談業務

女性-70代以上-真和志地区・他
女性-70代以上-小緑地区・他
女性-50代-小緑地区・他

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

ほとんどの属性において、「話し相手」の割合が最も高くなっている。

年代別でみると、50代は「災害時の手助け」の割合が最も高くなっている。また、「話し相手」以外では、全体的に「災害時の手助け」の割合が高く、60代と70代以上では「見守り訪問」の割合もやや高い。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（％）		話し相手	買い物	調理	掃除	洗濯	ゴミ出し	電球交換	車等での送迎	散歩等の運動への付き添い	見守り訪問	災害時の手助け	その他	できることはない	無回答
性別	男性（n= 579）	227 39.2	112 19.3	11 1.9	59 10.2	12 2.1	91 15.7	88 15.2	77 13.3	65 11.2	108 18.7	205 35.4	15 2.6	88 15.2	17 2.9
	女性（n= 762）	359 47.1	196 25.7	30 3.9	74 9.7	24 3.1	114 15.0	30 3.9	71 9.3	86 11.3	187 24.5	201 26.4	35 4.6	106 13.9	38 5.0
	その他（n= 8）	3 37.5	2 25.0	-	1 12.5	1 12.5	5 62.5	1 12.5	-	1 12.5	2 25.0	3 37.5	-	1 12.5	-
年代別	10代（n= 9）	2 22.2	-	-	-	-	-	1 11.1	-	-	1 11.1	4 44.4	-	4 44.4	-
	20代（n= 82）	45 54.9	22 26.8	1 1.2	2 2.4	-	6 7.3	5 6.1	15 18.3	9 11.0	14 17.1	33 40.2	3 3.7	11 13.4	1 1.2
	30代（n= 150）	63 42.0	46 30.7	3 2.0	14 9.3	3 2.0	20 13.3	7 4.7	16 10.7	17 11.3	22 14.7	46 30.7	7 4.7	24 16.0	2 1.3
	40代（n= 214）	89 41.6	51 23.8	9 4.2	20 9.3	4 1.9	33 15.4	22 10.3	21 9.8	26 12.1	48 22.4	86 40.2	4 1.9	28 13.1	3 1.4
	50代（n= 249）	93 37.3	69 27.7	11 4.4	29 11.6	9 3.6	38 15.3	22 8.8	33 13.3	23 9.2	49 19.7	104 41.8	8 3.2	29 11.6	3 1.2
	60代（n= 243）	110 45.3	67 27.6	9 3.7	29 11.9	10 4.1	46 18.9	27 11.1	24 9.9	30 12.3	72 29.6	78 32.1	6 2.5	21 8.6	9 3.7
	70代以上（n= 402）	186 46.3	55 13.7	8 2.0	40 10.0	11 2.7	67 16.7	35 8.7	39 9.7	47 11.7	90 22.4	59 14.7	23 5.7	78 19.4	38 9.5
地区別	本庁（n= 437）	183 41.9	103 23.6	16 3.7	47 10.8	11 2.5	59 13.5	39 8.9	44 10.1	48 11.0	99 22.7	136 31.1	14 3.2	67 15.3	18 4.1
	真和志（n= 431）	184 42.7	89 20.6	15 3.5	43 10.0	11 2.6	79 18.3	40 9.3	44 10.2	51 11.8	91 21.1	124 28.8	15 3.5	69 16.0	15 3.5
	小祿（n= 208）	88 42.3	48 23.1	1 0.5	20 9.6	6 2.9	30 14.4	15 7.2	23 11.1	24 11.5	37 17.8	76 36.5	11 5.3	26 12.5	10 4.8
	首里（n= 272）	132 48.5	69 25.4	9 3.3	24 8.8	9 3.3	42 15.4	25 9.2	38 14.0	29 10.7	69 25.4	73 26.8	11 4.0	34 12.5	12 4.4
居住年数別	1年未満（n= 40）	19 47.5	5 12.5	1 2.5	4 10.0	-	3 7.5	2 5.0	3 7.5	7 17.5	8 20.0	20 50.0	2 5.0	4 10.0	-
	1～2年（n= 58）	20 34.5	11 19.0	3 5.2	5 8.6	-	6 10.3	5 8.6	8 13.8	6 10.3	9 15.5	19 32.8	1 1.7	12 20.7	2 3.4
	3～5年（n= 113）	48 42.5	26 23.0	6 5.3	12 10.6	2 1.8	15 13.3	4 3.5	9 8.0	15 13.3	20 17.7	38 33.6	3 2.7	15 13.3	6 5.3
	6～10年（n= 118）	61 51.7	34 28.8	1 0.8	12 10.2	2 1.7	17 14.4	11 9.3	14 11.9	18 15.3	32 27.1	41 34.7	4 3.4	11 9.3	4 3.4
	11～20年（n= 195）	71 36.4	53 27.2	7 3.6	17 8.7	4 2.1	25 12.8	21 10.8	19 9.7	25 12.8	42 21.5	68 34.9	6 3.1	28 14.4	6 3.1
	21年以上（n= 827）	368 44.5	181 21.9	23 2.8	84 10.2	29 3.5	144 17.4	76 9.2	96 11.6	82 9.9	185 22.4	225 27.2	34 4.1	126 15.2	38 4.6

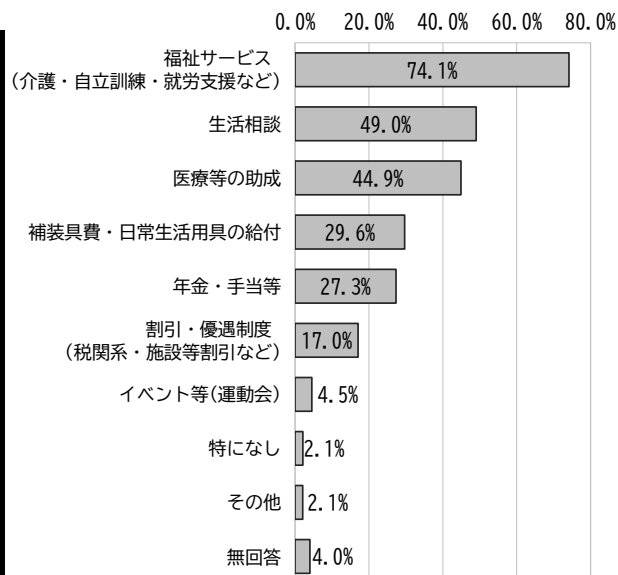
質問 38. 那覇市が、障がいのある方も地域とともに暮らせるまちにするためには、どのような取り組みの充実が必要だと思いますか。次の中から3つまでお選びください。

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1. 生活相談 | 2. 福祉サービス(介護・自立訓練・就労支援など) |
| 3. 医療等の助成 | 4. 年金・手当等 |
| 5. 割引・優遇制度(税関係・施設等割引など) | |
| 6. 補装具費・日常生活用具の給付 | 7. イベント等(運動会) |
| 8. 特になし | 9. その他() |

障がいのある方も地域とともに暮らせるまちにするために充実が必要とされる取り組みとして最も多かったのは、「福祉サービス(介護・自立訓練・就労支援など)」である。

那覇市が、障がいのある方も地域とともに暮らせるまちにするために、どのような取り組みの充実が必要かについては、「福祉サービス(介護・自立訓練・就労支援など)」の割合が74.1%で最も高く、次いで「生活相談」の割合が49.0%、「医療等の助成」の割合が44.9%の順となっている。

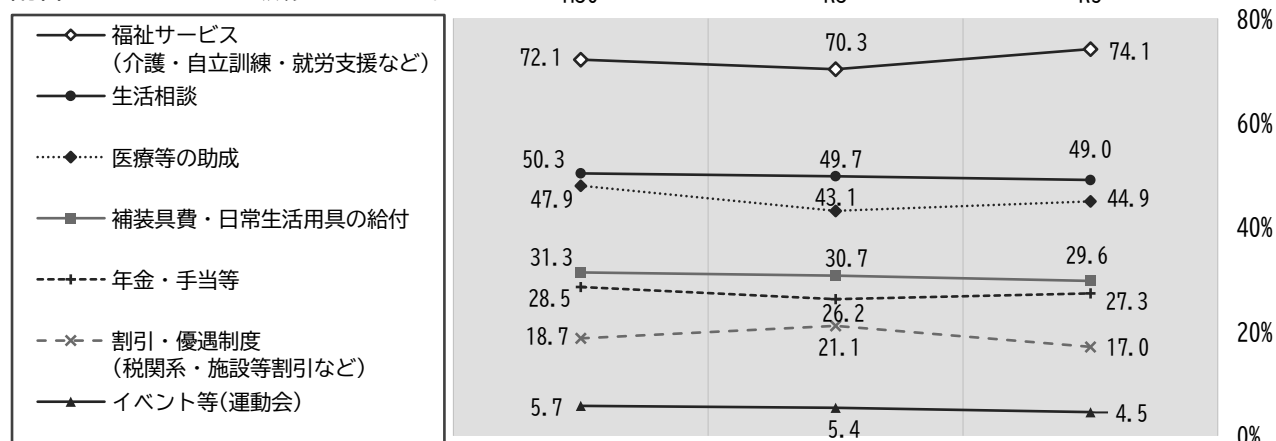
選択項目	回答数	割合
1位 福祉サービス(介護・自立訓練・就労支援など)	1,005	74.1%
2位 生活相談	665	49.0%
3位 医療等の助成	609	44.9%
4位 補装具費・日常生活用具の給付	402	29.6%
5位 年金・手当等	370	27.3%
6位 割引・優遇制度(税関係・施設等割引など)	231	17.0%
7位 イベント等(運動会)	61	4.5%
— 特になし	29	2.1%
— その他	28	2.1%
— 無回答	54	4.0%
合 計	3,454	—
回答者数	1,356	254.6%



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

【経年変化(平成30年度～令和5年度)】

前回調査と比較すると、「福祉サービス」の割合が3.8ポイント増加し、「割引・優遇制度」の割合が4.1ポイント減少している。



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

いずれの属性においても、「福祉サービス（介護・自立訓練・就労支援など）」の割合が最も高く、「生活相談」、「医療等の助成」の割合も高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（%）		生活相談	福祉サービス （介護・自立訓練・ 就労支援など）	医療等の助成	年金・手当等	割引・優遇制度 （税関系・ 施設等割引など）	日常生活用具の 補装具費・ 給付	イベント等 （運動会）	特になし	その他	無回答
性別	男性（n= 579）	280 48.4	400 69.1	285 49.2	175 30.2	107 18.5	160 27.6	25 4.3	15 2.6	9 1.6	21 3.6
	女性（n= 762）	379 49.7	593 77.8	318 41.7	193 25.3	123 16.1	236 31.0	36 4.7	14 1.8	16 2.1	32 4.2
	その他（n= 8）	5 62.5	7 87.5	3 37.5	- -	1 12.5	4 50.0	- -	- -	1 12.5	- -
年代別	10代（n= 9）	2 22.2	5 55.6	3 33.3	4 44.4	4 44.4	3 33.3	2 22.2	- -	- -	- -
	20代（n= 82）	35 42.7	61 74.4	33 40.2	16 19.5	13 15.9	26 31.7	3 3.7	3 3.7	1 1.2	- -
	30代（n= 150）	63 42.0	115 76.7	67 44.7	43 28.7	24 16.0	55 36.7	9 6.0	- -	9 6.0	2 1.3
	40代（n= 214）	103 48.1	163 76.2	92 43.0	58 27.1	23 10.7	70 32.7	22 10.3	5 2.3	9 4.2	2 0.9
	50代（n= 249）	130 52.2	189 75.9	112 45.0	59 23.7	43 17.3	85 34.1	9 3.6	7 2.8	3 1.2	4 1.6
	60代（n= 243）	133 54.7	191 78.6	121 49.8	69 28.4	42 17.3	70 28.8	5 2.1	5 2.1	1 0.4	8 3.3
	70代以上（n= 402）	196 48.8	276 68.7	179 44.5	118 29.4	82 20.4	92 22.9	11 2.7	9 2.2	3 0.7	38 9.5
地区別	本庁（n= 437）	223 51.0	330 75.5	184 42.1	117 26.8	71 16.2	128 29.3	21 4.8	8 1.8	10 2.3	19 4.3
	真和志（n= 431）	222 51.5	311 72.2	201 46.6	122 28.3	59 13.7	125 29.0	21 4.9	15 3.5	7 1.6	17 3.9
	小禄（n= 208）	84 40.4	154 74.0	90 43.3	49 23.6	49 23.6	69 33.2	12 5.8	3 1.4	4 1.9	6 2.9
	首里（n= 272）	132 48.5	206 75.7	131 48.2	79 29.0	51 18.8	79 29.0	7 2.6	3 1.1	5 1.8	11 4.0
居住年数別	1年未満（n= 40）	18 45.0	31 77.5	21 52.5	7 17.5	9 22.5	9 22.5	3 7.5	- -	- -	- -
	1～2年（n= 58）	29 50.0	43 74.1	21 36.2	12 20.7	4 6.9	14 24.1	4 6.9	4 6.9	1 1.7	2 3.4
	3～5年（n= 113）	54 47.8	79 69.9	40 35.4	29 25.7	19 16.8	38 33.6	6 5.3	3 2.7	5 4.4	6 5.3
	6～10年（n= 118）	62 52.5	84 71.2	55 46.6	28 23.7	18 15.3	32 27.1	8 6.8	3 2.5	2 1.7	5 4.2
	11～20年（n= 195）	91 46.7	151 77.4	84 43.1	53 27.2	33 16.9	60 30.8	11 5.6	6 3.1	9 4.6	4 2.1
	21年以上（n= 827）	408 49.3	613 74.1	387 46.8	240 29.0	147 17.8	249 30.1	29 3.5	13 1.6	9 1.1	37 4.5

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・歩道、環境の整備（5人）
- ・インクルーシブ教育の充実（3人）
- ・障がい者への理解促進（3人）

男性-60代-本庁地区・他
女性-50代-首里地区・他
男性-30代-本庁地区・他

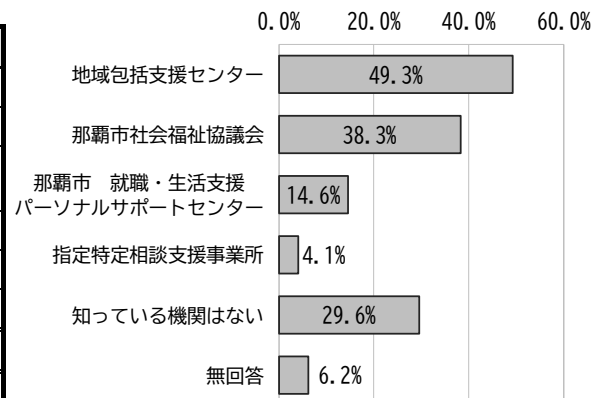
質問 39. 那覇市内には、生活や福祉制度等でのお困り事に対する相談支援機関があります。知っているまたは利用したことがある相談支援機関があれば、次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

1. 那覇市 就職・生活支援パーソナルサポートセンター
2. 那覇市社会福祉協議会
3. 地域包括支援センター
4. 指定特定相談支援事業所
5. 知っている機関はない

知っているまたは利用したことがある相談支援機関で最も多かったのは、「地域包括支援センター」である。

知っているまたは利用したことがある相談支援機関については、「地域包括支援センター」の割合が 49.3%で最も高く、次いで「那覇市社会福祉協議会」の割合が 38.3%、「那覇市 就職・生活支援パーソナルサポートセンター」の割合が 14.6%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
1 位 地域包括支援センター	668	49.3%
2 位 那覇市社会福祉協議会	519	38.3%
3 位 那覇市 就職・生活支援 パーソナルサポートセンター	198	14.6%
4 位 指定特定相談支援事業所	55	4.1%
— 知っている機関はない	401	29.6%
— 無回答	84	6.2%
合 計	1,925	—
回答者数	1,356	142.0%



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

ほとんどの属性において、「地域包括支援センター」の割合が最も高くなっている。

居住年数別にみると、5年以下で「知っている機関はない」の割合が高い。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		サ活那 ボ支覇 ー援市 トパ セン就 ソ職 タナ・ ール生	那覇市 協議会 社会福 祉	地 域 セ ン タ ー 包 括 支 援	指 定 特 定 相 談 支 援 事 業 所	知 っ て い る 機 関 は	無 回 答
性別	男性 (n= 579)	85 14.7	214 37.0	239 41.3	20 3.5	210 36.3	29 5.0
	女性 (n= 762)	112 14.7	303 39.8	423 55.5	35 4.6	186 24.4	53 7.0
	その他 (n= 8)	- -	2 25.0	4 50.0	- -	3 37.5	- -
年代別	10代 (n= 9)	1 11.1	3 33.3	4 44.4	- -	3 33.3	- -
	20代 (n= 82)	19 23.2	27 32.9	42 51.2	2 2.4	32 39.0	- -
	30代 (n= 150)	20 13.3	48 32.0	67 44.7	6 4.0	64 42.7	3 2.0
	40代 (n= 214)	39 18.2	80 37.4	100 46.7	11 5.1	78 36.4	4 1.9
	50代 (n= 249)	44 17.7	118 47.4	122 49.0	14 5.6	67 26.9	9 3.6
	60代 (n= 243)	29 11.9	109 44.9	133 54.7	5 2.1	59 24.3	10 4.1
	70代以上 (n= 402)	45 11.2	134 33.3	199 49.5	17 4.2	94 23.4	57 14.2
地区別	本庁 (n= 437)	72 16.5	167 38.2	196 44.9	12 2.7	141 32.3	21 4.8
	真和志 (n= 431)	69 16.0	152 35.3	205 47.6	18 4.2	134 31.1	29 6.7
	小禄 (n= 208)	21 10.1	79 38.0	114 54.8	8 3.8	59 28.4	12 5.8
	首里 (n= 272)	34 12.5	119 43.8	150 55.1	17 6.3	66 24.3	20 7.4
居住年数別	1年未満 (n= 40)	4 10.0	14 35.0	14 35.0	1 2.5	20 50.0	1 2.5
	1～2年 (n= 58)	6 10.3	17 29.3	15 25.9	- -	30 51.7	3 5.2
	3～5年 (n= 113)	19 16.8	40 35.4	45 39.8	5 4.4	45 39.8	6 5.3
	6～10年 (n= 118)	16 13.6	35 29.7	56 47.5	4 3.4	42 35.6	5 4.2
	11～20年 (n= 195)	35 17.9	85 43.6	99 50.8	9 4.6	53 27.2	8 4.1
	21年以上 (n= 827)	116 14.0	326 39.4	437 52.8	36 4.4	210 25.4	60 7.3

(12) 健康について

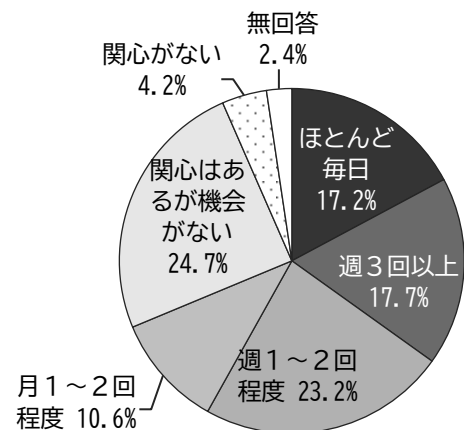
質問 40. あなたは、1 回 30 分以上の運動（ウォーキングなどを含む）をどの程度取り組んでいますか。次の中から 1 つお選びください。

- | | | |
|--------------|----------------|--------------|
| 1. ほとんど毎日 | 2. 週 3 回以上 | 3. 週 1～2 回程度 |
| 4. 月 1～2 回程度 | 5. 関心はあるが機会がない | 6. 関心がない |

1 回 30 分以上の運動への取り組みで最も多かったのは「関心はあるが機会がない」である。

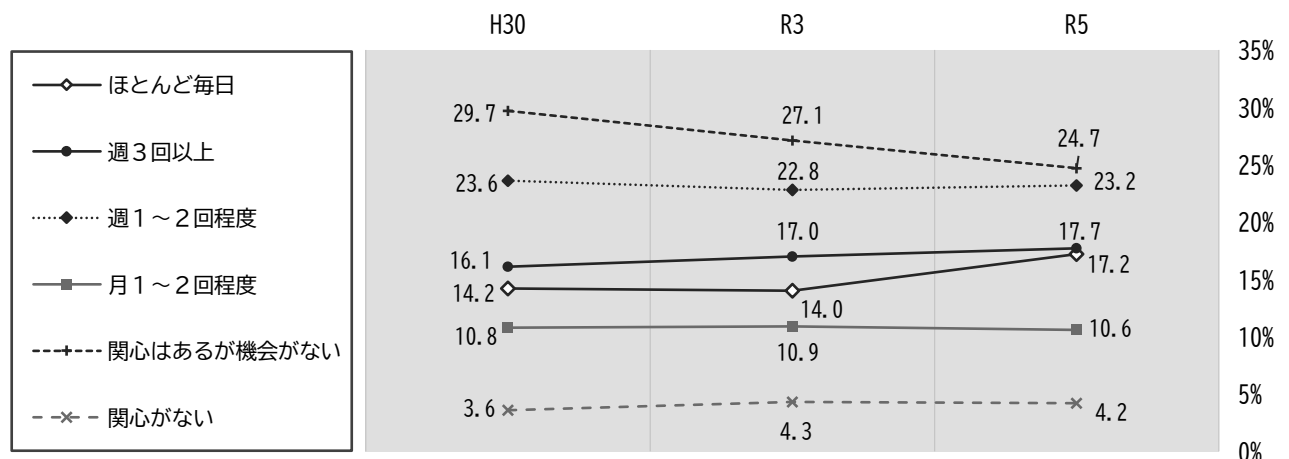
1 回 30 分以上の運動（ウォーキングなどを含む）をどの程度取り組んでいるかについては、「関心はあるが機会がない」の割合が 24.7%で最も多く、次いで「週 1～2 回程度」の割合が 23.2%、「週 3 回以上」の割合が 17.7%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
ほとんど毎日	233	17.2%
週 3 回以上	240	17.7%
週 1～2 回程度	315	23.2%
月 1～2 回程度	144	10.6%
関心はあるが機会がない	335	24.7%
関心がない	57	4.2%
無回答	32	2.4%
合 計	1,356	100%



【経年変化（平成 30 年度～令和 5 年度）】

前回調査と比較すると、「ほとんど毎日」の割合が 3.2 ポイント増加し、「関心はあるが機会がない」の割合が 2.4 ポイント減少している。



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

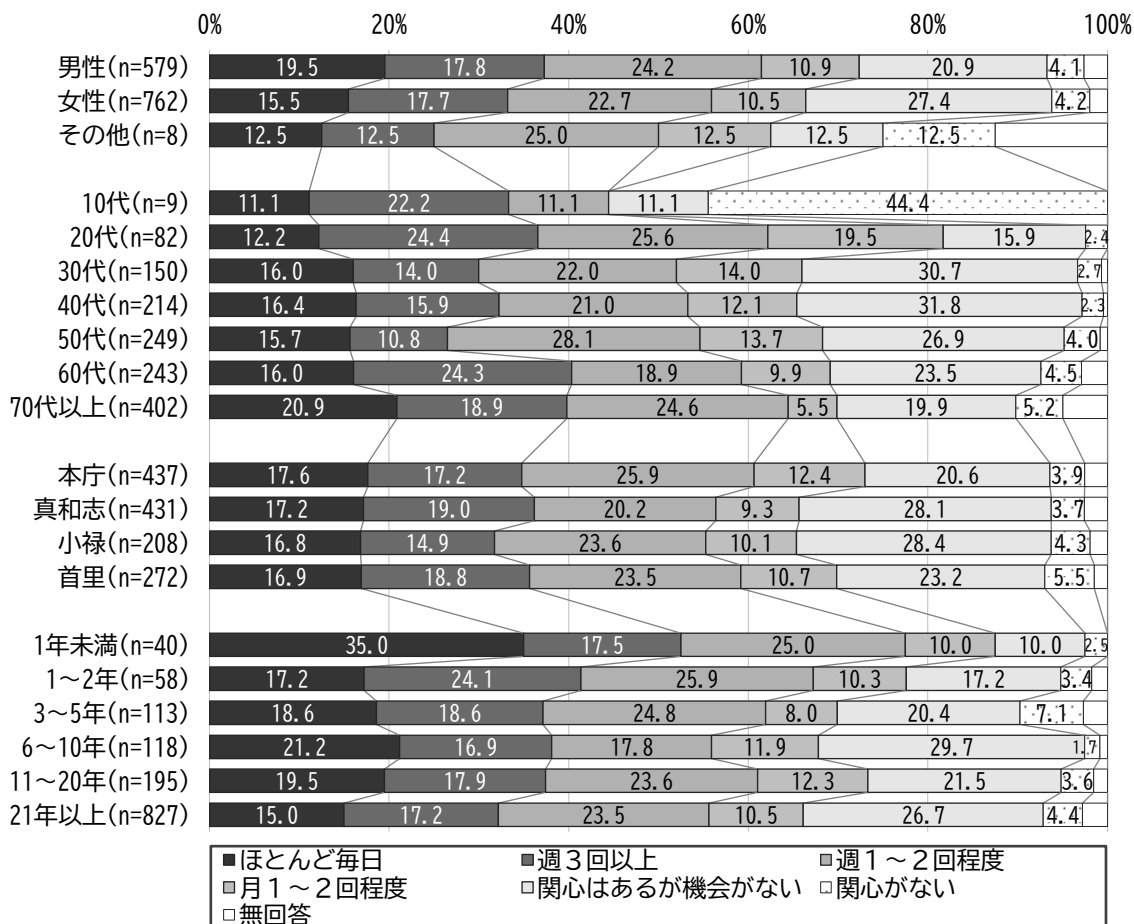
【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、女性は男性に比べ「関心はあるが機会がない」の割合が高い。

年代別でみると、年齢上がるにつれて「ほとんど毎日」の割合が高くなる傾向があり、70代以上で2割を上回っている。

居住年数別でみると、1年未満では「ほとんど毎日」の割合が最も高く、週1回以上運動している方は8割弱となっている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	ほとんど毎日	週3回以上	週1～2回程度	月1～2回程度	関心はあるが機会がない	関心がない	無回答
男性 (n= 579)		113	103	140	63	121	24	15
女性 (n= 762)		118	135	173	80	209	32	15
その他 (n= 8)		1	1	2	1	1	1	1
10代 (n= 9)		1	2	1	0	1	4	0
20代 (n= 82)		10	20	21	16	13	2	0
30代 (n= 150)		24	21	33	21	46	4	1
40代 (n= 214)		35	34	45	26	68	5	1
50代 (n= 249)		39	27	70	34	67	10	2
60代 (n= 243)		39	59	46	24	57	11	7
70代以上 (n= 402)		84	76	99	22	80	21	20
本庁 (n= 437)		77	75	113	54	90	17	11
真和志 (n= 431)		74	82	87	40	121	16	11
小禄 (n= 208)		35	31	49	21	59	9	4
首里 (n= 272)		46	51	64	29	63	15	4
1年未満 (n= 40)		14	7	10	4	4	1	0
1～2年 (n= 58)		10	14	15	6	10	2	1
3～5年 (n= 113)		21	21	28	9	23	8	3
6～10年 (n= 118)		25	20	21	14	35	2	1
11～20年 (n= 195)		38	35	46	24	42	7	3
21年以上 (n= 827)		124	142	194	87	221	36	23



質問 41. あなたは、主食^(※1)、主菜^(※2)、副菜^(※3)の3つを組み合わせる食べることが1日2回以上あるのは週に何日ありますか。次の中から1つお選びください。

1. ほとんど毎日 2. 週に4～5日 3. 週に2～3日程度 4. ほとんどない

※1 ごはん、パン、麺類などの料理

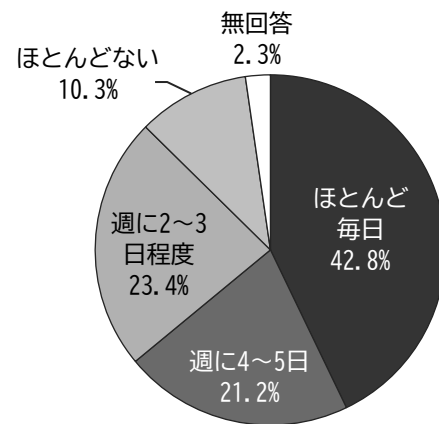
※2 魚介類、肉類、卵類、大豆。大豆製品を主材料にした料理

※3 野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上のあると答えた市民のうち最も多かったのは「ほとんど毎日」である。

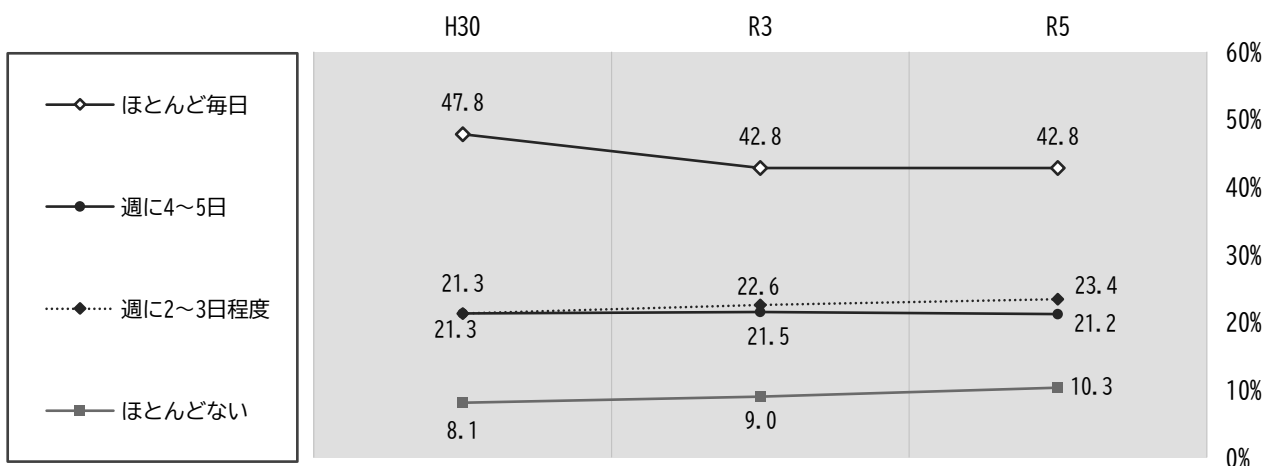
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日が「ほぼ毎日」の割合は42.8%、次いで「週に2～3日」の割合が23.4%、「週に4～5日」の割合が21.2%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
ほとんど毎日	581	42.8%
週に4～5日	287	21.2%
週に2～3日	317	23.4%
ほとんどない	140	10.3%
無回答	31	2.3%
合 計	1,356	100%



【経年変化（平成30年度～令和5年度）】

前回調査と比較すると、「ほとんどない」の割合が1.3ポイント増加している。



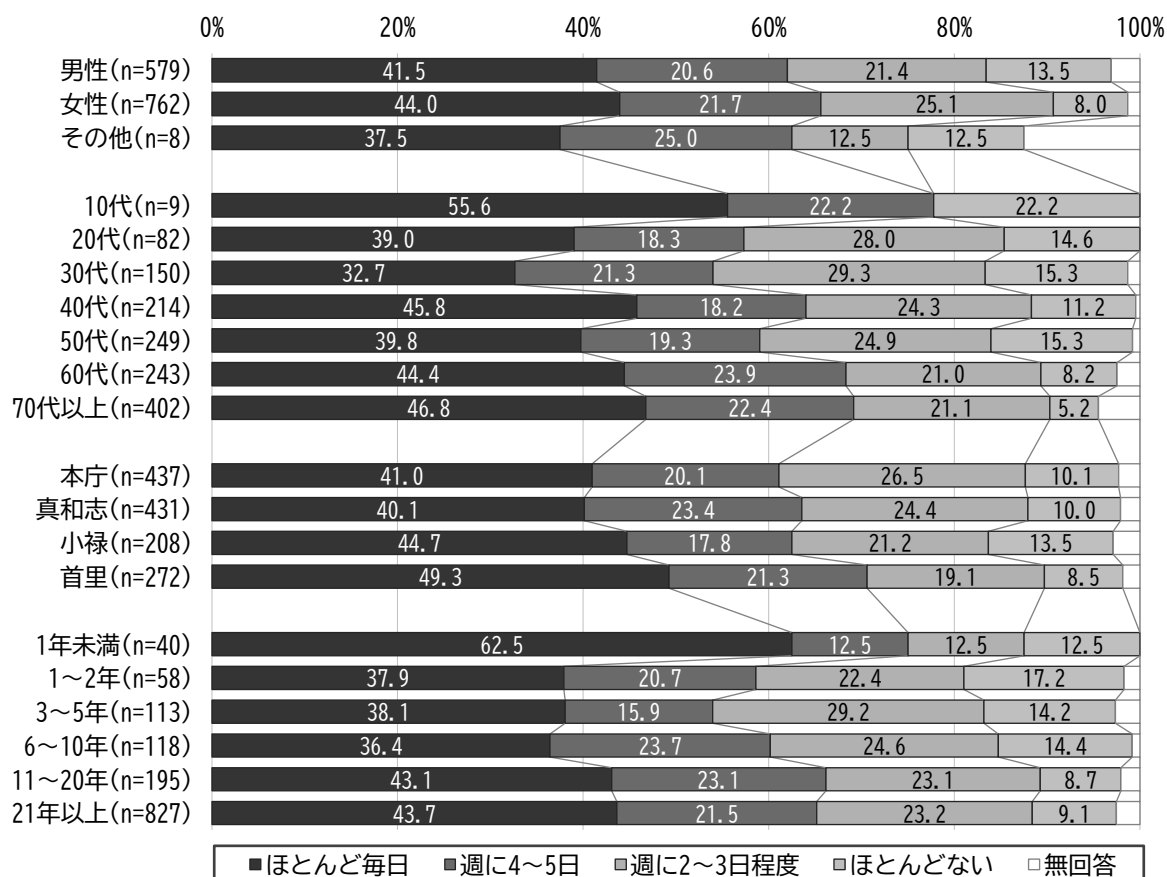
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性は女性に比べ、「ほとんど毎日」の割合が低い。

居住年数別では、1年未満で「ほとんど毎日」の割合が高く6割強となっている。

選択項目 回答者属性(n=合計)	ほとんど毎日	週に4～5日	週に2～3日程度	ほとんどない	無回答
男性 (n= 579)	240	119	124	78	18
女性 (n= 762)	335	165	191	61	10
その他 (n= 8)	3	2	1	1	1
10代 (n= 9)	5	2	0	2	0
20代 (n= 82)	32	15	23	12	0
30代 (n= 150)	49	32	44	23	2
40代 (n= 214)	98	39	52	24	1
50代 (n= 249)	99	48	62	38	2
60代 (n= 243)	108	58	51	20	6
70代以上 (n= 402)	188	90	85	21	18
本庁 (n= 437)	179	88	116	44	10
真和志 (n= 431)	173	101	105	43	9
小禄 (n= 208)	93	37	44	28	6
首里 (n= 272)	134	58	52	23	5
1年未満 (n= 40)	25	5	5	5	0
1～2年 (n= 58)	22	12	13	10	1
3～5年 (n= 113)	43	18	33	16	3
6～10年 (n= 118)	43	28	29	17	1
11～20年 (n= 195)	84	45	45	17	4
21年以上 (n= 827)	361	178	192	75	21



(13) 文化・芸術について

質問 42. 那覇市が振興したほうが良いと考える文化芸術の分野は何ですか。次の中から3つまでお選びください。

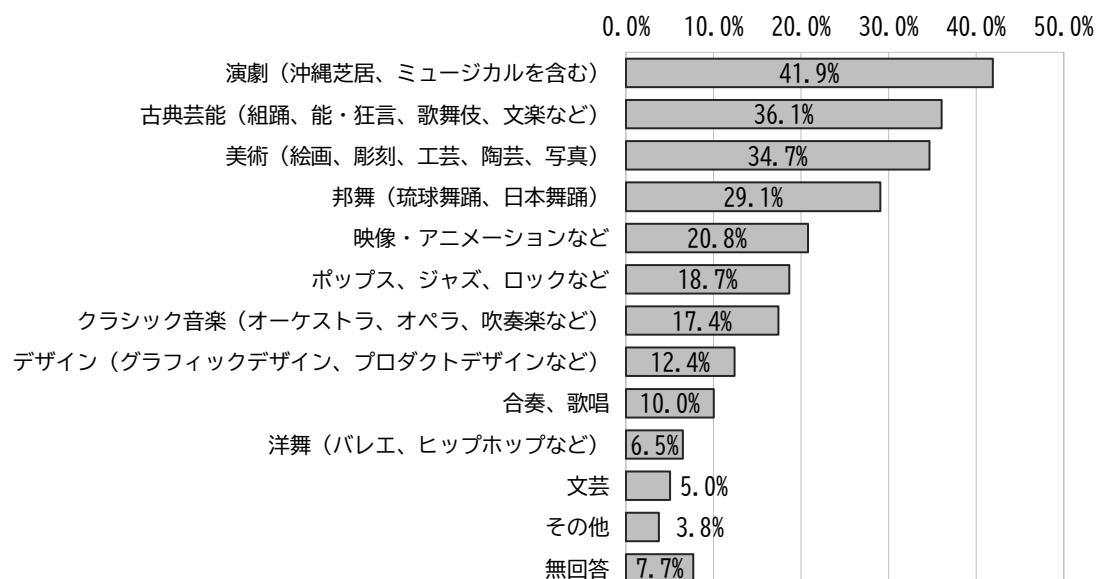
- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| 1. 古典芸能（組踊、能・狂言、歌舞伎、文楽など） | 2. 演劇（沖縄芝居、ミュージカルを含む） |
| 3. 洋舞（バレエ、ヒップホップなど） | 4. 邦舞（琉球舞踊、日本舞踊） |
| 5. ポップス、ジャズ、ロックなど | 6. クラシック音楽（オーケストラ、オペラ、吹奏楽など） |
| 7. 合奏、歌唱 | 8. 美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真） |
| 9. 映像・アニメーションなど | 10. デザイン（グラフィックデザイン、プロダクトデザインなど） |
| 11. 文芸 | 12. その他（_____） |

那覇市が振興したほうが良いと考える文化芸術の分野について最も多かったのは「演劇」である。

那覇市が振興したほうが良いと考える文化芸術の分野については、「演劇（沖縄芝居、ミュージカルを含む）」の割合が41.9%で最も高く、次いで「古典芸能（組踊、能・狂言、歌舞伎、文楽など）」の割合が36.1%、「美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真）」の割合が34.7%の順となっている。

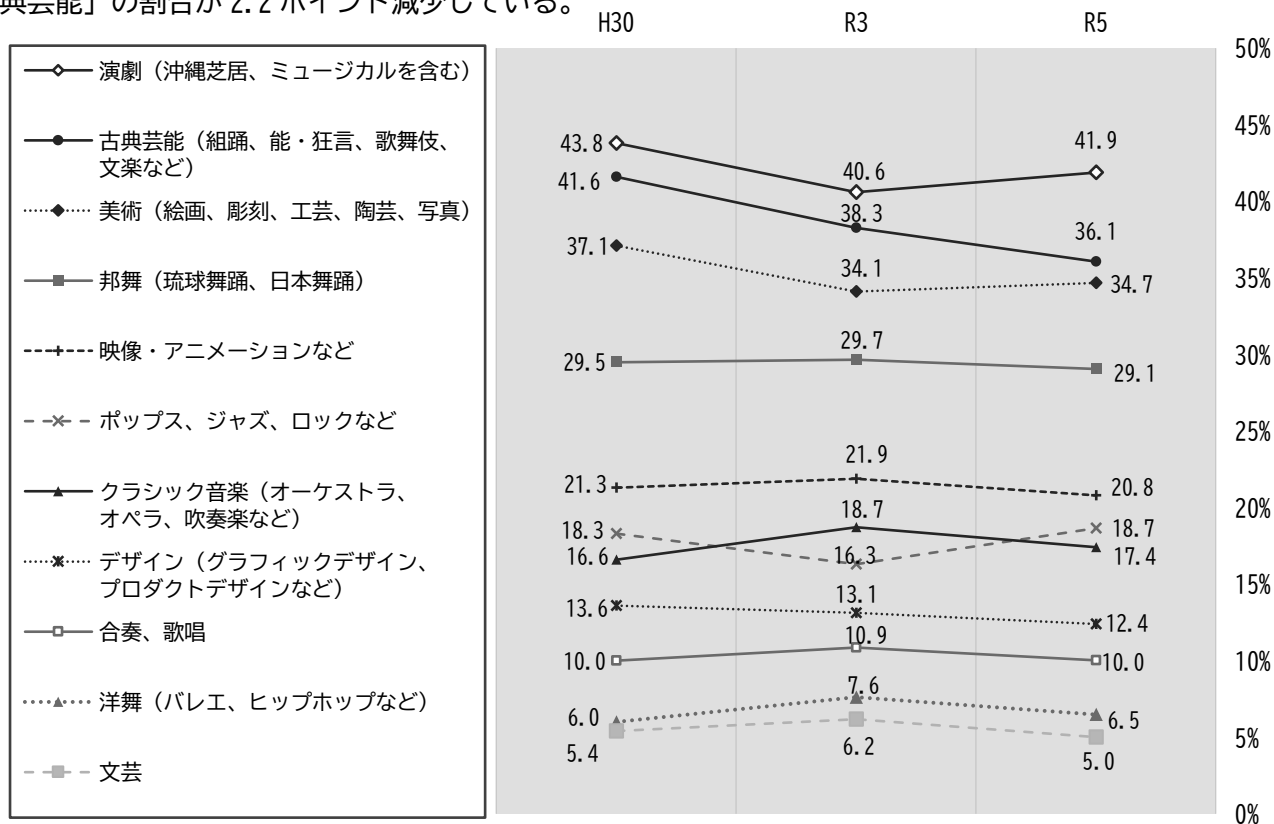
選択項目	回答数	割合
1位 演劇（沖縄芝居、ミュージカルを含む）	568	41.9%
2位 古典芸能（組踊、能・狂言、歌舞伎、文楽など）	489	36.1%
3位 美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸、写真）	470	34.7%
4位 邦舞（琉球舞踊、日本舞踊）	394	29.1%
5位 映像・アニメーションなど	282	20.8%
6位 ポップス、ジャズ、ロックなど	253	18.7%
7位 クラシック音楽（オーケストラ、オペラ、吹奏楽など）	236	17.4%
8位 デザイン（グラフィックデザイン、プロダクトデザインなど）	168	12.4%
9位 合奏、歌唱	136	10.0%
10位 洋舞（バレエ、ヒップホップなど）	88	6.5%
11位 文芸	68	5.0%
— その他	51	3.8%
— 無回答	104	7.7%
合 計	3,307	—
回答者数	1,356	243.9%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。



【経年変化（平成30年度～令和5年度）】

前回調査と比較すると、「ポップス、ジャズ、ロックなど」の割合が2.4ポイント増加し、「古典芸能」の割合が2.2ポイント減少している。



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・旗頭（3人）
- ・郷土の伝統文化・芸能（4人）
- ・空手、古武道（3人）

女性-60代-本庁地区・他
女性-70代以上-首里地区・他
女性-40代-本庁地区・他

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別でみると、10代、20代で「邦舞」の割合が最も高く、50代以上では「演劇」の割合が最も高くなっている。

居住年数別でみると、2年以下では「演劇」と「邦舞」の割合がともに高い。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		古典芸能	演劇	洋舞	邦舞	ジャズ、ポップス、ロックなど	クラシック音楽	合奏、歌唱	美術	アニメーション・映像など	デザイン	文芸	その他	無回答
性別	男性 (n= 579)	207 35.8	228 39.4	26 4.5	154 26.6	145 25.0	100 17.3	47 8.1	186 32.1	143 24.7	80 13.8	24 4.1	19 3.3	44 7.6
	女性 (n= 762)	277 36.4	333 43.7	61 8.0	238 31.2	106 13.9	135 17.7	86 11.3	280 36.7	136 17.8	87 11.4	43 5.6	29 3.8	58 7.6
	その他 (n= 8)	3 37.5	6 75.0	1 12.5	2 25.0	1 12.5	-	2 25.0	2 25.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5
年代別	10代 (n= 9)	3 33.3	4 44.4	-	5 55.6	2 22.2	1 11.1	-	1 11.1	3 33.3	1 11.1	1 11.1	-	-
	20代 (n= 82)	29 35.4	29 35.4	7 8.5	35 42.7	13 15.9	12 14.6	2 2.4	24 29.3	23 28.0	15 18.3	4 4.9	2 2.4	4 4.9
	30代 (n= 150)	48 32.0	52 34.7	15 10.0	40 26.7	34 22.7	26 17.3	10 6.7	56 37.3	45 30.0	41 27.3	7 4.7	5 3.3	3 2.0
	40代 (n= 214)	81 37.9	70 32.7	26 12.1	57 26.6	44 20.6	33 15.4	19 8.9	81 37.9	67 31.3	44 20.6	9 4.2	12 5.6	5 2.3
	50代 (n= 249)	93 37.3	99 39.8	12 4.8	60 24.1	70 28.1	37 14.9	11 4.4	93 37.3	68 27.3	36 14.5	4 1.6	9 3.6	17 6.8
	60代 (n= 243)	84 34.6	114 46.9	12 4.9	65 26.7	56 23.0	47 19.3	24 9.9	93 38.3	41 16.9	19 7.8	16 6.6	9 3.7	16 6.6
	70代以上 (n= 402)	150 37.3	198 49.3	16 4.0	132 32.8	34 8.5	80 19.9	69 17.2	119 29.6	34 8.5	11 2.7	27 6.7	13 3.2	56 13.9
地区別	本庁 (n= 437)	149 34.1	164 37.5	33 7.6	124 28.4	98 22.4	72 16.5	41 9.4	154 35.2	78 17.8	59 13.5	22 5.0	19 4.3	37 8.5
	真和志 (n= 431)	157 36.4	186 43.2	22 5.1	121 28.1	70 16.2	80 18.6	49 11.4	154 35.7	81 18.8	49 11.4	22 5.1	19 4.4	33 7.7
	小禄 (n= 208)	65 31.3	95 45.7	19 9.1	69 33.2	44 21.2	28 13.5	21 10.1	54 26.0	64 30.8	25 12.0	9 4.3	4 1.9	15 7.2
	首里 (n= 272)	116 42.6	122 44.9	13 4.8	79 29.0	40 14.7	53 19.5	23 8.5	107 39.3	58 21.3	35 12.9	15 5.5	8 2.9	17 6.3
居住年数別	1年未満 (n= 40)	14 35.0	16 40.0	3 7.5	18 45.0	11 27.5	8 20.0	3 7.5	13 32.5	8 20.0	3 7.5	2 5.0	1 2.5	2 5.0
	1～2年 (n= 58)	18 31.0	21 36.2	6 10.3	19 32.8	9 15.5	6 10.3	4 6.9	19 32.8	17 29.3	7 12.1	6 10.3	-	4 6.9
	3～5年 (n= 113)	41 36.3	43 38.1	9 8.0	37 32.7	21 18.6	16 14.2	6 5.3	38 33.6	20 17.7	20 17.7	5 4.4	2 1.8	10 8.8
	6～10年 (n= 118)	41 34.7	46 39.0	7 5.9	30 25.4	26 22.0	25 21.2	11 9.3	35 29.7	31 26.3	18 15.3	11 9.3	6 5.1	6 5.1
	11～20年 (n= 195)	67 34.4	63 32.3	13 6.7	45 23.1	48 24.6	35 17.9	14 7.2	70 35.9	53 27.2	41 21.0	6 3.1	7 3.6	14 7.2
	21年以上 (n= 827)	307 37.1	378 45.7	50 6.0	244 29.5	137 16.6	146 17.7	96 11.6	293 35.4	153 18.5	79 9.6	38 4.6	34 4.1	67 8.1

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

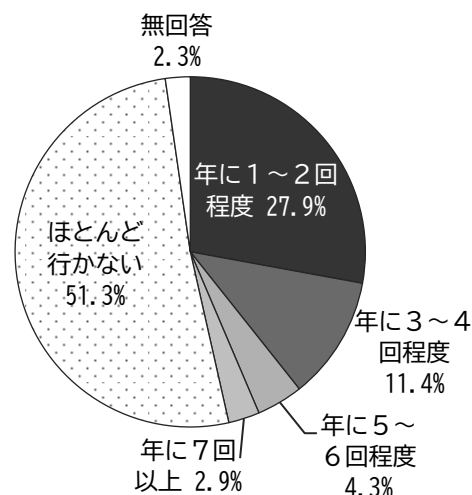
質問 43. 1 年間にどのくらいの頻度で劇場や博物館などへ鑑賞に出掛けますか。次の中から1つお選びください。

1. 年に1～2回程度 2. 年に3～4回程度 3. 年に5～6回程度
4. 年に7回以上 5. ほとんど行かない

劇場や博物館などへ鑑賞に出掛けると回答した市民のうち最も多かったのは「年に1～2回」である。

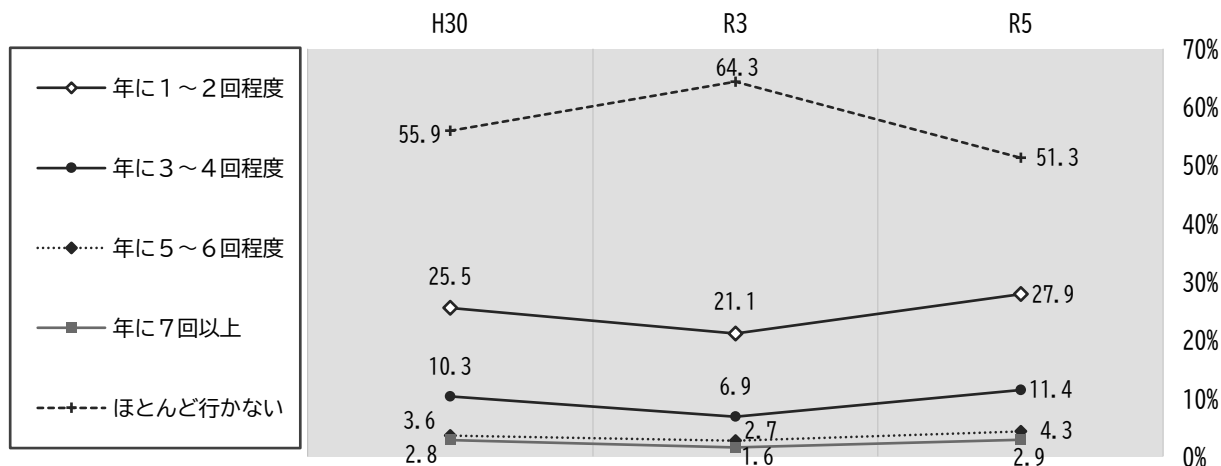
1 年間に劇場や博物館などへ鑑賞に出掛ける頻度については、「ほとんど行かない」が 51.3% で最も多く、次いで「年に1～2回程度」が 27.9%、「年に3～4回程度」が 11.4%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
年に1～2回程度	378	27.9%
年に3～4回程度	155	11.4%
年に5～6回程度	58	4.3%
年に7回以上	39	2.9%
ほとんど行かない	695	51.3%
無回答	31	2.3%
合 計	1,356	100%



【経年変化（平成30年度～令和5年度）】

前回調査と比較すると、「ほとんど行かない」の割合が13ポイント減少している。コロナ禍前の状態に戻りつつあると考えられる。

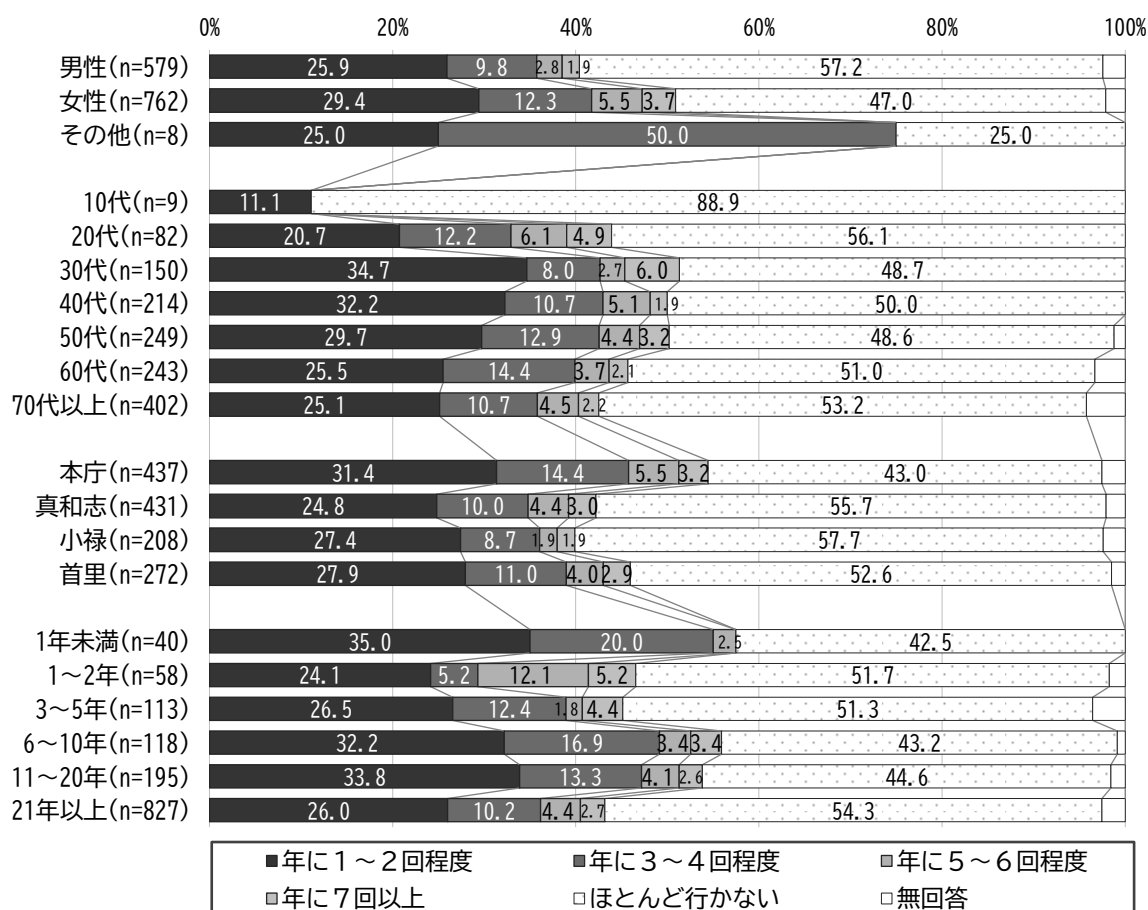


【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性は女性に比べ、「ほとんど行かない」の割合が高くなっている。

年代別でみると、10代、20代を除き、年代が上がるにつれて「ほとんど行かない」の割合が増加する傾向がある。

回答者属性(n=合計)	選択項目	年に1～2回程度	年に3～4回程度	年に5～6回程度	年に7回以上	ほとんど行かない	無回答
男性 (n= 579)		150	57	16	11	331	14
女性 (n= 762)		224	94	42	28	358	16
その他 (n= 8)		2	4	0	0	2	0
10代 (n= 9)		1	0	0	0	8	0
20代 (n= 82)		17	10	5	4	46	0
30代 (n= 150)		52	12	4	9	73	0
40代 (n= 214)		69	23	11	4	107	0
50代 (n= 249)		74	32	11	8	121	3
60代 (n= 243)		62	35	9	5	124	8
70代以上 (n= 402)		101	43	18	9	214	17
本庁 (n= 437)		137	63	24	14	188	11
真和志 (n= 431)		107	43	19	13	240	9
小禄 (n= 208)		57	18	4	4	120	5
首里 (n= 272)		76	30	11	8	143	4
1年未満 (n= 40)		14	8	1	0	17	0
1～2年 (n= 58)		14	3	7	3	30	1
3～5年 (n= 113)		30	14	2	5	58	4
6～10年 (n= 118)		38	20	4	4	51	1
11～20年 (n= 195)		66	26	8	5	87	3
21年以上 (n= 827)		215	84	36	22	449	21



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

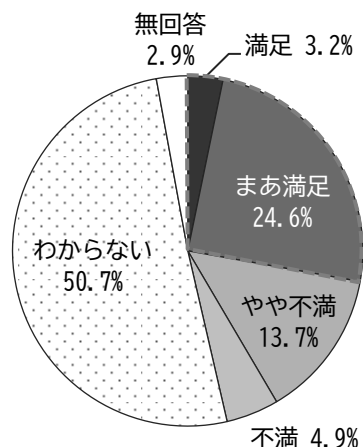
質問 44. 文化芸術を鑑賞したり習い事をしたりする機会や、優れた地域文化にふれる機会など、本市内での文化的な環境に満足していますか。次の中から1つお選びください。

1. 満足 2. まあ満足 3. やや不満 4. 不満 5. わからない

本市内での文化的な環境に「満足」の割合は 27.8%、「不満」の割合は 18.6%である。

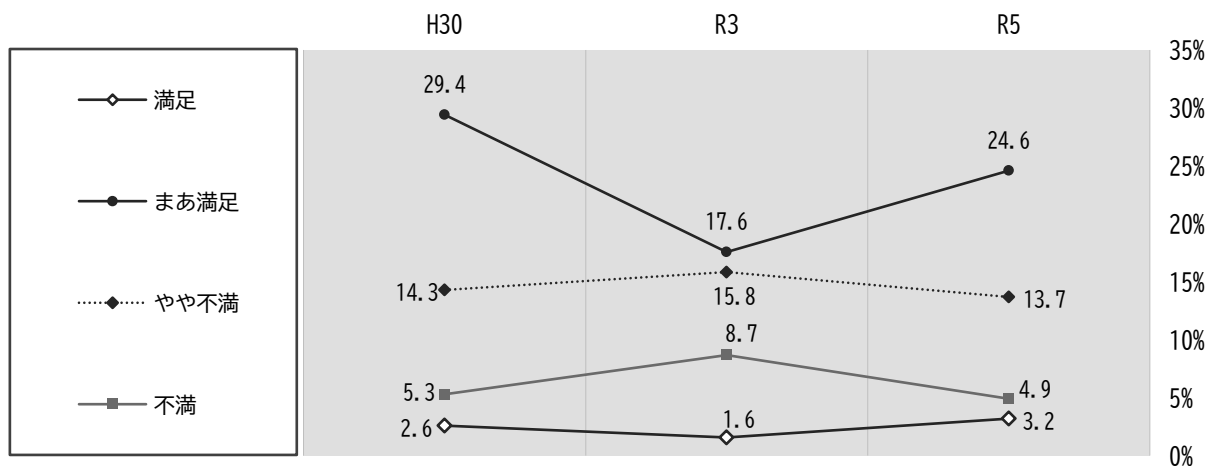
本市内での文化的な環境に満足しているかについては、「わからない」が 50.7%で最も多く、次いで「まあ満足」が 24.6%、「やや不満」が 13.7%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
満足	44	3.2%
まあ満足	333	24.6%
やや不満	186	13.7%
不満	66	4.9%
わからない	688	50.7%
無回答	39	2.9%
合 計	1,356	100%



【経年変化（平成 30 年度～令和 5 年度）】

前回調査と比較すると、「満足」「まあ満足」の割合がともに増加し、「やや不満」「不満」の割合が減少している。

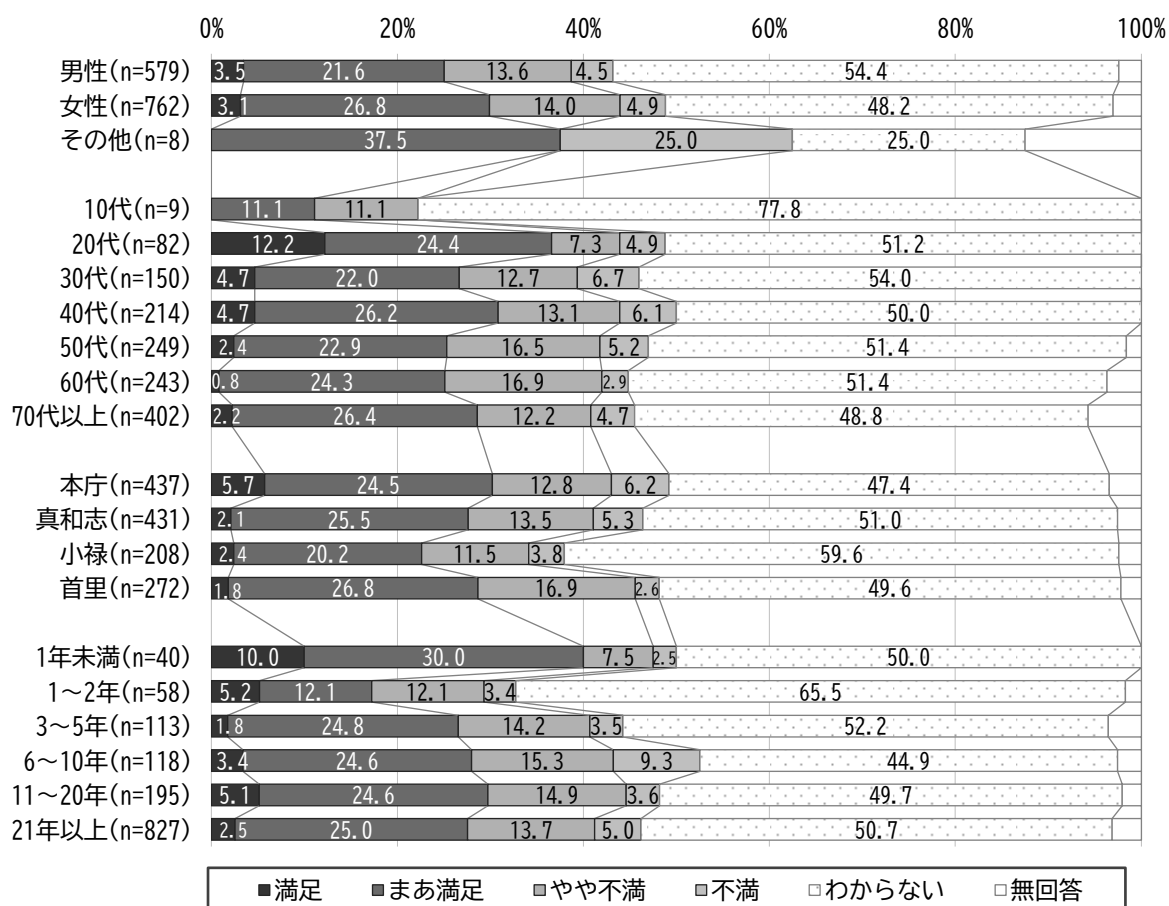


【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性は女性に比べ、「わからない」の割合が高くなっている。

居住年数別でみると、1年未満は「満足」「まあ満足」の割合が高くなっている。

選択項目		満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない	無回答
回答者属性(n=合計)							
男性 (n= 579)		20	125	79	26	315	14
女性 (n= 762)		24	204	107	37	367	23
その他 (n= 8)		0	3	0	2	2	1
10代 (n= 9)		0	1	1	0	7	0
20代 (n= 82)		10	20	6	4	42	0
30代 (n= 150)		7	33	19	10	81	0
40代 (n= 214)		10	56	28	13	107	0
50代 (n= 249)		6	57	41	13	128	4
60代 (n= 243)		2	59	41	7	125	9
70代以上 (n= 402)		9	106	49	19	196	23
本庁 (n= 437)		25	107	56	27	207	15
真和志 (n= 431)		9	110	58	23	220	11
小禄 (n= 208)		5	42	24	8	124	5
首里 (n= 272)		5	73	46	7	135	6
1年未満 (n= 40)		4	12	3	1	20	0
1～2年 (n= 58)		3	7	7	2	38	1
3～5年 (n= 113)		2	28	16	4	59	4
6～10年 (n= 118)		4	29	18	11	53	3
11～20年 (n= 195)		10	48	29	7	97	4
21年以上 (n= 827)		21	207	113	41	419	26



(14) 観光意識について

質問 45. 那覇市内における観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化について、あなたはどのように思いますか。次の中から3つまでお選びください。

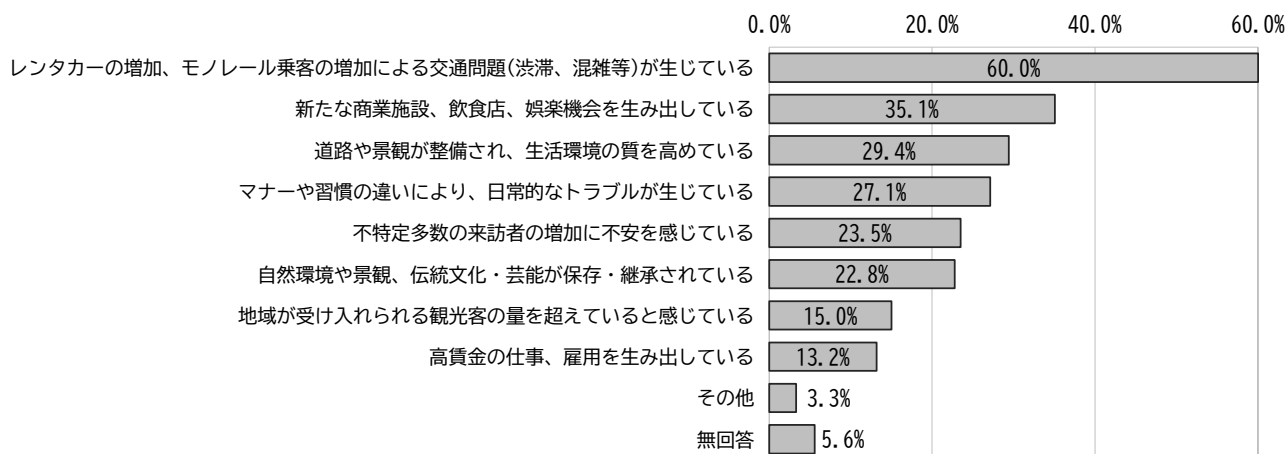
1. 自然環境や景観、伝統文化・芸能が保存・継承されている
2. 道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている
3. 高賃金の仕事、雇用を生み出している
4. 新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している
5. レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている
6. マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている
7. 地域が受け入れられる観光客の量を超えていると感じている
8. 不特定多数の来訪者の増加に不安を感じている
9. その他（ ）

観光客の増加や、観光地としての整備が進むことによる生活環境の変化に思うことについて最も多かったのは「レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題が生じている」である。

那覇市内における生活環境の変化についてどう思うかについては、「レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている」の割合が 60.0%と最も高く、次いで「新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している」の割合が 35.1%、「道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている」の割合が 29.4%の順となっている。

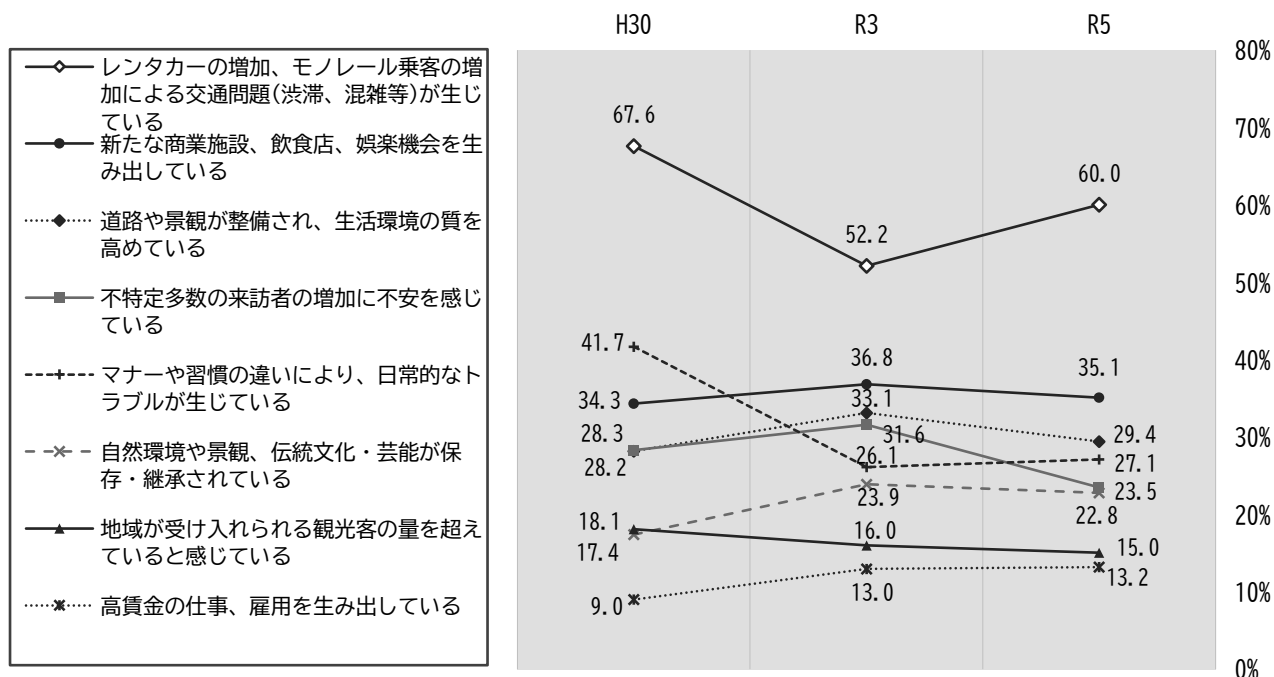
選択項目		回答数	割合
1 位	レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている	814	60.0%
2 位	新たな商業施設、飲食店、娯楽機会を生み出している	476	35.1%
3 位	道路や景観が整備され、生活環境の質を高めている	399	29.4%
4 位	マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている	368	27.1%
5 位	不特定多数の来訪者の増加に不安を感じている	319	23.5%
6 位	自然環境や景観、伝統文化・芸能が保存・継承されている	309	22.8%
7 位	地域が受け入れられる観光客の量を超えていると感じている	204	15.0%
8 位	高賃金の仕事、雇用を生み出している	179	13.2%
—	その他	45	3.3%
—	無回答	76	5.6%
合 計		3,189	—
回答者数		1,356	235.2%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。



【経年変化（平成 30 年度～令和 5 年度）】

前回調査と比較すると、「レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題（渋滞、混雑等）が生じている」の割合が 7.8 ポイント増加し、「不特定多数の来訪者の増加に不安を感じている」の割合が 8.1 ポイント減少している。



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・環境悪化（ゴミの増加、環境整備不足）（12 人）
- ・マナーの悪さ（5 人）
- ・オーバーツーリズムが増加している（4 人）

女性-40 代-本庁地区・他
女性-70 代以上-本庁地区・他
男性-70 代以上-首里地区・他

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

いずれの属性においても、「レンタカーの増加、モノレール乗客の増加による交通問題が生じている」の割合が最も高くなっている。

年代別では、20～50代で「マナーや習慣の違いにより、日常的なトラブルが生じている」の割合が高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		保存・継承 自然環境や景観、 伝統文化・芸能が されている	道路や景観が整備され、 生活環境の質を高めている	高賃金の仕事、雇用を 生み出している	新たな商業施設、 飲食店、娯楽機会を 生み出している	レンタカーの増加、モノレール 乗客の増加による交通問題 (渋滞、混雑等)が生じている	マナーや習慣の違いにより、 日常的なトラブルが生じている	地域が受け入れられる観光客の 量を超えていると感じている	不特定多数の来訪者の増加に 不安を感じている	その他	無回答
性別	男性 (n= 579)	130 22.5	183 31.6	83 14.3	190 32.8	358 61.8	186 32.1	100 17.3	134 23.1	19 3.3	29 5.0
	女性 (n= 762)	177 23.2	212 27.8	94 12.3	281 36.9	448 58.8	179 23.5	102 13.4	182 23.9	24 3.1	44 5.8
	その他 (n= 8)	1 12.5	2 25.0	2 25.0	4 50.0	5 62.5	1 12.5	2 25.0	2 25.0	-	1 12.5
年代別	10代 (n= 9)	3 33.3	2 22.2	-	4 44.4	7 77.8	2 22.2	2 22.2	2 22.2	-	-
	20代 (n= 82)	24 29.3	19 23.2	15 18.3	20 24.4	55 67.1	27 32.9	12 14.6	13 15.9	-	2 2.4
	30代 (n= 150)	30 20.0	37 24.7	24 16.0	55 36.7	93 62.0	53 35.3	21 14.0	25 16.7	7 4.7	1 0.7
	40代 (n= 214)	33 15.4	58 27.1	32 15.0	77 36.0	156 72.9	76 35.5	38 17.8	45 21.0	7 3.3	2 0.9
	50代 (n= 249)	43 17.3	67 26.9	44 17.7	81 32.5	165 66.3	76 30.5	41 16.5	62 24.9	9 3.6	10 4.0
	60代 (n= 243)	56 23.0	79 32.5	29 11.9	99 40.7	138 56.8	58 23.9	38 15.6	54 22.2	9 3.7	15 6.2
	70代以上 (n= 402)	119 29.6	135 33.6	35 8.7	139 34.6	198 49.3	75 18.7	52 12.9	116 28.9	12 3.0	44 10.9
地区別	本庁 (n= 437)	96 22.0	115 26.3	58 13.3	145 33.2	266 60.9	134 30.7	78 17.8	95 21.7	16 3.7	24 5.5
	真和志 (n= 431)	105 24.4	140 32.5	51 11.8	159 36.9	241 55.9	124 28.8	67 15.5	111 25.8	11 2.6	23 5.3
	小緑 (n= 208)	35 16.8	63 30.3	31 14.9	69 33.2	139 66.8	56 26.9	22 10.6	48 23.1	8 3.8	10 4.8
	首里 (n= 272)	71 26.1	79 29.0	38 14.0	101 37.1	167 61.4	52 19.1	37 13.6	63 23.2	9 3.3	17 6.3
居住年数別	1年未満 (n= 40)	8 20.0	11 27.5	9 22.5	11 27.5	25 62.5	17 42.5	7 17.5	9 22.5	4 10.0	1 2.5
	1～2年 (n= 58)	15 25.9	14 24.1	8 13.8	14 24.1	40 69.0	15 25.9	11 19.0	10 17.2	1 1.7	3 5.2
	3～5年 (n= 113)	30 26.5	25 22.1	17 15.0	33 29.2	76 67.3	38 33.6	13 11.5	16 14.2	3 2.7	10 8.8
	6～10年 (n= 118)	27 22.9	35 29.7	20 16.9	31 26.3	75 63.6	35 29.7	24 20.3	28 23.7	3 2.5	4 3.4
	11～20年 (n= 195)	37 19.0	47 24.1	33 16.9	72 36.9	128 65.6	58 29.7	28 14.4	36 18.5	9 4.6	5 2.6
	21年以上 (n= 827)	191 23.1	266 32.2	92 11.1	315 38.1	468 56.6	204 24.7	121 14.6	217 26.2	24 2.9	52 6.3

(15) 生涯学習について

質問 46. あなたは、どのような活動に興味があり学んでみたいと思いますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

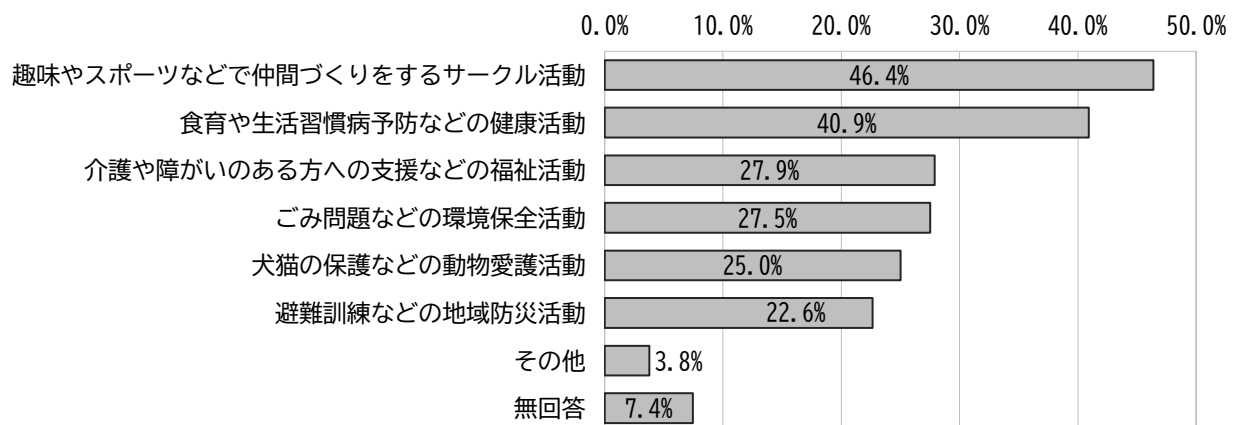
- | | |
|-----------------------------|------------------|
| 1. 犬猫の保護などの動物愛護活動 | 2. ごみ問題などの環境保全活動 |
| 3. 食育や生活習慣病予防などの健康活動 | 4. 避難訓練などの地域防災活動 |
| 5. 介護や障がいのある方への支援などの福祉活動 | |
| 6. 趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動 | |
| 7. その他 () | |

興味があり学んでみたいと思う活動について最も多かったのは「趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動」である。

興味があり学んでみたい活動については、「趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動」の割合が 46.4%で最も高く、次いで「食育や生活習慣病予防などの健康活動」の割合が 40.9%、「介護や障がいのある方への支援などの福祉活動」の割合が 27.9%の順となっている。

選択項目		回答数	割合
1 位	趣味やスポーツなどで仲間づくりをするサークル活動	629	46.4%
2 位	食育や生活習慣病予防などの健康活動	555	40.9%
3 位	介護や障がいのある方への支援などの福祉活動	378	27.9%
4 位	ごみ問題などの環境保全活動	373	27.5%
5 位	犬猫の保護などの動物愛護活動	339	25.0%
6 位	避難訓練などの地域防災活動	307	22.6%
—	その他	51	3.8%
—	無回答	101	7.4%
合 計		2,733	—
回答者数		1,356	201.5%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。

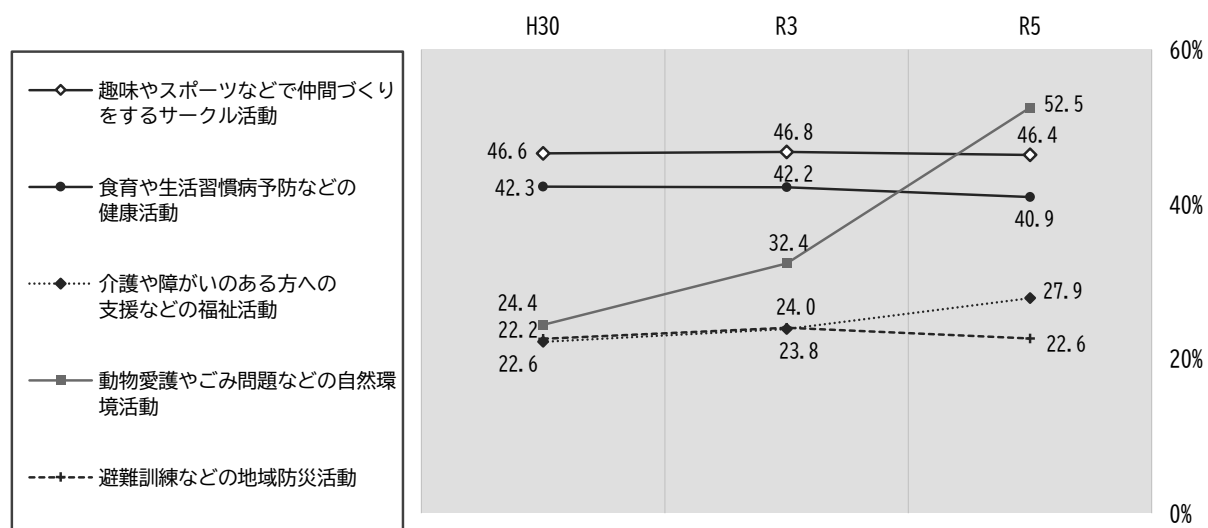


IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【経年変化（平成 30 年度～令和 5 年度）】

前回調査と比較すると、「動物愛護やごみ問題などの自然環境活動」の割合が 10.7 ポイント増加している。

※令和 3 年度調査では、動物愛護とごみ問題をあわせて「動物愛護やごみ問題などの自然環境活動」としていた為、令和 5 年度も合算して集計している。



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・地球温暖化抑制（2 人）
- ・ひとり親支援（2 人）

女性-70 代以上-小緑地区・他
女性-40 代-小緑地区・他

【属性別集計（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）】

性別でみると、男性は「ごみ問題などの環境保全活動」、女性は「介護や障がいのある方への支援などの福祉活動」の割合が高くなっている。

年代別でみると、70代以上では「食育や生活習慣病予防などの健康活動」の割合が最も高くなっている。

居住地区別でみると、真和志地区、首里地区は「介護や障がいのある方への支援などの福祉活動」の割合が本庁地区や小禄地区と比較して高い。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		犬猫の保護などの 動物愛護活動	ごみ問題などの 環境保全活動	食育や生活習慣病予防 などの健康活動	避難訓練などの 地域防災活動	介護や障がいのある方への 支援などの福祉活動	趣味やスポーツなどで サークル活動をする	その他	無回答
性別	男性 (n= 579)	125 21.6	171 29.5	206 35.6	125 21.6	133 23.0	273 47.2	24 4.1	48 8.3
	女性 (n= 762)	212 27.8	197 25.9	344 45.1	179 23.5	241 31.6	347 45.5	26 3.4	50 6.6
	その他 (n= 8)	1 12.5	4 50.0	3 37.5	2 25.0	3 37.5	6 75.0	-	1 12.5
年代別	10代 (n= 9)	3 33.3	1 11.1	5 55.6	3 33.3	-	4 44.4	-	-
	20代 (n= 82)	29 35.4	17 20.7	25 30.5	19 23.2	19 23.2	48 58.5	2 2.4	-
	30代 (n= 150)	51 34.0	43 28.7	61 40.7	37 24.7	35 23.3	78 52.0	8 5.3	4 2.7
	40代 (n= 214)	69 32.2	70 32.7	85 39.7	58 27.1	55 25.7	106 49.5	9 4.2	4 1.9
	50代 (n= 249)	73 29.3	74 29.7	94 37.8	47 18.9	73 29.3	109 43.8	10 4.0	12 4.8
	60代 (n= 243)	63 25.9	58 23.9	104 42.8	58 23.9	73 30.0	116 47.7	6 2.5	18 7.4
	70代以上 (n= 402)	50 12.4	109 27.1	179 44.5	84 20.9	122 30.3	165 41.0	16 4.0	61 15.2
地区別	本庁 (n= 437)	120 27.5	132 30.2	168 38.4	100 22.9	113 25.9	200 45.8	16 3.7	31 7.1
	真和志 (n= 431)	108 25.1	119 27.6	173 40.1	97 22.5	130 30.2	195 45.2	17 3.9	41 9.5
	小禄 (n= 208)	58 27.9	53 25.5	77 37.0	41 19.7	55 26.4	97 46.6	5 2.4	13 6.3
	首里 (n= 272)	53 19.5	68 25.0	134 49.3	68 25.0	78 28.7	134 49.3	13 4.8	14 5.1
居住年数別	1年未満 (n= 40)	11 27.5	11 27.5	18 45.0	5 12.5	7 17.5	17 42.5	5 12.5	1 2.5
	1～2年 (n= 58)	21 36.2	9 15.5	12 20.7	14 24.1	9 15.5	33 56.9	1 1.7	4 6.9
	3～5年 (n= 113)	36 31.9	35 31.0	37 32.7	25 22.1	28 24.8	56 49.6	2 1.8	8 7.1
	6～10年 (n= 118)	39 33.1	37 31.4	50 42.4	34 28.8	34 28.8	56 47.5	2 1.7	3 2.5
	11～20年 (n= 195)	60 30.8	66 33.8	76 39.0	44 22.6	44 22.6	97 49.7	6 3.1	10 5.1
	21年以上 (n= 827)	171 20.7	213 25.8	361 43.7	185 22.4	254 30.7	368 44.5	35 4.2	73 8.8

(16) 青少年の育成について

質問 47. あなたは、地域の青少年（小学生～29 歳まで）とどのように関わっていますか。

あてはまるものをすべてお選びください。

1. あいさつや地域行事への参加の声掛け
2. 青少年団体へ寄付をするなど金銭的な支援で関わっている
3. 部活動のコーチや読み聞かせ、登下校の見守りなど学校支援を通して関わっている
4. 地域の青年会や子ども会活動などで関わっている
5. 地域の子ども会活動などで関わっている
6. 特に関わりがない
7. その他（ ）

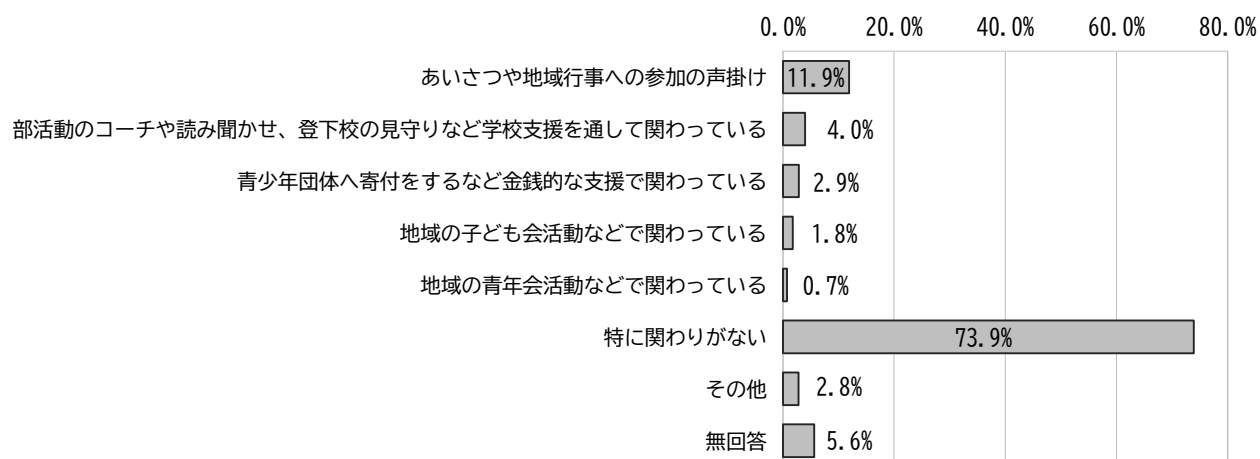
地域の青少年との関わりについて最も多かったのは「あいさつや地域行事への参加の声掛け」である。

地域の青少年とどのように関わっているかについては、「あいさつや地域行事への参加の声掛け」の割合が 11.9%と最も高く、次いで「部活動のコーチや読み聞かせ、登下校の見守りなど学校支援を通して関わっている」の割合が 4.0%、「青少年団体への寄付をするなど金銭的な支援で関わっている」の割合が 2.9%の順となっている。

また、「特に関わりがない」と回答した市民は 7 割強となっている。

選択項目		回答数	割合
1 位	あいさつや地域行事への参加の声掛け	161	11.9%
2 位	部活動のコーチや読み聞かせ、登下校の見守りなど学校支援を通して関わっている	54	4.0%
3 位	青少年団体へ寄付をするなど金銭的な支援で関わっている	39	2.9%
4 位	地域の子ども会活動などで関わっている	24	1.8%
5 位	地域の青年会活動などで関わっている	10	0.7%
—	特に関わりがない	1,002	73.9%
—	その他	38	2.8%
—	無回答	76	5.6%
合 計		1,404	—
回答者数		1,356	103.5%

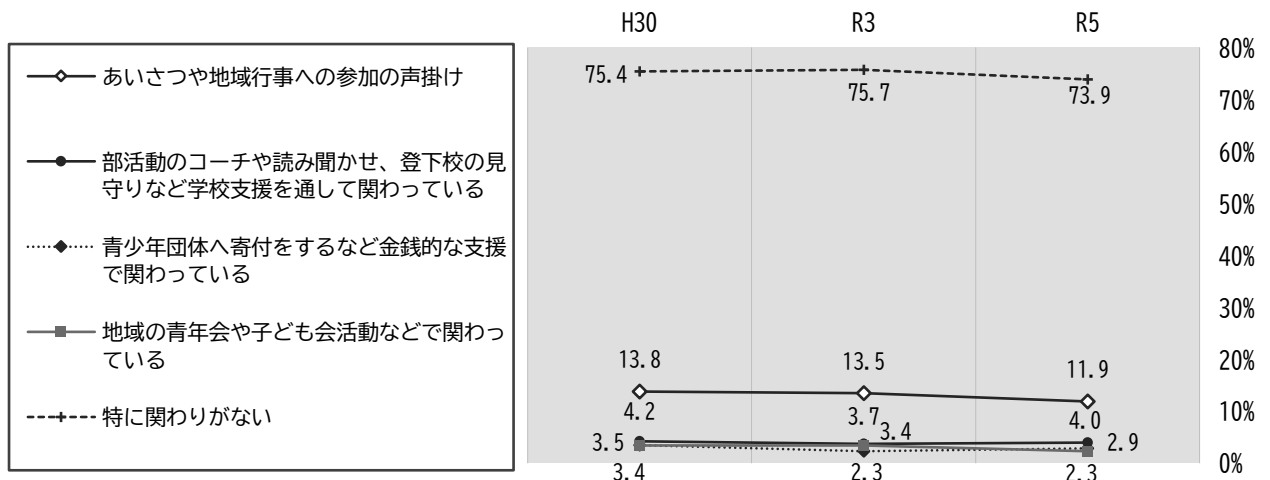
※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。



【経年変化（平成 30 年度～令和 5 年度）】

前回調査と比較すると、大きな変化は見られなかった。

※平成 30 年度調査では、青年会活動と子ども会活動をあわせて「地域の青年会や子ども会活動などで関わっている」としていた為、令和 3 年度以降も合算して集計している。



【選択肢「その他」の主な内容】

- ・あいさつ（5 人）
- ・自治会、PTA 活動等（3 人）
- ・部活動（3 人）

女性-50 代-本庁地区・他
女性-50 代-小緑地区・他
男性-60 代-首里地区・他



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

いずれの属性においても「特に関わりがない」の割合が最も高くなっている。

年代別で見ると、40代で「部活動のコーチや読み聞かせ、登下校の見守りなど学校支援を通して関わっている」の割合が比較的高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		あいさつや地域行事への参加の声掛け	青少年団体へ寄付をするなど金銭的な支援で関わっている	部活動のコーチや読み聞かせ、登下校の見守りなど学校支援を通して関わっている	地域の青年会活動などで関わっている	地域の子ども会活動などで関わっている	特に関わりがない	その他	無回答
性別	男性 (n= 579)	66 11.4	15 2.6	21 3.6	6 1.0	9 1.6	438 75.6	14 2.4	26 4.5
	女性 (n= 762)	95 12.5	23 3.0	33 4.3	4 0.5	15 2.0	554 72.7	23 3.0	47 6.2
	その他 (n= 8)	- -	1 12.5	- -	- -	- -	6 75.0	- -	1 12.5
年代別	10代 (n= 9)	2 22.2	- -	- -	1 11.1	- -	6 66.7	- -	- -
	20代 (n= 82)	10 12.2	- -	5 6.1	2 2.4	- -	62 75.6	3 3.7	3 3.7
	30代 (n= 150)	21 14.0	3 2.0	9 6.0	1 0.7	6 4.0	115 76.7	- -	3 2.0
	40代 (n= 214)	26 12.1	9 4.2	22 10.3	2 0.9	10 4.7	148 69.2	7 3.3	5 2.3
	50代 (n= 249)	20 8.0	6 2.4	10 4.0	3 1.2	1 0.4	195 78.3	7 2.8	10 4.0
	60代 (n= 243)	27 11.1	4 1.6	2 0.8	1 0.4	1 0.4	191 78.6	6 2.5	12 4.9
	70代以上 (n= 402)	55 13.7	17 4.2	6 1.5	- -	6 1.5	280 69.7	14 3.5	42 10.4
地区別	本庁 (n= 437)	52 11.9	18 4.1	20 4.6	4 0.9	9 2.1	313 71.6	14 3.2	25 5.7
	真和志 (n= 431)	49 11.4	10 2.3	14 3.2	2 0.5	6 1.4	328 76.1	9 2.1	24 5.6
	小禄 (n= 208)	21 10.1	3 1.4	11 5.3	1 0.5	3 1.4	158 76.0	6 2.9	9 4.3
	首里 (n= 272)	39 14.3	8 2.9	9 3.3	3 1.1	6 2.2	198 72.8	8 2.9	16 5.9
居住年数別	1年未満 (n= 40)	4 10.0	- -	2 5.0	- -	- -	33 82.5	1 2.5	1 2.5
	1～2年 (n= 58)	5 8.6	1 1.7	1 1.7	- -	2 3.4	48 82.8	1 1.7	1 1.7
	3～5年 (n= 113)	13 11.5	4 3.5	4 3.5	- -	1 0.9	88 77.9	2 1.8	6 5.3
	6～10年 (n= 118)	18 15.3	3 2.5	2 1.7	- -	1 0.8	89 75.4	1 0.8	7 5.9
	11～20年 (n= 195)	22 11.3	6 3.1	19 9.7	3 1.5	6 3.1	130 66.7	6 3.1	9 4.6
	21年以上 (n= 827)	99 12.0	25 3.0	26 3.1	7 0.8	14 1.7	611 73.9	26 3.1	51 6.2

(17) 消防行政について

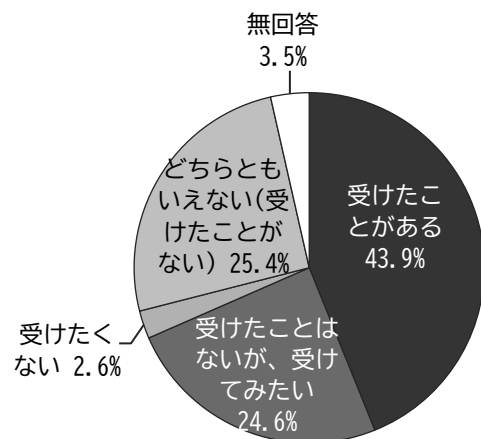
質問 48. あなたは、応急手当（心肺蘇生法及び AED の取扱い）の講習を受けたことがありますか。
次の中から 1 つお選びください。

1. 受けたことがある
2. 受けたことはないが、受けてみたい
3. 受けたくない
4. どちらともいえない（受けたことがない）

応急手当の講習について最も多かったのは「受けたことがある」である。

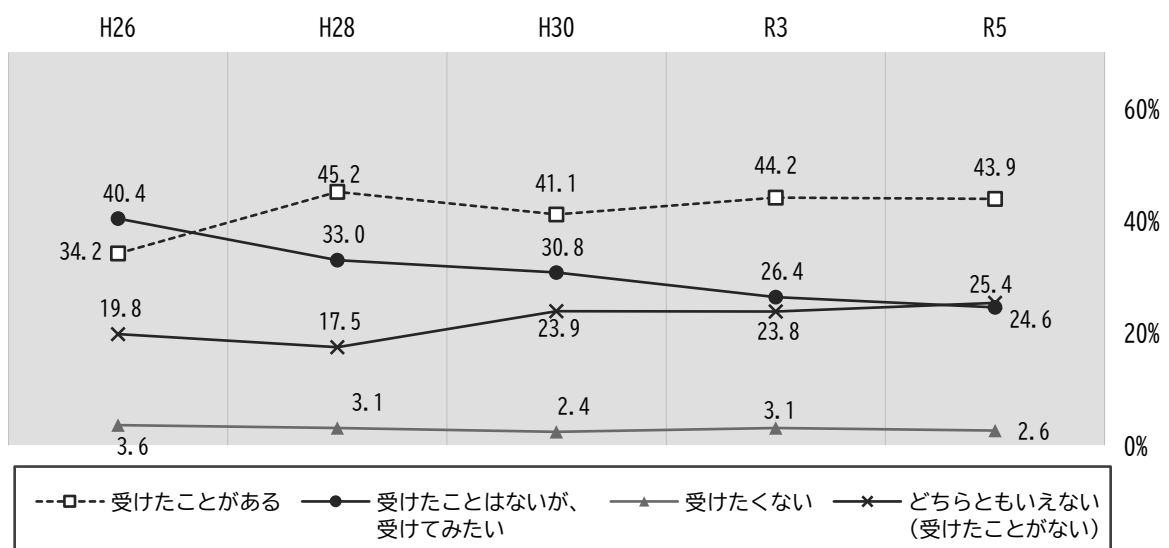
応急手当の講習を受けたことがあるかについては、「受けたことがある」の割合が 43.9%で最も高く、次いで「どちらともいえない（受けたことがない）」の割合が 25.4%、「受けたことはないが受けてみたい」の割合が 24.6%の順となっている。

選択項目	回答数	%
受けたことがある	595	43.9%
受けたことはないが、受けてみたい	333	24.6%
受けたくない	35	2.6%
どちらともいえない（受けたことがない）	345	25.4%
無回答	48	3.5
合 計	1,356	100%



【経年変化（平成 26 年度～令和 5 年度）】

前回調査と比較すると、「どちらともいえない（受けたことがない）」の割合は 1.6 ポイント増加、「受けたことはないが、受けてみたい」の割合は 1.8 ポイント減少している。



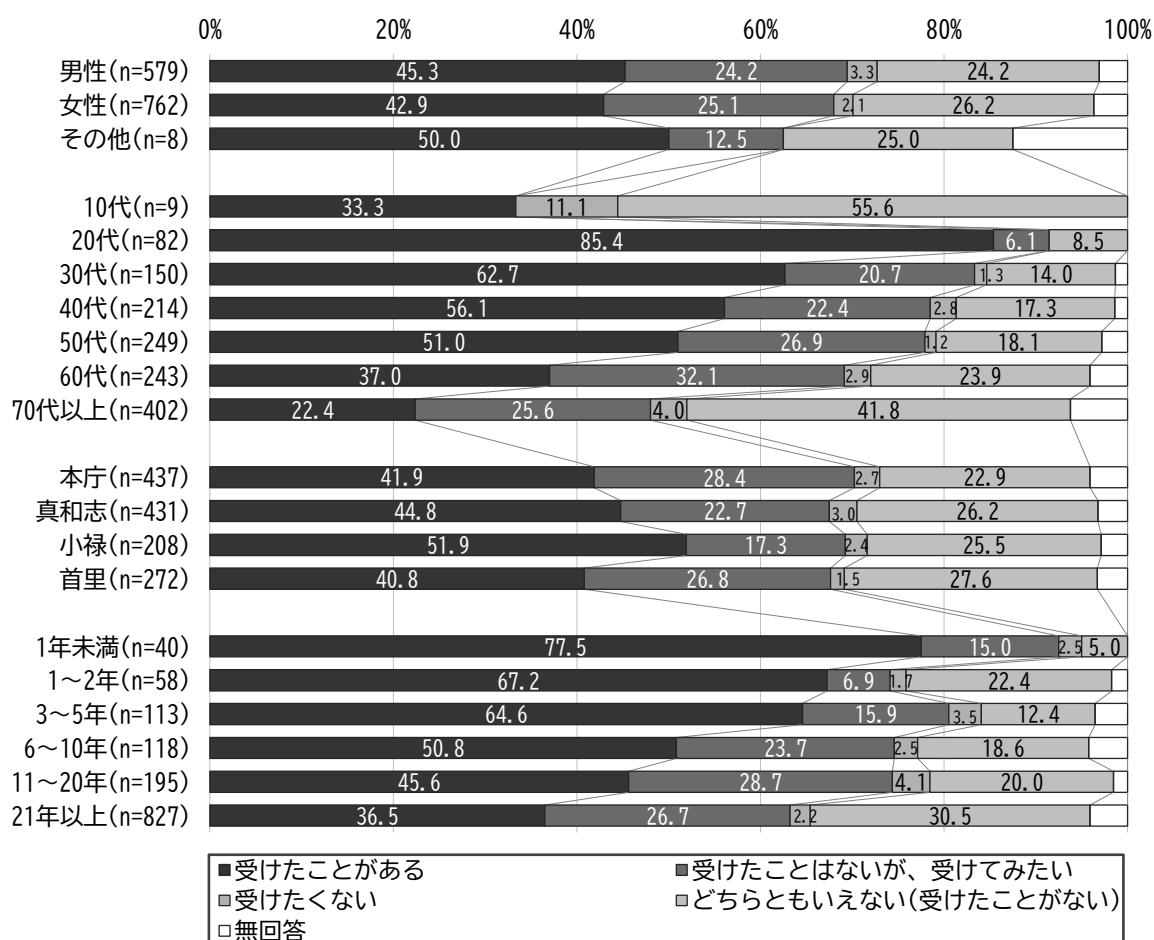
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別でみると、20代では9割弱の市民が「受けたことがある」と回答している。

居住年数別でみると、1年未満では8割弱の市民が「受けたことがある」と回答している。

回答者属性(n=合計)	選択項目	受けたことがある	受けたことはないが、受けてみたい	受けたくない	どちらともいえない(受けたことがない)	無回答
男性 (n= 579)		262	140	19	140	18
女性 (n= 762)		327	191	16	200	28
その他 (n= 8)		4	1	0	2	1
10代 (n= 9)		3	0	1	5	0
20代 (n= 82)		70	5	0	7	0
30代 (n= 150)		94	31	2	21	2
40代 (n= 214)		120	48	6	37	3
50代 (n= 249)		127	67	3	45	7
60代 (n= 243)		90	78	7	58	10
70代以上 (n= 402)		90	103	16	168	25
本庁 (n= 437)		183	124	12	100	18
真和志 (n= 431)		193	98	13	113	14
小禄 (n= 208)		108	36	5	53	6
首里 (n= 272)		111	73	4	75	9
1年未満 (n= 40)		31	6	1	2	0
1～2年 (n= 58)		39	4	1	13	1
3～5年 (n= 113)		73	18	4	14	4
6～10年 (n= 118)		60	28	3	22	5
11～20年 (n= 195)		89	56	8	39	3
21年以上 (n= 827)		302	221	18	252	34



(18) 防災対策について

質問 49. あなたが実施している防災対策は何ですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

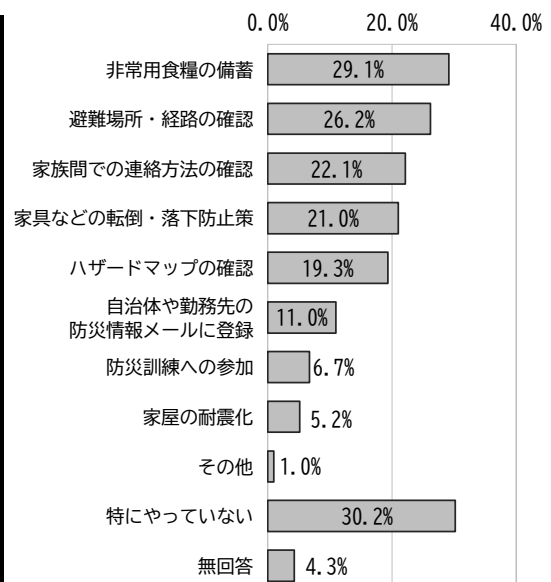
- | | |
|-----------------|-----------------------|
| 1. 非常用食糧の備蓄 | 2. 家具などの転倒・落下防止策 |
| 3. 避難場所・経路の確認 | 4. ハザードマップの確認 |
| 5. 家族間での連絡方法の確認 | 6. 防災訓練への参加 |
| 7. 家屋の耐震化 | 8. 自治体や勤務先の防災情報メールに登録 |
| 9. その他（ ） | 10. 特にやっていない |

市民が実施している防災対策について最も多かったのは「非常用食糧の備蓄」である。

市民が実施している防災対策については、「非常用食糧の備蓄」の割合が 29.1%で最も高く、次いで「避難場所・経路の確認」の割合が 26.2%、「家族間での連絡方法の確認」の割合が 22.1%の順となっている。

また、「特にやっていない」と回答した市民は 30.2%で、約3割を占めている。

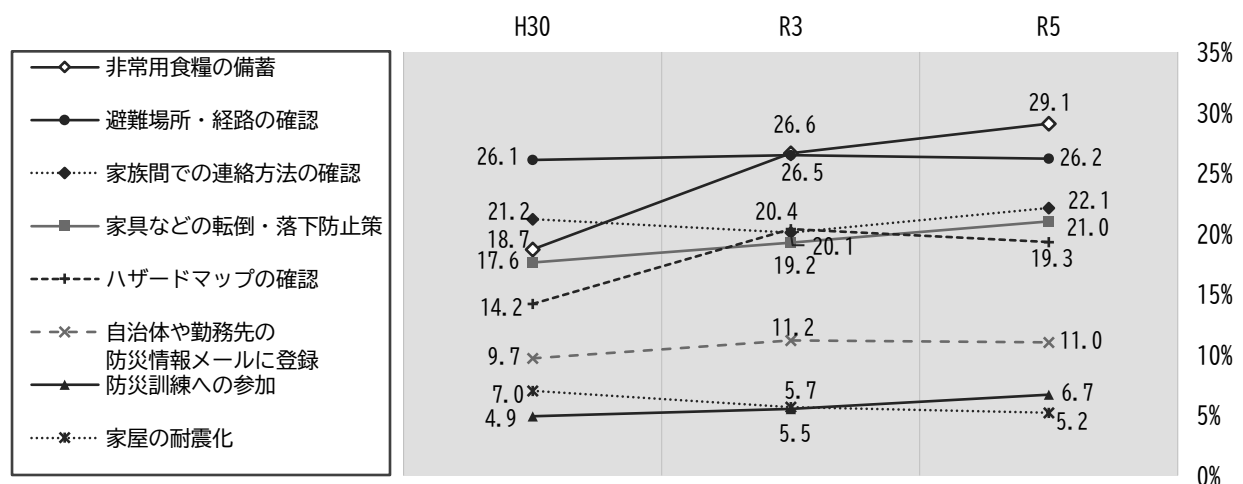
選択項目	回答数	割合
1位 非常用食糧の備蓄	395	29.1%
2位 避難場所・経路の確認	355	26.2%
3位 家族間での連絡方法の確認	300	22.1%
4位 家具などの転倒・落下防止策	285	21.0%
5位 ハザードマップの確認	262	19.3%
6位 自治体や勤務先の防災情報メールに登録	149	11.0%
7位 防災訓練への参加	91	6.7%
8位 家屋の耐震化	70	5.2%
— その他	13	1.0%
— 特にやっていない	409	30.2%
— 無回答	58	4.3%
合 計	2,387	—
回答者数	1,356	176.0%



※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が100%を超えている。

【経年変化（平成30年度～令和5年度）】

前回調査と比較すると、「非常用食糧の備蓄」の割合が 2.5 ポイント、「家族間での連絡方法の確認」の割合が 2.0 ポイント増加している。



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性は「特にやっていない」、女性は「非常用食料の備蓄」の割合が最も高くなっている。

居住年数別でみると、20 年以下では「非常用食糧の備蓄」、21 年以上では「特にやっていない」の割合が最も高くなっている。

※■は第 1 位、■は第 2 位、■は第 3 位の項目

選択項目 回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		非常用食糧の備蓄	家具などの転倒・落下防止策	避難場所・経路の確認	ハザードマップの確認	連絡方法の家族間での確認	防災訓練への参加	家屋の耐震化	防災自治体やメール勤務先の登録	その他	特にやっていない	無回答
性別	男性 (n= 579)	142 24.5	123 21.2	150 25.9	117 20.2	113 19.5	41 7.1	31 5.4	59 10.2	4 0.7	194 33.5	22 3.8
	女性 (n= 762)	249 32.7	160 21.0	201 26.4	141 18.5	182 23.9	49 6.4	39 5.1	89 11.7	9 1.2	210 27.6	33 4.3
	その他 (n= 8)	4 50.0	2 25.0	2 25.0	3 37.5	4 50.0	1 12.5	-	1 12.5	-	2 25.0	1 12.5
年代別	10代 (n= 9)	3 33.3	-	-	2 22.2	3 33.3	-	-	-	-	5 55.6	-
	20代 (n= 82)	23 28.0	11 13.4	27 32.9	17 20.7	14 17.1	8 9.8	1 1.2	9 11.0	-	26 31.7	2 2.4
	30代 (n= 150)	58 38.7	25 16.7	41 27.3	27 18.0	33 22.0	8 5.3	4 2.7	21 14.0	5 3.3	37 24.7	2 1.3
	40代 (n= 214)	69 32.2	57 26.6	55 25.7	48 22.4	62 29.0	13 6.1	12 5.6	41 19.2	1 0.5	54 25.2	2 0.9
	50代 (n= 249)	77 30.9	53 21.3	66 26.5	58 23.3	58 23.3	15 6.0	11 4.4	41 16.5	2 0.8	69 27.7	9 3.6
	60代 (n= 243)	70 28.8	51 21.0	70 28.8	43 17.7	51 21.0	16 6.6	10 4.1	24 9.9	1 0.4	80 32.9	7 2.9
	70代以上 (n= 402)	93 23.1	87 21.6	95 23.6	66 16.4	79 19.7	31 7.7	32 8.0	13 3.2	4 1.0	135 33.6	35 8.7
地区別	本庁 (n= 437)	149 34.1	90 20.6	133 30.4	100 22.9	105 24.0	36 8.2	18 4.1	63 14.4	5 1.1	120 27.5	17 3.9
	真和志 (n= 431)	106 24.6	89 20.6	99 23.0	73 16.9	86 20.0	29 6.7	22 5.1	40 9.3	3 0.7	145 33.6	18 4.2
	小禄 (n= 208)	62 29.8	42 20.2	53 25.5	31 14.9	50 24.0	15 7.2	15 7.2	26 12.5	2 1.0	59 28.4	7 3.4
	首里 (n= 272)	76 27.9	64 23.5	70 25.7	57 21.0	59 21.7	11 4.0	15 5.5	20 7.4	3 1.1	80 29.4	15 5.5
居住年数別	1年未満 (n= 40)	17 42.5	10 25.0	10 25.0	9 22.5	6 15.0	5 12.5	2 5.0	7 17.5	1 2.5	10 25.0	-
	1～2年 (n= 58)	19 32.8	8 13.8	17 29.3	17 29.3	11 19.0	7 12.1	3 5.2	10 17.2	-	16 27.6	1 1.7
	3～5年 (n= 113)	42 37.2	20 17.7	26 23.0	26 23.0	21 18.6	7 6.2	3 2.7	16 14.2	3 2.7	32 28.3	7 6.2
	6～10年 (n= 118)	47 39.8	25 21.2	26 22.0	24 20.3	27 22.9	11 9.3	2 1.7	14 11.9	-	29 24.6	5 4.2
	11～20年 (n= 195)	69 35.4	53 27.2	61 31.3	46 23.6	48 24.6	14 7.2	7 3.6	26 13.3	2 1.0	43 22.1	6 3.1
	21年以上 (n= 827)	200 24.2	169 20.4	215 26.0	140 16.9	186 22.5	47 5.7	53 6.4	76 9.2	7 0.8	276 33.4	38 4.6

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・防災グッズの準備 (4 人)
- ・水害のための土、泥さらい

女性-40 代-真和志地区・他
女性-60 代-首里地区・他

質問 50. あなたが市に特に力を入れてほしい災害対策は何ですか。次の中から3つまでお選びください。

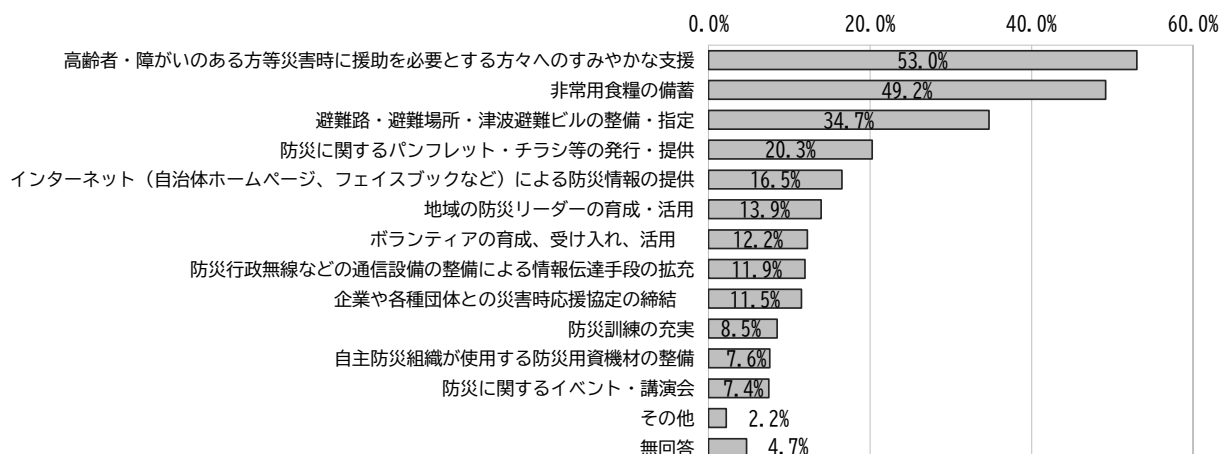
1. 非常用食糧の備蓄
2. 高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援
3. 防災に関するパンフレット・チラシ等の発行・提供
4. 避難路・避難場所・津波避難ビルの整備・指定
5. 地域の防災リーダーの育成・活用
6. 防災訓練の充実
7. 防災に関するイベント・講演会
8. インターネット（自治体ホームページ、フェイスブックなど）による防災情報の提供
9. 防災行政無線などの通信設備の整備による情報伝達手段の拡充
10. ボランティアの育成、受け入れ、活用
11. 自主防災組織が使用する防災用資機材の整備
12. 企業や各種団体との災害時応援協定の締結
13. その他（ ）

市民が特に力を入れてほしい災害対策として最も多かったのは「高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」である。

那覇市に特に力を入れてほしい災害対策は、「高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」の割合が 53.0%で最も高く、次いで「非常用食糧の備蓄」の割合が 49.2%、「避難路・避難場所・津波避難ビルの整備・指定」の割合が 34.7%の順となっている。

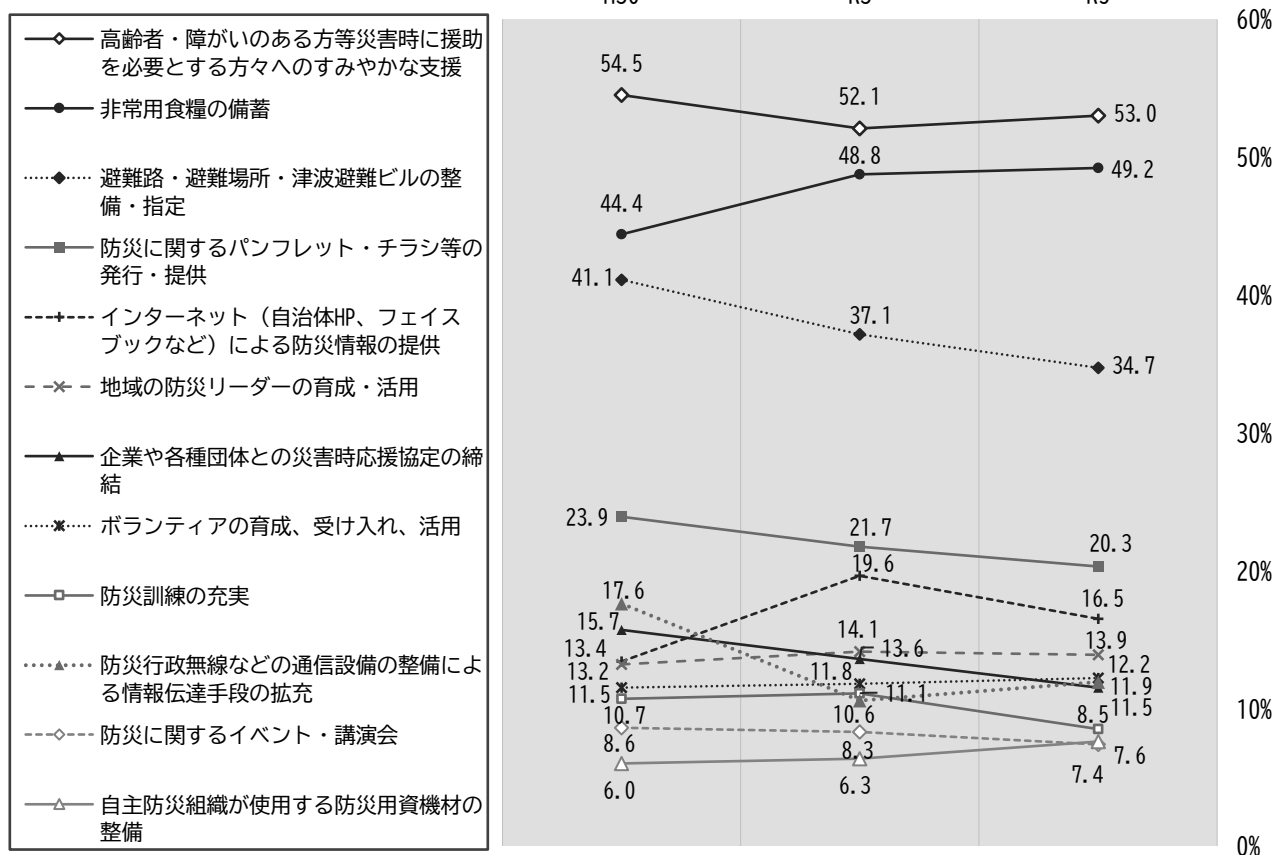
選択項目	回答数	割合
1 位 高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援	719	53.0%
2 位 非常用食糧の備蓄	667	49.2%
3 位 避難路・避難場所・津波避難ビルの整備・指定	471	34.7%
4 位 防災に関するパンフレット・チラシ等の発行・提供	275	20.3%
5 位 インターネット（自治体ホームページ、フェイスブックなど）による防災情報の提供	224	16.5%
6 位 地域の防災リーダーの育成・活用	189	13.9%
7 位 ボランティアの育成、受け入れ、活用	166	12.2%
8 位 防災行政無線などの通信設備の整備による情報伝達手段の拡充	162	11.9%
9 位 企業や各種団体との災害時応援協定の締結	156	11.5%
10 位 防災訓練の充実	115	8.5%
11 位 自主防災組織が使用する防災用資機材の整備	103	7.6%
12 位 防災に関するイベント・講演会	101	7.4%
— その他	30	2.2%
— 無回答	64	4.7%
合 計	3,442	—
回答者数	1,356	253.8%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。



【経年変化（平成 30 年度～令和 5 年度）】

前回調査と比較すると、「インターネット（自治体 HP、フェイスブックなど）による防災情報の提供」の割合が 3.1 ポイント、「防災訓練の充実」の割合が 2.6 ポイント減少している。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

性別でみると、男性と女性とで大きな差異はみられなかった。

年代別でみると、40代以下では「非常用食糧の備蓄」が、50代以上では「高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」の割合が最も高くなっている。

居住年数別でみると、20年以下では「非常用食糧の備蓄」、21年以上では「高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援」の割合が最も高くなっている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目		非常用食糧の備蓄	高齢者・障がいのある方等災害時に援助を必要とする方々へのすみやかな支援	防災に関するパンフレット・チラシ等の発行・提供	津波避難ビル・避難場所・指定	地域の防災リーダーの育成・活用	防災訓練の充実	防災に関するイベント・講演会	ホームページ、フェイスブックなどによる防災情報の提供	防災行政無線などの通信設備の整備による情報伝達手段の拡充	ボランティアの育成、受け入れ、活用	自主防災組織が使用する防災用資機材の整備	企業や各種団体との災害時応援協定の締結	その他	無回答
回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)	性別														
		男性 (n= 579)	女性 (n= 762)	その他 (n= 8)	10代 (n= 9)	20代 (n= 82)	30代 (n= 150)	40代 (n= 214)	50代 (n= 249)	60代 (n= 243)	70代以上 (n= 402)	本庁 (n= 437)	真和志 (n= 431)	小祿 (n= 208)	首里 (n= 272)
	男性	281 48.5	301 52.0	115 19.9	201 34.7	64 11.1	57 9.8	45 7.8	114 19.7	72 12.4	67 11.6	44 7.6	71 12.3	10 1.7	22 3.8
	女性	381 50.0	413 54.2	159 20.9	268 35.2	123 16.1	58 7.6	55 7.2	107 14.0	87 11.4	96 12.6	57 7.5	83 10.9	19 2.5	38 5.0
	その他	4 50.0	3 37.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5	-	1 12.5	1 12.5	2 25.0	2 25.0	1 12.5	2 25.0	-	1 12.5
	10代	6 66.7	7 77.8	3 33.3	3 33.3	-	-	-	2 22.2	1 11.1	1 11.1	-	2 22.2	-	-
	20代	37 45.1	24 29.3	21 25.6	26 31.7	11 13.4	3 3.7	3 3.7	30 36.6	14 17.1	7 8.5	10 12.2	10 12.2	6 7.3	1 1.2
	30代	92 61.3	58 38.7	29 19.3	43 28.7	18 12.0	14 9.3	11 7.3	40 26.7	18 12.0	19 12.7	15 10.0	17 11.3	5 3.3	2 1.3
	40代	110 51.4	94 43.9	42 19.6	73 34.1	25 11.7	17 7.9	20 9.3	50 23.4	30 14.0	23 10.7	25 11.7	41 19.2	8 3.7	3 1.4
	50代	119 47.8	129 51.8	43 17.3	101 40.6	34 13.7	12 4.8	16 6.4	51 20.5	30 12.0	27 10.8	14 5.6	29 11.6	5 2.0	13 5.2
	60代	119 49.0	136 56.0	50 20.6	92 37.9	37 15.2	29 11.9	18 7.4	32 13.2	29 11.9	37 15.2	14 5.8	23 9.5	4 1.6	8 3.3
	70代以上	183 45.5	267 66.4	86 21.4	129 32.1	63 15.7	40 10.0	33 8.2	19 4.7	40 10.0	51 12.7	24 6.0	33 8.2	2 0.5	35 8.7
	本庁	211 48.3	228 52.2	82 18.8	148 33.9	52 11.9	44 10.1	37 8.5	82 18.8	52 11.9	48 11.0	35 8.0	57 13.0	12 2.7	18 4.1
	真和志	214 49.7	234 54.3	99 23.0	152 35.3	66 15.3	35 8.1	29 6.7	62 14.4	54 12.5	52 12.1	32 7.4	51 11.8	6 1.4	23 5.3
	小祿	108 51.9	93 44.7	46 22.1	77 37.0	23 11.1	20 9.6	14 6.7	39 18.8	18 8.7	25 12.0	14 6.7	21 10.1	7 3.4	7 3.4
	首里	132 48.5	161 59.2	47 17.3	93 34.2	45 16.5	15 5.5	20 7.4	41 15.1	38 14.0	38 14.0	22 8.1	26 9.6	4 1.5	14 5.1
	1年未満	18 45.0	15 37.5	5 12.5	15 37.5	4 10.0	8 20.0	4 10.0	8 20.0	7 17.5	5 12.5	8 20.0	4 10.0	3 7.5	-
	1～2年	28 48.3	20 34.5	12 20.7	22 37.9	2 3.4	2 3.4	2 3.4	18 31.0	3 5.2	5 8.6	5 8.6	9 15.5	2 3.4	2 3.4
	3～5年	62 54.9	45 39.8	27 23.9	36 31.9	10 8.8	6 5.3	9 8.0	28 24.8	9 8.0	18 15.9	7 6.2	16 14.2	5 4.4	6 5.3
	6～10年	69 58.5	51 43.2	32 27.1	39 33.1	17 14.4	12 10.2	8 6.8	30 25.4	13 11.0	13 11.0	6 5.1	10 8.5	6 5.1	5 4.2
	11～20年	100 51.3	97 49.7	38 19.5	65 33.3	26 13.3	15 7.7	18 9.2	44 22.6	22 11.3	21 10.8	18 9.2	28 14.4	5 2.6	6 3.1
	21年以上	389 47.0	489 59.1	159 19.2	294 35.6	129 15.6	72 8.7	60 7.3	96 11.6	108 13.1	102 12.3	59 7.1	89 10.8	9 1.1	43 5.2

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・ ペットも受け入れ可能な避難所 (3人)
- ・ シェルター作り (3人)

女性-20代-本庁地区・他
男性-30代-首里地区・他

(19) 環境について

質問 51. 資源循環型社会の形成促進のため、本市では、次に掲げるものを資源化物としてリサイクルしています。今後も資源化物としての取り扱いを続けてほしいものをすべてお選びください。

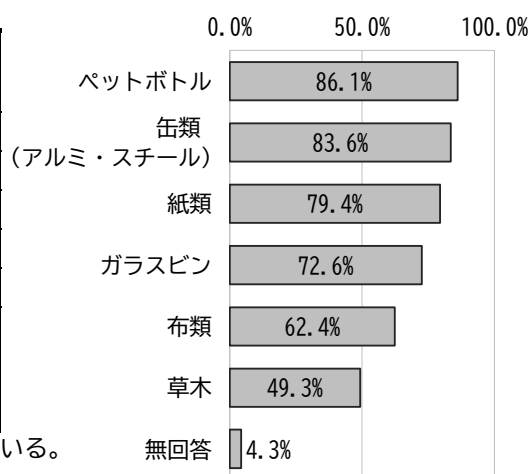
- | | | |
|----------|-----------|-----------------|
| 1. 紙類 | 2. 布類 | 3. 缶類（アルミ・スチール） |
| 4. ガラスビン | 5. ペットボトル | 6. 草木 |

今後も資源化物としての取り扱いを続けてほしいものとして最も多かったものは「ペットボトル」である。

資源循環型社会の形成促進のために、資源化物として取り扱いを続けてほしいものについては、「ペットボトル」の割合が 86.1%と最も高く、次いで「缶類（アルミ・スチール）」の割合が 83.6%、「紙類」の割合が 79.4%の順となっている。

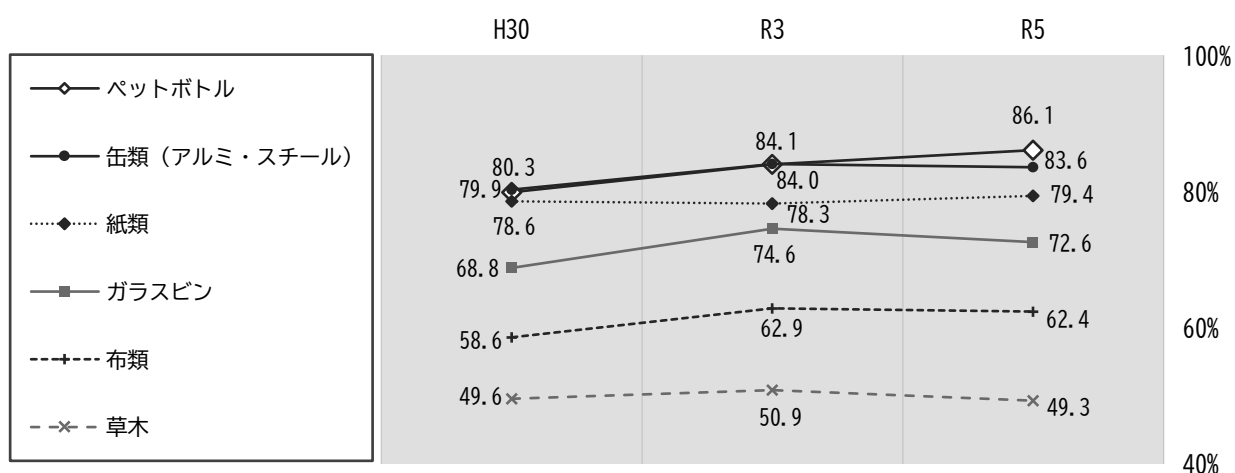
選択項目		回答数	割合
1 位	ペットボトル	1,168	86.1%
2 位	缶類（アルミ・スチール）	1,133	83.6%
3 位	紙類	1,077	79.4%
4 位	ガラスビン	984	72.6%
5 位	布類	846	62.4%
6 位	草木	669	49.3%
—	無回答	58	4.3%
合 計		5,935	—
回答者数		1,356	437.7%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。



【経年変化（平成 30 年度～令和 5 年度）】

前回調査と比較すると、「ペットボトル」の割合が 2.1 ポイント増加し、「ガラスビン」の割合が 2.0 ポイント減少している。



【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

地区別でみると、首里地区では「缶類（アルミ・スチール）」、その他の地区では「ペットボトル」の割合が最も高くなっているが、あまり違いは見られない。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性 (n=合計) 上段 (人) : 下段 (%)		紙類	布類	缶類 (アルミ・スチール)	ガラスビン	ペットボトル	草木	無回答
性別	男性 (n= 579)	454 78.4	335 57.9	480 82.9	405 69.9	489 84.5	260 44.9	22 3.8
	女性 (n= 762)	611 80.2	501 65.7	640 84.0	569 74.7	666 87.4	400 52.5	34 4.5
	その他 (n= 8)	7 87.5	6 75.0	7 87.5	6 75.0	7 87.5	5 62.5	1 12.5
年代別	10代 (n= 9)	5 55.6	2 22.2	7 77.8	4 44.4	6 66.7	2 22.2	- -
	20代 (n= 82)	62 75.6	44 53.7	65 79.3	52 63.4	67 81.7	33 40.2	- -
	30代 (n= 150)	119 79.3	98 65.3	126 84.0	112 74.7	131 87.3	76 50.7	2 1.3
	40代 (n= 214)	172 80.4	128 59.8	182 85.0	172 80.4	193 90.2	117 54.7	4 1.9
	50代 (n= 249)	196 78.7	156 62.7	214 85.9	190 76.3	220 88.4	136 54.6	8 3.2
	60代 (n= 243)	195 80.2	148 60.9	212 87.2	176 72.4	212 87.2	118 48.6	10 4.1
	70代以上 (n= 402)	324 80.6	267 66.4	322 80.1	274 68.2	334 83.1	185 46.0	32 8.0
地区別	本庁 (n= 437)	336 76.9	258 59.0	364 83.3	324 74.1	377 86.3	205 46.9	16 3.7
	真和志 (n= 431)	347 80.5	272 63.1	359 83.3	308 71.5	368 85.4	221 51.3	20 4.6
	小禄 (n= 208)	153 73.6	125 60.1	165 79.3	147 70.7	179 86.1	94 45.2	10 4.8
	首里 (n= 272)	237 87.1	190 69.9	241 88.6	203 74.6	239 87.9	148 54.4	9 3.3
居住年数別	1年未満 (n= 40)	33 82.5	25 62.5	36 90.0	32 80.0	38 95.0	19 47.5	- -
	1～2年 (n= 58)	41 70.7	28 48.3	48 82.8	42 72.4	49 84.5	22 37.9	1 1.7
	3～5年 (n= 113)	83 73.5	68 60.2	92 81.4	87 77.0	93 82.3	46 40.7	4 3.5
	6～10年 (n= 118)	81 68.6	54 45.8	98 83.1	89 75.4	102 86.4	43 36.4	3 2.5
	11～20年 (n= 195)	168 86.2	128 65.6	170 87.2	153 78.5	177 90.8	99 50.8	3 1.5
	21年以上 (n= 827)	667 80.7	541 65.4	685 82.8	579 70.0	705 85.2	438 53.0	46 5.6

質問 52. 地球環境保護のため、あなたが実践していることは何ですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

1. 電気の節約（LED への交換、こまめな消灯など）
2. 水の節約（節水シャワーヘッドの利用など）
3. いらないもの（レジ袋、ポケットティッシュ、チラシなど）は断る（リフューズ）
4. ごみが出る量が少ない製品・食品を買う（リデュース）
5. フリーマーケット（メルカリやジモティなどのフリーマーケットアプリを含む）やリサイクルショップの利用（リユース）
6. ごみは分別して再資源化に努める（リサイクル）
7. エコドライブの実践
8. 公共交通の利用（パークアンドライド含む）
9. ノーマイカーデーの実践（相乗り出勤含む）
10. 地産地消の実践
11. 環境性能に優れた自動車（プラグインハイブリッド車（PHV）・電気自動車（EV）など）の利用
12. 太陽光発電の利用
13. 太陽熱温水器の利用
14. エコキュート・エネファーム（電気による給湯システム）の利用
15. 環境にやさしい製品（簡易包装、紙ストローなど）の選択
16. 屋上・壁面等緑化、緑のカーテンの実践
17. 省エネタイプの電化製品を利用（買い替えの際は省エネタイプのものを選択）している
18. クールビズ（かりゆしウェアの着用、ノーネクタイなど）を実践している

地球環境保護のため実践していることで最も多かったものは「ごみは分別して再資源化に努める（リサイクル）」である。

地球環境保護のため実践していることでは、「ごみは分別して再資源化に努める（リサイクル）」の割合が 75.4%と最も高く、次いで「電気の節約」の割合が 74.0%、「いらないものは断る（リフューズ）」の割合が 54.1%、「水の節約」の割合が 53.0%の順となっている。

前回の調査と比較すると、「水の節約」の割合が 7.6 ポイント、「電気の節約」の割合が 4.9 ポイント、それぞれ増加する一方で、「省エネタイプの電化製品の利用」の割合が 5.6 ポイント、「いらないものは断る（リフューズ）」の割合が 2.1%、それぞれ減少している。

IV. 日常生活等に関する意識調査結果



【経年変化（平成30年度～令和5年度）】

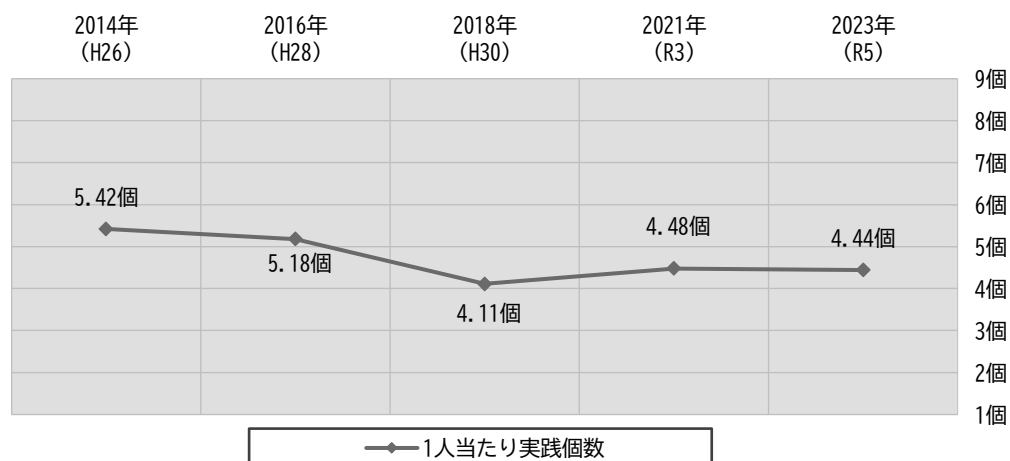
当該調査では、選択個数の総和を、1個も回答しなかった54人（実施個数0とみなす）を含めた1,356人で割り、一人当たりの実践個数を算出したところ、前回調査よりも0.04個減少し

1人当たりの実践項目数(平均) =

実践項目の選択総数 6,027 個 ÷ 回答者数 1,356 ÷ 4.44（前回 4.48）

実践項目の 選択個数	回答者数	1人当たり実践項目数	前回の1人当たり 実施個数 (前回調査比)
6,027 個	1,356 人	4.44 個	4.48 個 (-0.04 個)

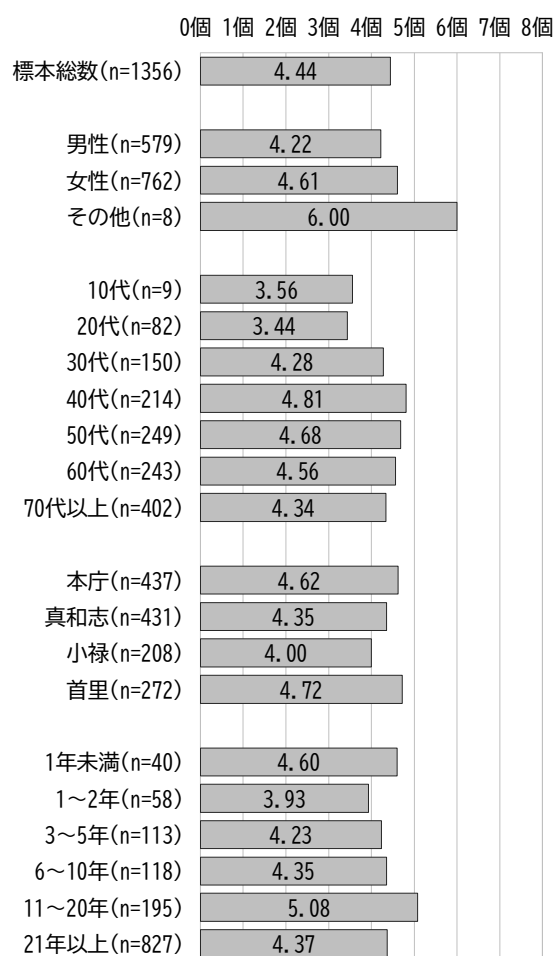
IV. 日常生活等に関する意識調査結果



■属性別集計表・グラフ（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）

性別でみると、女性は男性に比べ、0.39 個多く、年代別でみると、40 代の 1 人当たりの実践個数が最も多い。また、居住年数別でみると、11～20 年の 1 人当たりの実践個数が最も多く、5 個を超えている。

選択項目	実践個数 (個)	実践個数 /人 (個)
標本総数 (n= 1,356)	6,027	4.44
男性 (n= 579)	2,444	4.22
女性 (n= 762)	3,513	4.61
その他 (n= 8)	48	6.00
10 代 (n= 9)	32	3.56
20 代 (n= 82)	282	3.44
30 代 (n= 150)	642	4.28
40 代 (n= 214)	1,030	4.81
50 代 (n= 249)	1,166	4.68
60 代 (n= 243)	1,108	4.56
70 代以上 (n= 402)	1,743	4.34
本庁 (n= 437)	2,021	4.62
真和志 (n= 431)	1,874	4.35
小禄 (n= 208)	831	4.00
首里 (n= 272)	1,284	4.72
1 年未満 (n= 40)	184	4.60
1～2 年 (n= 58)	228	3.93
3～5 年 (n= 113)	478	4.23
6～10 年 (n= 118)	513	4.35
11～20 年 (n= 195)	990	5.08
21 年以上 (n= 827)	3,617	4.37

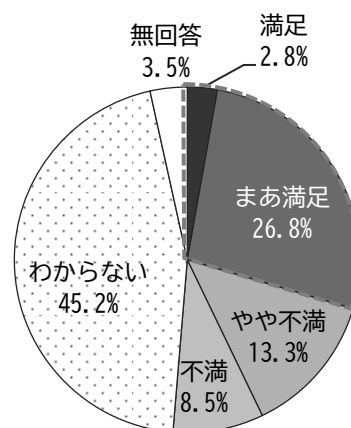


質問 53. 本市における行政手続きのオンライン化、情報発信等の行政サービスのデジタル化の取り組みについて満足していますか。次の中から 1 つお選びください。

1. 満足	2. まあ満足	
3. やや不満	4. 不満	5. わからない

「満足」と「まあ満足」を合わせた割合が 29.6%に対し、「不満」と「やや不満」を合わせた割合が 21.8%である。

満足度	割合
まあ満足	26.8%
やや不満	13.3%
不満	8.5%
わからない	45.2%
無回答	3.5%

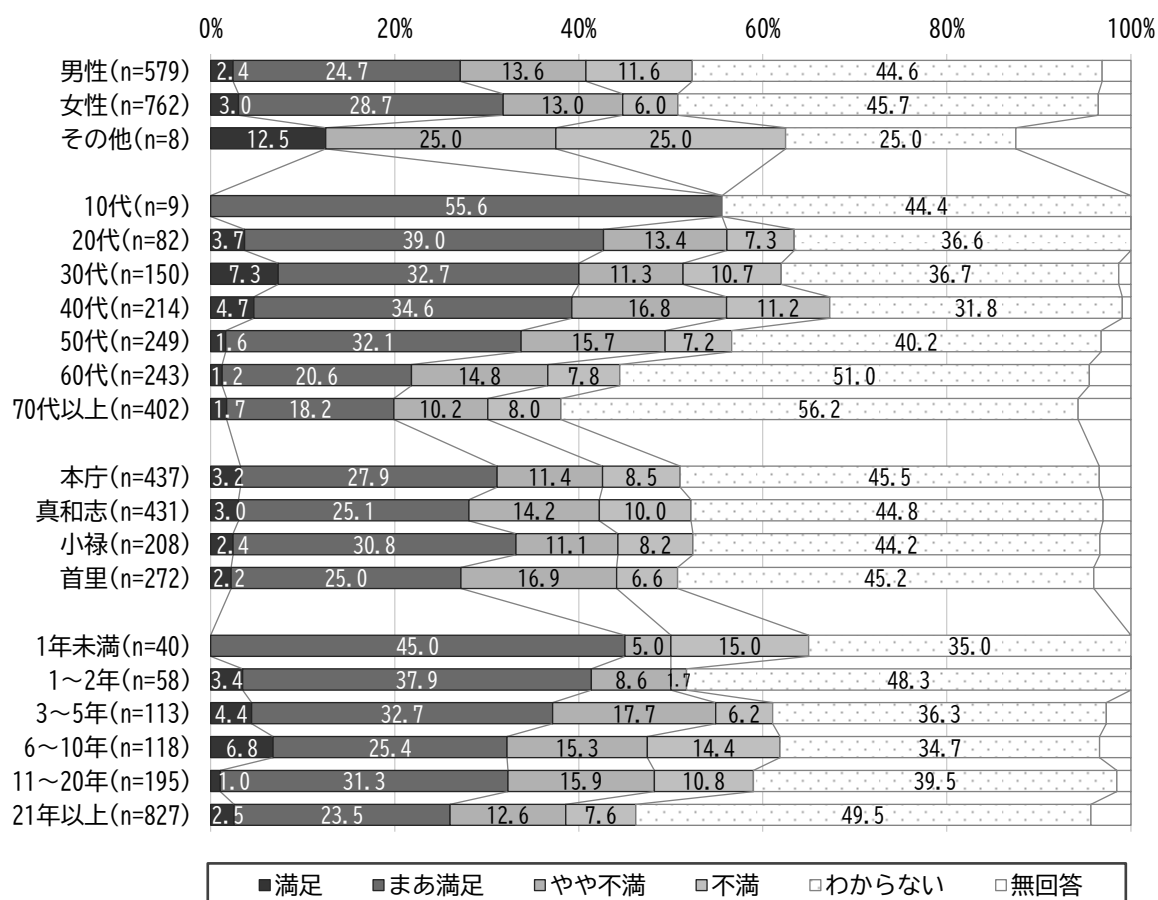


IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）】

年代別では、年代が上がるにつれて「満足」と「まあ満足」を合わせた割合が低くなっている。60代以上では「わからない」の割合が高く、5割を上回っている。

選択項目 回答者属性(n=合計)	満足	まあ満足	やや不満	不満	わからない	無回答
男性 (n= 579)	14	143	79	67	258	18
女性 (n= 762)	23	219	99	46	348	27
その他 (n= 8)	1	0	2	2	2	1
10代 (n= 9)	0	5	0	0	4	0
20代 (n= 82)	3	32	11	6	30	0
30代 (n= 150)	11	49	17	16	55	2
40代 (n= 214)	10	74	36	24	68	2
50代 (n= 249)	4	80	39	18	100	8
60代 (n= 243)	3	50	36	19	124	11
70代以上 (n= 402)	7	73	41	32	226	23
本庁 (n= 437)	14	122	50	37	199	15
真和志 (n= 431)	13	108	61	43	193	13
小禄 (n= 208)	5	64	23	17	92	7
首里 (n= 272)	6	68	46	18	123	11
1年未満 (n= 40)	0	18	2	6	14	0
1～2年 (n= 58)	2	22	5	1	28	0
3～5年 (n= 113)	5	37	20	7	41	3
6～10年 (n= 118)	8	30	18	17	41	4
11～20年 (n= 195)	2	61	31	21	77	3
21年以上 (n= 827)	21	194	104	63	409	36



質問 54. 那覇市が行うデジタル化について、今後、特に力を入れてほしいと思う取り組みは何ですか。次の中から3つまでお選びください。

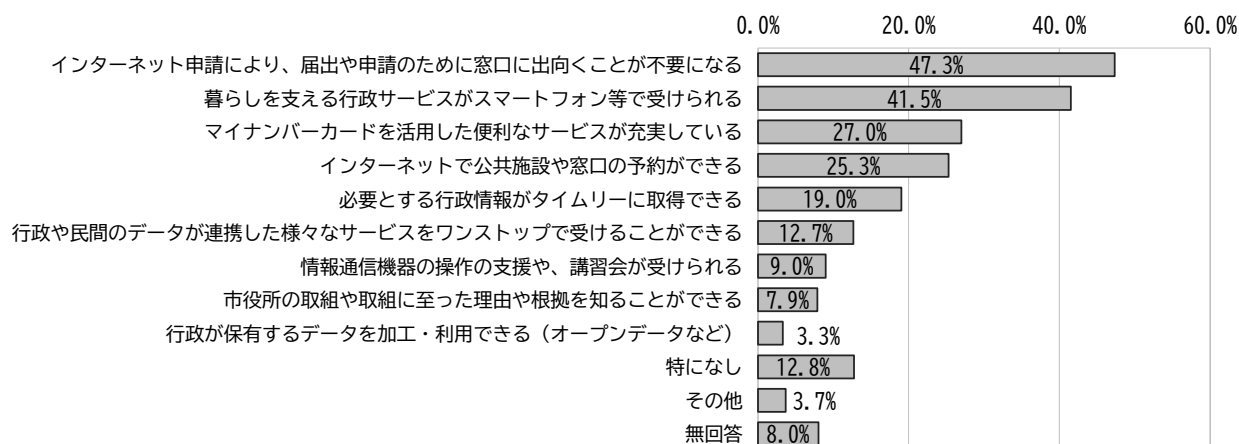
1. 暮らしを支える行政サービスがスマートフォン等で受けられる
2. マイナンバーカードを活用した便利なサービスが充実している
3. インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる
4. インターネットで公共施設や窓口の予約ができる
5. 必要とする行政情報がタイムリーに取得できる
6. 情報通信機器の操作の支援や、講習会が受けられる
7. 市役所の取組や取組に至った理由や根拠を知ることができる
8. 行政が保有するデータを加工・利用できる（オープンデータなど）
9. 行政や民間のデータが連携した様々なサービスをワンストップで受けることができる
10. 特になし
11. その他（ ）

那覇市に特に力を入れてほしいデジタル化施策は「インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる」である。

デジタル化で今後特に力を入れてほしい取り組みについては、「インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる」の割合が 47.3%と最も高く、次いで「暮らしを支える行政サービスがスマートフォン等で受けられる」の割合が 41.5%、「マイナンバーカードを活用した便利なサービスが充実している」の割合が 27.0%の順となっている。

選択項目		回答数	割合
1 位	インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる	642	47.3%
2 位	暮らしを支える行政サービスがスマートフォン等で受けられる	563	41.5%
3 位	マイナンバーカードを活用した便利なサービスが充実している	366	27.0%
4 位	インターネットで公共施設や窓口の予約ができる	343	25.3%
5 位	必要とする行政情報がタイムリーに取得できる	258	19.0%
6 位	行政や民間のデータが連携した様々なサービスをワンストップで受けることができる	172	12.7%
7 位	情報通信機器の操作の支援や、講習会が受けられる	122	9.0%
8 位	市役所の取組や取組に至った理由や根拠を知ることができる	107	7.9%
9 位	行政が保有するデータを加工・利用できる（オープンデータなど）	45	3.3%
—	特になし	173	12.8%
—	その他	50	3.7%
—	無回答	109	8.0%
合 計		2,950	—
回答者数		1,356	217.6%

※回答者数を母数として割合を算出したため、合計が 100%を超えている。



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

年代別でみると、50代以下では「インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる」、60代では「暮らしを支える行政サービスがスマートフォン等で受けられる」、70代以上では「特になし」の割合が最も高くなっている。

性別、地区別、居住年数別では、あまり大きな変化は見られない。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目 回答者属性（n=合計） 上段（人）：下段（％）		市役所の取組や取組に至った理由や根拠を知ることができる												
		暮らしを支える行政サービスがスマートフォン等で受けられるが	マイナサービスが充実している	インターネット申請により、届出や申請のために窓口に出向くことが不要になる	インターネットで公共施設や窓口の予約ができる	必要とする行政情報がタイムリーに取得できる	情報通信機器の操作の支援や、講習会が受けられる	行政が保有するデータを加工・利用できる（オープンデータなど）	行政や民間のデータが連携した様々なサービスをワンストップで受け取ることができる	特になし	その他	無回答		
性別	男性（n= 579）	248 42.8	179 30.9	287 49.6	161 27.8	105 18.1	48 8.3	52 9.0	27 4.7	77 13.3	71 12.3	21 3.6	33 5.7	
	女性（n= 762）	314 41.2	184 24.1	347 45.5	177 23.2	149 19.6	71 9.3	54 7.1	18 2.4	94 12.3	101 13.3	27 3.5	73 9.6	
	その他（n= 8）	- -	3 37.5	5 62.5	3 37.5	2 25.0	3 37.5	1 12.5	- -	1 12.5	- -	- -	1 12.5	
年代別	10代（n= 9）	3 33.3	- -	4 44.4	2 22.2	2 22.2	- -	1 11.1	- -	- -	4 44.4	- -	- -	
	20代（n= 82）	50 61.0	25 30.5	55 67.1	25 30.5	12 14.6	1 1.2	7 8.5	3 3.7	9 11.0	5 6.1	- -	1 1.2	
	30代（n= 150）	80 53.3	45 30.0	107 71.3	59 39.3	39 26.0	7 4.7	13 8.7	6 4.0	21 14.0	4 2.7	4 2.7	3 2.0	
	40代（n= 214）	110 51.4	72 33.6	151 70.6	73 34.1	45 21.0	13 6.1	15 7.0	9 4.2	39 18.2	11 5.1	6 2.8	- -	
	50代（n= 249）	128 51.4	89 35.7	148 59.4	76 30.5	47 18.9	21 8.4	15 6.0	10 4.0	39 15.7	21 8.4	4 1.6	8 3.2	
	60代（n= 243）	102 42.0	63 25.9	93 38.3	44 18.1	55 22.6	33 13.6	27 11.1	8 3.3	33 13.6	31 12.8	5 2.1	20 8.2	
	70代以上（n= 402）	89 22.1	72 17.9	83 20.6	62 15.4	57 14.2	47 11.7	29 7.2	9 2.2	30 7.5	94 23.4	30 7.5	76 18.9	
地区別	本庁（n= 437）	188 43.0	138 31.6	210 48.1	106 24.3	83 19.0	33 7.6	42 9.6	17 3.9	63 14.4	48 11.0	12 2.7	32 7.3	
	真和志（n= 431）	173 40.1	99 23.0	183 42.5	107 24.8	80 18.6	48 11.1	36 8.4	19 4.4	51 11.8	64 14.8	18 4.2	38 8.8	
	小禄（n= 208）	88 42.3	59 28.4	111 53.4	58 27.9	43 20.7	13 6.3	10 4.8	3 1.4	26 12.5	26 12.5	9 4.3	13 6.3	
	首里（n= 272）	113 41.5	70 25.7	137 50.4	72 26.5	50 18.4	27 9.9	18 6.6	6 2.2	31 11.4	34 12.5	10 3.7	24 8.8	
居住年数別	1年未満（n= 40）	15 37.5	14 35.0	27 67.5	11 27.5	8 20.0	2 5.0	5 12.5	1 2.5	8 20.0	1 2.5	3 7.5	1 2.5	
	1～2年（n= 58）	29 50.0	22 37.9	34 58.6	17 29.3	8 13.8	5 8.6	2 3.4	4 6.9	10 17.2	4 6.9	- -	1 1.7	
	3～5年（n= 113）	55 48.7	41 36.3	74 65.5	33 29.2	23 20.4	4 3.5	7 6.2	3 2.7	15 13.3	8 7.1	1 0.9	3 2.7	
	6～10年（n= 118）	57 48.3	43 36.4	59 50.0	33 28.0	38 32.2	13 11.0	12 10.2	4 3.4	17 14.4	11 9.3	4 3.4	3 2.5	
	11～20年（n= 195）	91 46.7	51 26.2	112 57.4	65 33.3	38 19.5	17 8.7	14 7.2	6 3.1	26 13.3	21 10.8	6 3.1	10 5.1	
	21年以上（n= 827）	316 38.2	194 23.5	336 40.6	184 22.2	143 17.3	81 9.8	66 8.0	26 3.1	96 11.6	127 15.4	35 4.2	90 10.9	

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・デジタル化についていけない (11人) 男性-70代以上-真和志地区・他
- ・スマートフォンをもっていない (6人) 女性-70代以上-首里地区・他
- ・直接、対面でできる(窓口) ことも残してほしい (5人) 女性-70代以上-首里地区・他

1. スマートフォン等の機器の操作が不慣れで、サービスを受けられなくなる
2. 個人情報 が漏洩して悪用される
3. スマートフォン等の機器にウィルスが感染し、不正操作される
4. インターネット依存により健康面や日常生活に悪い影響が出る
5. 情報量が多くなり、振り回される
6. 機器の購入やサービスの加入など経済的負担が生じる
7. 特に不安はない
8. その他（

1. *Journal of the American Medical Association*, 1997; 277: 1001-1005.

※同業者数を同数として割合を算出した。ただし、合計が1000%を超えている

[illegible]

IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

ほとんどの属性で「個人情報漏洩して悪用される」の割合が最も高くなっている。

年代別で見ると、60代以上で「スマートフォン等の機器の操作が不慣れで、サービスを受けられなくなる」の割合が高くなっており5割を上回っている。

※■は第1位、■は第2位、■は第3位の項目

選択項目		スマートフォンの操作が不慣れで、サービスを受けられなくなる	個人情報漏洩して悪用される	スマートフォン等の機器にウィルスが感染し、不正操作される	インターネット依存により健康面や日常生活に悪い影響が出る	情報量が多くなり、振り回される	機器の購入やサービスの加入など経済的負担が生じる	特に不安はない	その他	無回答
回答者属性 (n=合計) 上段(人)：下段(%)										
性別	男性 (n= 579)	214 37.0	353 61.0	184 31.8	44 7.6	183 31.6	98 16.9	83 14.3	12 2.1	21 3.6
	女性 (n= 762)	321 42.1	509 66.8	276 36.2	53 7.0	240 31.5	129 16.9	74 9.7	18 2.4	41 5.4
	その他 (n= 8)	4 50.0	4 50.0	3 37.5	-	2 25.0	2 25.0	1 12.5	-	1 12.5
年代別	10代 (n= 9)	1 11.1	5 55.6	2 22.2	1 11.1	2 22.2	1 11.1	4 44.4	-	-
	20代 (n= 82)	18 22.0	52 63.4	31 37.8	2 2.4	25 30.5	9 11.0	18 22.0	1 1.2	-
	30代 (n= 150)	19 12.7	96 64.0	53 35.3	5 3.3	42 28.0	11 7.3	37 24.7	4 2.7	3 2.0
	40代 (n= 214)	50 23.4	149 69.6	79 36.9	16 7.5	59 27.6	34 15.9	35 16.4	6 2.8	-
	50代 (n= 249)	86 34.5	188 75.5	108 43.4	20 8.0	74 29.7	37 14.9	25 10.0	5 2.0	4 1.6
	60代 (n= 243)	123 50.6	165 67.9	93 38.3	16 6.6	74 30.5	60 24.7	14 5.8	1 0.4	12 4.9
	70代以上 (n= 402)	242 60.2	211 52.5	97 24.1	37 9.2	149 37.1	75 18.7	25 6.2	13 3.2	45 11.2
地区別	本庁 (n= 437)	164 37.5	273 62.5	154 35.2	28 6.4	136 31.1	64 14.6	64 14.6	8 1.8	18 4.1
	真和志 (n= 431)	182 42.2	279 64.7	147 34.1	33 7.7	138 32.0	81 18.8	51 11.8	7 1.6	24 5.6
	小緑 (n= 208)	66 31.7	129 62.0	69 33.2	19 9.1	59 28.4	33 15.9	24 11.5	4 1.9	10 4.8
	首里 (n= 272)	126 46.3	187 68.8	94 34.6	16 5.9	92 33.8	49 18.0	19 7.0	11 4.0	10 3.7
居住年数別	1年未満 (n= 40)	6 15.0	27 67.5	10 25.0	3 7.5	9 22.5	7 17.5	10 25.0	-	1 2.5
	1～2年 (n= 58)	13 22.4	37 63.8	17 29.3	5 8.6	17 29.3	6 10.3	12 20.7	-	1 1.7
	3～5年 (n= 113)	20 17.7	75 66.4	40 35.4	3 2.7	32 28.3	11 9.7	21 18.6	3 2.7	4 3.5
	6～10年 (n= 118)	40 33.9	73 61.9	46 39.0	9 7.6	36 30.5	19 16.1	23 19.5	4 3.4	2 1.7
	11～20年 (n= 195)	63 32.3	127 65.1	74 37.9	13 6.7	60 30.8	33 16.9	27 13.8	4 2.1	3 1.5
	21年以上 (n= 827)	398 48.1	530 64.1	278 33.6	63 7.6	271 32.8	152 18.4	64 7.7	19 2.3	53 6.4

【選択肢「その他」の主な内容】

- ・スマートフォンをもっていない（7人）
- ・高齢者などスマホ、PC使えない人達が困る（4人）

女性-70代以上-首里地区・他
女性-40代-首里地区・他

(21) その他

質問 56. 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになりますか。あてはまる点数を、次の中から1つお選びください。



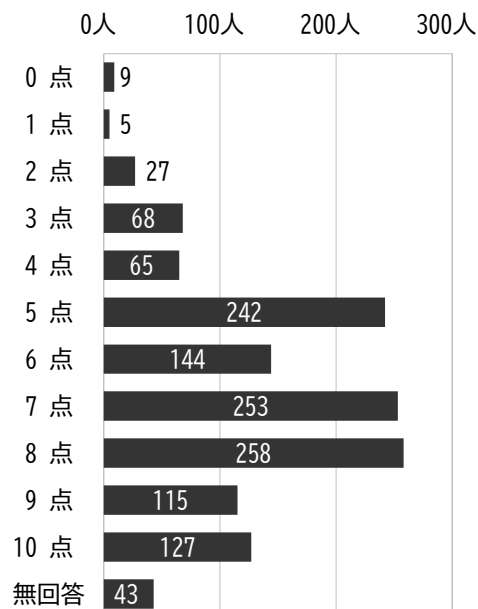
市民の平均幸せ点数は10点満点中6.65点である。

当該質問による平均点は、次の式により算出した。

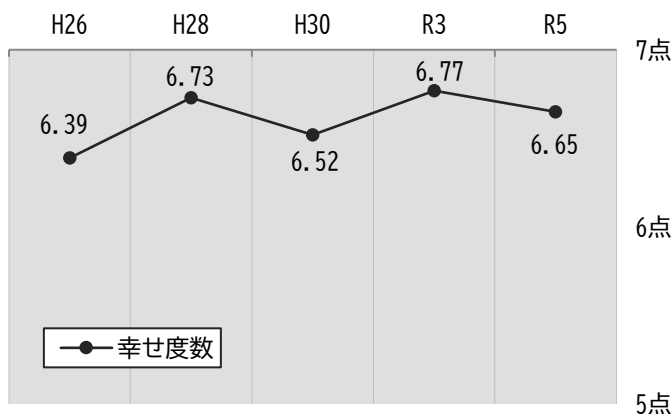
$$\text{平均点} = \frac{\text{各点数計の合計}}{\text{有効回答数の合計}} = \frac{8,737 \text{ (点)}}{1,313 \text{ (人)}} \div 6.65 \text{ 点}$$

那覇市民の平均幸せ点数は6.65点となった。今回の回答では「8点」をつけた258人が最も多く、次いで「7点」をつけた253人、「5点」をつけた242人の順となっている。

選択項目	回答者数	各点数計	有効回答数	平均点
0点	9人	0点	1,313人	6.65点
1点	5人	5点		
2点	27人	54点		
3点	68人	204点		
4点	65人	260点		
5点	242人	1,210点		
6点	144人	864点		
7点	253人	1,771点		
8点	258人	2,064点		
9点	115人	1,035点		
10点	127人	1,270点		
無回答	43人	—		
計	1,356人	8,737点		



【経年変化（平成26年度～令和5年度）】



7点 前回調査と比較すると、幸せ点数は、0.12ポイント減少したが、過去4回の調査と比較すると、依然高い水準を維持している。

6点

5点

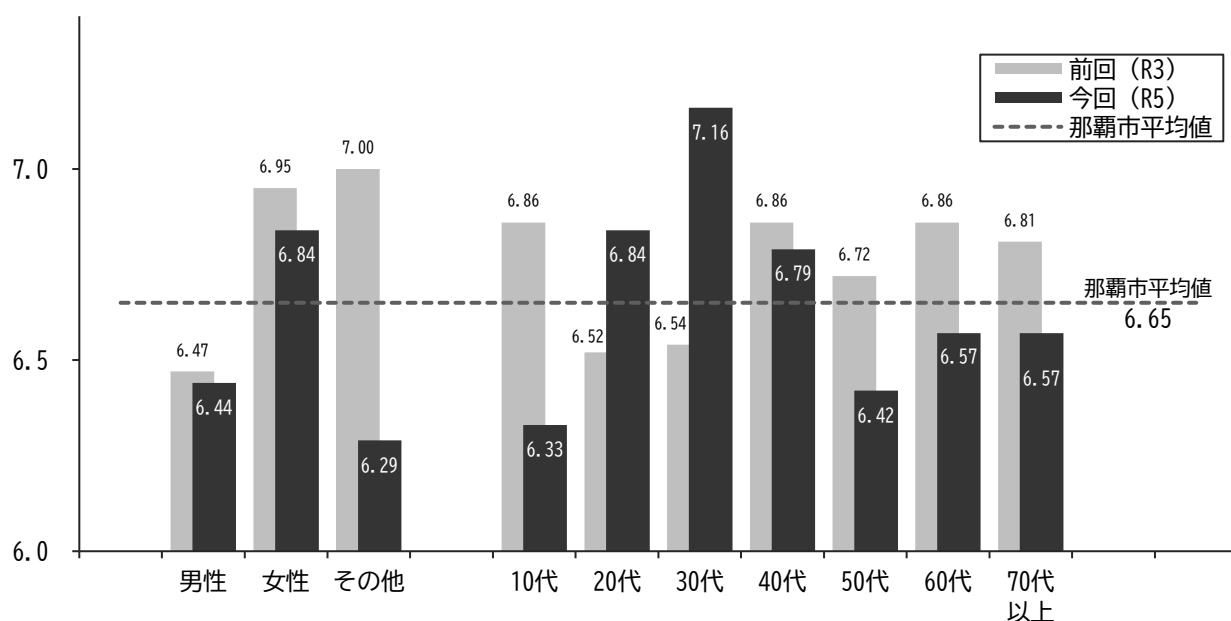
IV. 日常生活等に関する意識調査結果

【属性別集計（回答者属性〔性別・年代・地区・居住年数〕無回答除く）】

那覇市民の幸せ度を前回調査と比較すると、年代別では 20 代、30 代、居住年数別では 5 年以下が前回調査を上回ったが、その他の属性で前回調査を下回る結果となった。

市民の幸せ度を、性別、年代別にみると、性別では男性、年代別では 10 代、50 代以上で那覇市の平均以下となっている。

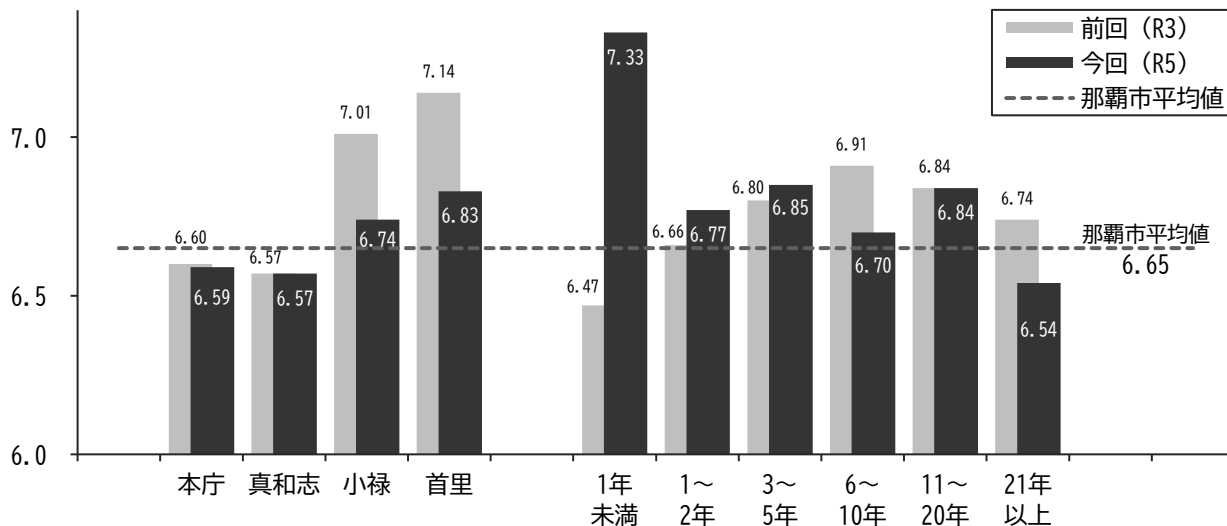
選択項目	0 点	1 点	2 点	3 点	4 点	5 点	6 点	7 点	8 点	9 点	10 点	無回答	今回平均値	那覇市平均値 令和 3 年
回答者属性(n=合計)														
男性 (n= 579)	4	3	12	34	33	113	74	113	90	48	45	10	6.44	6.47
女性 (n= 762)	5	2	15	33	30	126	69	138	165	67	82	30	6.84	6.95
その他 (n= 8)	0	0	0	0	1	2	0	2	2	0	0	1	6.29	7.00
10 代 (n= 9)	0	0	0	1	0	3	2	0	1	1	1	0	6.33	6.86
20 代 (n= 82)	1	1	3	2	4	13	7	15	17	6	13	0	6.84	6.52
30 代 (n= 150)	0	0	2	12	4	16	12	27	37	16	23	1	7.16	6.54
40 代 (n= 214)	1	1	8	10	13	23	25	47	41	19	26	0	6.79	6.86
50 代 (n= 249)	5	1	7	10	14	47	24	54	50	19	15	3	6.42	6.72
60 代 (n= 243)	1	1	4	15	15	44	25	43	41	26	19	9	6.57	6.86
70 代以上 (n= 402)	1	1	3	17	15	93	48	67	70	28	30	29	6.57	6.81
本庁 (n= 437)	6	2	9	24	20	81	44	72	89	42	38	10	6.59	6.60
真和志 (n= 431)	2	2	8	23	26	81	39	88	69	43	34	16	6.57	6.57
小禄 (n= 208)	1	1	7	9	8	37	22	35	40	14	28	6	6.74	7.01
首里 (n= 272)	0	0	3	11	11	41	38	57	60	15	26	10	6.83	7.14
1 年未満 (n= 40)	0	1	0	1	0	6	4	8	7	7	6	0	7.33	6.47
1～2 年 (n= 58)	0	0	2	2	4	8	7	13	9	5	7	1	6.77	6.66
3～5 年 (n= 113)	1	0	3	8	4	8	16	25	22	9	14	3	6.85	6.80
6～10 年 (n= 118)	1	0	4	10	4	19	10	13	26	18	10	3	6.70	6.91
11～20 年 (n= 195)	0	0	3	10	12	31	17	42	45	12	23	0	6.84	6.84
21 年以上 (n= 827)	7	4	15	36	41	169	89	152	148	64	67	35	6.54	6.74



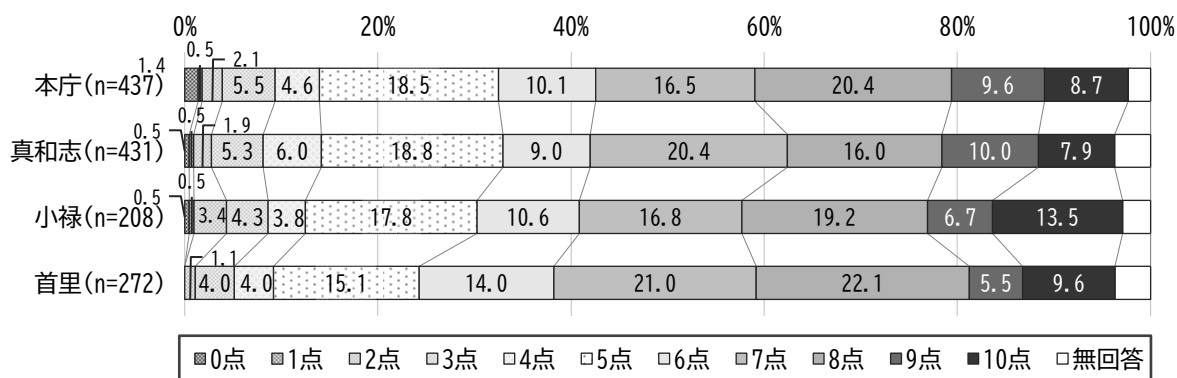
那覇市平均値と、居住地区、居住年数の平均値との比較を行った。

居住地区でみると、首里地区が最も高く、那覇市平均値を 0.18 ポイント上回っている。那覇市の平均値を下回ったのは、本庁地区と真和志地区で、那覇市平均値との差は、本庁地区で 0.06 ポイント、真和志地区で 0.08 ポイントとなっている。

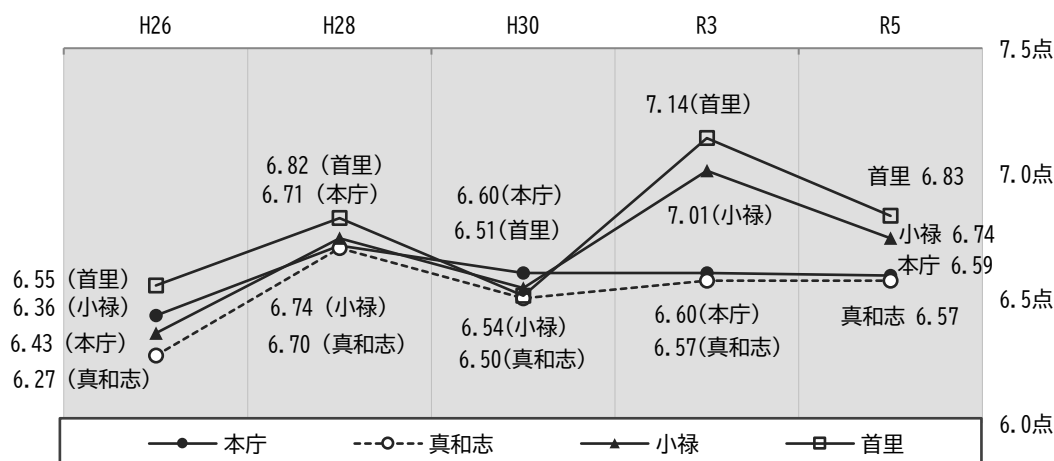
居住年数では、幸せ度数が最も高いのは、1 年未満となっており、居住年数 21 年以上では、那覇市平均値を下回っている。



属性を居住地区に絞り、点数の割合を確認したところ、真和志地区では「7 点」をつけた市民の割合が最も高く、本庁地区、小禄地区、首里地区では「8 点」をつけた市民の割合が最も高い。



居住地区ごとの経年変化をみると、首里地区の幸せ度数が前回調査と比べて 0.31 ポイント減少し、小禄地区も前回調査と比べて、0.27 ポイント減少している。



IV. 日常生活等に関する意識調査結果

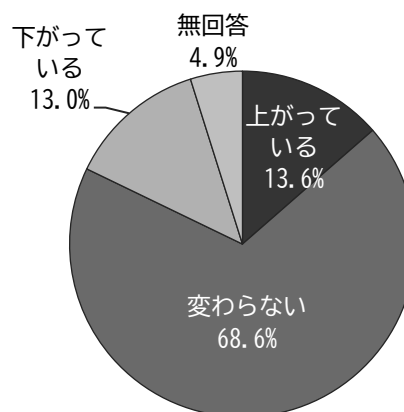
質問 56-1. 質問 56 で答えていただいた点数は、昨年（2022 年）と比べて変化していますか。
次の中から 1 つお選びください。

1. 上がっている 2. 変わらない 3. 下がっている

昨年と比べて幸福感が「上がっている」市民は 13.6%、「下がっている」市民は 13.0%である。

昨年と比べて幸福感が「変わらない」の割合が 68.6%で最も高く、次いで「上がっている」の割合が 13.6%、「下がっている」の割合が 13.0%の順となっている。

選択項目	回答数	割合
上がっている	184	13.6%
変わらない	930	68.6%
下がっている	176	13.0%
無回答	66	4.9%
合 計	1,356	100%

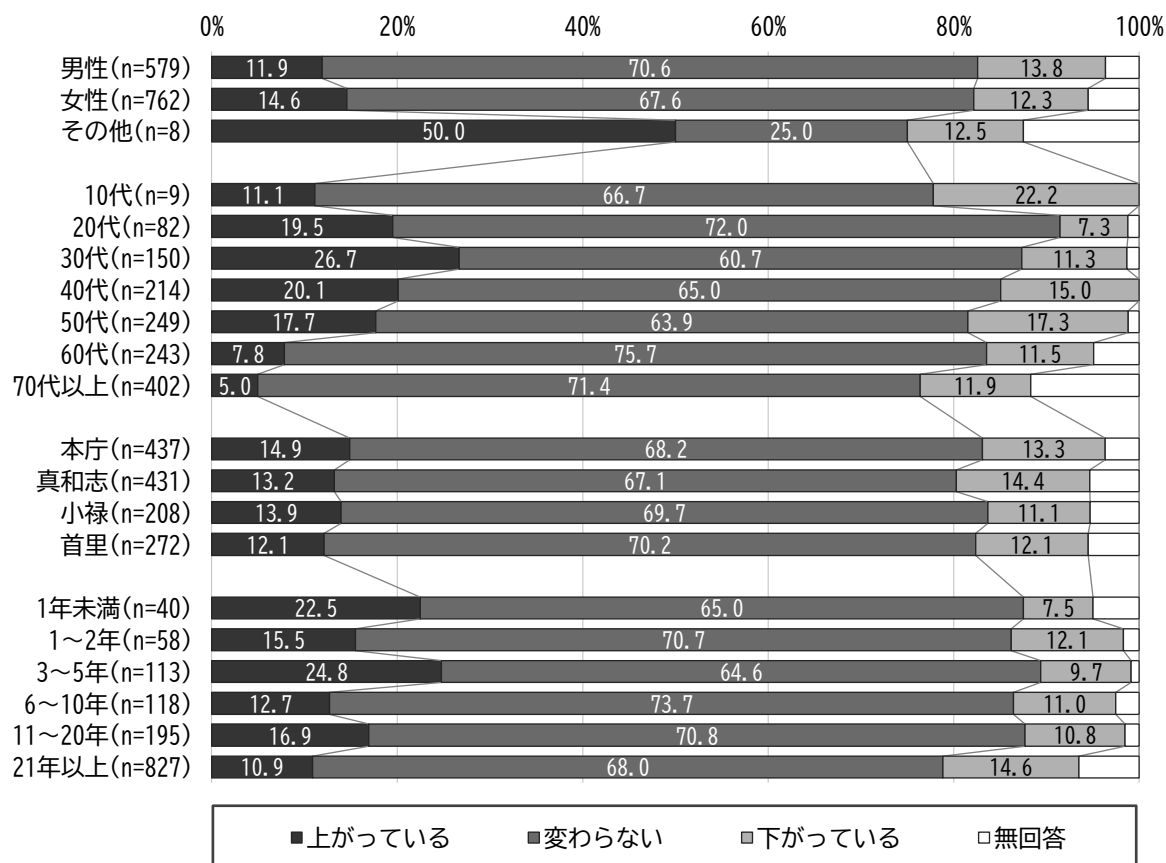


【属性別集計（回答者属性[性別・年代・地区・居住年数]無回答除く）】

いずれの属性においても「変わらない」の割合が最も高い。また、幸福感が「上がっている」割合は30代が最も高く、「下がっている」の割合は10代が最も高い。

居住年数別でみると、「1年未満」と「3～5年」で「上がっている」の割合が高くなっている。

回答者属性(n=合計)	選択項目	上がっている	変わらない	下がっている	無回答
男性	(n= 579)	69	409	80	21
女性	(n= 762)	111	515	94	42
その他	(n= 8)	4	2	1	1
10代	(n= 9)	1	6	2	0
20代	(n= 82)	16	59	6	1
30代	(n= 150)	40	91	17	2
40代	(n= 214)	43	139	32	0
50代	(n= 249)	44	159	43	3
60代	(n= 243)	19	184	28	12
70代以上	(n= 402)	20	287	48	47
本庁	(n= 437)	65	298	58	16
真和志	(n= 431)	57	289	62	23
小禄	(n= 208)	29	145	23	11
首里	(n= 272)	33	191	33	15
1年未満	(n= 40)	9	26	3	2
1～2年	(n= 58)	9	41	7	1
3～5年	(n= 113)	28	73	11	1
6～10年	(n= 118)	15	87	13	3
11～20年	(n= 195)	33	138	21	3
21年以上	(n= 827)	90	562	121	54



質問 57. その他、那覇市の市政に関するご意見やご提言があれば、ご記入をお願いします。

有効回答は 301 件、大まかな内訳は子育て支援・子どもの貧困、観光施策・観光産業、市政、市職員、環境問題などに分類できる。代表的な回答は以下のとおり。

〔子育て支援・子どもの貧困について〕

- ・公園を整備して下さい。新たに作るではなく、既存の公園を手入れして下さい。子供を遊ばせられる環境が少なすぎます。(女性・30代)
- ・ひとり親に対して住宅、進学補助など、もっと力を入れて欲しい。(女性・40代)
- ・子供と高齢者支援のサポートは継続して改善をしていって欲しい。(男性・50代)
- ・高校生までの医療費の無償化、子供手当の充実。(男性・50代)

〔観光施策・観光産業について〕

- ・観光立県の中心地那覇の道路は雑草が放ったらかしで見苦しい。予算を増やして美化に取り組んで欲しい。(男性・70代以上)
- ・観光客の増加で普段の生活がやりにくい。交通渋滞が一番ひどく、那覇市場の環境が悪くなった。お年寄りの集う場所が激減していて、かわいそう。せめて、公設市場跡地等、年寄り子どもたちの集う場所を作って欲しい。(女性・50代)
- ・那覇市民が元気になるようなイベントを増やして欲しい。コロナ禍で皆自粛してた生活から脱却できるイベントをやってほしい。観光客向けでもいいので市民が活気がでるといいなと思います。(女性・30代)

〔高齢者支援について〕

- ・介護を要しない独居老人に対しても、社会とつながる施策を望む。(女性・70代以上)
- ・情報は郵便物でお願いします。年をとると、インターネットやスマホが苦手!!(男性・60代)
- ・スマートフォンの操作の仕方等の勉強会を近くの公民館や学校等で開いてほしい。60歳以上はIT難民と言われています。行政で何とかしてほしい。(女性・60代)

〔市政について〕

- ・それぞれの施策や支援方法等は、その当事者の方々にしっかり聞き取りをして立案、実施した方がより良いものができると思います。(女性・40代)
- ・税金、予算を自分ごととして適切に使って欲しい。市政を動かす人は利他的な姿勢で仕事をして欲しい。未来を考え投資して欲しい。(男性・50代)
- ・市民の生活に直結した支援と、目に見える改善の検証を、提示する仕組みづくりをお願いしたい。(女性・70代以上)
- ・土日祝が休みの仕事の人は有給を削って市役所に行かないといけない。短い時間でもいいから平日夕方 18 時以降や土日開けるなど検討してほしい。(女性・30代)
- ・より一層皆が安心して住みやすい街づくりを期待したいと思います。(男性・20代)

〔市職員について〕

- ・高齢のため、手続が不明で困っている時、親切に教えていただき感謝しております。市職員の皆様にお礼の気持をお伝えします。(女性・70代以上)
- ・市長・市議・職員全ての人が市政に対する意識を心から持ち、その時々だけでなく将来的に必要なことを選択し、実行してほしいです。市議の資質をしっかりと見定めてほしいです。協調性のある市政を希望します。(男性・30代)
- ・お年寄りや初めての申請等、わかりやすく親切心で接してほしい。(男性・50代)
- ・デジタル化を進めて職員の削減へ経費削減化すべきだ。現状は職員の割には非効率なのが…(男性・70代以上)

〔環境問題・動物愛護〕

- ・歩きたくなる街づくりにしてほしい。(木陰、ベンチの設置、花壇の整備)と啓蒙活動。地域猫の保護。(女性・70代以上)
- ・動物愛護活動(犬猫の保護等)に対して市民がもっと関心を持てるように情報の発信をしてほしい(女性・30代)
- ・公園の遊具の拡充。駐車場を作してほしい。雑草の除去(伸び放題)(女性・40代)
- ・プラスチックの分別・資源化を行ってほしい。(男性・60代)
- ・歩道を整備してほしい。斜めになって幼児や高齢者が歩きづらそう。ペットの散歩マナーが悪い。他地区の住人が、マンションのゴミ捨て場にゴミを不法投棄していく。(女性・50代)
- ・動物愛護活動(犬猫の保護等)に対して市民がもっと関心を持てるように情報の発信をしてほしい(女性・30代)

〔道路の整備・交通安全〕

- ・道路のガタガタが気になります。車イスや障害のある方が安心して歩ける道になると良いと思っています。(女性・70代以上)
- ・歩道の整備(駐車違反が多く、歩きにくい)(女性・70代以上)
- ・住み良い那覇市にするため、モノレールの延伸と中南部を結ぶ鉄軸道の早期実現を願う。(男性・70代以上)
- ・バスなどの交通機関の信頼度(競争)を上げた方が時間通りに来るバスが増え、結果的に車の利用より公共交通機関での移動が増加できると思う。観光地としてとても不便な県の一つだと考えられる。(男性・20代)

〔様々な要望〕

- ・防災スピーカーが全く聞こえない。ミサイル時困りました。(男性・50代)
- ・コロナ、インフルエンザ等の公衆衛生に関することへの強化(男性・30代)
- ・デジタル化と対比しますが、できる限りアナログ対応でもお願いします。(女性・60代)

V. 市の政策に対する 満足度・重要度調査結果

V. 市の政策に対する満足度・重要度調査結果

1. 満足度・重要度調査の結果

那覇市では、2018 年度から 10 年間のまちづくりの指針となる「第 5 次那覇市総合計画」を策定し、『なはで暮らし、働き、育てよう！笑顔広がる元気なまち NAHA ～みんなでつながろう市民力～』を将来像に掲げ、まちづくりの姿勢として、その担い手一人ひとりを結びつける【5つの絆】を示している。

満足度・重要度調査は、23 の政策に対する市民の満足度と重要度を把握し、政策に対する市民意識として今後の取り組みに反映させるものである。

政策という抽象的なイメージの強い調査であるため、前回調査と同様、全体として「わからない」の回答比率が高かったため、考察では「わからない」と「無回答」を除く、有意回答をもとに分析した。

2. 各政策に対する満足度・重要度の加点評価

(1) 回答者数について

今回調査における満足度の回答者数は 721 名、重要度の回答者数は 925 名となっており、全回答者数 1,356 名のうち、約半数が回答している。

満足度と重要度の回答者数の差は、満足度について回答を避けている市民が、個々の政策について（市の政策は公的なものなので「重要」と考えているため）重要度のみ回答したことによるものと考えられる。

(2) 満足度・重要度調査の加点方法と平均評価点

満足度・重要度調査の結果は、政策ごとに集計を行い、下記のような点数配点をもって、政策ごとの平均評価点を算出した。(※「わからない」「無回答」は加点から除いてある。)

満足度：「満足」＝4点、「まあ満足」＝3点、「やや不満」＝2点、「不満」＝1点

重要度：「高い」＝4点、「まあ高い」＝3点、「やや低い」＝2点、「低い」＝1点

政 策	満足度			重要度		
	合計点数	有意回答者数	平均評価点	合計点数	有意回答者数	平均評価点
【めざすまちの姿】 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA						
小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり	1,166	454	2.57	2,068	724	2.86
地域の力が重なる安全安心のまちづくり	1,753	716	2.45	2,996	930	3.22
交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり	1,579	611	2.58	2,505	865	2.90
人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり	1,872	734	2.55	2,934	914	3.21
【めざすまちの姿】 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA						
地域で暮らし地域で支えるまちづくり	1,657	723	2.29	3,123	953	3.28
すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり	1,857	755	2.46	3,036	954	3.18
身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり	2,181	839	2.60	3,305	991	3.34
衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり	2,153	821	2.62	3,204	986	3.25
【めざすまちの姿】 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA						
子育てが楽しくなるまちづくり	1,549	661	2.34	3,119	942	3.31
自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり	1,486	647	2.30	3,090	937	3.30
生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり	1,616	673	2.40	2,863	932	3.07
郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり	1,828	697	2.62	2,785	932	2.99
【めざすまちの姿】 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA						
ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり	1,891	762	2.48	2,728	930	2.93
様々な産業が集い、育ち、ひろがるまちづくり	1,565	663	2.36	2,673	885	3.02
産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり	1,528	698	2.19	2,855	912	3.13
中心市街地を活かしたまちづくり	1,787	758	2.36	2,705	926	2.92
【めざすまちの姿】 自然環境と都市機能が調和した住みつけたいまち NAHA						
省エネを実践し、資源が循環するまちづくり	1,785	741	2.41	2,933	936	3.13
自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり	1,820	798	2.28	2,855	948	3.01
暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり	1,920	893	2.15	3,186	989	3.22
災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり	1,839	815	2.26	3,154	974	3.24
那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり	1,524	691	2.21	2,713	892	3.04
【基本構想を推進するために】 市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う						
市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり	1,616	713	2.27	2,861	904	3.16
効率的で効果的な行財政運営を行う	1,630	724	2.25	2,982	919	3.24
平 均 値	1,722	721	2.39	2,899	925	3.13

(3) 満足度調査結果の分析

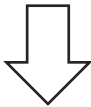
各政策を満足度調査の平均評価点（満足度）でランク付けすると、下記のとおりとなった。
全政策の平均評価点は 2.39 点であり、全政策 23 項目のうち 11 項目が平均評価点を上回る結果となった。

順位	政 策	平均 評価点	有意 回答者数
1	郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり	2.62	697
2	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり	2.62	821
3	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり	2.60	839
4	交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり	2.58	611
5	小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり	2.57	454
6	人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり	2.55	734
7	ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり	2.48	762
8	すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり	2.46	755
9	地域の力が重なる安全安心のまちづくり	2.45	716
10	省エネを実践し、資源が循環するまちづくり	2.41	741
11	生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり	2.40	673
12	様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり	2.36	663
13	中心市街地を活かしたまちづくり	2.36	758
14	子育てが楽しくなるまちづくり	2.34	661
15	自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり	2.30	647
16	地域で暮らし地域で支えるまちづくり	2.29	723
17	自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり	2.28	798
18	市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり	2.27	713
19	災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり	2.26	815
20	効率的で効果的な行財政運営を行う	2.25	724
21	那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり	2.21	691
22	産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり	2.19	698
23	暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり	2.15	893
平 均 値		2.39	721

高



平均
満足度
2.39

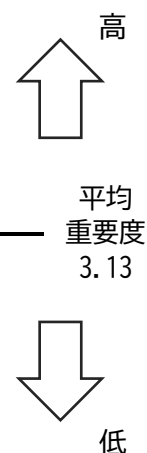


低

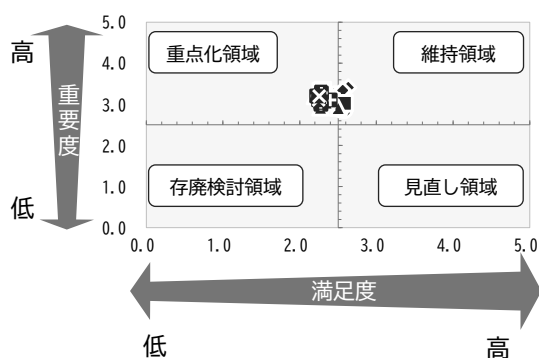
(4) 重要度調査結果の分析

各政策の重要度調査の平均評価点（重要度）をランク付けすると、下記のとおりとなった。
全政策の平均評価点は 3.15 点であり、全政策 23 項目のうち 14 項目が平均評価点を上回っており、18 項目は 3 点以上という結果となった。

順位	政 策	平均 評価点	有意 回答者数
1	身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり	3.34	991
2	子育てが楽しくなるまちづくり	3.31	942
3	自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり	3.30	937
4	地域で暮らし地域で支えるまちづくり	3.28	953
5	衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり	3.25	986
6	効率的で効果的な行財政運営を行う	3.24	919
7	災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり	3.24	974
8	地域の力が重なる安全安心のまちづくり	3.22	930
9	暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり	3.22	989
10	人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり	3.21	914
11	すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり	3.18	954
12	市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり	3.16	904
13	省エネを実践し、資源が循環するまちづくり	3.13	936
14	産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり	3.13	912
15	生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり	3.07	932
16	那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり	3.04	892
17	様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり	3.02	885
18	自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり	3.01	948
19	郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり	2.99	932
20	ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり	2.93	930
21	中心市街地を活かしたまちづくり	2.92	926
22	交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり	2.90	865
23	小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり	2.86	724
平 均 値		3.13	925

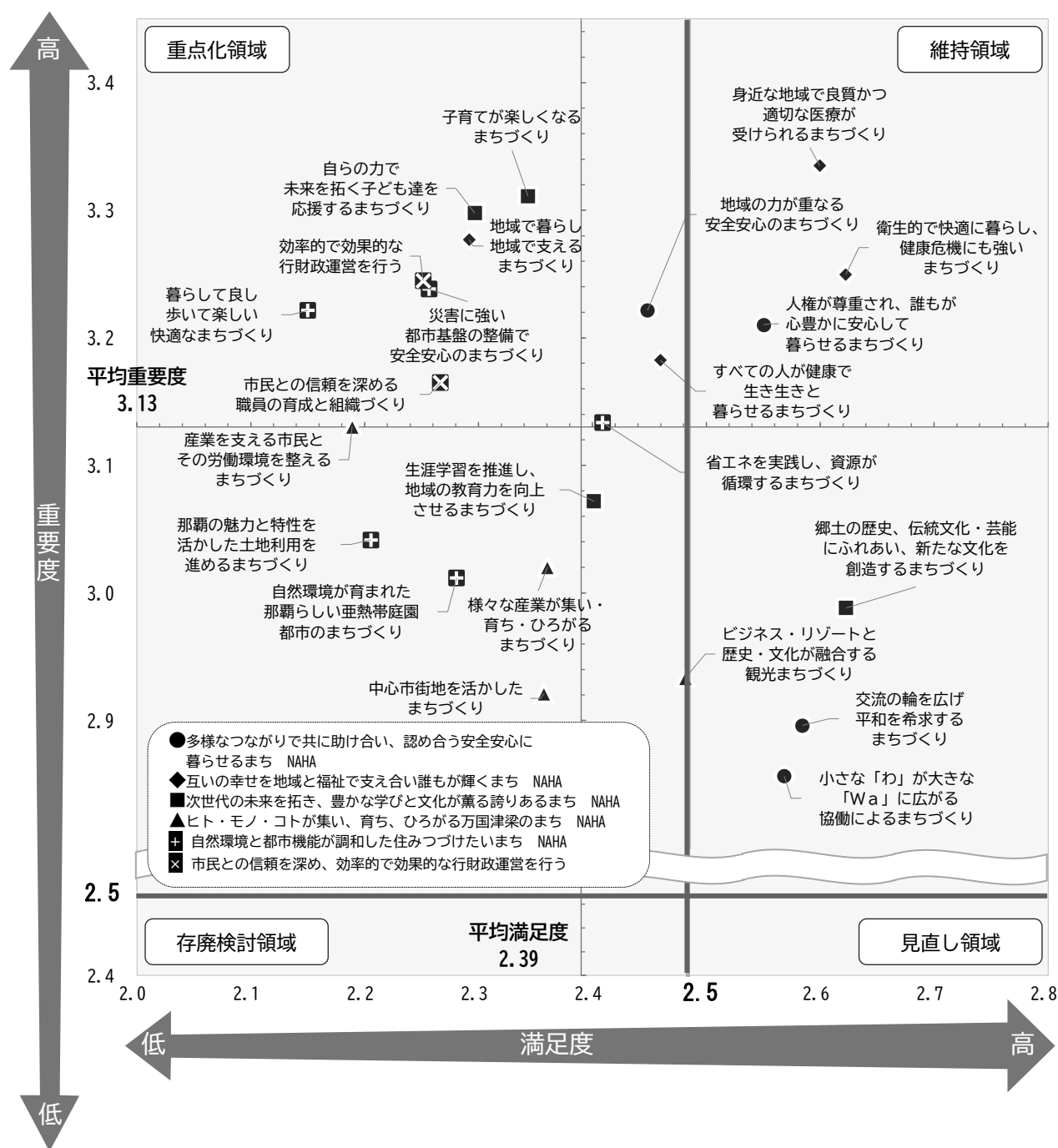


(5) 満足度・重要度のクロス集計からみた政策に対する市民意識



一般に満足度と重要度を組み合わせて評価を行う場合、左記の図のように分類して、存廃、見直し、重点化、維持の判断を行うべきとされている。
分類領域は、加點評価の平均 2.5 点を基準とする。

今回の調査結果における平均満足度、平均重要度を中心とした個々の政策分布図は以下のとおりとなった。なお、23 の政策は「めざすまちの姿」ごとに区分している。



【重点化領域とされる政策】	※（計：満足度平均+重要度平均 満：満足度平均 重：重要度平均）
・地域の力が重なる安全安心のまちづくり	(計:5.67 満:2.45 重:3.22)
・子育てが楽しくなるまちづくり	(計:5.65 満:2.34 重:3.31)
・すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり	(計:5.64 満:2.46 重:3.18)
・自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり	(計:5.60 満:2.30 重:3.30)
・地域で暮らし地域で支えるまちづくり	(計:5.57 満:2.29 重:3.28)
・省エネを実践し、資源が循環するまちづくり	(計:5.54 満:2.41 重:3.13)
・災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり	(計:5.50 満:2.26 重:3.24)
・効率的で効果的な行財政運営を行う	(計:5.50 満:2.25 重:3.24)
・生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり	(計:5.47 満:2.40 重:3.07)
・市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり	(計:5.43 満:2.27 重:3.16)
・ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり	(計:5.41 満:2.48 重:2.93)
・様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり	(計:5.38 満:2.36 重:3.02)
・暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり	(計:5.37 満:2.15 重:3.22)
・産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり	(計:5.32 満:2.19 重:3.13)
・自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり	(計:5.29 満:2.28 重:3.01)
・中心市街地を活かしたまちづくり	(計:5.28 満:2.36 重:2.92)
・那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり	(計:5.25 満:2.21 重:3.04)

【維持領域とされる政策】	※（計：満足度平均+重要度平均 満：満足度平均 重：重要度平均）
・身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり	(計:5.94 満:2.60 重:3.34)
・衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり	(計:5.87 満:2.62 重:3.25)
・人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり	(計:5.76 満:2.55 重:3.21)
・郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり	(計:5.61 満:2.62 重:2.99)
・交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり	(計:5.48 満:2.58 重:2.90)
・小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり	(計:5.43 満:2.57 重:2.86)

【存廃検討領域とされる政策】

なし

【見直し領域とされる政策】

なし

「第5次総合計画」における23の政策については、いずれも存廃、見直しが必要とされるものではなく、今後とも維持継続、あるいは更に力をいれていくことが求められている。

3. 各政策に対する満足度・重要度評価の状況

めざすまちの姿 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA

政策 小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり
 (自治会や校区まちづくり協議会への活動支援等)

「小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり」の政策については、市民に重要性を理解してもらう取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 61.0%、重要度では「まあ高い」以上が 74.9%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりやや高く、重要度は平均値より低くみている。

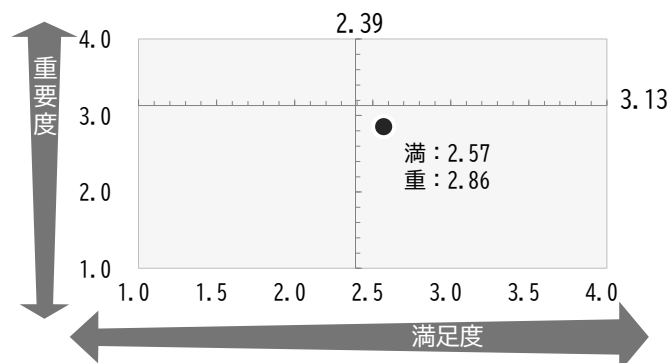
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	17 人 (1.3%)	277 人 (61.0%)
まあ満足	260 人 (19.2%)	
やや不満	141 人 (10.4%)	177 人 (39.0%)
不満	36 人 (2.7%)	
有意回答 計	454 人 (33.5%)	454 人 (100%)
わからない	715 人 (52.7%)	
無回答	187 人 (13.8%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	121 人 (8.9%)	542 人 (74.9%)
まあ高い	421 人 (31.0%)	
やや低い	139 人 (10.3%)	182 人 (25.1%)
低い	43 人 (3.2%)	
有意回答 計	724 人 (53.4%)	724 人 (100%)
わからない	410 人 (30.2%)	
無回答	222 人 (16.4%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA

政 策 地域の力が重なる安全安心のまちづくり
(防犯・交通安全活動の推進、防災体制の強化等)

「地域の力が重なる安全安心のまちづくり」の政策については、市民の満足度と重要性の認識の水準を維持していく取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 53.4%、重要度では「まあ高い」以上が 87.3%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値程度とみている。

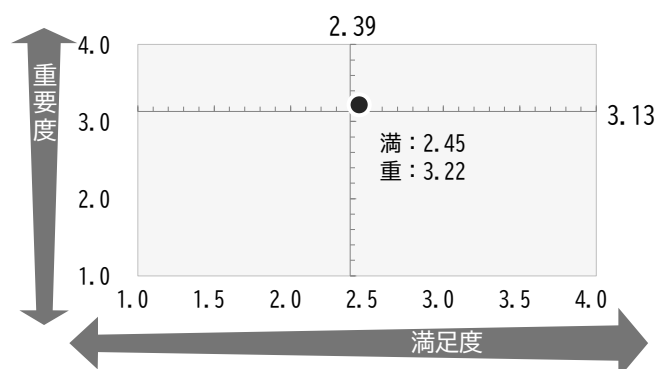
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	25 人 (1.8%)	382 人 (53.4%)
まあ満足	357 人 (26.3%)	
やや不満	248 人 (18.3%)	334 人 (46.6%)
不満	86 人 (6.3%)	
有意回答 計	716 人 (52.8%)	716 人 (100%)
わからない	452 人 (33.3%)	
無回答	188 人 (13.9%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	350 人 (25.8%)	812 人 (87.3%)
まあ高い	462 人 (34.1%)	
やや低い	92 人 (6.8%)	118 人 (12.7%)
低い	26 人 (1.9%)	
有意回答 計	930 人 (68.6%)	930 人 (100%)
わからない	200 人 (14.7%)	
無回答	226 人 (16.7%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA

政 策 交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり
(平和・国際交流の推進等)

「交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり」の政策については、市民に重要性を理解してもらう取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 62.5%、重要度では「まあ高い」以上が 73.4%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりやや高く、重要度は平均値より低くみている。

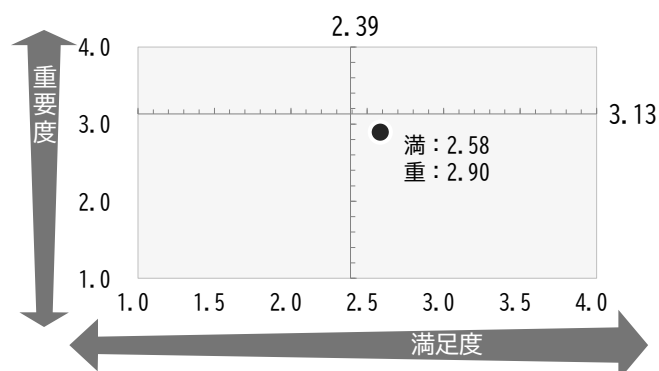
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	31 人 (2.3%)	382 人 (62.5%)
まあ満足	351 人 (25.9%)	
やや不満	173 人 (12.8%)	229 人 (37.5%)
不満	56 人 (4.1%)	
有意回答 計	611 人 (45.1%)	611 人 (100%)
わからない	553 人 (40.8%)	
無回答	192 人 (14.2%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	204 人 (15.0%)	635 人 (73.4%)
まあ高い	431 人 (31.8%)	
やや低い	166 人 (12.2%)	230 人 (26.6%)
低い	64 人 (4.7%)	
有意回答 計	865 人 (63.8%)	865 人 (100%)
わからない	268 人 (19.8%)	
無回答	223 人 (16.4%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA

政 策 人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり
(人権尊重、男女共同参画推進等)

「人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり」の政策については、市民の満足度と重要性の認識の水準を維持していく取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 60.5%、重要度では「まあ高い」以上が 84.4%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりやや高く、重要度は平均値程度とみている。

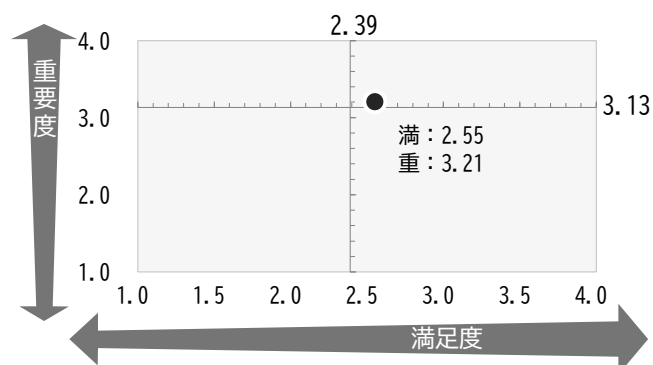
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	43 人 (3.2%)	444 人 (60.5%)
まあ満足	401 人 (29.6%)	
やや不満	207 人 (15.3%)	
不満	83 人 (6.1%)	
有意回答 計	734 人 (54.1%)	734 人 (100%)
わからない	425 人 (31.3%)	
無回答	197 人 (14.5%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	370 人 (27.3%)	771 人 (84.4%)
まあ高い	401 人 (29.6%)	
やや低い	108 人 (8.0%)	143 人 (15.6%)
低い	35 人 (2.6%)	
有意回答 計	914 人 (67.4%)	914 人 (100%)
わからない	217 人 (16.0%)	
無回答	225 人 (16.6%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA

政 策 地域で暮らし地域で支えるまちづくり
(福祉・介護・障がいのある方への支援、子どもの貧困対策等)

「地域で暮らし地域で支えるまちづくり」の政策については、重要度の高さを考慮し、より市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 44.1%、重要度では「まあ高い」以上が 86.7%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりやや低く、重要度は平均値よりやや高くみている。

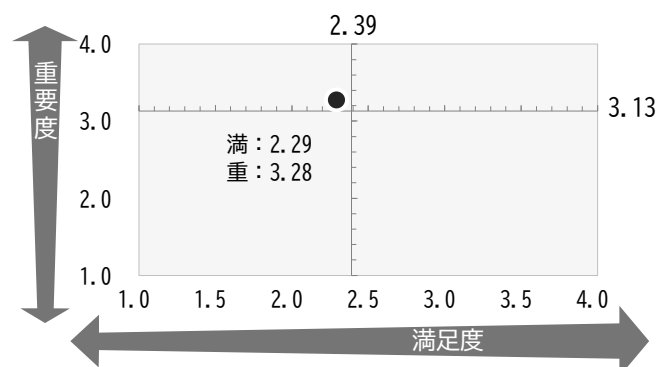
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	19 人 (1.4%)	319 人 (44.1%)
まあ満足	300 人 (22.1%)	
やや不満	277 人 (20.4%)	
不満	127 人 (9.4%)	
有意回答 計	723 人 (53.3%)	723 人 (100%)
わからない	446 人 (32.9%)	
無回答	187 人 (13.8%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	426 人 (31.4%)	826 人 (86.7%)
まあ高い	400 人 (29.5%)	
やや低い	92 人 (6.8%)	127 人 (13.3%)
低い	35 人 (2.6%)	
有意回答 計	953 人 (70.3%)	953 人 (100%)
わからない	182 人 (13.4%)	
無回答	221 人 (16.3%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA

政 策 すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり
(健康づくりの実践、こころの健康維持等)

「すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり」の政策については、市民の満足度と重要性の認識の水準を維持していく取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 53.5%、重要度では「まあ高い」以上が 83.5%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値程度とみている。

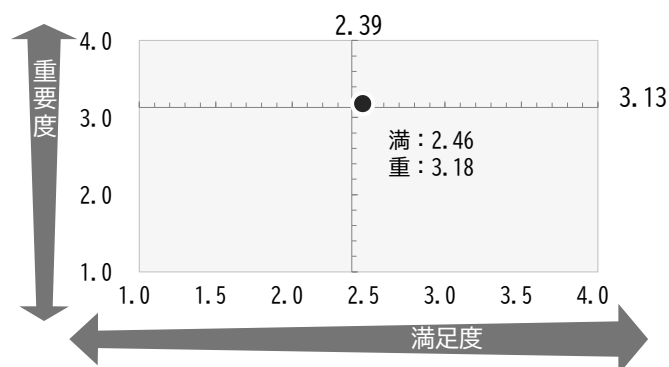
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	35 人 (2.6%)	404 人 (53.5%)
まあ満足	369 人 (27.2%)	
やや不満	259 人 (19.1%)	351 人 (46.5%)
不満	92 人 (6.8%)	
有意回答 計	755 人 (55.7%)	755 人 (100%)
わからない	415 人 (30.6%)	
無回答	186 人 (13.7%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	362 人 (26.7%)	797 人 (83.5%)
まあ高い	435 人 (32.1%)	
やや低い	126 人 (9.3%)	157 人 (16.5%)
低い	31 人 (2.3%)	
有意回答 計	954 人 (70.4%)	954 人 (100%)
わからない	184 人 (13.6%)	
無回答	218 人 (16.1%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA

政策 身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり
(地域医療の充実等)

「身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり」の政策については、市民の満足度と重要性の認識の水準を維持していく取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 62.9%、重要度では「まあ高い」以上が 88.8%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値より高くみている。

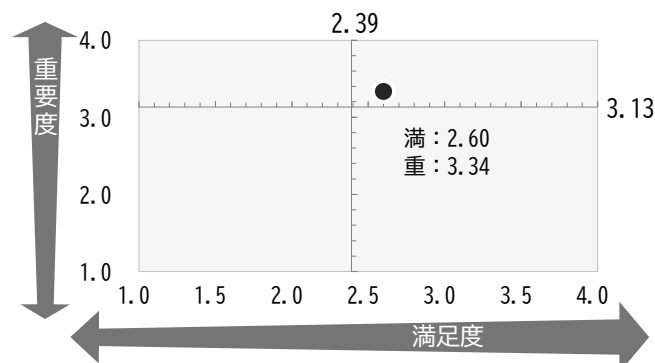
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	61 人 (4.5%)	528 人 (62.9%)
まあ満足	467 人 (34.4%)	
やや不満	225 人 (16.6%)	
不満	86 人 (6.3%)	
有意回答 計	839 人 (61.9%)	839 人 (100%)
わからない	328 人 (24.2%)	
無回答	189 人 (13.9%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	470 人 (34.7%)	880 人 (88.8%)
まあ高い	410 人 (30.2%)	
やや低い	84 人 (6.2%)	111 人 (11.2%)
低い	27 人 (2.0%)	
有意回答 計	991 人 (73.1%)	991 人 (100%)
わからない	144 人 (10.6%)	
無回答	221 人 (16.3%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA

政 策 衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり
(生活衛生・食品衛生・感染症対策等)

「衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり」の政策については、市民の満足度と重要性の認識の水準を維持していく取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 64.9%、重要度では「まあ高い」以上が 87.0%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値より高く、重要度は平均値よりやや高くみている。

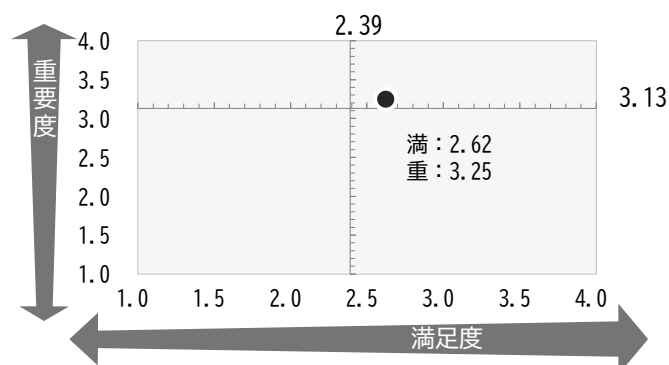
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	58 人 (4.3%)	533 人 (64.9%)
まあ満足	475 人 (35.0%)	
やや不満	208 人 (15.3%)	
不満	80 人 (5.9%)	
有意回答 計	821 人 (60.5%)	821 人 (100%)
わからない	343 人 (25.3%)	
無回答	192 人 (14.2%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	398 人 (29.4%)	858 人 (87.0%)
まあ高い	460 人 (33.9%)	
やや低い	104 人 (7.7%)	128 人 (13.0%)
低い	24 人 (1.8%)	
有意回答 計	986 人 (72.7%)	986 人 (100%)
わからない	148 人 (10.9%)	
無回答	222 人 (16.4%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA

政 策 子育てが楽しくなるまちづくり
(子育て支援、待機児童対策等)

「子育てが楽しくなるまちづくり」の政策については、重要度の高さを考慮し、より市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が45.4%、重要度では「まあ高い」以上が87.2%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値程度、重要度は平均値よりやや高くみている。

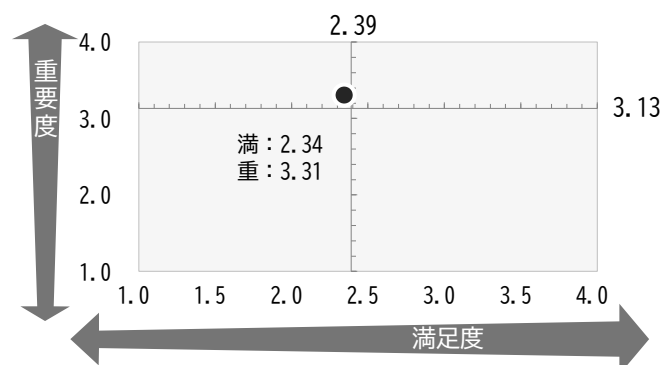
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	28人 (2.1%)	300人 (45.4%)
まあ満足	272人 (20.1%)	
やや不満	260人 (19.2%)	
不満	101人 (7.4%)	
有意回答 計	661人 (48.7%)	661人 (100%)
わからない	497人 (36.7%)	
無回答	198人 (14.6%)	
合 計	1,356人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	437人 (32.2%)	821人 (87.2%)
まあ高い	384人 (28.3%)	
やや低い	98人 (7.2%)	121人 (12.8%)
低い	23人 (1.7%)	
有意回答 計	942人 (69.5%)	942人 (100%)
わからない	196人 (14.5%)	
無回答	218人 (16.1%)	
合 計	1,356人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA

政 策 自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり
(学力向上、教育環境の整備等)

「自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり」の政策については、重要度の高さを考慮し、より市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 39.9%、重要度では「まあ高い」以上が 86.2%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値程度、重要度は平均値よりやや高くみている。

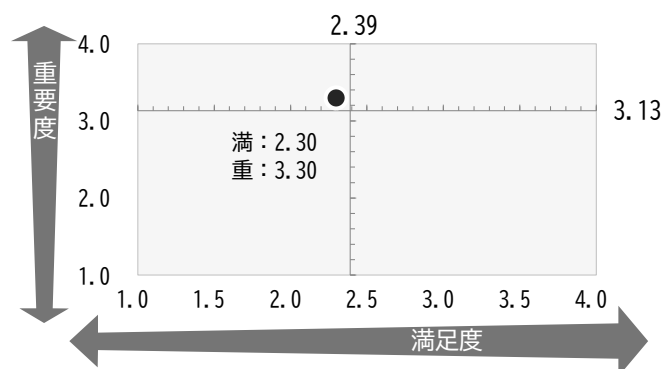
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	22 人 (1.6%)	278 人 (43.0%)
まあ満足	256 人 (18.9%)	
やや不満	261 人 (19.2%)	
不満	108 人 (8.0%)	
有意回答 計	647 人 (47.7%)	647 人 (100%)
わからない	504 人 (37.2%)	
無回答	205 人 (15.1%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	439 人 (32.4%)	804 人 (85.8%)
まあ高い	365 人 (26.9%)	
やや低い	106 人 (7.8%)	133 人 (14.2%)
低い	27 人 (2.0%)	
有意回答 計	937 人 (69.1%)	937 人 (100%)
わからない	188 人 (13.9%)	
無回答	231 人 (17.0%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA

政 策 生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり
(スポーツ施設等の整備、青少年健全育成等)

「生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり」の政策については、市民に重要性を理解してもらう取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 50.2%、重要度では「まあ高い」以上が 79.8%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値程度とみている

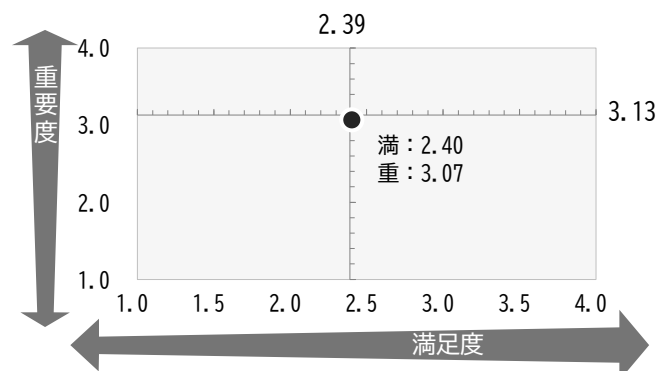
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	25 人 (1.8%)	338 人 (50.2%)
まあ満足	313 人 (23.1%)	
やや不満	242 人 (17.8%)	335 人 (49.8%)
不満	93 人 (6.9%)	
有意回答 計	673 人 (49.6%)	673 人 (100%)
わからない	479 人 (35.3%)	
無回答	204 人 (15.0%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	301 人 (22.2%)	744 人 (79.8%)
まあ高い	443 人 (32.7%)	
やや低い	142 人 (10.5%)	188 人 (20.2%)
低い	46 人 (3.4%)	
有意回答 計	932 人 (68.7%)	932 人 (100%)
わからない	202 人 (14.9%)	
無回答	222 人 (16.4%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA

政 策 郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり
(文化財の保全、文化芸術・芸能活動の支援等)

「郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり」の政策については、市民に重要性を理解してもらう取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 63.8%、重要度では「まあ高い」以上が 77.6%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値より高く、重要度は平均値よりやや低くみている。

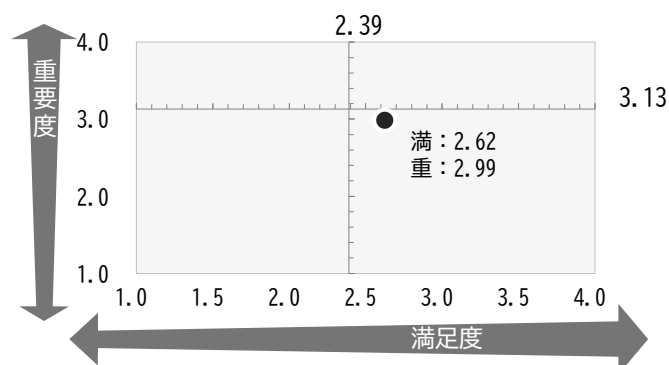
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	50 人 (3.7%)	445 人 (63.8%)
まあ満足	395 人 (29.1%)	
やや不満	191 人 (14.1%)	252 人 (36.2%)
不満	61 人 (4.5%)	
有意回答 計	697 人 (51.4%)	697 人 (100%)
わからない	461 人 (34.0%)	
無回答	198 人 (14.6%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	250 人 (18.4%)	723 人 (77.6%)
まあ高い	473 人 (34.9%)	
やや低い	157 人 (11.6%)	209 人 (22.4%)
低い	52 人 (3.8%)	
有意回答 計	932 人 (68.7%)	932 人 (100%)
わからない	202 人 (14.9%)	
無回答	222 人 (16.4%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA

政 策 ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり
(観光客受入体制の整備、観光資源の発掘・創造等)

「ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり」の政策については、市民に重要性を理解してもらう取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 54.7%、重要度では「まあ高い」以上が 74.8%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値程度、重要度は平均値より低くみている。

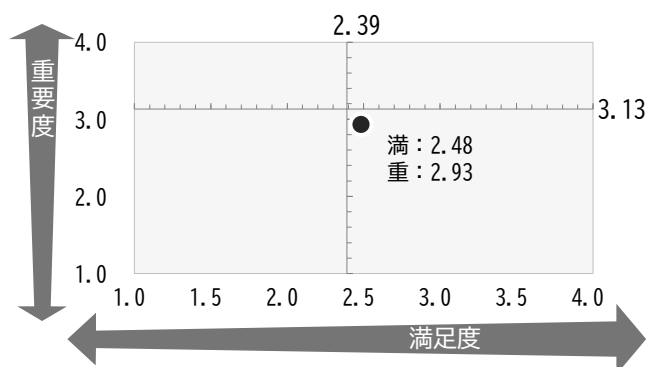
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	38 人 (2.8%)	417 人 (54.7%)
まあ満足	379 人 (27.9%)	
やや不満	257 人 (19.0%)	
不満	88 人 (6.5%)	
有意回答 計	762 人 (56.2%)	762 人 (100%)
わからない	389 人 (28.7%)	
無回答	205 人 (15.1%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	231 人 (17.0%)	696 人 (74.8%)
まあ高い	465 人 (34.3%)	
やや低い	175 人 (12.9%)	234 人 (25.2%)
低い	59 人 (4.4%)	
有意回答 計	930 人 (68.6%)	930 人 (100%)
わからない	199 人 (14.7%)	
無回答	227 人 (16.7%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA

政 策 様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり
(産業振興、中小企業支援等)

「様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり」の政策については、市民の満足度・重要度ともに高めるために、より一層力を入れて取組を行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 47.2%、重要度では「まあ高い」以上が 78.5%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値程度、重要度は平均値よりやや低くみている。

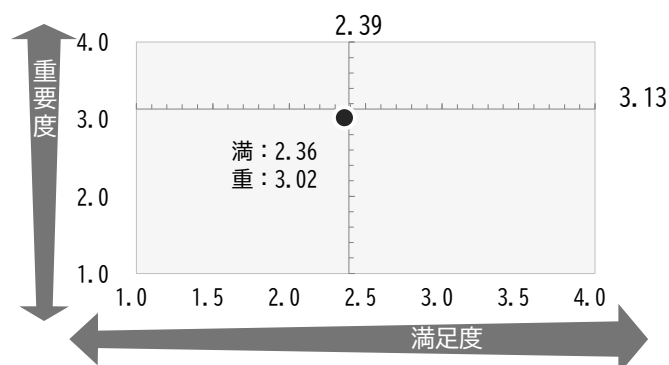
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	16 人 (1.2%)	313 人 (47.2%)
まあ満足	297 人 (21.9%)	
やや不満	260 人 (19.2%)	
不満	90 人 (6.6%)	
有意回答 計	663 人 (48.9%)	663 人 (100%)
わからない	480 人 (35.4%)	
無回答	213 人 (15.7%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	240 人 (17.7%)	695 人 (78.5%)
まあ高い	455 人 (33.6%)	
やや低い	158 人 (11.7%)	190 人 (21.5%)
低い	32 人 (2.4%)	
有意回答 計	885 人 (65.3%)	885 人 (100%)
わからない	228 人 (16.8%)	
無回答	243 人 (17.9%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA

政策 産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり
(労働環境の改善、就労支援、人材育成の推進等)

「産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり」の政策については、重要度の高さを考慮し、より市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 37.2%、重要度では「まあ高い」以上が 82.3%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値程度とみている。

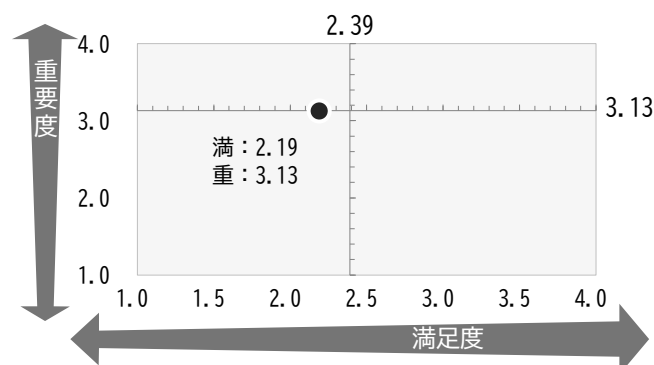
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	16 人 (1.2%)	260 人 (37.2%)
まあ満足	244 人 (18.0%)	
やや不満	294 人 (21.7%)	
不満	144 人 (10.6%)	
有意回答 計	698 人 (51.5%)	698 人 (100%)
わからない	442 人 (32.6%)	
無回答	216 人 (15.9%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	319 人 (23.5%)	751 人 (82.3%)
まあ高い	432 人 (31.9%)	
やや低い	122 人 (9.0%)	161 人 (17.7%)
低い	39 人 (2.9%)	
有意回答 計	912 人 (67.3%)	912 人 (100%)
わからない	207 人 (15.3%)	
無回答	237 人 (17.5%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA

政 策 中心市街地を活かしたまちづくり
(商店街・マチグワの振興等)

「中心市街地を活かしたまちづくり」の政策については、市民の満足度・重要度ともに高めるために、より一層力を入れて取組を行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 47.0%、重要度では「まあ高い」以上が 74.3%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値程度、重要度は平均値よりも低くみている。

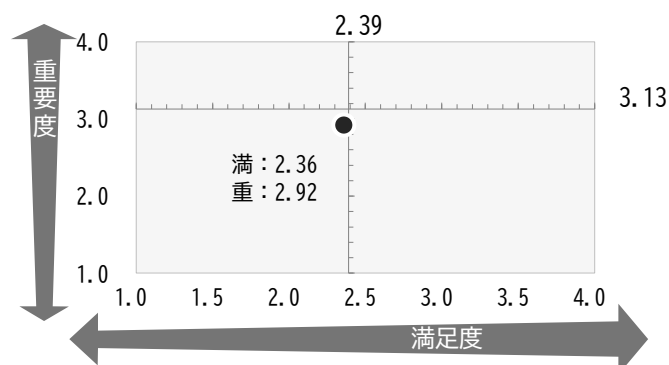
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	36 人 (2.7%)	356 人 (47.0%)
まあ満足	320 人 (23.6%)	
やや不満	281 人 (20.7%)	
不満	121 人 (8.9%)	
有意回答 計	758 人 (55.9%)	758 人 (100%)
わからない	391 人 (28.8%)	
無回答	207 人 (15.3%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	237 人 (17.5%)	688 人 (74.3%)
まあ高い	451 人 (33.3%)	
やや低い	166 人 (12.2%)	238 人 (25.7%)
低い	72 人 (5.3%)	
有意回答 計	926 人 (68.3%)	926 人 (100%)
わからない	198 人 (14.6%)	
無回答	232 人 (17.1%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA

政 策 省エネを実践し、資源が循環するまちづくり
(省エネを実践するライフスタイルの推進、ごみ減量化等)

「省エネを実践し、資源が循環するまちづくり」の政策については、市民に重要性を理解してもらう取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 49.5%、重要度では「まあ高い」以上が 82.8%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値程度とみている。

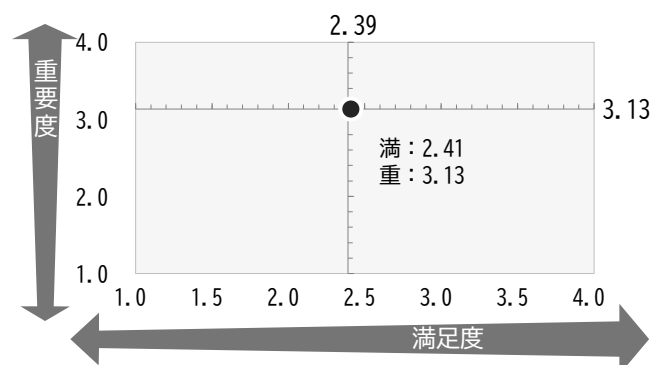
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	32 人 (2.4%)	367 人 (49.5%)
まあ満足	335 人 (24.7%)	
やや不満	278 人 (20.5%)	
不満	96 人 (7.1%)	
有意回答 計	741 人 (54.6%)	741 人 (100%)
わからない	417 人 (30.8%)	
無回答	198 人 (14.6%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	322 人 (23.7%)	775 人 (82.8%)
まあ高い	453 人 (33.4%)	
やや低い	125 人 (9.2%)	161 人 (17.2%)
低い	36 人 (2.7%)	
有意回答 計	936 人 (69.0%)	936 人 (100%)
わからない	183 人 (13.5%)	
無回答	237 人 (17.5%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA

政 策 自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり
(魅力ある都市景観の形成、道路美化等)

「自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり」の政策については、市民の満足度・重要度ともに高めるために、より一層力を入れて取組を行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 41.4%、重要度では「まあ高い」以上が 75.9%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度、重要度ともに平均値よりやや低くみている。

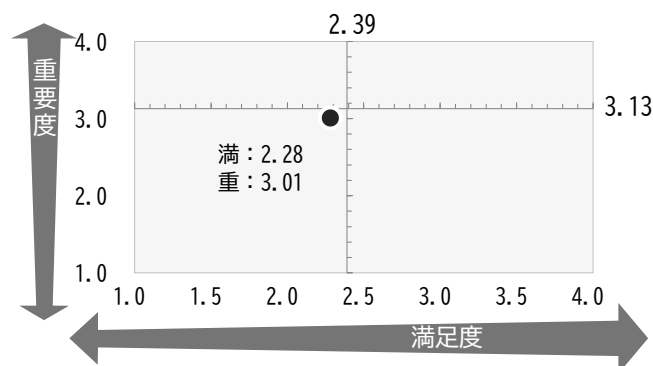
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	34 人 (2.5%)	330 人 (41.4%)
まあ満足	296 人 (21.8%)	
やや不満	328 人 (24.2%)	
不満	140 人 (10.3%)	
有意回答 計	798 人 (58.8%)	798 人 (100%)
わからない	356 人 (26.3%)	
無回答	202 人 (14.9%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	287 人 (21.2%)	720 人 (75.9%)
まあ高い	433 人 (31.9%)	
やや低い	180 人 (13.3%)	228 人 (24.1%)
低い	48 人 (3.5%)	
有意回答 計	948 人 (69.9%)	948 人 (100%)
わからない	174 人 (12.8%)	
無回答	234 人 (17.3%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA

政 策 暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり
(交通体系の整備等)

「暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり」の政策については、重要度の高さを考慮し、より市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 36.6%、重要度では「まあ高い」以上が 84.4%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値より低く、重要度は平均値程度とみている。

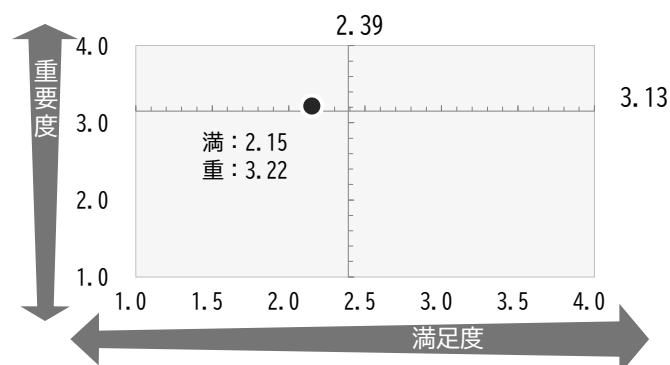
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	35 人 (2.6%)	327 人 (36.6%)
まあ満足	292 人 (21.5%)	
やや不満	338 人 (24.9%)	566 人 (63.4%)
不満	228 人 (16.8%)	
有意回答 計	893 人 (65.9%)	893 人 (100%)
わからない	261 人 (19.2%)	
無回答	202 人 (14.9%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	415 人 (30.6%)	835 人 (84.4%)
まあ高い	420 人 (31.0%)	
やや低い	112 人 (8.3%)	154 人 (15.6%)
低い	42 人 (3.1%)	
有意回答 計	989 人 (72.9%)	989 人 (100%)
わからない	137 人 (10.1%)	
無回答	230 人 (17.0%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA

政 策 災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり
(安全安心で快適な道路や公園の整備等)

「災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり」の政策については、重要度の高さを考慮し、より市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 40.1%、重要度では「まあ高い」以上が 84.5%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりやや低く、重要度は平均値よりやや高くみている。

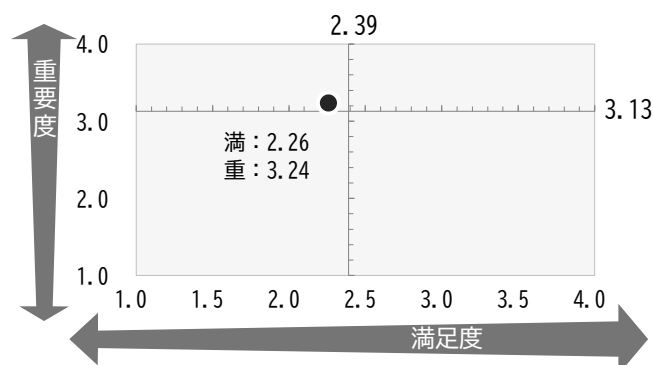
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	29 人 (2.1%)	327 人 (40.1%)
まあ満足	298 人 (22.0%)	
やや不満	341 人 (25.1%)	
不満	147 人 (10.8%)	
有意回答 計	815 人 (60.1%)	815 人 (100%)
わからない	340 人 (25.1%)	
無回答	201 人 (14.8%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	412 人 (30.4%)	823 人 (84.5%)
まあ高い	411 人 (30.3%)	
やや低い	122 人 (9.0%)	151 人 (15.5%)
低い	29 人 (2.1%)	
有意回答 計	974 人 (71.8%)	974 人 (100%)
わからない	154 人 (11.4%)	
無回答	228 人 (16.8%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



めざすまちの姿 自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA

政 策 那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり
(都市計画、土地利用等)

「那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり」の政策については、市民の満足度・重要度ともに高めるために、より一層力を入れて取組を行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が 39.1%、重要度では「まあ高い」以上が 77.5%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりやや低く、重要度は平均値程度とみている。

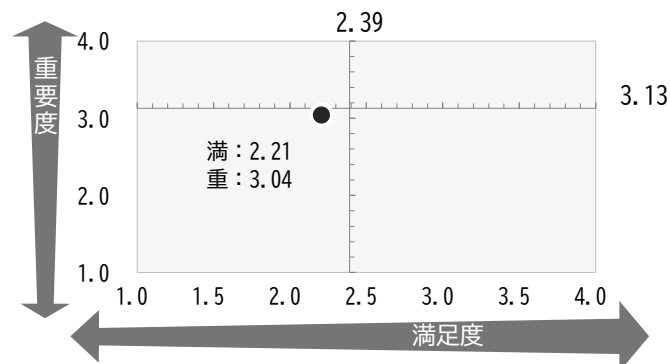
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	20 人 (1.5%)	270 人 (39.1%)
まあ満足	250 人 (18.4%)	
やや不満	273 人 (20.1%)	
不満	148 人 (10.9%)	
有意回答 計	691 人 (51.0%)	691 人 (100%)
わからない	460 人 (33.9%)	
無回答	205 人 (15.1%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	282 人 (20.8%)	691 人 (77.5%)
まあ高い	409 人 (30.2%)	
やや低い	157 人 (11.6%)	201 人 (22.5%)
低い	44 人 (3.2%)	
有意回答 計	892 人 (65.8%)	892 人 (100%)
わからない	231 人 (17.0%)	
無回答	233 人 (17.2%)	
合 計	1,356 人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



基本構想を推進するために 市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う

政 策 市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり
(行政サービスの電子化等)

「市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり」の政策については、市民の満足度・重要度ともに高めるために、より一層力を入れて取組を行う必要がある。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が42.8%、重要度では「まあ高い」以上が81.7%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりやや低く、重要度は平均値程度とみている。

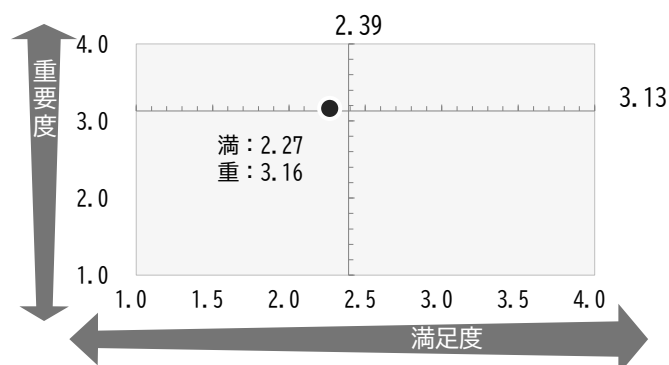
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	33人 (2.4%)	305人 (42.8%)
まあ満足	272人 (20.1%)	
やや不満	260人 (19.2%)	
不満	148人 (10.9%)	
有意回答 計	713人 (52.6%)	713人 (100%)
わからない	440人 (32.4%)	
無回答	203人 (15.0%)	
合 計	1,356人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	351人 (25.9%)	739人 (81.7%)
まあ高い	388人 (28.6%)	
やや低い	128人 (9.4%)	165人 (18.3%)
低い	37人 (2.7%)	
有意回答 計	904人 (66.7%)	904人 (100%)
わからない	220人 (16.2%)	
無回答	232人 (17.1%)	
合 計	1,356人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ



基本構想を推進するために 市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う

政 策 効率的で効果的な行財政運営を行う
(市民満足度の高いサービスの提供等)

「効率的で効果的な行財政運営を行う」の政策については、重要度の高さを考慮し、より市民の満足度を高めるための取組が必要である。

集計結果の有意回答からみると、満足度では「まあ満足」以上が42.7%、重要度では「まあ高い」以上が84.8%となっている。

全政策評価の平均値を中心とした相対分布グラフでみると、満足度は平均値よりやや低く、重要度は平均値よりやや高くみている。

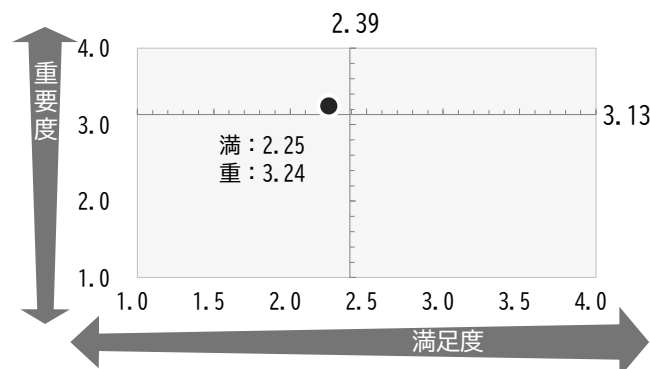
〔満足度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
満足	28人 (2.1%)	309人 (42.7%)
まあ満足	281人 (20.7%)	
やや不満	260人 (19.2%)	415人 (57.3%)
不満	155人 (11.4%)	
有意回答 計	724人 (53.4%)	724人 (100%)
わからない	426人 (31.4%)	
無回答	206人 (15.2%)	
合 計	1,356人 (100%)	

〔重要度〕

選択項目	全回答数 (%)	有意回答数 (%)
高い	401人 (29.6%)	779人 (84.8%)
まあ高い	378人 (27.9%)	
やや低い	104人 (7.7%)	140人 (15.2%)
低い	36人 (2.7%)	
有意回答 計	919人 (67.8%)	919人 (100%)
わからない	202人 (14.9%)	
無回答	235人 (17.3%)	
合 計	1,356人 (100%)	

●満足度・重要度の平均値に対する相対分布グラフ





令和5年度 那覇市民意識調査報告書

発行日	令和6年3月
発行	那覇市 企画財務部 企画調整課
住所	〒900-8585 沖縄県那覇市泉崎 1-1-1
電話	098-862-9937
FAX	098-862-4263